柔道王対決! 石井慧が吉田秀彦の"先輩風"に屈する!!

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

12.31 Dynamite!!
徹底詳報

大会速報、選手ブログは携帯で!
kamiproMove

2010 FEBRUARY
880yen

戦慄の腕折り&
中指挑発!!
誰か青木真也を
止めてくれ!

DREAM vs 戦極、凄惨決着!!
悪魔王子、狂気の告白!
青木真也

難敵・横田一則を見事完封!!
"冷たい試合"を振り返る!
川尻達也

逆境の2009年、
終わりよければすべてよし!
所 英男

ありがとう、さようなら!! 以上!
魔裟斗引退

対抗戦に快勝!! それでも……
『Dynamite!!』のくそったれ!!
小見川道大

初ゴールデンに感無量!!
マット界の月見草、万感の思い!
郷野聡寛

DREAMよ、戦極の巨人から逃げるな!
リュウ・トクリ
とは誰か?

狂気の大晦日!

発売元 株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

CONTENTS

大晦日詳報徹底総力特集号!

あけまして おめでとう ございます!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special

表紙写真/乾晋也

2010 FEBRUARY

総合デビュー戦にして毘沙門天への祈り届かず!

狂気、青木!!

大晦日に見えた二人の青木

青木真也、狂気の大晦日——!!

12月31日『Dynamite!! 2009～勇気のチカラ～』で行なわれたDREAM vs『戦極』（SRC）の全面対抗戦は、格闘技史上に残る凄惨な決着、そして試合後には格闘技史上に汚点を残す行為も振る舞われてしまった。

DREAMと『戦極』の対抗戦は4勝4敗とイーブンのまま大将戦が決着戦となることに。その大将戦はDREAMライト級王者・青木真也と、『戦極』ライト級王者・廣田瑞人との王者対決であった。

1ラウンド、まず青木がコーナー際でテイクダウンに成功する。そして青木は右手で廣田の右腕を背中側で固める。マウントポジションに移行しても右腕のロックは解かず、防御ができないかたちの廣田に顔面パンチ。

そこから青木は右腕を抱えたまま廣田の背後に回る。場内ビジョンの映像から廣田の危険な状態を理解した観客からは驚きの歓声、悲鳴が上がる。そしてチキンウイングの状態で右腕を絞り上げる青木。廣田にタップを促すレフェリー。しかし廣田はギブアップしない。

さらに青木がアームロックのかたちに移行して力を込めると、レフェリーのマイクを通して会場に「バキッ!!」と、何かが壊れる嫌な音が響き渡った……。

1ラウンド、2分17秒、レフェリーが試合を止めた。廣田の右腕はあらぬ方向に曲げられていた。のちに右上腕骨骨折という診断が下された。

青木真也の完全勝利だった。勝負師としての美しき狂気は、廣田の右腕を完全に破壊していた。しかし、その狂気は試合終了のゴングとともにグロテスクに変容していった。

信じられないことに青木は倒れたままの廣田に中指を立て、舌を出して侮辱し、飛行機ポーズでリング内を走り回り、さらにリングの外に向かって中指を立てた。それは悪魔の形相だった。

「やめろ、やめろっ!!」

興奮状態の青木は自軍のセコンドに制され、ようやくグロテスクな狂気は青木真也の内へと収斂していった。

魔裟斗の引退、石井慧の総合格闘技初陣という看板が掲げられた『Dynamite!!』だったが、話題は青木真也の狂気性にさらわれた。

腕を折ったことを非情だと批判する者もいれば、真剣勝負においては必然の出来事と肯定する者もいる。

試合後の挑発行為をスポーツマンとして失格と批判する者もいれば、格闘技の魅力は非日常であるという見地から認める者もいる。

なんにせよ、この行為の代償は青木真也の格闘技人生に降りかかっていく。どのようなかたちであるかはともかく——だ。

いったい青木真也に何が起きていたのか。なぜ敗者への過剰な挑発行為という愚行を行なってしまったのだろうか。

確実に言えることは、あの大晦日、青木真也は本当に狂っていた。美しく、そして醜悪に狂っていた。それは、どちらも青木真也の真の姿だったのだ。

狂気の告白

Shinya Aoki

悪魔王子

青木真也

狂気の大晦日を演じた"犯人"青木真也はいま、何を考えているのか。腕折りと挑発、二つの狂気を見せた悪魔王子の胸の内に迫る!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

――新年早々「青木真也はキ〇〇イだ」「スポーツマンシップの精神がない」っていう批判がアチコチから挙がってます。

青木　気が違えてます？　まあ、そうですよね。普通にそう思いますよね。

――腕折りは真剣勝負のことだから青木さんを責めるのはちょっと違いますけど、大問題になってるのはそのあとの挑発行為ですよね。

青木　挑発行為に関しては、廣田選手や廣田選手のセコンド、大会関係者の皆さんやファンの皆さんに対して、本当に申し訳ないことをやってしまったなと反省しています。正直、興奮しすぎて全然覚えてないんですよね。「ストーップッ!!」ってレフェリーが割って入ってきてからは何も覚えてない。

――試合後にここまで興奮したことってあるんですか？

青木　どうなんですかね。ただ、今回の試合がいままでで一番怖かったです。相手の廣田選手がどうのじゃなくて、試合すること自体が怖かった。

――たとえばJZカルバンとの再戦に近い感じはありました？

青木　ああ、共通するのは2回目のカルバン戦かもしれないですね。負ければすべてを失なう。だから怖かったのかもしれないです。

――『戦極』との対抗戦は4勝4敗のイーブンで、青木さんと廣田選手の大将戦で決着という場面でもありましたよね。

青木　そのシチュエーションにも興奮しましたけど、まあ、べつに怖いのは今回だけの話じゃないですけどね。普段から投げ出したくなりますよ。バイクを運転してて「このまま対向車に突っ込んだら楽だろうな……」と思うし、駅のホームで電車に飛び込んだら楽になれるなっていつも思うもん。今回も毎日思いましたよ。

――負けたらすべてを失なうという恐怖がそう思わせてるんですか？

青木　そうですね。だったら死んだほうが楽だなって。試合前なんて毎日ですよ。

――その恐怖から解放された結果、挑発行為につながったんですか？

青木　どうなんだろう。たぶんタイトルマッチを壊されたことのほうが……。

――でも、当初青木さんは川尻さんとのタイトルマッチをあまり望んでなかったわけじゃないですか？

青木　たしかに初めはそうでしたけど、「川尻さんとタイトルマッチをやる」と決意したんです。それで発表待ちになってるあいだに、向こうがゴチャゴチャ言ってきてなくなった。ボクからすれば「横やりのせいで壊された」って思いましたね。

――なるほど。でも、今回は『Dynamite!!』と『戦極』が協力するかたちでイベント開催になったわけですよね？で、横田選手や廣田選手も本来ならば『戦極』のイベントでタイトルマッチをやる予定だった。

青木　向こうの話はよくわからないし、一緒にやることはべつになんの悪感情もありません。でも、ボクはDREAMから「タイトルマッチをやってくれ」と言われたわけだから。それで決意したのに試合まで2週間を切った段階で、ゴチャゴチャ言われて対抗戦に出ることになった。あまり気分はよくないですよね。

――じゃあ、裏側のドタバタは相当、頭にきてたんですか？

青木　そうですね。だから今回のボクのモチベーションはそこですよ。

――でも、その怒りの理由は、ファンにはわかりづらかったと思うんですけど。

青木　そうかもしんないですけど、もうそれがボクの生き方なんですよね。それが青木真也なんで、そこは偽ってもしょうがないです。

――それをもうちょっとわかりやすく表現するというか、事前の会見で横田選手に噛みついたのはメチャクチャおもしろかったんですけど、その理由が「親のメンツを潰された」っていうのはちょっと理解しがたいですよね。

青木　ボクと川尻さんのタイトルマッチをやるって、DREAMという親から言われたわけです。それが「上からダメだと言われちゃって、申し訳ないけど対抗戦に出てくれ」って謝らないといけなくなってしまった。ボクらに対して完全にメンツが潰れるわけじゃないですか。いったい何があったんだ、誰を信用していいのか。少なくともDREAMという親のメンツが潰れたなという怒りはありましたね。

――じゃあ青木さんにとって今回の『Dynamite!!』はアウェーな感じというか、敵地に乗り込む感じだったんですか？

青木　そうですね。少なくともホームではない。そういう部分でボクは廣田選手とは闘ってなかったかもしれないですよね。

――廣田選手の試合前の挑発行為は頭にきてました？

青木　「青木真也の試合はおもしろくない」でしたっけ？　「いや、おまえが言うなよ」って感じでしたけど。ボクから言わせれば、おもしろくない格闘技の価値観を持ってるなって感じです。

――そういう挑発行為をある意味、プロとしての挑発だというふうには受け止めれなかったんですか？

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○青木真也 vs 廣田瑞人×
(1R 2分27秒 アームロック)

青木は試合後のコメントで挑発行為について謝罪。腕折りに関しては「『タップしないな』っていう感じで、それが彼の意地だったんじゃないですかね。躊躇なく折りました」と非情さあふれる姿勢を貫いた。悪魔のごとき関節技地獄、次回は3月のDREAMか、はたまたアメリカ出撃か……。

折るというか、決着をつけるために極めています。絶対にタップさせる

青木　いや、受け止めてましたよ。だからあの発言にはとく反論しなかったんです。それが彼の主張なら言わせておけばいいことですし。

——廣田選手に対して特別な感情はあったんですか？

青木　なかったです。

——石田（光洋）選手が廣田選手に負けたときはかなり怒ってたじゃないですか。

青木　う〜ん、まあ、確かに怒ってましたけど。

——北岡（悟）さんが負けたときも怒ってましたよね。

青木　北岡戦のときは試合が終わったあとにボクのことを併わせていろいろと言ってたんですよね。「アイツらは寝技ばっかりやっててつまんねえよ！」みたいに。だから、そのつまらない寝技でわからしてやろうとは思ってましたね。

——あの〜、人間の関節って折ろうと思って折れるもんなんですか？　試合後のコメントで「折りにいった」って言ってたじゃないですか。

青木　ボクはいつも折りにいってますけど、折るつもりがあっても簡単に折れるもんじゃないですよ。

——腕折りに関してもいろんな声が上がってますね。

青木　レフェリーが止めなかったのが悪いって人もいるでしょ。

——止めるべきでしたか？

青木　そうは言いやすいですけど、レフェリーが止めたら「タップしてないよ！」「極まってないよ」ってことで絶対に揉めたでしょうね。もっと言えば、関節の決まり具合は個人差があるし、ダブルジョイントな人もいますから。

——極まりやすい人もいれば、そうじゃない人もいる。

青木　で、ボクが「極まってるよ」「折るよ」ってレフェリーや選手に言えばよかったという声もあると思うんですけど。でも、パンチを打つときに「もうすぐ当たるよ」って言う選手はいないし、相手を失神させようと思って殴るわけでしょ。ボクが折ろうと思って関節を極めるのは、KOしようと思って殴るのと同じなんです。そこでためらったり、レフェリーに「折るぞ！」って声をかけてる瞬間、ひっくり返されてパウンドアウトされて、こっちが顔面を骨折する可能性だってあるわけですから。

——青木さんの場合っていつも折るつもりで極めてるんですか？

青木　折るっていうか、決着をつけるつもりで極めてます。絶対に相手をタップさせるために。

——なるほど。それで結果的に折れてしまう、と。

青木　折るつもりがないと決着はつかないですよね。だって関節なんて、選手は興奮してるから痛みが出づらいですし。

——今回は試合前から「折ってやろう」と思ってやってたんですか？　それとも、またまああいう体勢になったから？

青木　「折ってやろう」っていうか、「決着をつける」ために闘ってるわけですし、「相

青木真也

ボクは格闘技という宗教を信じている。精神の拠りどころは格闘技です……

手のいいところなんか出してやるまい」って思ってました。だって、横やりを入れてまで向こうは対抗戦にこだわったわけでしょ。それはつまりボクや川尻さんのことをおいしい選手だと思ったわけじゃないですか。勝てると思ってたわけじゃないですか。

——その思惑をぶち壊してやろうと？

青木　まあ、そうですね。いいところはまったく出させないつもりでした。

——しかし、最近は寝技はつまらないというか、ちょっと軽視する風潮や発言がありましたけど、一夜にして逆転しましたねぇ……。

青木　寝技は打撃より怖いですよ。ナメるなって思ってます。

——折った瞬間が地上波で流れたんですよ。それも話題になってて。

青木　そこはテレビ局の事情であってボクが関知する問題じゃないですど。ボクからすれば、K—1でKID選手が失神したシーンを流したりするほうが……。でも、考えたんですけど、格闘技でメシ食ってる男だったら、このくらいのことで反省しちゃダメですよね。

——また物議を醸す発言だな（笑）。

青木　もちろん中指を立ててしまったことに対しては素直に申し訳ないなと思いますけど、腕を折ったことに対しては謝る気はありません。だって「失神させせちゃってごめんね！」って言わないでしょ。

——確かに。

青木　今回の試合、ボクは廣田選手のパンチで失神するかもしれない気で臨みました。それはいつもの覚悟ですよ。カルバンのときも、アルバレスのときも、ヨアキムのときも、マッハさんのときも、ボクが極めるか、相手のパンチで失神するか。どっちかだと思って臨んでますから。

——そして『戦極』への怒りも加わって。青木さん、怒り始めたときはそうでもなかったけど、どんどん止まらなくなったんじゃないですか？

青木　確かにね。毎日、練習する前に「なんなんだ、『戦極』は！　絶対にブッ倒してやる！」って言ったりするんだけど、そうすると自然と殺気が出てきますよね（淡々と）。

——そこを制御できる大人になりたいと思いますか？

青木　なんて言うんだろうな……、自分はやっぱやりたいことやりたいから。

——そこでは「なりたいです」って言ったほうがいいと思いますよ。

青木　わかりますよ。なんて言うんだろなあ、でも……。

——でも、それが青木真也の生き方だからってことですか？

青木　そこは取り繕ったってしょうがないって気はしますよね。

——そうなんでしょうけど、自分はホントに中指はやめてほしかったんですよね。ガックリしながら家に帰ったけど。なんで中指をやっちゃったんですかね？

青木　なんなんだろう。対抗戦だからかなあ……。

——確かに対抗戦って煽りもあったかもしれないですけど、ギリギリのラインってあるわけじゃないですか。

青木　なんで出たんだろうね。なんでやってしまったんだろう。それがボクにとっての〝対抗戦〟だったのかもしれない……。

——徹底的な潰し合いである、と。確かに凄かったけどね、ホントに試合は対抗戦の緊張感だった。あんな試合、観たことがない。

青木　「殺し」、ありました？

——殺しがありました。だからこそ最後の挑発はよけいだった。残念だった。

青木　人道的にっていうことですよね。

——そうそう。失神してる相手やレフェリーが止めてるのに殴ったわけじゃないとか、そんなフォローを言い出せば、キリがないけど……。

青木　それはわかります。てめえでやっといてこんなこと言うのはなんなんですけど……、まあ、ボクはパンクなんですよ。

——まあ、大衆が好むポップや演歌じゃないですね。

青木　歌えないですよね、そっちは。歌う気もないですし。

——でもね、商業パンクだってあるんだから。昨日の『Dynamite!!』で、パンクで狂ってるなと思った人間は青木真也と石井慧だけだったんですよね。

青木　石井慧は狂ってる？

——狂ってますよ。試合はデビュー戦でしたからアレでしたけど、ヤバイですよね、あの選手は。そういう狂気を持った選手の心が折れる瞬間は、凄く気になるんですけど。

青木　いっつも折れてますよ、そんなの。だから投げ出したくなる。

——そういうときの青木さんの拠りどころは、DREAMになるんですか？

青木　それはあると思いますね。DREAMであり、チームPRIDEであり、格闘技という宗教ですよね。

——格闘技が宗教だから毎日、拝むように練習してる。

青木　うん。そうなんです。だからボクは格闘技という宗教を信じてるんですよ。昔、柔道家の柏崎克彦先生が「柔道は私の宗教である」って言ってたんですよ。それがボクの中で「格闘技は私の宗教である」なんですよ。だから、その狂信的な部分が「刺しにいく」自分を作ってるのかもしれないですよね……。

【10年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。軽量級屈指のグラップラー。DEEP、修斗、PRIDEを経てDREAMに参戦。カルバン、宇野薫、アルバレス、ヨアキムなど強豪を次々に下している。2010年はアメリカ出陣が待望されている現DREAMライト級チャンピオン。180cm、70kg。

「もし今回負けてたら
タイトル挑戦どころか
自分の
格闘技人生の
すべてを失なう
覚悟でした」

Tatsuya Kawajiri

対抗戦に翻弄された男が横田に怒りの完勝！

川尻達也

『戦極』との対抗戦を断固拒否、青木真也とのタイトルマッチをアピールし続けた川尻達也。しかし、『Dynamite!!』のリングで対峙したのは、青木ではなく横田一則だった……。激闘から一夜、今回の大晦日で最も翻弄されたクラッシャーが横田戦、そして2010年の展望を語る！

聞き手／鈴木佑　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

――川尻さん、その髪型キマってますね～。ダン・ホーンバックルみたいですよ！

川尻　あ、わかります？　ちょっと意識してるんですよ（笑）。本当はもっと刈り込んで、よりモヒカンっぽくしたかったんですけどね。……ていうか、なんでいきなりおだてるようなこと言うんですか？　なんか企んでるでしょ？（ジロリ）。

――え、え～と、新年早々ちょっと残念なお知らせといいますか、昨日の『Dynamite!!』の地上波放送についてなんですが……（聞きにくそうに）。

川尻　あぁ、僕の試合が流れなかったこと？　知り合いからメールが来ましたよ、全カットされてたって（苦笑）。べつに気にしてないですよ。残念は残念ですけど、プロとして放送できる試合じゃなかったってことでしょうし。

――でも、試合の内容自体はファンの評価は悪くないみたいですし、谷川さんもベストバウトだって絶賛してたそうで。

川尻　でも、一般層には届かなかった、と（笑）。そりゃ、タイトルマッチで放送されないんだったらショックですけど、今回はそうじゃなかったし、まぁしょうがないなって感じですよ。

――TBSの格闘技中継は編集の仕方でファンから不満の声が上がったりもしますけど、そのへんはどうですか？

川尻　確かにそういう声も聞くけど、総合を地上波でいい時間帯に放送してくれているのはTBSだけじゃないですか？　それは幸せなことだと思うし、僕が闘うプロであるように向こうは放送のプロなんだから、そこは委ねるしかないですよね。

――なんだか大人の意見ですね～。さっきの一夜明け会見でも、「09年は結婚して大人の階段を昇りました」って言ってましたけど（笑）。

川尻　ちょっと前の僕なら納得いかなかったかもしれないけど、去年は試合以外にプライベートでも変化があったし、いろんな経験を積んだんで。まぁ、青木くんよりは大人なんじゃないですかね（ニヤリ）。

――なるほど（笑）。でも少し思ったのが、もしかしたら川尻さんは今回の大晦日をボイコットするんじゃないかってことだったんですよ。

川尻　え、なんでですか？

――対抗戦は断固拒否みたいなスタンスでしたし、青木さんとのタイトルマッチにしか興味がないというか。今回はギリギリまでカード決定でゴタゴタしたわけですけど、自分の中でそのへんの折り合いはどうつけたんですか？

川尻　いや、まず前提として大晦日の大舞台で試合をしたいっていうのがあるし、もう最後はそれこそ「やれんのか？」、「やるしかないっしょ！」って感じでしたね。

――いつぞやの会見のときのように。

川尻　……まぁ、本当はマネージャーとか周りからは「出なくていい」って言われてたんですけどね（ボソッと）。

――あ、そうなんですか？

川尻　でも、横田（一則）選手から逃げたくなかったし、そう思われるのも嫌だったんで。タイトルマッチがなくなったから出場拒否するっていうのも嫌だったし。葛藤はありましたけど、結局、格闘家は闘ってナンボですから。

――戦前にはその横田さんが何かと挑発してきましたね。

川尻　いやぁ、こっちにはまったく響いてこなかったし、受け答えする気にもならなかったですよ。もちろん、選手としては評価してましたよ。でも、彼は試合後のマイクアピールとかが、ね。

――あ、戦慄のマイクパフォーマーにダメ出し（笑）。

川尻　なんかパフォーマンスっていうのを履き違えてるんじゃないかなって（笑）。格闘技って、命の削り合いというか特別なもので、観てる人もその感動に触れて「よし、自分も頑張ろう！」みたいな部分があると思うんですよ。で、僕の周りが言ってたのが、たとえ僕が横田選手とどんなにいい試合しても、あのパフォーマンスがあったんじゃ、ファンにはそういうふうに響かない。そんな中で僕を闘わせたくないってことだったんですけど。

――今回も横田選手は「試合後のマイクは考えてます。おもいっきり笑いをとるか、すべるかどっちかです」ってやる気マンマンでしたからね（笑）。

川尻　う～ん（苦笑）。なんか「勇気のチカラ」ってサブタイトルなのに、ああいうパフォーマンスする人と試合をして、「勇気のチカラ」を見せられるとは思えなかったですね。だったら、べつにみんなが感動するようない試合よりも、ボコボコに潰すしかないなって感じで。

――対抗戦は川尻さんの出番の時点でDREAMが2勝3敗で負け越してましたけど、意識するところはありました？

川尻　やっぱり悔しかったですよ。僕、はじめは対抗戦ってまったく意識してなかったんですけど、身近なマッハさんや高谷さんが負けるのを観て、「俺はゼッテー負けねえ！」って気合が入りましたし。

――試合内容を振り返ってどうですか？

川尻　正直、展開的にはスタンドの攻防が8割くらいになるかなって思ってたんですよ。でも、ポンポンとテイクダウンできたから、僕もセコンドも逆にビックリしち

ゃって。

――予想と違った、と。

川尻　横田選手って、相手にバックを取らせてから逃げるのがうまいじゃないですか？　レオ・サントスもバックをキープできなかったし。でも、ちょっと躊躇しながらこっちがバックを取ったら全然キープできたんで。

――なんかウナギをつかまえるみたいになってましたよ（笑）。

川尻　僕もあんなポジション初めてだから、「ここからどうしよっかな」ってちょっと戸惑いましたけどね（笑）。まぁ、最後はKOか一本取りたかったですけど。

――でも、完封に等しい試合内容で。

川尻　だから、僕がいままで通ってきた道、DREAMで闘ってきた相手って強いんだなってあらためて思いましたよ。エディとかカルバンとか。

――横田選手のスタンドもまったく問題なかったですか？

川尻　パンチが速くて動きも変則的って聞いてましたけど、思ったよりなんでもなかったですね。そこに関しては魔裟斗戦の経験が活きましたよ。あの試合で体感したものが大きかった。

――そういえば横田さん、「魔裟斗選手とだったら俺のほうがいい試合する」とも言ってましたね。

川尻　うん、ポジティブでいいと思いますよ（ニヤリ）。

――これまた大人の意見で（笑）。

川尻　フフフ。いや、なんかね、試合前は「コイツ、何言ってんだ？　ブッ殺してやろうかな」くらいの気持ちだったんですよ。でも、試合後にバックステージで会ったら、やたらにフレンドリーだし、「あ、この人、天然だな」って気づいて（笑）。マイクも悪気があるとか盛り上げようとかいうよりも、全部天然でやってんだなって。

――計算には見えない、と（笑）。

川尻　ホント、憎めないキャラだし、「あ、この人、おもしれえな」って思いましたよ。好きになっちゃいました（笑）。

――試合後の横田さんのコメントもアジがありましたよ。「敗因は言いたくないですけど、寝技の練習ができなかったことです。その理由は言いたくないですけど、練習で腰を痛めちゃって」って（笑）。

川尻　アハハハ！　なんかもう、親近感が湧いてきちゃいましたね。同い年だし。

――試合後には健闘をたたえ合って。

川尻　そうですね。そこは試合が終わればノーサイドですから。

――でも、対抗戦にはノーサイドじゃなく、試合後の行ないが物議を醸した試合もありましたけど。

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○川尻達也 vs 横田一則×
（3R終了 判定3-0）

川尻は横田からテイクダウンを奪うと、コツコツとパンチを落とし、さらに肩固めやチョークを繰り出してスタミナを削っていく。3R、追い詰められた横田はパンチで前に出るも、川尻は落ち着いてテイクダウン。最後は川尻が横田をチョークから腕ひしぎ十字固めで締め上げたところで時間切れ。クラッシャーがフルマークで文句なしの判定勝利！

川尻　あぁ、悪魔の子のこと？（笑）。

――悪魔の子（笑）。あの青木さんの挑発行為は率直にどう思いました？

川尻　いや、もう、控室みんなドン引きでしたからね。「エェ～!?」って感じで。

――横田戦のように遺恨があっても、試合後には握手で終わる川尻さんからすればありえない行為？

川尻　まぁ、青木くんの場合、あれはあれでいいんじゃないですかね。

――え、いいんですか？

川尻　というのは、プロなんだし自己責任というか。もちろん、僕にはあれと同じようなことをするつもりはまったくないですけどね（キッパリ）。

――青木さんも興奮して思わずっていうのがあったみたいですけど。川尻さんは試合で興奮して思いもよらない行動をしたことってあります？

川尻　あー、自分の試合じゃないですけど、石田くんと宇野さんの試合のときに、宇野さんに突っかかったことですかね。

――あ～、ありましたねぇ！

川尻　あのときは僕も翌日、運営サイドに謝りに行って。まぁ、あれはあれで間違ったことをしたとは思ってないですけど。

――べつに今回の青木さんみたいに大きな問題にはなってないですしね。あ、そういえばPRIDEのときに快心の勝利で興奮したのか、ラウンドガールに抱きつこうとしたことありませんでしたっけ？

川尻　……それはいいじゃないですか！　というか、それくらいはいいじゃないですか（笑）。

――ダハハハ！　独身時代ですし（笑）。

川尻　そうそう……って、ちょっと話を元に戻してくださいよ！

――失礼しました（笑）。あと、青木さんが廣田さんの腕を折ったことについてはどう思います？

川尻　あぁ、あれはしょうがないことだと思いますよ。選手はレフェリーやセコンドが止めないかぎり攻め続けるしかないし。だって、自分が気を緩めて躊躇したら逆にやられちゃう可能性もあるんだから。

――たとえば川尻さんもパウンドアウトするときは、それこそ相手を失神させるつもりでやってるわけですよね？

川尻　それはファイターとしてあたりまえのことですよ。そんなのは試合する者同士お互いわかってることで。試合が終わればノーサイドですけど、極端に言えば決着がつくまでは相手を殺すくらいの気持ちでやらないと。だから青木くんもファイターとしては間違ってないと思います。試合後はともかく（笑）。

――さて、昨日の対抗戦は結果的に5勝4敗でDREAMが『戦極』に勝ち越しました。

川尻　うん、意外と接戦でしたけどよかったと思いますよ。でも、ライト級に関してはトップ同士の2試合でハッキリ差が出ただろうし、来年以降も対抗戦の流れがあったとしても、僕と青木くんは出る必要はないのかなって。もっとほかにやることがあるし。

――そのやることというのはもちろん……？

川尻　タイトルマッチですよ（キッパリ）。今年の目標は去年の持ち越しになりますけど、やっぱりベルトなんで。いまはまだ具体的なビジョンはないっていうか、今回の対抗戦でプツリと糸が切れちゃったから、すぐっていうつもりはないですけど。

――最後の最後で糸は切れたものの、去年

今年こそベルトを獲って僕がDREAM代表として世界にケンカを売ります！

川尻達也

は自分の格闘技人生の中でも大きな意味合いのある年だったんじゃないですか？

川尻 ……（熟考）。いや、なんの意味もない一年だったんじゃないですか？

――えぇ～!? そんなことないんじゃないですか？

川尻 だって、僕はタイトルマッチをやるために去年一年間を生き抜いて盛り上げてきたつもりなのに、それが実現しなかったってことは、結果的にはなんにも残らなかったのかなって。

――カルバン戦や魔裟斗戦は貯金というか、自分の糧になってないですか？

川尻 もちろん無駄にはなってないですよ。でも、いつまでもそこにすがってても成長がないっていうか。だから、もうそれは忘れて、あらためて挑戦者としてベルトを獲りにいきたいんです。去年のことを引き合いに出されて、だからベルトに挑戦っていうのは個人的にはイヤですね。

――タイトル挑戦を含めて、今後については様子を見ながら？

川尻 そうですね。あの、やっぱりここまでの道ってそんな簡単なことじゃないんですよ。決まっていたタイトルマッチが対抗戦に変更になった。じゃあ、対抗戦が終わったからすぐにタイトルマッチって、右から左へ流れる話じゃないっていうか。僕も去年、命を懸けてやっとたどり着いたタイトルマッチを捨てて、それなりの覚悟で横田戦に臨んだんです。だって、もし負けてたらタイトルマッチの挑戦権どころかそれまで築いたものすべて、僕の10年間の格闘技人生を失なうような覚悟でしたから。

――そういう意味では、昨日はいままでで一番リスクの高い試合だった、と。

川尻 そうですね。だから、気持ちを切り替えるためにも、もうちょっと時間がほしい。もう一度自分の中で燃え上がるものを作るために、心の整理をさせてくださいって感じです。ただ、ベルトを狙うってことに関してはまったくブレはないんで。

――なるほど。でもよく気持ちが持続しましたよね。

川尻 対抗戦出場が決まったときに、仲間から「ここを越えて次こそタイトルマッチだ」っていう内容のメールがたくさん届いたんですよ。そのおかげで、今回は自分の気持ちが切れずに頑張れたっていうのはありますね。それを今度はみんなにしっかり返していきたいです。

――結果的には川尻さんも青木さんも今回の対抗戦を乗り越えて、より箔がついた感じはします。

川尻 そうですね。これで青木くんとの試合は日本のライト級ナンバーワン決定戦になるだろうし、誰に対しても「文句ないでしょ？」って感じですね。

――ちなみに昨日は魔裟斗選手の引退試合は観ました？

川尻 もちろん！ いやぁ、カッコいい、素晴らしいの一言ですよ。あんな盛大なセレモニーをやって。格闘技ってメインが終わると、そのあとのマイクアピールとか聞かずに半分くらいお客さんが帰っちゃうじゃないですか？ でも、昨日はあんなに大勢のお客さんが魔裟斗選手の最後を見送って。だって8時間興行ですよ？ 本当ならみんなクタクタでしょ（笑）。

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。PRIDEを経て08年からはDREAMを主戦場とする。171cm、69.9kg。ブログはもちろん、Tシャツにアクセサリーにパンツまで、クラッシャー印のグッズが充実のHPはこちら→http://crusherproject.com/

――休憩も5分が一回だけでしたし（笑）。

川尻 あれを目の当たりにして、魔裟斗選手の求心力、やってきたことって凄いんだなって思いましたね。僕には飛ばないような黄色い声援も凄かったですし（笑）。

――川尻さんは野太い声援担当ですからね（笑）。さて、今年はどんな一年にしましょう？

川尻 とにかくベルトを獲って、DREAM代表として世界にケンカを売ります！

――お、クラッシャー世界進出宣言ですね！

川尻 やっぱりまだ世界的評価は青木真也のほうが大きいんで。とりあえずはストライクフォースですね。

――ちなみに去年の11月に青木さんがストライクフォースに行ったときは、ファンに歓迎されて凄かったみたいですよ。

川尻 あ、そうなんですか？ え、ちょっと待って。僕、去年の8月に石田くんのセコンドでストライクフォースの会場に行ったんですけど、まったくファンに囲まれなかった……（ボソッと）。

――ダハハハ！

川尻 普通に計量会場でもポツンと一人でしたよ。「あぁ、フランク・シャムロックだ、ルイス・アゼレードだ」と思って、一緒に写真撮ってもらったり。

――単なるファンじゃないですか（笑）。

川尻 まぁ、この差を覆しますよ！ 直接対決じゃないと評価をひっくり返せないだろうし。とにかく今年は大人の階段を昇った川尻達也に乞うご期待ってことで。

――ちなみにそろそろ結婚1周年？

川尻 そうですね、籍を入れたのが3月なんで。いや、本当ね、今回はカードのゴタゴタ続きで凄くイライラしてたから、嫁にも迷惑かけてたと思いますよ。

――じゃあ、とりあえずお正月は家族サービスですかね。

川尻 そうですね……おもいっきり抱きしめようかな（ニヤリ）。

――あ、愛妻家アピールですか。まぁ、いまの発言は原稿じゃカットです（笑）。

川尻 ハハハ！ まぁ、今年の抱負はベルトと家庭円満ってことでお願いしやす！

――では家庭までクラッシュしないように、今年も活躍を期待してます！

【10年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

吉田秀彦vs石井慧の異常性も語りつくす！

“新・魔王”青木真也徹底考察！座談会

最後の最後の興行であまりに語りがいがありすぎた2009年の『Dynamite!!』。
青木問題に石井vs吉田、そのほかの対抗戦もとにかく一気に語っております。
そしてこれまた新年早々“新・魔王”が誕生か!?　さあ、さっそくどうぞ!

構成／松下ミワ　試合写真／乾晋也

座談会出席者

ジャン斉藤
本誌・編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。青木真也担当記者として現在頭を悩ませ中。

堀江ガンツ
本誌・編集部員。変態座談会主宰者であり、変態道はUFCにまで通じている。〝変態代表〟として魔裟斗グッズブースの調査にも余念がない。

橋本宗洋
格闘技ライター。『PRIDEはもう忘れろ！』の著者でもあり、もう一つの巻末座談会にも登場。大晦日は吉田秀彦の〝先輩風〟に感激。

松林貴
うまいものとおもしろいものがある場所には、ぶらりと現れる本誌・編集次長。同じく吉田秀彦の〝必勝精神〟にいたく感激中。

斉藤　いやあ、今年の『Dynamite!!』も長かったですねぇ。

橋本　長かったねえ～。イベント終わってから即行で新宿まで戻ってきたのに、もう24時を回ってるんだもん。

斉藤　この居酒屋で橋本さんと飲み物を待っているあいだに年越し。なんて新年だ……。

橋本　そりゃコッチのセリフだよ！

ガンツ　えー、オレはJR赤羽駅で乗り換え電車を待ってたら年を越してました。

松林　みんな寂しい年越しだなぁ（笑）。

斉藤　そのうえ新年最初の話題は「石川直生のテーマ設定」ですからね。なんて新年だ……。

橋本　おまえが振ってきたんだろうが！　そして、もうちょっとキックにページを割けよ!!

斉藤　（新年早々無視して）ではさっそくですけど、今回の大晦日はいかがでした？

ガンツ　まず客層なんだけど、大晦日のさいたまに集まる人たちというのは、いろんな人がいるけれども、基本的にオレの仲間だと思ってるんだよね。

橋本　つまり「変態」ってこと？（笑）。

ガンツ　そう！　みんな同類、同じ穴のムジナ（笑）。だから試合が終わったら「みんな一緒に飲みにいこうよ！」って誘いたいくらいなんだけど、今年は初めて「違う人種がたくさんいるな」って思った。玉袋筋太郎さんという方からも「変態、いねえ」っていう一行メールが届いてたし（笑）。

斉藤　だから、会場が一体になって盛り上がるシーンが一切なかったのはそこでしょうね。

ガンツ　変態としてはグッズ売り場もちゃんと調査したわけだけど、もの凄い行列ができてたんだよね。でも、それだけ並んで人が群がってるのは魔裟斗グッズのブースだけ！　だから、遅ればせながら「魔裟斗人気って凄いなあ～」って。

橋本　遅ればせすぎだよ！

斉藤　それに嗜好が細分化してることが如実にわかりましたよね。ただ、その中でもK―1甲子園への興味なさっぷりはあいからわず凄かったですけどね。甲子園というソフト自体は凄くいいと思うんですけど、もうちょっとやり方を考えたほうが……。

ガンツ　それは『TUF』を観ててもわかるけど、『TUF』の決勝以外の試合をUFC本戦でやってもホントに盛り上がらないからね。

橋本　要するに高校野球の決勝戦をプロ野球の前座でやってるようなもんだもん。試合も悪くはないんだろうけど、それじゃお互いのよさを消しちゃうよ。

斉藤　あとスーパーハルクトーナメント決勝の花束贈呈で登場したリュウ・トクリへの反応のなさも最高でしたよ！　トクリなんて『kamipro』読者にしか響かないですけど（笑）。

ガンツ　太刀光がPRIDEに登場したくらいの小ネタだけどね。

斉藤　噂によると、『戦極』サイドは吉田秀彦vs石井慧戦の花束贈呈にトクリを起用するよう依頼したそうです。『戦極』最高!!（笑）。

橋本　そして対抗戦の第1試合、柴田勝頼vs泉浩。柴田が泉を「マグロにする！」って煽っていたけど、なんかオチとしては柴田がマグロだったって話だったねぇ。

ガンツ　それより、泉に漁師というキャラをつけただけでこんなに魅力的に見えるのが凄いよ。泉の親父の顔もよすぎるしさ。『ハッスル』に出てきた川田（利明）の親父は役者を雇っていたけど、あれを超えるクオリティだよ！

斉藤　ただ、入場曲はイメージ的に長渕剛じゃないですよね。

ガンツ　やっぱりサブちゃん（北島三郎）でしょ！『北の漁場』ですよ！

斉藤　ぜひ船に乗って大漁旗を振り回す演出にしてほしいですよね。新宿コマ劇場のサブちゃんワンマンショーばりに。

橋本　なんの話になってるんだよ。次が高谷裕之vs小見川道大。

松林　これは対抗戦前半のベストバウトだなあ。

斉藤　しかし、数年前に小見川が高谷に殴り勝つなんて想像できなかったですよね。タイムマシンで過去に戻って格闘技ファンに「1年後に小見川が高谷を打撃でKOする！」なんて伝えたら、きっと石を投げられますよ！

ガンツ　今年一番化けた男でしょう。でも、なんでマイクを持たせなかったんだろうねえ。いくら巻きの進行とはいえ、小見川は一言ですむんだからさ。「くそったれ！」って（笑）。

橋本　で、対抗戦3戦目が郷野聡寛vsマッハか。これはね、修斗、パンクラスから郷野のことを見てるオレからすれば「郷野よかったな！」の一言につきますよ……。公開練習でのコンプレックス丸出しのコメント含めてグッときたもんなあ。

ガンツ　今日の郷野は綾小路翔を連れてくることも含めて「自分のできることはすべてやりました！」という潔さがあったもんね。それに比べてマッハの普段着すぎるあの感覚。あれも逆に素晴らしい。入場だって「CR清水の次郎長」Tシャツだもん（笑）。

斉藤　スポンサーのTシャツをただ着てるだけ（笑）。これで『戦極』の3連勝ですよ。

橋本　でも、その流れを止めたのが（メルヴィン・）マヌーフだったね。やっぱこういうときにいい働きをするのが助っ人外国人なんだよ。

ガンツ　まあ、アリスター（・オーフレイム）といい、卑怯だよね、DREAM軍は。Uインターとの対抗戦にロシア、グルジア、オランダ勢をズラリと揃えようとした前田日明じゃないんだからさ（笑）。

松林　でも三崎和雄は試合直後、猛烈に抗議してたよね。結局、大会途中で「正式に抗議の申し出を受け、2週間後に回答する」というアナウンスがあったけど。

橋本　まあ、オレ的にはストップが早いぶんには文句言えないというのはあるんだけどなあ。

ガンツ　いや、でも総合格闘技ってダウンしてもダウンカウントがあるわけじゃないからね。だから、いわゆる戦闘不能になった状態でストップということになるんだけど、リプレイを見ても三崎はまったく戦闘不能じゃなかったもんね。

松林　お互いに次の展開にいこうとして目も見合ってたからね。百歩譲って、記憶が飛んでなくてもダウン後にパウ

K-1甲子園決勝
◯野杁正明 vs 嶋田翔太×
（3R終了 判定3-0）
怪物1年生・野杁の勢いは決勝でも止まらず、伸びのあるストレート、さらに連打からアッパーで嶋田はスタンディングダウン。KOとまではいかなかったが、フルマークで野杁が優勝をさらった。

K-1甲子園準決勝
◯嶋田翔太 vs 石田勝希×
（3R終了 判定2-0）
昨年ベスト4の嶋田。K-1甲子園の出場は今年で最後となるだけに、気合の拳を振り回す。しかし対する石田も互角に闘い、試合は判定へ。勝負は2-0で嶋田が決勝に勝ち上がった。

K-1甲子園準決勝
◯野杁正明 vs HIROYA×
（3R終了 判定3-0）
昨年優勝を飾ったHIROYAだが、怪物1年生の野杁に回転の速いコンビネーションを叩き込まれ、まさかの判定負け。サダハルンバが「HIROYA以上」と言った言葉どおりの結果に。

K-1甲子園リザーブファイト
◯藤鬥嘩裟 vs 日下部竜也×
（3R終了 判定2-0）
K-1甲子園リザーブマッチとしてオープニングに行なわれた一戦。序盤からリーチを活かしてストレートやヒザ蹴りを繰り出す藤。日下部もボディを叩き込むが、試合は判定で藤に軍配。

玉袋筋太郎さんから「変態、いねえ」っていう一行メールが届いてたし

“新・魔王”青木真也 徹底考察!座談会

ンドが一発でも入ったら止めてもいいと思うけど。

橋本　まあ、試合を止めるタイミングというのは永遠のテーマではあるよね。で、次は所英男。

斉藤　よかったですねぇ、対戦相手がマルロン・サンドロじゃなくなって。本当によかった！

橋本　そんなこと言うなよ（笑）。

ガンツ　でも、所本人も「サンドロ戦を受けたことをほめてください」って言ってたらしいよ（笑）。

橋本　あいかわらずだねぇ（笑）。そして、次が川尻vs横田です。

ガンツ　今回は横田が助演男優賞で決まりだよ！　これは新日本vsUインターにおける安生洋二ですよ。口うるさい、顔がムカつく、強いんだけど勝っても評価が上がらないという部分を含めてそっくり（笑）。

斉藤　ただ、今回の対抗戦の中でじつは「負けるんじゃないか」と思われてたのがこの川尻でしたよね。

橋本　オレも川尻が集中しきってなかったら横田がポイントアウトする可能性はあったと思うな。でも横田は「川尻はテイクダウンでくる」というのを初めから気にしてたわけでしょう。そこをわかってて何もできないというのは凄い差だよね。そこは踏んできた場数が違うというのが川尻本人の中でもあったんでしょう。カルバンやアルバレスと闘ってきた経験が生きているというか。もう横田は完敗だよ。

斉藤　いや、横田選手は試合後のコメントで「負けてない！」って言ってたそうです。

橋本　ええっ!?　何をどうしたらそうなるんだ？　さすが横田！（笑）。

松林　でも欲を言うならば、川尻にはあそこでキッチリと極めてほしいというのがあるんだよなあ。川尻のもの足りなさって、いつもそこなんだよ。

ガンツ　ついでに、横田の安生的な足りなさを言うと、リキラリアットをおもいっきり食らってみんなの溜飲を下げるところまでやれば完璧だったんだけどね（笑）。

松林　しかも、試合後の握手は絶対にいらないだろ、あれ。

斉藤　まあ、あれが川尻の人柄の良さなんでしょうね。ボクも「ここで握手しちゃダメだ」と思ったんですけど、数時間後にやっぱり川尻は正しかったと思わせる出来事が起きるんですけどねぇ……。

ガンツ　えー、その人についてはあとでたっぷり語らなきゃいけないんで、次いきましょう！　金原vsKID。

松林　これは、じつは戦前から金原が勝つんなんじゃないかと思ってた人が多いよね？

橋本　現時点でのコンディション、勢い、噛み合わせでいうと、そうなりますよね。で、それがもう全部、試合に出ましたね。

ガンツ　でも、金原は今回の大晦日でスターになる選手だと思ってたんだけど、やっぱりあの〝待ち〟の闘い方だとちょっともの足りない感じだったよ。これが大舞台の難しさというか。次はいよいよ吉田秀彦vs石井慧です。

松林　俺の中では今大会ダントツのベストバウト！

橋本　オレもです。とにかく1ラウンドの吉田先輩は凄かったッス！　いい意味で先輩風を吹かせてたというか。

斉藤　ちなみに吉田秀彦が置かれた状況を理解できてない人がまだいるみたいなんですけど、詳しくは本誌141号をお読みください。

ガンツ　吉田は石井が柔道から総合に転向して、何ができなくて何に苦しんでるかというのは全部わかってるわけだからね。それがまたおもしろいよ。

DREAMvs戦極対抗戦
○メルヴィン・マヌーフ vs 三崎和雄×
（1R 1分49秒 レフェリーストップ）
慎重に距離をはかる両者、そこからいきなりメルヴィンの左フックが三崎にヒット。三崎が崩れるとレフェリーはすぐに試合をストップしたが、この裁定に対し三崎は猛烈に抗議した。

DREAMvs戦極対抗戦
○泉浩 vs 柴田勝頼×
（2R終了 判定3-0）
煽りVで「負けたら漁師になれ！」という親父のコメントを受けてリングに上がった泉。序盤は柴田のヒザに苦戦するが、3ラウンドには渾身のフックが柴田の顔面にヒット！

K-1ヘビー級ワンマッチ
○レイ・セフォー vs 西島洋介×
（3R終了 判定3-0）
序盤からセフォーの拳が西島の顔面を捕らえる。西島は足下がおぼつかないながらもセフォーのパンチを軽快に避けるが、ジャブ、ロー、アッパーとやはり手数が多いセフォーに軍配。

スーパーハルクトーナメント決勝
○ミノワマン vs ソクジュ×
（3R 3分29秒 KO）
果敢にソクジュの足を狙うミノワマンだがソクジュはこれを回避。お互いが見合う中で時間がすぎていくが、3ラウンド、なんとミノワマンの左フックがソクジュの顔面を捕らえKO！

吉田は石井が総合に転向して何に苦しんでるか全部わかってた

松林　俺はまったく別の見方でさ、『kamipro』の版元としては格闘技があまり盛り上がってない状況でも、なんとか販売部数を伸ばさなければっていう悩みがあるわけだよ。で、あの吉田の試合を観て、「どんなにズルいことでも、やれることをすべてやることが勝つために必要なことなんだ！」って目を覚まされたね（笑）。

ガンツ　えー、その〝やれること〟というのは、まず最初のロープつかみ。そしてもの凄く痛かったんでしょうけど、金的を食らってからのインターバルですよね。

松林　これは自分勝手な妄想だけど、石井への減点1は吉田がそれを要求するような空気を出してたんじゃないかって思いたいよね。

ガンツ　「減点1だよなあ、これ。そうじゃなくちゃあ、もう動けない！」（笑）。

松林　さらに勝手に妄想すると、金的蹴りのダメージだけじゃなくて体力が完全に回復するまで休もうっていう。

橋本　それどころか「石井の身体を冷やしてやろう」くらいのことは考えてたかもしれない。身体を冷やさないで待ってる方法を石井は知らないということを見越して。

松林　なによりも一番感動したのが最終ラウンド、ラスト1分の片足タックルだよ。あれでスタンドの攻防はなくなって、完全に石井の勝ちの目はなくなったわけだからね。

橋本　だから『kamipro』読者に伝わるかどうかわからないけど、オレの見方でいうと今日の吉田は老獪なムエタイ戦士みたいでしたね。あれが柔道でトップを張ってきた、そして総合でも厳しいマッチメイクをひたすらこなしてきた吉田秀彦の強さだよ。

ガンツ　反対に石井はもの凄く悔しいだろうねえ。KOでスカッと負けるならまだしも、あんな判定負けだからね。

松林　老獪さにも程があるだろう、というやられ方でね。

橋本　しかも、石井って柔道界では一本よりも勝負にこだわって金メダルにたどり着いたって言われてるわけだからね。だから石井の心情を加味すれば、オレは負けた時点で「引退します！」って言い出しかねないなって思った。

ガンツ　まじめな話、ホントに石井は柔道時代から「負けは死を意味する」って思って試合に挑んでたらしいからね。だって、あの煽りV見てもわかるけど、あらためて狂ってるんだなって思わなかった？

橋本　拠りどころは毘沙門天だもんねぇ。

ガンツ　大会前に煽りVの撮影が終わった佐藤大輔さんから「石井って、あれヤバいよね」っていう電話があったんだよ。あの毘沙門天に引っかかったって。で、これは石井本人に聞いたんだけど、去年の大晦日に全国の毘沙門天めぐりをひたすらやってたらしいんだよ。しかも、石井のマンションには毘

毘沙門天を背負ってると信じてる石井がこの負け様でいまどんな心境かは興味深い

沙門天の部屋が一部屋あるらしくて、日々、武神と向き合ってる時間がある。そして本人は本気で自分のことを上杉謙信の生まれ変わりだと思ってるわけだから！

斉藤　凄いなあ〜。ボクは吉田の老獪さ、勝利への執着心より石井慧の狂気にしか目がいかなかったですね。試合は酷評されてますけど、毘沙門天を背負ってると信じる男が、この負け様でいまどんな心境かは凄く興味深い。やっぱりね、何かに狂ってる人間からは目が離せないですよ。対抗戦の試合内容はそれぞれ見ごたえはあったけど、〝問題の試合〟を除いて引き込まれなかったのは、それぞれの帰属意識が見えなかったことですから。それが毘沙門天とは想像を超えてますよ！

橋本　だから石井は、ある意味わかりづらい部分があるんだけど、それは常人が踏み入れたことのないレベルでものを言ったりやったりしてるからだろうね。

斉藤　大会前日のスポーツ新聞に「石井が質問に声を震わせて答えてた」ってネガティブに書かれてあったけど、たぶんあれは記者が低次元な質問をしてきたから完全にバカにしたと思うんですよね。

ガンツ　凄くありえる（笑）。「柔道衣は着るんですか？」とか。

斉藤　そういう質問に対してみんなは大人の対応をするんだけど、石井慧はそうはならないんでしょう。で、記者も固くなって感情的な記事を書いて、石井慧が誤解されて伝わっていく。

橋本　柔道時代もそんな感じだったんだろうなあ。

斉藤　金メダリストの肩書きはありますけど、石井慧ってホントはわかりづらいおもしろさを持ってる人間なんでしょうね。

橋本　ではそろそろ次に。次は時間の都合でまさかの煽りVがなかった藤田和之vsアリスターです。

斉藤　正直……、ボクは藤田が死んだかと思いましたよ。ホントにビックリした。

橋本　藤田は煽りVがないことを含めてよくない流れだったよね。さっきの「郷野には郷野のストーリーがある」というところで言うと、藤田にも藤田の思いがあってリングに上がったわけなのに。会場にはそれを見守るムードはなかったでしょ。

斉藤　相当の覚悟があったはずなんですよ。でも、藤田の覚悟やその物語にファンが追いついていなかった。完敗を喫したことよりも、じつはその温度差のほうが問題なんじゃないかって気はしますよね。

ガンツ　次はゲガール・ムサシvsゲーリー・グッドリッジです。えー、こういう選手のことをプロレス用語で「ジョバー」と言います（笑）。以上！

斉藤　最後は「試合は史上最高、試合後は史上最低」の青木真也です。

橋本　きたねえ！

斉藤　も〜〜う、心臓に悪いよね、青木真也の試合後はいつも。

DREAMヘビー級ワンマッチ
◯ゲガール・ムサシ vs ゲーリー・グッドリッジ×
（1R 1分34秒 レフェリーストップ）
MMAの最先端をいくファイターの一人ムサシは、かつて“PRIDEの門番”と呼ばれたベテランすぎるグッドリッジと対戦。ムサシはすぐさまテイクダウンを奪いパウンドの嵐！

DREAMvs戦極対抗戦
◯アリスター・オーフレイム vs 藤田和之×
（1R 1分15秒 KO）
時間が押した関係でまさかの煽りVなしとなったこの一戦。アリスターの渾身の左ヒザをモロに食らい藤田は壮絶なダウン。まったく起き上がれない藤田に会場からは心配の声が漏れた。

DREAMvs戦極対抗戦
◯金原正徳 vs 山本“KID”徳郁×
（3R終了 判定3-0）
戦極王者金原は待ちの体勢ながらも右でKIDをダウンさせる。3ラウンド、KIDも意地の左で金原からダウンを奪い追い上げを狙うが、やはり勝負はフルマークで金原に軍配が上がった。

橋本　『kamipro』の青木真也の担当としては。

斉藤　青木真也周辺の関係者以外を除いて、青木真也の試合後の騒ぎにいつも心が痛めてるのはブロガーの「悲しきアイアンマン」と、ボクですよ！

ガンツ　あそこのサイト、青木がなんかやるとコメント欄がいつも荒れるよね（笑）。

斉藤　ボクはまだ担当だからいいとして、あの方はなんの関係もないから、凄くいい迷惑だと思います（笑）。ま、青木本人が極限状態に置かれていたことは想像ができるし、興奮状態にあったからというエクスキューズはつけられるとはいえねぇ。青木真也の現在の立場、大晦日という舞台、MMAの文化のあり方を考えたら、これは悪い影響を与えますよ。

ガンツ　腕を折ったうえで中指立ててるんだから、『ロンドンハーツ』以上に「子どもに見せたくない番組」かもしれない（笑）。

斉藤　格闘技は本来非日常のおもしろさだし、やってはいけないことをやったことでおもしろがる人もいるだろうけどさ。おもしろいか、おもしろくないかは別として、問題はおおいにある。

松林　まあ、日本の文化において中指を立てることがどうこうじゃなくても、騒ぎになるよな。

ガンツ　「悪い」っていうより「不愉快」って感じですよね。

斉藤　そうそう、だから試合後にそのまま殴り続けるよりはマシなんですけど、トップファイターの品格としては……。あと、たとえばKIDや五味隆典も試合後に暴走したことあるけど、あんまり問題にならないし、ほかの選手からも文句や批判はまったくといっていいほど出なかった。それはKIDが怖いから……という理由もあるんだろうけど、そこは彼らの個性によって救われてる部分はあると思うんですよね。青木真也の場合は、青木真也の個性によってますます問題化するような気がする。

松林　まあ、KIDや五味のケースはイメージとしてもハマってるよね。同じ極限状態を超えた行為なのに。

ガンツ　殴るっていう直接的な攻撃より、あの〝侮辱行為〟のほうが観客はより重罪に感じたってことなんでしょう。あと中指立てて挑発ってティト・オーティズなんかもやってたけど、あれはファッション的な要素が強かった。でも、青木の場合はファッション性皆無だからね（笑）。

斉藤　もちろんこの問題は青木の挑発行為による自己責任の部分は大きいから、個性だけでは片づけられる話じゃないけど、「青木真也の個性」を語らないと見えてこないところはあると思うんですよね。青木真也だから言いやすいところはあるだろうし、叩きやすいでしょうし。

ガンツ　簡単に言ってしまうと、アンチ青木への炎上の燃料投下だし、青木に嫌悪感を抱く人にとって決定的なことではあったろうね。

斉藤　だから中指を立てた瞬間、凄くイヤな気分になったの！

橋本　また騒ぎになるのか、と（笑）。青木じゃなかったら中指はオッケーなのかよ？

斉藤　どうなんでしょうね？　だいたいあんな光景、観たことないからな（笑）。まあ、折ってなかったらここまでの騒ぎにはなってないでしょうね。

橋本　腕を折ってしまうのは真剣勝負だからありえることだけど、腕を折られた敗者に向かって中指はねぇ。まあ、

折ってしまったことについて青木を責めるのはおかしいけどね。あれは相手がタップをするか、セコンドがタオルを投入するか、レフェリーが止めるかのいずれか。結果、どれも間に合わなかったけど、「見込み一本」は取れないし、いまの格闘技のシステムの中では誰も責めることはできない。

松林　競技の中の出来事だから誰も批判はできないよな。だから腕折りに対して嫌悪感を示す人は、単純にいうと「ああいう光景は見たくなかった」ということでしょ?

橋本　だから中指はともかく腕折りを批判している人間は、「格闘技の試合では人が死ぬかもしれない」という前提を忘れてるとしか思えないんですよ。打撃だって充分に危ないし、いまさらそこで騒ぐのは想像力が乏しすぎる。選手はいつも命懸けなんだから。

松林　単に骨折だけを考えれば、蹴りを受けて折られちゃうことがいくらでもあるわけだからね。

斉藤　そうすると、やっぱり中指が問題を大きくしてるなあ。ホント、試合後のあの挑発はありえない。これも人によっていろいろな意見はあるかもしれませんが、ボクとしては「試合は最高、試合後は最低。以上！」としか言えない。ただ、全体を通して悪魔的な魅力に惹かれる人もいることは理解できますよ。だって、こんなに強くて狂った格闘家、いままで見たことないんだから。

ガンツ　今回はオープニングで『翼をください』が合唱されたけど、あの曲に一番似合わない男だよね。だって、翼を折ってるんだもん（笑）。

斉藤　どんなブラックジョークなんだ(苦笑)。

橋本　まあ、そこは勝負である以上、問題視できないけどね。俺もね、試合後に相手を侮辱する人間は許せないんだけど、試合が完璧すぎるでしょ。だから、凄く複雑な感情なんだよね。

斉藤　凄いけど最低、最低だけど凄い。その反復ですよ（笑）。だからこそ、中指はよけいなんだよなあ。

橋本　青木の狂気が凄く安っぽく見えちゃうよな。

斉藤　なんですかね、この複雑な感情は。試合の狂気は超一流だけど、試合後の狂気は五流、その組み合わせがありえないからかな。

ガンツ　そもそも青木がなんでそこまで狂気を爆発させたのかが伝わってないよね。

斉藤　ボクは、この試合の煽り映像が流れた時点で「……あれ?」って思ったんですよ。大将戦のわりには凄く簡素な作りだったじゃないですか。川尻vs横田と比べてもあきらかに力が入っていないことに凄く違和感があった。

ガンツ　これはあくまで想像だけど、映像の内容に何か問題があってボツになってしまって、あわてて作り直した雰囲気はあったよね。

斉藤　誰かが言ってはいけないことを言ったのか、誰かが作り直しを命じたのか……。今回って、じつは裏側のほうが"対抗戦"の様相を呈していたじゃないですか。青木vs川尻のタイトルマッチが決まっていたのに、『戦極』の強い要請でひっくり返ったみたいな話もあったりして。

橋本　それが大会2週間を切った段階でしょ。ちょっと異常だよね。

ガンツ　で、青木は事前の会見で「刺しにいきます！」って宣言してるんだけど、それは誰だって比喩の話だと思うわけでしょ。でも、青木本人は本当に刺す気満々だったわけだよね。これは狂ってるって！（笑）。

©FEG.Inc

雷電杯

○吉田秀彦 vs 石井慧×

(3R終了 判定3-0)

両者ともに道衣を着ずにリングへ。序盤から吉田は貫禄の右フックを石井の顔面に叩き込む。苦しい石井はヒザ蹴りで反撃を試みるがこれが金的となり、長い長いインターバルへ。石井にレッドカードが提示され減点1で試合再開となったが、最後の最後、吉田が石井にタックルに入り、そして終了のゴング。吉田は両手を上げて喜びを表現したが、一方の石井はすぐさま手で顔を覆った。

青木の試合は凄いけど最低 最低だけど凄い。その反復ですよ

橋本　だから、今回のマッチメイクっていろんな"大人の事情"があって対抗戦になったわけじゃん。青木はその状況を100パーセント真に受けたんだよね。真剣に怒ってた。でもさ、「刺せと言われれば刺しにいく」というのは、山本元気っていうキックボクサーのセリフの引用なんだよ。ある種のパロディをやってるのに、でも怒りは本物っていうのが怖いよね。ワケわかんない怖さがある。

斉藤　でもね、刺そうと思ってもできるもんじゃないでしょ。それこそグラップラーはみんな、折ろうと思って極めてるけど、折れないのは覚悟の問題というか、技術的な精度の問題だったりするじゃないですか。

橋本　それこそ昔、藤原組長が高田延彦を評して「折ろうと思って折れる男だ」って言っていたけど……。

松林　そういう部分から考えた場合にイメージ的には、青木くんは「ぱいーん！」って感じで折っちゃうわけでしょ。

斉藤　最後の技にしても、いま思い出しただけでも鳥肌が立ちますよ。

橋本　基本はアームロックだよね。

ガンツ　ボクはヴォルク・ハンと堀辺先生がやってるのを見たことはあるけどね（笑）。あの技ってドラゴンスリーパーの原型なんだけどね。そこから十字みたいに曲げるんだけど、実際には誰もできない。

斉藤　話を戻すと、今回ボクが不安だったのは、前号のインタビューでも触れたけど、青木真也は主催者の事情を汲みすぎてしまってるんじゃないかってことなんですよね。そこで青木真也が裏側の争いに怒るのはいいけども、その怒りは非常にファンにはわかりづらいと思った。「親の顔を潰された」のは事実なんでしょうけど、プロの表現としてもったいないと思ったんですね。それならば、まだ北岡悟や石田光洋が廣田瑞人に負けてることを持ち出したほうがわかりやすい。二人の敗戦に対して青木は感情的になっていたわけだし。

橋本　石田が修斗のリングでKOされたときも、いますぐオレがリングに上がってやってやると飛び出そうとした青木を中井（祐樹）先生が制したそうだからね。

斉藤　あの試合については、ほかにもいろいろとあるみたいなんだけど。北岡戦後の廣田の言動にも怒ってたりして、「親のメンツ」じゃなくたって伏線はある。

ガンツ　それにしても、青木の今回の怒りって許容範囲を超えてるよね。試合直前に、きっと廣田はちゃんとプロとしてここまで言わなきゃダメだというので頑張って言ってたでしょ。

斉藤　「試合はつまらない」「試合ができなくなるまでぶっ飛ばす」と。

ガンツ　それを政治的な状況を含めて真に受けちゃってる感じはするよね。

“新・魔王”青木真也 徹底考察座談会

今回のケースは少年犯罪っぽい得体の知れない猟奇性が見える

そのへんはなんか船木誠勝なんだよね。「ヒクソンを日本刀で斬らないと試合は終わらないと思うんですよ」って感じで（笑）。

斉藤 船木はホントにヒクソンを斬ろうと思って日本刀を持ってリングに上がったんですよねぇ……。

橋本 しかもケンカマッチでボコボコにするならわかるけど、テクニックで狙ってああいうふうにするというのが青木の怖いところだよねぇ。

斉藤 もともと青木って壊し屋だったじゃないですか。修斗でも脇固めで腕を折ってるし、よくよく考えれば一昨年の大晦日はアルバレスの足だって壊してる。そう考えると、腕と足では壊したときのイメージはだいぶ違うんだなあ。

松林 永田克彦戦でのフットチョークも、気管を押し潰すような技だから相当にエグいと思うけど。

斉藤 明日、本人にインタビューするんですけど、青木真也はおそらく最初はノリで怒ってたと思うんだよね。ノリでやってるうちにだんだんと火がついたというのがあるんでしょうね。

ガンツ そこは前田日明パターンですよ（笑）。あの人も制御が利かないというか。だからツッパリマンガのタイマンと違うんだよね。もっとローティーンがナイフを持ってる感じ。だからタイマンで勝ったマッハには「マッハさん、カッコイイ!」ということになるけど、青木の今回のケースは少年犯罪っぽいんだよ。そこに不快感があるし、得体の知れない猟奇性が見える。

橋本 それこそ少年犯罪調で言うなら、「殺せるなら誰でもよかった」って感じに見えるよね。

斉藤 それはうなずけるところもありますけど、不良やヤクザはじつは男前だというのもファンタジーにしかすぎなくて、それこそ集団でしか囲めないのが不良やヤクザの連中だとボクは思ってるんですよね。で、今回の青木は少年犯罪というより、なんか右翼将校のテロっぽいんですよね。彼らが何に殉じてるか、何に命を懸けているかは知ってるけど、ちょっと理解しがたい狂気があるじゃないですか。

ガンツ だから、命懸けで刺しにいくまではいいけど、刺したあと倒れた相手をさらに侮辱するっていう行為は、共感できないのはあたりまえだよね。

斉藤 だから、これは廣田サイドにはもの凄く失礼な話かもしれないけれど、腕を折ったところまでは、青木は格闘家として美しかったと思うんですよ。なぜなら格闘技に殉じてるから。そこはわかる。でも、その後の挑発はどういう動機でやってるのか、なんとなくはわかるけど、もの凄く理解しづらかったですよ。

ガンツ まあ、今回の政治的な裏側がもっとハッキリ見えれば、青木の狂気はまだ理解できたかもしれないけどね。ただ、何度も言うけどどんな動機があろうとも、あの挑発行為は不快。だから、青木にとって凄くもったいないとも言えるし。不愉快だけど、とんでもない怪物っていう意味では、より巨大な存在になったことも確か。

橋本 だから、いまは理解不能の怪物として見るのが一番だろうね。いままでの文脈の中のヒーローでは絶対にいないタイプ。

ガンツ 前田日明はよく「格闘技はこんなに怖いもんなんだってわかるんじゃないですか」って言うけど、青木がわからせちゃったという。

松林 でもさ、川尻と青木を比べちゃうと、試合後に握手しちゃう川尻は青木真也という怪物には存在感で勝てないと思うんだよね。人間としてのエグさが違うもん。

斉藤 あの～、あたりまえのことを言っていいですか。川尻達也のほうが平和で素晴らしいですけどね（笑）。

ガンツ スポーツマンシップ万歳!ノーサイド大好き!（笑）。

斉藤 だから今回、青木や川尻を対抗戦に出せって『戦極』側が要求してきたみたいだけど、また対抗戦をすることになったら「青木を外せ」って話になるかもしれないよね。でも、青木抜きではもう対抗戦とか言えないんじゃないの?

橋本 『戦極』に乗り込む青木は凄く観たいけどね。

ガンツ 全米放送禁止級の行為をやったわけだけど、アメリカでも観たいですよね。このあいだのディエゴ・サンチェス戦みたいに、「もうこの人、格闘技やめちゃうでしょ」ってくらいに心を折るBJペンにどう対抗するのかが観たいよ。

橋本 アメリカに行ったら青木も秋山成勲みたいに普通のスポーツマンになるのかなあ。

ガンツ いやあ、ならないでほしいなあ。

斉藤 むしろ新・魔王として闘ってほしいなあ。

ガンツ 青木は魔王というよりバダ・ハリ以上の悪魔王子だよね。魔王はまだ取り引きに応じるずる賢さがあるっていうか。でも、悪魔王子の場合は一切取り引きに応じない残虐性があるじゃん（笑）。

斉藤 ……なんかいま、唐突に破壊王（橋本真也）とヒロ斉藤のエピソードを思い出した。

ガンツ ああ、ドン荒川に焚きつけられて、破壊王（橋本真也）がヒロ斉藤に仕掛けたやつね。だからプロレス用語でトンパチというのは、青木真也みたいなことだったんだろうね。本気になっちゃうとかそういうことも含めて。

斉藤 青木の場合は焚きつけられなくても仕掛ける恐怖がありますよ。トンパチって時が経ってるから笑えるけど、破壊王とヒロ斉藤の件だってリアルタイムだったらやっぱり引いていたのかなあ。

ガンツ まあ、あのときはきっちり破壊王をリンチして、大人のルールをわからせる長州力とマサ斎藤がいたんだけどね。

斉藤 そうか、いまのマット界には長州とマサさんがいないのか。できるとすればブログでリンチするくらいか。

ガンツ そこはもうBJペンしかいないんじゃないの。本当にUFCをずっと観てるアメリカ人でも、BJの挑戦者は青木だって話になるよ。

松林 説教という意味では、せめて今成正和あたりが「あそこまでやったらダメだよ」とか言っていてほしいんだけどな。

ガンツ でも、今成もリトアニアで試合中にセコンドに中指立てて大乱闘になって、会場警備のリトアニア陸軍がリングに上がって鎮圧したことがあったからね。青木よりヒドい（笑）。

斉藤 ダメだこりゃ（笑）。この問題はまだまだ続きそうだなあ。

【10年1月1日／都内・某所にて収録】

©Josh Hedges(UFC)

“新・魔王”青木真也退治できるのは、やはり海の向こうで大暴れしているBJペンだけなのか。ジョシュ・トムソンやメレンデスら強豪ファイターはいるものの、彼らとの“普通の”対戦では、もはや満足できなくなっているファンも多いはずだ。

〝ミスター戦極〟が

対抗戦を語る

新キャッチフレーズ募集中の前『戦極』ライト級チャンピオン

北岡悟

吉田秀彦の一枚看板だった『戦極』において、五味隆典を破り一つの頂点まで登り詰めた男・北岡悟。青木真也とは練習をともに行なう仲であり、昨年8月の『戦極～第九陣～』では廣田瑞人に敗れたという因縁もある中で迎えた今回の対抗戦。北岡は出場しなかったが、どのような視点で『Dynamite!!』を観ていたのか？　大会翌日の元日に北岡を直撃した。

聞き手／坂井ノブ　試合写真／乾真也

スポンサーの文句を言うのは違うと思う。対抗戦の盛り上げ方として間違ってます

——まずは北岡さんに青木真也 vs 廣田瑞人についてうかがいたいんですが、賛否両論で凄まじい反響がありますね。

北岡　僕も裏に戻るときに「北岡さん、青木やりすぎや!!」と関西弁で声かけられましたけど。僕に言われてもなぁとは思いました。

——今回は珍しく青木選手のセコンドにはつきませんでしたよね?

北岡　一応、気を使ってパンクラスの（坂本）靖（代表）を通じて稲村（角雄ワールドビクトリーロード営業統括本部長）さんに「北岡が青木のセコンドにつきます」と確認したんです。そしたら「とてもじゃないけど（安田）会長に言えないから、今回は控えてくれ」という返事だったんです。そういう見解は当然なので、今回は付かなかったということです。セコンドにはつかなかったし、花道も一緒に歩かなかったけど、それ以外はいつもどおりでした。まあ、対抗戦という枠組みの中で事情はわかりますから。

——試合は完勝でしたね。

北岡　あの試合だけは映像で何回か確認しました。青木は本当の意味でのテイクダウンの練習を凄くやってるんですよ。手の大きさとグリップ力がハンパじゃないし、相手を寝かせきって立たせない。僕は12月に「立ちたい」ってタイトルでブログ書いたことがあるんですけど、それは青木との練習のことなんですよ。立とうとしても立てないから。

——強烈なテイクダウンでしたよね。そして廣田選手の腕を固めてパンチを顔面に落としていく、と。

北岡　廣田選手が取られてる腕を切るという行為がまったくできていなかったですね。しかも、ああいう場面では定石として早めにバックをあげないといけなかったのに、それも遅かったんです。そうこうしてるうちに上に乗られて、将棋でいうところの詰んだ状態になった。そこで廣田選手はタップをするという選択をしなかったわけですよ。

——レフェリーも止めませんでしたね。

セミファイナルで青木真也 vs 廣田瑞人の衝撃的なフィニッシュシーンを観たあとの魔裟斗 vs アンディ・サワー。スロースターターのサワーに対して、魔裟斗が序盤から積極的に仕掛ける展開に。3分5ラウンド闘い抜き見事に勝利した魔裟斗は、愛する妻、選手、スタッフ、ファンに温かく見送られてリングを降りたのだった。

北岡　レフェリーは止められませんよ、あの状況では。ちゃんと腕がパキっとなった瞬間に止めに入っていたし、レフェリングはあれでいいと思います。でも、廣田選手はパンチャーで、折れたのが右腕ですからデリケートな部分ですよね。まあ、今回の廣田選手に関して言えば体重が69キロだったんですよ（試合は70キロ契約）。その時点でコンディションが良くないのはあきらかですよね。ジム（GUTSMAN修斗道場）を辞めて、練習環境も変わっただろうし。そういうタイミングで迎えるような試合ではないですよ。本当に大変だったんだろうなと思います。ろくに話したこともないですけど、いろんな気持ちの部分を察することはできるし。……まあ、僕は両者の気持ちがわかるんで「お疲れさまでした」という気持ちです。

——腕を折るということについては?

北岡　それは試合の中のことですから、青木が責められることではないと思います。さっき言ったようにレフェリーにも止められない。廣田選手はタップをしないという選択をした。これは仕方ないですよ。後味は悪くなりましたけどね。

——で、そのあとに中指を立てるというのは?

北岡　それは雑誌で言うことじゃないと思います。僕は直接の先輩なんで、彼と直接話しますよ。

——対抗戦が決定して、青木選手や川尻選手は当然、納得していない部分もあったでしょうし、とくに青木選手は「親であるDREAMスタッフの顔に泥を塗られた」と憤って、カード決定までの経緯でいろいろあったということを匂わせていました。ドン・キホーテが口を出したと言われてますけど。

北岡　これは青木や川尻さんがどうのこうのという話じゃまったくなくて、そのことをとやかく言うのはおかしな話だと思います。スポンサーですから、文句を言うのは違うと思うし。そういう部分で煽るのは、対抗戦の盛り上げ方としては間違ってますよ。

——かつて、故・橋本真也さんがSWSを「金権プロレス」と批判した『週プロ』に対して「お金を出してくれている人のことを悪く言うな!!」って言ってましたよね。

北岡　そうですね。お金出してくれてる人を揶揄するのは僕もおかしいと思います。DREAMと『戦極』というイベント同士の対立構造ならいいと思うんですけどね。ただし、何度も言いますけど、タイトルマッチを崩されたという青木や川尻さんの怒りのベクトルでの、試合への気持ちの持っていき方はいいと思いますよ。とくに川尻さんは本当にかわいそうだと思いますし。横田さんにしても廣田選手と試合するより、川尻さんとやるほうが旨味があるでしょうし。

——対抗戦が決まってからの横田選手のマイクは本当に素晴らしかったですよね。「魔裟斗選手と試合をしたら、俺のほうが善戦してた」「俺ならKOされることはなかった」とか。

北岡　あの人は本当におもしろいですよね（笑）。あれでいいのか？って見方もできますけど、もう仕方ないですよね。それが横田さんですし（笑）。まあ、そんなのはさておいて、今回の対抗戦はドン・キホーテがスポンサードすることによって、その条件として『戦極』の選手の試合を『Dynamite!!』で組むというビジネスだと思うんです。そういう事情をわかってる青木真也もいるし、「この野郎、タイ

トルマッチを潰しやがって」という青木真也もいるということです。多重人格とはちょっと違うと思いますけど、いろんな思いがあったと思いますよ。

——引き裂かれる思いの中でどういうふうに自分をコントロールするのか、ということですね。

北岡　そうですね。控室で青木は柴田勝頼vs泉浩を観ながら柴田選手のことを「プロですよね～。べつに相手のことを憎くないのに、睨んでる」って言ってたんですよ。

——なるほど。ほかの選手は対抗戦という座組みの中で、因縁や関連性がない中でも煽っていったわけですけど……。

北岡　郷野（聡寛）さんと桜井（〝マッハ〟速人）さんの試合は二人のコントラストが顕著でしたよね。郷野さんはマッハさんのことをずっと見てて大晦日の舞台で勝つということで意気込みがハンパじゃなかったと思うんですけど、桜井さんにしてみれば「郷野さんと？」って思いもあったでしょうし。

——「食ってやろう」という気持ちが強いほうが結果を出したのかもしれませんね。そういう部分で言うと、『戦極』ライト級の二人も食ってやろうという気持ちは強かったんだと思うんですが、逆に青木選手と川尻選手の「俺たちのタイトルマッチを崩しやがって」という怒りが上回ったかたちになりました。

北岡　そうですね。川尻さんと横田さんの試合は、業界のためには横田さんが勝っちゃまずいだろうと思ってました（笑）。悪いけど、顔じゃないでしょとは思ってました。実際、川尻さんが勝ったほうがいいよなと思ってましたよ。青木と廣田選手に関しても、同じように思ってましたけどね。廣田選手の紹介VTRにしても「五味隆典に勝った北岡悟に勝った男」という紹介のされ方だったじゃないですか？　結局、そういうことなんですよ。でも、廣田選手はこれからも大変だと思いますし、気持ちも多少は察せますし、「負けて人の痛みを知ればいい」なんてことは思わないし、言いません（真顔で）。

——北岡さんが負けた直後に「彼も人の痛みを知ればいいと思います」と発言した五味（隆典）選手とは違う、と（笑）。

北岡　ええ。多大なプレッシャーを背負っていた青木の気持ちもわかります。

——じつは僕は青木選手の試合を引きずってたせいで、直後の魔裟斗vsアンディ・サワーが、いま一つつまらなく感じてしまったんですよね。

北岡　ああ、確かに。僕も魔裟斗選手は大好きなんで、試合はリングサイドで観ようと思ってたんですけど、青木vs廣田のあとは控室に戻ってましたね。控室のモニターでもまともに観てなかったですよ。青木vs廣田の試合のことばっかり考えてて、どうでもよくなってましたね。

——魔裟斗vsサワーは凄くレベルが高い試合だったと思うんですけどね。

北岡　でも、プロ格闘技ってそういうものじゃないんですよね。

——そうなんですよ。

北岡　そういう意味では、石井慧選手なんか本当に心からどうでもよく感じちゃいましたよね。なんの魅力も感じなかったなぁ（キッパリ）。

——あの試合は逆に吉田さんが魅力的に見えましたね。

北岡　そのとおりですね。カッコよかったですよ。やっぱり石井選手と吉田さんじゃ明るさが違いますよ。

——明るさ？

北岡　人間力ですよ。本当の意味での集まってくる人の数が違うじゃないですか。入場式でも答えが出てたじゃないですか。石井選手のときに全然声援がなかったでしょ。入場式のときにビジョンに字幕でキャラも表示してほしいですよね。そしたら声援が変わるかもしれないですよ。

——会場が不穏な沸き方になりそうですけどね（笑）。

北岡　まあ、童貞捨てただけですから。上手にできるわけがないんですよ。相手をイカせられないし、自分はすぐイッちゃうし。「そこは違う!!」ってことになるかもしれないし。

——「そこ、金的！　入れちゃダメ!!」って場面もありましたしね（笑）。

北岡　でも、あの試合を観るかぎり石井選手は、普通なら疲れちゃうような動きをず

吉田秀彦vs石井慧は対抗戦ではなく『雷電杯』としてSRCルールで行なわれたが、あらゆる逆風を一身に受け止めデビュー戦の石井からパンチでダウンを奪い判定勝利を挙げた。落ち着き払った吉田の姿に北岡もシビれた!!

08年の『戦極ライト級グランプリ』から続く北岡と横田一則の因縁。「ワンマッチなら俺のほうが強い」と再戦を訴え続ける横田に、微笑み返しという戦法で応じる北岡。川尻 vs 横田についても北岡らしい見方を披露してくれた。

石井聡選手は童貞捨てただけですから上手にできるわけがないんですよ

〝ミスター戦極〟が対抗戦を語る

北岡悟

川尻さんや青木と試合するときには『戦極』軍の枠組みではやりたくない

っとやり続ける体力はさすがにあるようですし。いろんな意味でこれからでしょう。

――対抗戦でほかにおもしろいと思ったのはどの試合ですか？

北岡　やっぱり小見川（道大）選手は凄かったですね。もともとライト級では振るわなかったけど、フェザーに落としてどうなんだ？　という昨年1年の始まりだったと思うんです。小見川選手はフェザー級の日本人トップと目されている高谷（裕之）選手にKO勝ちで。金ちゃん（金原正徳）もKID選手に勝っちゃいましたからね。

――09年はDREAMと『戦極』が両方ともフェザー級トーナメントを開催してましたけど、『Dynamite!!』まではDREAMのほうがテレビ映えするし、実力も上だろうと思われてました。それを『戦極』が実力を証明してひっくり返した試合でしたよね。

北岡　『戦極』に上がる前までは、金ちゃんはアライ（ケンジ）とパンクラスで査定マッチで闘ったり、小見川選手も修斗で試合してましたからね。

――1年で成り上がりましたよねぇ。そういう意味では、小見川選手とか、金原選手とか、横田選手の言い訳とか、『戦極』もいろいろ見どころは増えましたけど。

北岡　でも、結果的には『戦極』の選手で本当の意味で大会の顔になれたのは僕しかいなかったわけじゃないですか。ほかの選手は顔になれなかったというか、顔じゃなかったんですよ。みんな顔になることを拒否ってるのか、顔になるチャンスなのを気づいてないのか。やっぱり、そういう部分でいうとKID選手とか所（英男）さんは凄いですよ。

――今回の対抗戦で、DREAMと『戦極』との選手間に意識や華の差はありましたか？

北岡　ありますよね。何かを背負ってる意識の差はありましたよ。でも、対抗戦じゃなくて雷電杯でしたけど、吉田さんにはそういう意識は感じましたよね。政治的な事情も含めて、逆風の中で背負ってリングに上がるカッコよさはありました。

――今回は『戦極』を一人で背負い込んだイメージはありましたしね。じゃあ今後、北岡選手は何を背負いましょうか？

北岡　背負うというより僕はパンクラスを担うので精一杯な部分もあるんで、あまり多くを求めるなというか、うっとうしいというか。『戦極』ではチャンピオンにならせてもらいましたけど、その責任は取ったと思ってますし。パンクラスをなんとかしたいという気持ちはありますけど、現時点では『SRC』をどうにかしたいという気持ちはないです（キッパリ）。どういう体制になるかも決まってないし。

――でも、またDREAMとの対抗戦があるとしたら『戦極』軍の一員になるわけですよね？

北岡　そうなんでしょうね。でも、川尻さんや青木と試合するときに、その枠組みではやりたくないなとは思います。それこそ「安田会長に刺せと言われたから刺す」という感じではないです。

――それは自分が刺したいから刺しにいく？

北岡　そうですね。ドン・キホーテ側であるワールドビクトリーロードの皆さんとは親しくさせてもらっているので、そういう人たちの思いはなんとなくわかってます。それを見捨てるつもりではないんです。安田会長の「格闘技が好きだ」という情熱もわかってるんで。

――北岡さんはドン・キホーテのCMにも出てるし。

北岡　まあ、そうですね。コントみたいですけど（笑）。

――大会前の記者会見で青木選手は「五味隆典と北岡悟と國保広報のいない『戦極』ってどうなんだろう？」という発言がありましたよね。北岡さんが対抗戦に出ないという状況を言いつつ、國保広報を「解任」と発表したワールドビクトリーロードに対する牽制のようにも聞こえるんですが、この発言はいかがですか？

北岡　五味はいらない思いますけどね（キッパリ）。……五味がいたからいまの僕があるのか（笑）。まあ、『戦極』から『SRC』になって体制も変わりますからね。ちなみに、煽りで青木が「DREAM愛」って言ってましたけど、愛って見返りのないものですよ（真顔で）。

――………プッ。ごめんなさい、ちょっと笑っちゃったんですけど（笑）。詳しく聞かせてもらっていいですか？

北岡　愛って与える一方になるかもしれないものなんですよ。

――報われないかもしれない、と。

北岡　そうですよ。僕は確実にパンクラス愛はありますけど、それは給料をもらってるから愛せてるのかもしれないし。

――なるほど。愛、イコール労働なのかという問題も浮上しますね。

北岡　でも、それは本当の愛なのか？　ひょっとしたら、青木の言ってる"愛"というのは、ろくにお金が出てないけど頑張ってるんだぜ!!　ってアピールかもしれない。あるいはギャラが跳ね上がって張り合いが出たからやったるぜ!!　というアピールなのかもしれない。それは愛と言えるのか？　というふうに思っちゃいました。これ書いちゃってください（笑）。

――わかりました（笑）。

【10年1月1日／東京・LOTUSパラエストラ世田谷にて収録】

きたおか・さとる■1980年2月4日、奈良県出身。パラエストラで総合格闘技の練習を積み、パンクラスismに入門。パンクラスでキャリアを積み、08年から『戦極』に参戦して五味隆典を破り初代ライト級チャンピオンに。廣田瑞人に破れて王座を明け渡した。現在は5月の復帰戦を目指してトレーニング中。168cm、70kg。

「2009年はプロになれた年だと思います」

Hideo Tokoro

対抗戦が最も似合わない男

所 英男

打倒KIDを目指しDREAMフェザー級GPに出場するも、1回戦でDJ.taikiに完敗を喫し、前田日明からの大ダメ出し大会でスタートした所英男の2009年。しかし、その後は敗者復活で勝ち上がり、高谷裕之との準決勝では敗れるも激闘を展開。そして大晦日にキム・ジョンマンを破り、なんとか有終の美を飾った。追い込まれ、一皮剥けた所に2009年を振り返ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

所　記者の皆さんも正月早々、仕事で大変ですね。

──所さんだって、いま取材中ですよ（笑）。

所　僕はもう大晦日に試合が終わったんで、もう全然仕事してる感じじゃないんですけど。

──インタビューもちゃんと仕事としてやってください（笑）。それに毎年毎年、年末はクリスマスも何もなく、ひたすらトレーニングと減量で大変じゃないですか。

所　それは、逆にいいですけどね。忘年会とか断る理由ができて（笑）。行ってたらキリがなくなっちゃうんで。

──なるほど（笑）。なかなかそういう理由がないと断れないことが多い。

所　そうですね、ホントに用事がないと、行かなきゃいけない忘年会って多いんですよ。だから、大晦日に仕事があるのはいいですけどね。

──というわけで、あらためまして、あけましておめでとうございます。

所　おめでとうございます。

──そして昨日の勝利もおめでとうございます！

所　ありがとうございます。

──2009年は大変な年でしたけど、勝利で締められたのはよかったですね。

所　そうですね。年間の戦績が2勝2敗で勝ち越せはしなかったんですけど、最後に勝てたのはホントに良かったです。

──去年の前半は、DJ・taiki選手に敗れて（前年から）3連敗となったこともあって、かなり悩んだじゃないですか？

所　そうですね、大変でしたけど、負けたあと、逆にみんな優しく接してくれたりとか、支えられた1年でしたね。

──たとえばどんな方々に？

所　前田（日明）さんとか（ボクシングトレーナーの）野木さんとか、元リングスの金原（弘光）さん、あとは地元の友だちや家族なんかも含めて、凄く気にかけてもらえたんですよ。

──それだけみんな所英男に期待してるというか「もう一回頑張れ」ということなんでしょうね。

所　それか、よっぽどかわいそうだと思われたのか（笑）。

──確かに、DJ選手に負けたあとは、はたから見ててもかわいそうオーラが出てました。

所　ホントですか？　かわいそうオーラ出てましたか……（苦笑）。

──でも、それを乗り越えてというか、自分の中で吹っきれて、一つ上のランクに行けた感じはありますか？

所　そうですね、1コ精神的に上に行けましたし、練習もホントにやったんで、そういう意味でも上に行けたと思います。あとは今年、もうちょっと結果を出して、DJ戦とかを笑い話にできたらなって。まだ、ちょっと笑い話にはできないんで。

──DJ戦のあとは、試合直後にもかかわらず大ダメ出し大会だったんですよね？

所　そうですね、前田さんにかなりダメ出しされて、昨日もダメ出しされまくったんですけど。

──昨日のキム・ジョンマン戦後も恒例のダメ出し大会でしたか（笑）。

所　「おまえはオカマか！」って言われて……。

──ダハハハ！　どこかどうオカマなんですか？

所　「踏み込んでジャブを打て」って言われてたんですけど、踏み込みが足りなかったんで「オカマみたいなジャブ出しやがって」って……。

2009年といえば、御大・前田日明が所英男のセコンドにつくようになった年でもある。今回のキム・ジョンマン戦でも当然、セコンドにつき試合中にアドバイスを送り続けていた。所にとっては、なんとも心強いと同時に気が引き締まるようなセコンドだ。

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○所英男 vs キム・ジョンマン×
(3R終了 判定 3-0)

当初はパンクラス王者マルロン・サンドロとの対戦が予定されていた所だったが、サンドロ負傷欠場で急きょキム・ジョンマンと対戦。所はストライカーであるジョンマンと殴り合いを演じ、1Rには飛びつき三角絞めを仕掛けるなど、らしさを発揮。判定勝ちでDREAMに勝利をもたらした。

試合後、前田さんに「おまえはオカマか！」ってダメ出しされました

――オカマみたいなジャブ（笑）。

所　でも前田さんにそういうことを言われるのってうれしいんですけどね。

――前田言語で怒られると、前田ファンとしてうれしい（笑）。

所　はい（笑）。

――ただ、ボクなんかは観てて、打撃の積極性が凄く見えた気がしますけどね。

所　まだ自分でビデオを見返してないので、なんとも言えないんですけど、野木トレーナーには「打ち方をようやくできるようになったんで、今度は使い方を教える」って、言っていただいたので、早くその練習がしたいですね。

――パンチ以外にもヒザ蹴りが非常に有効でしたよね？

所　ヒザはあんまり練習してないんですけど、ノリでやったら当たりましたね（笑）。

――ノリであんな強烈なヒザが打てるんですか？

所　やっぱりすべては体幹なんで、パンチがしっかり打てるようになって、軸がしっかりしたことで、ヒザも出せてるんだと思います。つながってるんですよね。

――本格的なボクシングの練習が、すべての面でいい効果につながっている、と。

所　そうですね、ボクシングをやるようになって走り込みをするようになりましたし。いい感じでつながってますね。

――去年、内藤大助選手のキャンプに参加したりして、「トップのプロスポーツ選手ってこういう練習をするんだ」って思ったりしたんじゃないですか？

所　そうなんですよ。なんか内藤さんと一緒に練習するようになって、スポーツを見る目が変わりました。

――みんなプロスポーツ選手は、こんなに凄い練習をしてる人たちなんだって（笑）。

所　そうですね（笑）。自分なんかは、山本（喧一）さんのジムがなくなってから、ホントに仲間たちとサークルみたいな感じで練習してたんで。

――それが30歳越えてからトップアスリートの練習を始めて（笑）。

所　もっと若いときからやってたらよかったんですけどね、こればっかりはしょうがないですけど。

――どういう練習をしたらいいかもわからなかったってことですよね？

所　そうなんですよ。いまは内藤さんのキャンプに参加させてもらったり、野木さんに指導してもらったり、前田さんとマンツーマンで4時間練習したり、ホントにいい練習ができてます。

――前田さんと4時間って、肉体的にも精神的にも鍛えられそうですね。

所　精神修行でもあるって考えてます。

――あんな怖いコーチもいないでしょうからね（笑）。

所　いや、でもホントに僕の身体のこと凄く気遣ってくださるんで、愛情を感じますね。だからサボれないんですよ。適当に教えてくれる人なら、こっちも休んだりサボったりするかもしれないでしょうけど、本気で教えてくださってるんで、僕も本気でついていくっていうか。

所英男

―コーチ陣が本気だからこそ、それに応えなくては失礼だ、と。

所　はい。だから、ようやくプロになってきたなっていうか（笑）。情けない話ですけど。

―去年はようやくプロになれた1年だった。

所　そうですね。

―そうなると、プロとしてはリング上でのしゃべりも、そろそろ覚えないといけないんじゃないですか？（笑）。

所　ああ……。

―昨日も戦慄のマイクパフォーマーぶりを発揮してましたけど（笑）。

所　前はもうちょっとマシだった気がするんですけど、どんどんしゃべれなくなっているっていうか……。昨日はホントに恥ずかしくて、内藤さんに挨拶したあと、走って逃げるように控室に戻ったんですけど。

―内藤さんに何か言われたんですよね？

所　そうなんですよ。リング上で「もう一丁お願いします」って言ったんですけど、内藤さんに「何言ってたの？」って言われて、全然伝わってなくて。

―「引退はしないで、もう一度練習お願いします」って意味で言ったんでしょうけど、はしょりすぎでしたね（笑）。

所　もう焦っちゃって、試合後、友だちからのメールとかも「何言ってるかわからなかった」とか、試合じゃなくてマイクのことが多くて……。だから、今後はそういう面でもプロを目指そうと思います。

―では、今年の目標は？

所　やっぱり一試合一試合勝っていって、フェザー級のチャンピオンになることと、KIDさんに勝つっていうことは変わらない目標です。あとはZSTに仕事を取ってきてもらって、しゃべる仕事も上手になりたいと思います（笑）。

―打倒KIDといえば、ZSTの盟友・金原正徳選手に先を越されたかたちになりましたけど。

所　そうですね。悔しいんですけど、うれしいですね。昨日も（KIDとの）試合が終わったら、真っ先に僕の控室に来て「なんかすいません」みたいなことを言ってくれて。まあ、前から「KIDさんとやりたい」って言っててできてない僕が情けないんですけど。ホント刺激になりましたね。

僕が記者会見で「おい、黙れよ！」とか言われたら、試合できなくなりますね

©FEG Inc

キム・ジョンマンに判定勝ちしたあと、リング上で「内藤さん、もう一丁お願いします」とマイクアピールをした所。しかし、リングサイドの内藤に挨拶にいくと「なんて言ったの？」と返され、まったくメッセージが伝わっていなかったことが判明した。

―今回、DREAM vs SRCの対抗戦というかたちで行なわれましたけど、それこそ戦極フェザー級王者の金原選手と闘いたい気持ちとかはないですか？

所　そうですね……昨日の試合観たら、メチャクチャ強かったですからね（笑）。僕はまだ結果も出せてないんで、それも視野に入れつつ、頑張っていこうと思いますけど。

―所選手は対抗戦を今年も続けたいって気持ちはありますか？

所　それはまったくないです。

―あ、ない（笑）。まあ、所さんに殺伐とした対抗戦は似合わないとも思いますけど。

所　『Dynamite!!』の記者会見でも、青木さんや川尻さんがピリピリしてるの見て、「僕がここにいていいのかな？」って思いましたから。

―所さんが、会見で「おい、黙れよ！」とか言われたら、ホントに黙っちゃいそうですよね（笑）。

所　もう試合できなくなりますね、シュンとしちゃって。ああいうふうに、言われるのダメなんですよ。

―因縁つけられると、もうダメ（笑）。そう考えると、高谷裕之戦とか、よく受けましたよね。

所　あれはまあ、事務所の力が弱いんで。

―ダハハハ！　自分の意思で受けたわけじゃない（笑）。

所　受けざるをえなかった。そう認識してます。

―大きな力が働いた、と（笑）。では、大晦日も当初はマルロン・サンドロっていう強敵が予定されてましたけど、あれも受けざるをえなかったわけですか？

所　いや、マルロン戦は、どうせやるなら強い選手におもいきり挑戦したいって気持ちがあったんで、あれは自分で決断しました。

―いい意味で吹っきれたというか。

所　そうですね。やるしかないって腹を決めたというか。1年前だったら絶対に断ってたと思うんですけど。

―「サンドロだけはやめてくれ」と（笑）。

所　間違いなく、そう言ってましたね。でも、今回はDREAMの代表に選んでいただいたんで。僕より強い人がいくらでもいる中で選ばれたから、とにかくやってやるぞって思いました。

―では、精神的に強くなった所選手に、2010年は「決闘」みたいな闘いも期待してますよ。

所　いや……そういうのは……。これは持って生まれた性格なんで、あきらめてるんですけど。内藤さんもイジメられっ子から世界チャンピオンになってるんで……頑張ります。

―頑張ってください！

【10年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県出身。数々のアマ大会を経てZSTで活躍した後、「HERO'S」で人気爆発。DREAMではフェザー級戦線で打倒KIDと王座奪取を目指す。170センチ、63キロ。

〝月見草〟がジェラシーを原動力(?)に
マッハとの同期対決で劇的勝利！

「つらい時期もあったけど、いまが人生で一番幸せですね」

男の中の男 出てこいや！

――いや～、郷野さん、マッハ戦の大勝利、本当におめでとうございます！

郷野　ん～、なんか素直に信じられない自分もいたんですけどねぇ。

――ククク！　それくらいうまくいったってことですよね。入場から試合ぶりまで、郷野さんのやりたいことが全部出しきれたって感じじゃないですか？

郷野　やっぱり、最高に楽しかったのは入場ですね。ただ、俺は何もやってないんですよ。神輿に乗っけてもらっただけで。

――周りが準備してくれたわけですか。

郷野　氣志團の綾小路（翔）さんから「全部僕らがやるんで、大船に乗ったつもりでいてください。最高の大晦日にしましょう！」って言ってもらえて。試合に集中できるように、気を使ってくれたんですよね。ありがたかったです。衣装さんも含めて、〝チーム氣志團〟の皆さんには感謝の言葉もないですね。

――入場を観てて、氣志團の『One Night Carnival』ってチョイスが凄く〝直球〟だなって思ったんですよ。小細工なしっていうか。まあ郷野さんの場合は入場自体が小細工だったはずなんですけど（笑）、そういう感じがしなかったんですよね。まさに一世一代の晴れ舞台って感じで。

郷野　ああ、確かに直球だったのかなぁ。そのせいか、凄く気持ちよかったですよ。ファンの反応もよくて、みんな楽しそうにしてくれてたし。やってて、あまりに気持ちいいんで、踊ってるうちにオーバーアクションになっていくのが自分でもわかりましたから（笑）。頂点はあそこだったんじゃないかっていう感じすらしましたね（笑）。

――で、試合がまた見事だったじゃないですか。1ラウンド後半にきれいにテイク

Akihiro Gono

ザ・『戦極』・センセーション

郷野聡寛

郷野兄さんがやってくれた！　戦前からマッハに対して「俺は生まれついての脇役だけど、アイツは常に主役だった」と語っていた"月見草"が、大舞台で見事に一本勝ち！
脇役魂を見せつけた郷野が、自分の集大成と位置づけた一戦、さらに格闘技界のあるべき姿について熱く語る！

聞き手／橋本宗洋　構成／鈴木佑　試合写真／乾晋也

すか。1ラウンド後半にきれいにテイクダウンを決めて、2ラウンドは完全に間合いをつかんでましたし。

郷野　1ラウンドは固かったですね。試合の序盤って、身体があったまってないだけじゃなくて目もあったまってないんですよ。

——あぁ、そういうことがあるんですね。

郷野　相手の攻撃に対して、反応が遅れるっていうか。テイクダウンも、流れっていうかパンチをよけた結果として懐に入れたんですよね。それで自然に相手を持ち上げられた感じで。（フィジカルトレーナーの）和田のおっさん（和田良覚氏）が喜んでましたけどね。「それがいいんだよ！自然にいい身体の使い方ができてる」って。

——そこから、2ラウンドに本格的に試合をつかみだした感じですか。

郷野　2ラウンドからいい感じになってきましたね。

——郷野さんの蹴りが全部当たって、マッハさんのパンチは完全に見切って、っていう展開でしたよね。

郷野　楽でしたよね。自分のほうが、わずかでもリーチのアドバンテージがあると「こんなに楽なんだ」っていうのを感じました。

——確かに、これまでは大きい相手とやってましたもんね。

郷野　ビルみたいなヤツとばっかやってましたから（笑）。ウェルターに落としてからの相手の平均身長って、たぶん185センチを超えてると思うんですよね。

——そういう苦しい経験が活きた、と。寝技でも見事にパスガードして、腕十字を極めて。完璧でしたよね。

郷野　「俺の人生、こんなうまくいくはず

ないな」って思いましたけどね（笑）。十字は、マッハが動いてきたときに、重心が十字を仕掛けるのに一番いい状態になったんですよ。それで「あっ、これは十字にいける」と。

――自然の流れに反応できたというか。

郷野　そういうふうにできたのは、欲を出さなかったっていうのが一番大きな要因ですね。試合の前に、ボクシングトレーナーの野木（丈司）さんが言ってくれるアドバイスの中に、毎回俺が長い時間抱えていた問題を解決してくれるものがあるんですよね。

――それが今回は「欲を出さない」ってことだったんですね。

郷野　「欲を出すと、自分の理想の距離よりも少し詰まって懐を広く使えなくなるから」って。確かにそうだったんですよ。強いパンチを打とうとすると、胸から前に出ていく感じになって窮屈になっていたから。あの一言は大きかったですね。

――「欲を出さない」っていうのは、単なる精神論じゃないんですね。

郷野　いや～、だから格闘技って深いですよね。まだまだ知らないことがあるんですからね。たぶん俺、知らないことだらけで引退するんだろうなって思いましたよ。

――試合全体を振り返ると、やってきたことが見事に活きた感じじゃないですか。和田さんとのフィジカルトレーニングしかり、野木さんとのボクシングしかり、それとUFCでデカイ相手とやってきたこととか全部が活きましたよね。

郷野　階級落としてから、俺グラバカでもちっちゃいほうになりましたしね。練習で常に自分より大きい相手とやってるし、そういうことが全部、細胞の一つ一つに染み込んでましたよね。

――だから、マッハ選手という相手も含めて、郷野さんの歴史が凝縮されてたような気がするんですよ。

郷野　公開練習でマッハへのジェラシーを言いましたけど、こういう結果になってみると、昔の自分も肯定できるようになりますね。「あの頃の俺があるから、いまの俺がある」って思えるようになって。多少、自分を嫌いじゃなくなれましたよ。

――ここ数カ月の郷野さんを見てると、凄く変わったなって感じがあるんですよね。9月の『戦極』で挨拶したときも、うまいこと言って笑わせるんじゃなくて「やっぱり俺は脇役の星のもとに生まれた人間で……」って言いだしたり、今回の公開練習でも、先を走ってきたマッハ選手へのジェラシーとかコンプレックスをさらけ出したじゃないですか。ああいうことって、現役の選手がなかなか言えないですよね。普通は認めたくないもんじゃないですか。

郷野　それがモチベーションのすべてではないですけどね（笑）。でも、若くして才能を発揮する人って一握りじゃないですか。そういう人に対してジェラシーとか悔しさを感じる人って多いと思うんですよ。俺もその一人だったから。

――そういうことを認めて、虚勢を張らない郷野さんに、けっこうグッときたんですよね。かなり変化というか、成長してるんだろうなって思いましたし。

郷野　8月にダン・ホーンバックルにKO負けして、その衝撃で頭の回路がちょっと狂ったんだろうね（笑）。あれから、だいぶ欲がなくなってきたから。自分は格闘技が好きだからやってるんだっていう。有名になりたいとかじゃなくてね。テレビとか出なくても、大好きな格闘技だけで食べていけることの幸せを感じるようになったし。今回もね、出られなかったら仕方ないって思ってましたから。試合が決まっても決まらなくても、俺がやることは変わらないっていうか、毎日コツコツやるべきことをやるだけだって。

――そういう心境になったところで大舞台のチャンスが巡ってきて、いい勝ち方もできてっていう。

郷野　不思議なもんですよねぇ。

強くなる近道は弱さを受け入れることだって思えるようになった

――欲を出さないし、へんなあがきをしなくなった感じですよね。

郷野　それで楽になりましたよ。テレビの動きであったりとか、自分への評価って、自分じゃコントロールできないじゃないですか。俺がやれるのは練習を一生懸命やって、試合で結果を出すことだけで、それをどう判断するかは周りの仕事ですから。コントロールできないことに関してストレスを溜めることがなくなりましたよね。

――ある種の達観というか。

郷野　虚勢を張らないっていうのもその一つですよね。ブログにコメントをくれる人とか、ファンの人たちは本気で応援してくれるわけじゃないですか。へんに虚勢を張るのって、その人たちに対しての裏切りじゃないかなって。

――ほぉ～。

郷野　これはファンに対しても女の人に対してもそうなんですけど、俺のカッコ悪い部分、弱い部分も含めて判断してもらいたいし、そして強くなる近道というかコツは、自分の弱さを受け入れることだなっていうね。そういうふうに思えるようになったのも、8月のKO負けがあったからですよね。あそこで負けたのがよかったんだと思いますよ。

――それプラス、僕は今回の試合で郷野さんの歴史をトータルで感じたんですよね。修斗で食えない時代があったりとか、パンクラスでヒールになったりとか、UFCで苦しんだりとか、いろいろあったうえで大

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○郷野聡寛 vs 桜井"マッハ"速人×
(2R 3分56秒 腕ひしぎ十字固め)

郷野は氣志團の生歌とともに学ラン&リーゼント姿で入場！　1R、マッハのフックをダッキングでかわした郷野は胴タックルで豪快にテイクダウン。2R、郷野はサイドポジションからパウンドを落とし、それをマッハが嫌がったところで一気に身体を回転させて腕十字へ！ スター街道を歩いてきた同期から劇的な一本勝ちを収めた。

郷野聡寛

選手は自分の思ったことを言葉にできる能力を身につけたほうがいい

晦日の大舞台で輝いてる郷野さんがいるっていうのが感慨深くて。

郷野　あぁ、橋本さんとは「ファミレス事件」の頃からの付き合いですからね（※かの有名な「ファミレス事件」については各自調査！）。

——あのときはネタにしちゃって申し訳なかったですけど。なんかいろいろ思い出しちゃったんですよね。

郷野　そういうこともあって、いまがあるっていうね。で、結果としていまが一番幸せですよね。俺の人生、いまんとこ悪くないですよ（笑）。

——もう一つ印象的だったのが、試合後に「偉い人」っていう言葉を使って業界へのメッセージを発信してたことなんですよね。「小さい世界で自分の利益を追求したり守ることじゃなく、この世界を大きくしてほしいって言いたかった」と。

郷野　それもやっぱり、8月の負けが大きいですね。その前はケガが長引いたこともあって、格闘技が嫌になりかけた時期もあったから。知り合いのつてを頼って、プロ野球の入団テストを受けてみようかって真剣に考えたこともありましたしね。そういう時期を経て、俺は本当に格闘技が好きなんだって気づけたから、この世界の「偉い人」に対して言いたかったんですよね。

——今回の大晦日も、〝裏事情〟がクローズアップされることが多かったですし。

郷野　俺は「偉い人」がどんな人か知らないんですけど、知らないいまだからこそ言えるなって。人間関係とか個人の感情とかで動いてても、誰も幸せになれないじゃないですか。格闘技って野球にも負けないようなことやってるはずだし、もっと広い視野で、ファンに喜んでもらうことを一番に考えたほうが、この世界が大きくなる可能性があると思うから。今回がそのきっかけになればと思うんですよね。

——そういう郷野さんからすると、今回の青木選手はどう感じました？

郷野　残念でしたよね。格闘技を大きな世界にしていきたいという思いに対して、あの行為はマイナスになっちゃいますよね。青木は世界に通用する選手で、影響力も大きいですから、よけいに。

——腕を折ったことに対してはどうですか？

郷野　俺の意見としては、レフェリーに止めてほしかったですね。折ることも可能な体勢にされた時点で負けだと俺は思うから。そこも残念だし、そのケガで廣田っていう才能のある選手にブランクができてしまうのも残念ですよね。3つの意味で残念でしたよ。

——そういうことをしっかり言えるのも、郷野さんくらいのキャリアがあればこそでしょうしね。それでいて、選手として枯れてないどころか絶頂期なんじゃないかっていうのが凄いですよ。

郷野　まあ、老いてますます盛んというかね（笑）。

——実際、正論というかメッセージを発進するのも、自分の役割だと感じてるわけですよね？

郷野　自分の思ったことを、しっかり言葉にして伝えられる選手っていうのもなかなかいないですからね。そこは悲しいんですけどねぇ。絶対、そういう能力はつけたほうがいいんですよ。本を読んで言葉の数を増やしたり考える方法を身につければ、自分の選手生命も伸びるはずだし。

——ああ、そういう側面もあるんですね。

郷野　考えずに才能だけでやってたら限界がありますからね。そういう選手っていっぱいいると思うんですよ。努力の方向を間違ってる選手とか。間違えないためには、やっぱり考えなきゃいけないんですよ。でも、考え方がわかんないって選手も多いと思うんだけど、考え方がわかんないときは、考え方をわかるようになるために考えなきゃならなくて。そこで何か答えを得れば、そこからまた考えが広がるから。俺も最初は考えてもわからなかったしね。

——そこから、考えることで強くなるっていうこと実践してきたわけですよね。

郷野　考えることで、結果として幸せになれる選手って、きっと多いはずですよ。

——いや～、今日の話はホントに含蓄がありますねぇ。ファンだけじゃなく選手にも関係者にも、もれなく読んでほしいですよ。

郷野　そんなこと言われると、どっかでオチがほしくなるのも俺なんですけどね（笑）。

——あ、そういえば郷野さん、大会翌日の一夜明け会見は欠席でしたけど、何かあったんですか？

郷野　じつは車が故障しちゃったんですよ。試合の帰りの時点でおかしかったんですけど、会見に向かってる最中に完全にまずいことになって。エンジンルームからメチャクチャ焦げ臭い匂いが出てきちゃって。それでひき返したら、もう会見に間に合わない時間になってましたね。

——新年早々、そんなトラブルが。

郷野　まあ、大晦日があまりにうまくいったんで、「俺のこれまでの人生からして、これで終わるはずはない」とは思ってたんですよね（笑）。あと、奥歯のでっかい詰め物も取れちゃったんですけど、三が日なんて歯医者やってなくてしばらくこのままだし。でもおかげで、これでプラマイゼロじゃないかってちょっと安心してますね（笑）。「そうそう、俺ってこうだよね」って。

——自分なりのバランス感覚（笑）。そんな郷野さんに、今年も期待してます！

【10年1月2日／都内・某所にて収録】

ごうの・あきひろ■1974年10月7日、東京都出身。さまざまなアマチュア大会で“天才”の名をほしいままにし、修斗、そしてパンクラスで活躍。PRIDEを経て、その後UFCで世界を相手に奮闘。09年8月からは『戦極』に参戦中。自身の入場に並々ならぬ情熱を注ぐ。GRABAKA所属。176cm、77kg。

『Dynamite!!』のくそったれ!

Michihiro Omigawa

高谷に見事なKO勝ちも、なぜか不機嫌モード!?

小見川道大

『Dynamite!!』での高谷裕之戦で2009年はじつに7試合目となった小見川。当初は『SRC』有明大会で金原正徳の保持する戦極フェザー級王座に挑戦するはずが大会は中止となり、結局は高谷との一戦が決定。この試合を「2009年くそったれ劇場完結編」として臨んだ小見川は見事、高谷をKOで下し、09年を最高のかたちで締めくくったかに見えたが、小見川は年が明けてもくそったれモード継続!?

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

――小見川さん、高谷戦は見事なKO勝ちでしたね!

小見川　ありがとうございます!

――一応、恒例なんで聞いておきますが、今回、ネコちゃんたちからは何か勝利のプレゼントはありました?

小見川　いや、そういえば今回は何もなかったッスね(笑)。

――それは残念です。試合から一日経って2010年になったわけですが、気分はいかがでしょうか?

小見川　なんか、スッキリしましたね。スゲー、スッキリした!

――今回の高谷戦が決まる前の「VIVA JUDO!」では、それこそおなじみの「くそったれ!」発言も飛び出してましたし、いろいろと不満もあったみたいで。

小見川　もうすべてにおいて、くそったれでしたね。

――すべてがくそったれ(笑)。

小見川　『SRC』の大会が中止になったのもそうだし、『Dynamite!!』にって頭を切り替えてからも、なかなかカードも決まらないし、もうくそったれですよ。

――でも、高谷戦が決まってからはくそったれモードも落ちついたようにも見えましたが。

小見川　まあ、相手が決まったら、こっちとしてはもうやるだけなんで。

――小見川vs高谷戦は、ほかの対抗戦とは違って、相思相愛というか、小見川さん自身も「ヨダレが出そうな相手」ということで、かなり試合を楽しみにされていた感じでしたけど。

小見川　そうッスね。正直、対抗戦っていっても、俺はDREAMの1～2番手以外のヤツとはべつにやる気もしなかったし。『戦極』というか、自分が追求してるのは強さなんで。

――団体のカラーというか、『戦極』は旗揚げから"リアル"ということを強調してきましたからね。

小見川　そういうのもあって、自分は『戦極』を選んだつもりなんで。ただ、高谷選手っていう相手が決まって、彼のことは向こうの日本人で1番強い選手だと思ってたし、その選手と闘えることは素直にうれしかったんで。

――二人ともお互いのイベントのフェザー級GP準優勝同士でもありますし、ファイトスタイル的にも噛み合いそうだということで、かなり期待度も高かったカードだと思うんですけど、実際に闘ってみていかがでした?

小見川　まあ、自分の思ったとおりの結果が出たかなって感じでしたね。

――パンチもかなり見えているような感じでしたね。

小見川　そうですね。かなり見えてました(笑)。

――それはよかったです(笑)。

小見川　前回の日沖(発)戦はちょっとケガもあり、自分の持ってるモノを出しきれてないのもあったし、今回は俺のホントの実力っていうのを見せたかったんで。そういう意味ではよかったなって思いますね。

――小見川さんのブログを見て驚いたんですけど、試合当日は73キロまで体重が戻ってたみたいで。

小見川　そうッスね。頑張って9キロ戻しました。

――『戦極』のフェザー級は65キロ以下、DREAMは63キロ以下ということで、今回の試合はあいだをとって64キロ契約ってことでしたが、減量はかなり大変だったんですよね?

小見川　ぶっちゃけ、メチャメチャ大変でしたよ(苦笑)。

――計量前日に行なわれた会見では「64キロ? 聞いてないです」と言ってましたけど、その後に一気に落とした感じですか?

小見川　その後っていうか、計量の当日の朝に決めたんですよ。「じゃあ、落としてやろう」って。いろいろと雑音がうるさかったし、そういうのも全部消したかったんで。

――急なオファーでもありましたし、試合が決まる前は「いきなり落とせって言われても無理」とも言ってましたが、とりあえず苦しみながらも一気に落としたわけですね。

小見川　そうッスね。まあ、体重以外もいろいろあったみたいですけど、言ったら俺と彼(高谷)の試合ですから。やると決めたら何も文句は言われたくないんで。

――コンディション的に急激な減量&戻しっていうのは影響はなかったですか?

小見川　影響はありましたよ。もうハンパじゃなかったですね。なんとか計量はパスできたんですけど、そのあとに点滴を2・5リットル入れましたから。

――2・5リットルも!?

小見川　もう歩くだけで、いろんなとこがつっちゃって。鉛筆持っても書こうとしても指の一本一本がつっちゃって、うまく書けなかったですから。病院の先生も血液検査したら「ヤバかったよ」みたいなこと言ってたんで。かなりヤバかったと思います(苦笑)。

――急激な減量って身体にはよくないらしいですからね。

小見川　そうでしょうね。まあでも、男と男の勝負なんで、試合前は大変でしたけど、結果的に勝てたんで、そこはよかったかな、と。

――『Dynamite!!』では吉田秀彦vs石井慧という小見川さんにとっても非常に気になる試合が行なわれたわけですが、その試合の感想を聞かせてください。

小見川　まあ、ひと言で言うと、ナイスファイトでしたね。

――吉田さんにとっても、今回の石井戦前はいろいろあって小見川さん同様、大会前はくそったれモードでしたけど。

小見川　いろいろと雑音も多かったと思いますし、試合でも途中で肉離れを起こして、足を引きずりながら闘ってましたからね。

――自分でパンチを放ったときに肉離れしてしまったみたいで。

小見川　あんな状態で3Rまで闘って、ホント「凄い」しか言えないですね。さすがウチのボスだなって(笑)。

――ボスの吉田さんは試合後、次の試合で引退というような発言もされていましたが、どう思いました?

小見川　それに関しては、吉田さんの一番納得のいくかたちで終われればいいんじゃないですかね。そこは自分らがとやかく言うところじゃないんで。

――そうですか。対抗戦に関してはどういう感想を持ちました? 結果的に『戦極』側は4勝5敗と負けたかたちになりましたけど。

小見川　とくに感想はないッスね。正直、そんな対抗戦っていう意識もなかったし、あんまり自分はピンとこなかったですね。

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○小見川道大 vs 高谷裕之×
(1R 2分54秒 TKO)

『戦極』、DREAM、両イベントのフェザー級GP準優勝者同士の対決となった小見川vs高谷。大会前から好勝負必至と注目を集めた一戦は小見川が右ストレートからのパウンドでTKO勝利。しかし、進行の都合でマイクアピールはなし。

俺にとってはテレビとか関係ない 今年も目指すのは世界のてっぺん

小見川道大

——大会前の会見でも青木選手が横田選手に「もういいよ。黙れよ!!」と挑発したときも、自分のブログで「とっても楽しかったです」と書いてましたし、小見川さん的には、あまり対抗戦モードではないのかなとは思ってましたけど。

小見川　あれは楽しかったですけど、でも青木選手は昨日のアレはないッスね。

——青木選手が試合後に廣田選手に中指を立てて挑発したことですね。

小見川　アレはないと思います。まあ、対抗戦っていうことで、熱くなるのもべつにいいとは思うんですけど、アレは格闘家としてよくないですね。

——小見川さん自身は対抗戦ということで、特別熱くなった部分はなかったわけですか？

小見川　そうッスね。自分は今回の外側から見てた感じだったんで、会見とかで周りが熱くなってるのを見て、「みんな、ヨロシクやってんな」って感じでしたね。そんなに力んじゃって、みたいな（笑）。

——そうでしたか（笑）。大晦日にタイトルを懸けてやるはずだった金原選手は山本KID選手と対戦して、勝利を収めましたけど、その試合はどう思われました？

小見川　いや、どうってべつに。

——「自分とやるまでは負けるなよ」みたいな感覚とかもとくになく？

小見川　なんとも思ってないです。

——でも、金原選手は試合後、3月に小見川さんとタイトルを懸けてやりたいとアピールしてましたよ。

小見川　あ、そうなんですか。ありがとうございます。

——先のことはまだわからない部分もあるとは思うんですけど、やはり『戦極』のベルトは巻きたいって願望はあるんですよね？

小見川　実際、彼には負けてるわけだし、そう思ってましたけど、ただ、いまはいろいろと状況も状況なんで、どう答えていいかちょっと複雑ですね（苦笑）。

——なんとなく察します（笑）。

小見川　まあでも、次の試合がいつどこでやるかはわかんないですけど、練習は変わらず続けていくだけなんで。

——最近はキックボクシングの菅原道場によく出稽古に行かれてるみたいで。

小見川　そうッスね。高谷戦の前にも菅原（忠幸）会長に気合を入れてもらいましたし。菅原道場の壁には「男の修行」っていう山本五十六さんの言葉が貼られてあるんですけど、それを見ながらこれからも男の修行をしていきますよ。

——その成果を発揮するのがリング上になるわけですよね？

小見川　そうッスね。そういう意味では自分のすべてをリング上で表現しないといけないんですけど。それなのに、昨日は言いたいことも言えずに終わったんで（苦笑）。

——昨日の『Dynamite!!』は全体的に進行が押し気味だったというのもあって、基本的にマイクアピールは禁止だったみたいですね。

小見川　そうッスね。自分らの想いから何から、格闘家にとって吐き出す場所がリングの上だと思ってるんで。それが昨日はできなかったんで、やっぱ、くそったれですよ。

——今回の試合に対する小見川さんの複雑な想いだったりを込めての「くそったれ！」というマイクアピールはやってほしかったですね。まして昨日は「2009年くそったれ劇場完結編」でもあったわけですし、観客も期待していたと思います。

小見川　そうッスよね。そういう意味でも、くそったれなんだよなぁ、あのイベント自体も。

——『Dynamite!!』はくそったれ、ですか？

小見川　クソだ、あのイベント！　時間の都合とか関係ないッスよ、正直。俺らにとってっていうか、少なくとも俺にとってはテレビとか関係ないし、有名になりたいとか思って格闘技やってないから。自分は「誰が一番強いか決めようぜ」ってことで格闘技をやってるんで。

——小見川さんは以前からそう言ってますからね。

小見川　入場とかも長かった人もいたけど、俺のときなんか「時間がないんで、早く入場してください」とか係員に言われちゃって。完全にシカトですけどね、そんなの。

——確かに、一部の選手はたっぷり時間をかけてたりしましたからね。マイクはほとんどの人が持たせてもらえなかったみたいですけど。

小見川　誰がどうとかはないんですけど、ホント、くそったれでしたね。

——2009年は〝くそったれ劇場〟ってことでしたけど、2010年はどんなテーマでやっていこうというのは考えてます？

小見川　いや～、さすがに昨日の今日なんで、まだ考えてないッスね（苦笑）。まあでも、今年にかぎらず格闘家としての俺のテーマは〝世界のてっぺん〟なんで。

——目指すは世界のてっぺん？

小見川　はい。俺の中では強さ重視なんで。

——言葉どおりに受け取ると、再びUFCとか海外も視野に入れるっていうことですか？

小見川　いや、UFCとか団体がどうとかじゃなくて、本物を目指すってことですよ。ニセモノはいらない。とにかく目指すはてっぺん！　で、てっぺんから「いい眺めだなぁ」って景色を見たいですね（笑）。

——とりあえず、舞台はどこになるのかはわかりませんが、今年も引き続き、熱い試合を期待してます！

小見川　期待してくれたら、それを倍にして返すつもりなんで。……まあでも、しばらくは休ませてください。だって、去年7試合ッスよ、自分（苦笑）。

——それはちょっと働きすぎですね（笑）。では最後に、昨日言えなかったキメゼリフを言ってもらって、2009年のくそったれ劇場完結ってことにしましょう！

小見川　えっ、ホントに言うんですか？（笑）。

——ええ。よろしくお願いします！

小見川　くそったれっ！

【10年1月1日／電話取材にて収録】

おみがわ・みちひろ■1975年12月19日、茨城県出身。柔道界で活躍したのち、05年にPRIDE武士道でMMAデビュー。その後はUFCをはじめさまざまな舞台で活躍しながら『戦極』で覚醒。09年のフェザー級GPでは優勝候補を次々と撃破し準優勝。格闘技界きってのネコ好きとしても有名。168cm、65kg。ブログアドレス→ http://ameblo.jp/micci-mou/

燃える対抗戦!

SRCの次はストライクフォース!

DREAMと開戦間近! STRIKEFORCE

2009.12.19サンノゼ大会
独占徹底取材
16ページ大特集

ストライクフォース激動の2009年を最後に燃え上がらせたのは“生き抜き”メレンデス!!

［12.19 STRIKEFORCE evolution］
米国カリフォルニア州サンノゼ·HPパビリオン
ストライクフォース世界ライト級王座統一戦

○ギルバート·メンデス vs ジョシュ·トムソン×
（5R終了 判定 3-0）

王者トムソンvs暫定王者メレンデスのライト級王座統一戦。お互い下がることを知らない大打撃戦はメレンデスが2Rと5Rにダウンを奪い、判定勝ち。あらためて第4代ストライクフォース世界ライト級王者となり、試合後、次期挑戦者として青木真也を指名した。

EFORCE
TION!!

MMAは
さらに進化する！

世界最強ヒョードル、人気ナンバーワンのジーナを獲得。米4大ネットワークCBSの放映もスタートするなど、2009年最も急成長した団体ストライクフォース。その2009年最後のビッグイベントが12月19日、カリフォルニア州サンノゼで開催。トムソンvsメレンデスのライト級王座統一戦、ホナウド・ジャカレイ、キング・モーのデビュー戦と日本のファンも注目の大会となった。

文／堀江ガンツ　試合写真／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

UFCが7・11『UFC100』で、PPV契約件数150万件超を記録するなど、一つの頂点を極めた感のある2009年の米国MMA界。しかし、2009年に最も急成長し、2010年さらなる成長が期待されるのは、なんといってもストライクフォースだ。

とにかく2009年は激動だった。

まず2月、活動停止したエリートXCのオーナー企業であるプロエリート社から、ビデオライブラリーや複数の契約選手保有権を含んだ資産の一部を買収。これによって、エリートXCを放映していた大手ケーブルテレビネットワークSHOWTIMEの放映権も獲得し、さらに絶大な人気を誇る女子ファイター、ジーナ・カラーノも獲得。8月15日にMMAメジャープロモーションとして初めて、女子の試合をメインとしたビッグマッチを開催し、それをSHOWTIMEで放映。興行的にもテレビ視聴率的にも大成功を挙げた。

また8月にはM－1グローバルとの提携＆エメリヤーエンコ・ヒョードルとの契約を発表。これを受けて、米4大ネットワークCBSの地上波放映も決定。11月のヒョードルのストライクフォースデビュー戦は、CBSで全米生中継された。

さらに年末にはリアリティショー『TUF9』のコーチも務めた大物ダン・ヘンダーソン、元WWEスーパースターのボビー・ラシュリーの獲得も発表。ストライクフォースは、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いで成長していったのである。

そんなストライクフォース激動の2009年の最後を飾るビッグマッチが12月19日に開催された。

場所は〝本拠地〟であるカリフォルニ

STRIKE
EVOLU

DECEMBER 19.2009 HP PAVIRION in SAN JOSE,CA

ア州サンノゼの大会場HPパビリオン。メインイベントは、ベトナム系アメリカ人の英雄として、フランク・シャムロックとともにストライクフォース黎明期を支えたカン・リーの1年9カ月ぶりの復帰戦。セミは地元ベイエリアのトップファイター、ジョシュ・トムソンvsギルバート・メレンデスのライト級頂上対決。

ヒョードルやジーナといった、外部から獲得したスーパースターによって急成長したストライクフォースが、地元で開催する2009年最後のビッグマッチを〝生え抜き〟のスター選手に託したかたちだ。

その期待に見事応えたのがトムソンとメレンデス。ライト級王座統一戦であり、ライバル同士のリマッチであるこの試合は、5ラウンドをフルに動き回り、フルスロットルで攻め合う大激闘を展開。

しかも、単なる打ち合いではなく、お互いが技術を駆使しながらハートで勝負するという、格闘技として理想的な展開。ラウンドが終わるたびに、観客のスタンディングオベーションが起こり、スコット・コーカーCEOは「2009年のベストバウト」と断言した。

この試合を観て思い出したのが、2005年に『PRIDE武士道』で行なわれた五味隆典vs川尻達也戦。この試合もライト級のツートップ同士が、技術とハートで闘う名勝負を展開し、ヒョードル、ミルコ、シウバら超大物がひしめく絶頂期のPRIDEで、『PRIDE武士道』というブランドを確立させた。

そしてメレンデスとトムソンも、ヒョードル、ジーナらスーパースターが集まるストライクフォースの中で、試合内容によってその価値をおおいに認めさせたと言えるだろう。

また、この日はキング・モー、ホナウド・ジャカレイという、それぞれ『戦極』、DREAMで人気を博したファイターがストライクフォースデビュー。どちらもキャラ、実力、試合内容を兼ね揃えたファイターであることは、日本のファン

[12.19 STRIKEFORCE evolution]
米国カリフォルニア州サンノゼ・HPパビリオン
○ホナウド・ジャカレイ vs マット・リンドランド×
（1R 4分18秒 肩固め）

ジャカレイが大物リンドランド相手に、序盤、打撃の上達ぶりを見せたあと、グラウンドになると腕十字、オモプラッタ、肩固めを流れるように極めて一本勝ち。パーフェクトなデビューを飾った。

[12.19 STRIKEFORCE evolution]
米国カリフォルニア州サンノゼ・HPパビリオン
○スコット・スミス vs カン・リー×
（3R 3分25秒 KO）

映画撮影でリングを離れていた“ベトナムの英雄”カン・リーが1年9ヶ月ぶりに復活。バックキック、ローリングソバットなどで一方的に攻めるが、最終ラウンドにダウンを奪われ、まさかの逆転KO負けを喫した。

STRIKEFORCE EVOLUTION!!

がよく知るところだが、両者ともにその力を存分に発揮した。

まず、キング・モーは20キロ以上の体重差をものともせず、マイク・ホワイトヘッドを鮮やかなワンツーパンチから、強烈なパウンドで1ラウンドKO。続いてジャカレイは、レスリング五輪銀メダリストでMMAの実績も充分な大物マット・リンドランドを相手に、腕十字、オモプラッタ、そして肩固めと流れるような芸術的サブミッションで一本勝ち。どちらも満点デビューを飾った。

メインのカン・リーは、バックキック、ローリングソバットなどで一方的に攻めながら逆転KO負けを喫したものの、メレンデスvsトムソンの激闘、そしてキング・モー、ジャカレイの鮮烈デビューと、ストライクフォースの勢いを見せつけた上で2010年への期待を抱かせるビッグイベントとなった。

ストライクフォースの快進撃は、まだまだ止まらない。1月30日には早くも2010年最初のビッグマッチがフロリダで行なわれ、4月にはヒョードルのストライクフォース第2戦とダン・ヘンダーソンのデビュー戦をCBSで放映することがすでに内定している。

そして、満を持してDREAMとの対抗戦も開戦必至。ライト級統一王者となったメレンデスは、試合後のプレスカンファレンスで「次の相手はシンヤ・アオキ」と正式に表明している。

はたして2010年のストライクフォースは、日本のDREAMを巻き込んで、どんな闘いを見せてくれるのか。

CBSのテレビ放映も本格化し、MMA界のさらなる進化に期待せずにいられない。

大激闘の末ライト級統一王座奪取！
来年はいよいよDREAM出陣か？

GILBERT MELENDEZ
ギルバート・メレンデス
「次の相手はシンヤ・アオキ！彼しか考えられない」

5ラウンドをフルに動き続ける大激闘となった、ジョシュ・トムソンとのストライクフォース世界ライト級タイトルマッチを制し、晴れて“暫定王者”から“統一王者”となったメレンデス。試合直後に話を聞くと、次の対戦相手としてやはりあの男の名前が出てきた！

聞き手&撮影／堀江ガンツ、Matthew Rock

GILBERT MELENDEZ■1982年4月12日、米国カリフォルニア州出身。02年にWECでMMAデビュー。06年には第2代ストライクフォース世界ライト級王座奪取。PRIDEでも活躍し、当時から青木真也との対戦が期待されていた。175cm、70kg。

——素晴らしい勝利、そしてタイトル獲得おめでとうございます！

メレンデス　サンキュー！　最高の気分だ。

——試合を振り返ってみて、いかがでしたか？

メレンデス　今回はジョシュ・トムソンのタイトルに挑戦するというのではなく、ケージの中へ忘れ物を拾いにきたという感じだったんだ。だから試合前、自分の名前がコールされても凄く落ち着いていられたよ。

——心身ともに最高の状態で挑めましたか？

メレンデス　そうだね！　俺はいつも試合のときは「絶対に勝つ！」っていう自信を持ってケージに入るんだけど、今回は「よし、これから戦争に行くぜ！」って言いながらケージに入っていったんだ。

——まさに命懸けで闘いに挑んだというか。

メレンデス　それだけの緊張感があったから、試合後、ドレッシングルームに戻ったら嘔吐してしまったほどだからね。とにかく、いまは戦争が終わってほっとしているよ。

——試合内容も5ラウンドを通して、緊張感が途切れない凄い試合でした。

メレンデス　今回は自分のスタイルであるグラウンド&パウンド、またテイクダウン（レスリング）もほとんど見せずに、スタンドにこだわったんだ。

——前回、打撃で打ち負けたジョシュ相手にあえてスタンド勝負を挑んだのは、それだけ自信があったんですか？

メレンデス　とにかく試合に負けるということだけは避けたかった。だから、いろんな人からアドバイスをもらってディフェンスの重要さ、またキックを身につけるべきだと指摘されたんだ。で、そのとおりにまじめに取り組んだ結果が今夜の試合さ！

——確かに終始自分の距離で闘い、しかもローキックが有効でしたね。

メレンデス　自分にこの作戦を授けてくれたチームに感謝したいし、それを遂行できて、ハッピーだよ！

——ストライクフォースのライト級統一チャンピオンとなり、次の挑戦者は誰を指名しますか？

メレンデス　シンヤ・アオキ！　彼しか考えられないよ。これは俺の希望であり、ファンにも喜んでもらえる素晴らしいマッチアップになるはずだからね。アメリカでも日本でもどちらでもいい、ぜひ実現させたい。

——闘えば勝つ自信もあるわけですね？

メレンデス　もちろん自信はあるさ！　俺の練習仲間には〝仮想アオキ〟になれる柔術のスペシャリスト、ニック・ディアスがいるし、俺にはスタンドアップという武器があるからね。試合の鍵は、どんな体勢になっても落ち着くこと。いままでの対戦相手を見ると、寝技であせってしまい、アオキのゲームに持ち込まれているから、いつもの試合以上に注意したいと思っているよ。そして、スタンドのパンチ、もしくはグラウンド&パウンドでKOするよ！

——大晦日、青木選手は戦極ライト級王者の廣田瑞人選手と対戦しますが、この対戦はどうなると思いますか？

メレンデス　ヒロタって、修斗でイシダ（石田光洋）をKOしたファイターだろ？　素晴らしいストライカーだけど、青木がサブミッションで勝つだろうね。

——では、2010年の目標を教えてください。

メレンデス　とにかく勝ち続けて、自分が世界でベストのライト級ファイターであることを証明する。そのためにもアオキ、ヨアキム・ハンセン、エディ・アルバレスら、すべてのトップファイターとの対戦を実現させたいね！

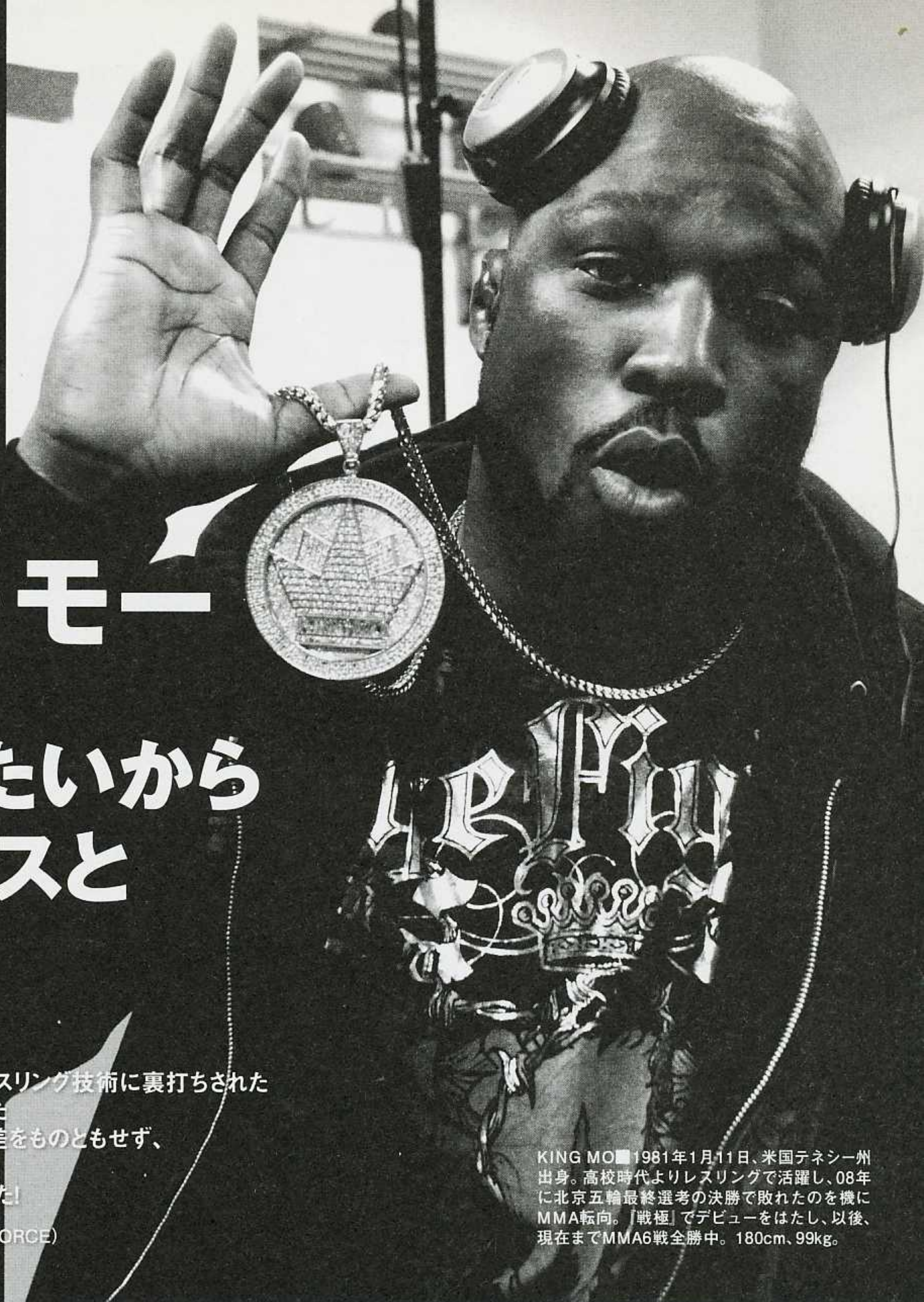
【09年12月19日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

“王様”がストライクフォース
満点デビュー!!
日本マット復帰も宣言

KING MO キング・モー

「日本でまた闘いたいから ストライクフォースと 契約したんだよ」

キング・モーがストライクフォース満点デビュー！
王冠を被り、“モー・ガールズ”を従えたド派手な入場、そしてレスリング技術に裏打ちされた躍動感のある闘いぶりでこの春まで『戦極』のリングを沸かせたキング・モーがストライクフォースデビュー。20キロ以上の体重差をものともせず、ワンツーパンチで見事なKOデビューを飾った。
そんな王様に試合の感想と日本マットへの思いを語ってもらった！

聞き手&撮影／堀江ガンツ、Matthew Rock　試合写真／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

KING MO■1981年1月11日、米国テネシー州出身。高校時代よりレスリングで活躍し、08年に北京五輪最終選考の決勝で敗れたのを機にMMA転向。『戦極』でデビューをはたし、以後、現在までMMA6戦全勝中。180cm、99kg。

——素晴らしいストライクフォースデビュー戦でしたね！

モー　サンクス！　最高に興奮してるよ。でも、同時にいままで日本のファンの前で試合をしていたのに、こうしてアメリカで試合をしているのが不思議な感じもする。ストライクフォースはとてもいいイベントだったし、満喫できたけど、日本のイベントが俺は大好きだから、早く日本でも闘いたいね。

——そんなに日本のイベントが気に入ってましたか。

モー　もちろん！　だから今回も入場から何から、ジャパニーズスタイルの“キング・モー”をアメリカに逆輸入させたんだ。

——日本ではDREAMと『戦極（SRC）』が協力関係になりましたけど、どう思いますか？

モー　とても素晴らしいことだよ！　これからはもっとファンが喜んでくれるマッチアップができるようになるからね。たとえば俺はゴーノ（郷野聡寛）とマッハがお気に入りのファイターなんだけど、その二人の試合が観られるなんて最高さ！　もちろんマサトの引退試合も観たいし、ミノワマンvsソクジュも楽しみ。チャンスがあれば会場で観戦したかったんだけど、次の機会のお楽しみだね。

——来年、日本のリングに上がる予定はありますか？

モー　センゴクとの契約は切れているけど、また日本で試合をしたいので、自分のマネージャーには「DREAMかセンゴクにコンタクトしてくれ」って伝えてある。ストライクフォースとはそういう条件で契約してるから日本での試合もまったく問題ないんだ。

——では、あらためて今夜の試合を振り返ってもらいたいのですが、序盤は慎重でしたね。

モー　俺のスタイルは相手が攻めてくればカウンターで、後退すれば前に出るスタイルなんだ。だから最初は腕を下げたり、半身に構えたりして、（マイク・）ホワイトヘッドの動きを見ていた。相手はテイクダウンを狙ってきたり、ローキックを出してきたけど、パワーを感じなかったよ。そして相手の攻め方やテクニックがわかったところで、レッグキックに合わせて左のフックと右ストレートのコンビネーションでダウンを奪った。そのあと相手の足に気をつけて、少し回り込みながら右のパウンドを落として試合を決めることができたんだ。

——相手の出方をうかがって、短い時間で見切って試合を決めるとは、キャリア1年とは思えない闘いぶりですね。

モー　それが俺のスタイルだからね。最初のタックルで、彼は俺からテイクダウンを奪えないってわかったんだ。

——やはりテイクダウンディフェンスには自信がありますか？

モー　そうだね。なかなか俺からテイクダウンは奪えないだろうな。練習パートナーであるダニエル・コーミエ（フリースタイルレスリングでアテネ五輪、北京五輪連続出場）のテイクダウンは素晴らしいから倒されることもあるけど。MMAファ

日本ではMMAだけじゃなく K―1のリングにも上がりたい

イターの中でベストレスラーは、ダニエル・コーミエ、ジョー・ウォーレン、それに自分だと思うよ。

――今夜はヘビー級で試合をしたわけですけど、これからヘビー級、ライトヘビー級どちらで闘っていくつもりですか？　会見では「マネー・ウェート」と答えて笑いを取ってましたけど（笑）。

モー　マネー次第というのは冗談で、ストライクフォースからのオファー次第だよ。もちろんお金はクールだけど、そんなに重要なことじゃない。おそらく今後はヘビー級になる予定だけど、ストライクフォースの要請によっては、ライトヘビー級と両方もありえるかもしれない。今回も「ヘビー級契約になってしまうけど、相手はマイク・ホワイトヘッドでどうか」というオファーがあったから受けることにしたんだ。マイクは205ポンドまで落とせないからね（笑）。

――将来的にヒョードルと闘いたいという希望を持っているとのことですけど、ヒョードルに勝つチャンスもありますか？

モー　もちろん、どのファイターにだって勝つチャンス自体はあるよ。そしてトップにチャレンジしたいという欲求もね。俺はアスリートとしてチャレンジするのが好きなんだよ、だからMMAファイターになったんだ。　誰にだって試合をやれば、勝つことも負けることもある。だからスポーツはおもしろいのさ。

――来年の目標はなんですか？

モー　ハードな練習を積んで、ストライクフォースでいい試合を見せたい。そのためにもアメリカ国内だけじゃなく、日本に行ってGRABAKAや、ミサキがトレーニングしているジム（パワー・オブ・ドリーム）でも練習したいと思ってるから、そのときはよろしく！

――あとK―1の試合にも出てみたいというのは、本当ですか？

モー　マジ（日本語で）。本当のことだよ！　だからこそ、K―1のトップファイターたちと練習して、K―1のテクニックを身につけたいんだ。自分としてはK―1はベストなショーの一つだと思っているし、昔から憧れもあるんだよ。

――K―1で対戦してみたい選手とかもいますか？

モー　いまだったら、もちろん一番弱いヤツだね（笑）。とにかく、ストライキングの練習をもっともっと積んで、コーチたちからOKが出たら挑戦したいんだ。ミサキのいるパワー・オブ・ドリームにジャディブ（シング・心・ジャディブ）っていう若いK―1ファイターがいるだろ？　日本に行ったらミサキとMMAの練習をすると同時に、ジャディブとK―1の練習がしたいね。

[12.19 STRIKEFORCE evolution]
米国カリフォルニア州サンノゼ・HPパビリオン
○キング・モー vs マイク・ホワイトヘッド×
（1R 3分08秒 KO）

序盤、対格差を利して圧力をかけるホワイトヘッドに対し、距離を取るモー。そしてホワイトヘッドのローキックに合わせて、モーが見事なワンツーでダウンを奪い。そのままパウンドでKO！ 満点デビューを飾った。

――将来的にUFCで闘いたい気持ちはありませんか？

モー　UFCは素晴らしい団体だからね、いつかは挑戦したい気持ちになるかもしれない。ただ、いまはストライクフォースで試合をしながら、日本でも試合をしたいので、UFCという選択肢はないんだよ。「日本でも闘いたい」、それがストライクフォースと契約した一番の理由でもあるからね。そうすれば、アメリカと日本でMMAの試合をするだけじゃなく、昔からの夢であったボクシングやK―1に参戦することだって可能だからね。もしUFCが完全独占でほかでの試合ができないのであれば、将来的にもUFCを選択肢としては考えられないよ。

――さまざまな競技にチャレンジしていきたい、と。

モー　そう、自分のいろんな可能性にチャレンジしていきたいんだ。

――UFCライトヘビー級のリョート・マチダやマウリシオ・ショーグンをどう評価していますか？

モー　「偉大なるファイター」という呼び方が二人とも似合うね。彼らにかぎらず、素晴らしいファイターの試合を観ることは大好きなんだ。マチダは素晴らしい攻撃力を持っている。彼をディフェンシブって勘違いしている人もいるようだけど、相手のカウンターを狙い一気に攻めるオフェンスのスタイルは非常に高度だ。ショーグンはとてもアグレッシブでスマートなファイター。常に相手にプレッシャーを与え試合をコントロールしていくタイプだね。

――キング・モー選手は、二人と比べるとどんなタイプなんでしょうか？

モー　俺はマチダとショーグンの中間的なタイプ。両方の面を持っていると思う。もう少し経験を積んだら、ぜひマチダやショーグンとも対戦したいね。それがストライクフォースになるか日本になるかわからないけど、実現できたらうれしいよ。

――では、日本のファンへメッセージをお願いします。

モー　2010年はまた日本のファンの前で試合ができるように祈ってるよ！　MMAだけじゃなくて、K―1でもいいぜ。あと俺の大好きなレゲエダンサー、【KUMICO a.k.aくんくん】にもヨロシク伝えてくれ（笑）。

【09年12月19日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

盟友のメイヘム・ミラーとは、同じくストライクフォースに上がりながら、日本マットに登場する者同士。日本でこの二人の揃い踏みを見ることができるか？ ぜひとも期待したい！

DAN HENDERSON■1970年8月24日、米国カリフォルニア州出身。グレコローマンレスリングでバルセロナ、アトランタと二度のオリンピックに出場。97年にMMAデビュー。2000年にリングスKOKで優勝。PRIDEではミドル、ウェルターの二階級を制す。07年よりUFCに参戦。リアリティショー『TUF9』のコーチも務めた。180cm、84kg。

ストライクフォースとついに正式契約！
2010年4月のCBSテレビマッチデビューを前にその経緯を語る

DAN HENDERSON ダン・ヘンダーソン

「UFC、PRIDEを含めて過去最高の契約額だった」

ダン・ヘンダーソンがUFCを離脱し、ついにストライクフォースと正式契約を締結！
4月に予定されている米4大ネットワークCBSで放映されるビッグマッチで、"全米デビュー"することが決定した。
ダンヘンはなぜ世界最高峰のUFCを離れストライクフォースと契約したのか？
今後の目標や日本マット復帰の可能性も含めて聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ、Matthew Rock　撮影／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

――ついにストライクフォースと正式契約を結びましたが、UFCからの移籍を決意した理由はなんですか？

ダン　自分の立場を考えて、ストライクフォースからのオファーの条件が、ファイナルシャルを含め、すべての面で満足できるものだったからだよ。

――逆にUFCのご自分に対する評価には納得いかなかった？

ダン　いや、UFCの評価も悪いものではないと思う。ただ、俺自身が満足する条件とは、ちょっと隔たりがあったってことなんだ。これは〝ビジネス〟でのことであり、べつにダナ（・ホワイト）との〝個人的〟な事情があったわけじゃない。ダナとは最近も電話で話したけど、ダナ自身は個人的な問題として、ちょっと根に持ってるようだったけどね（笑）。

――今回のUFCとの交渉が難航している際、ダナ・ホワイトはあなたのアパレルブランド「クリンチギア」をUFCから閉め出しました。こういったやり方をどう思いますか？

ダン　契約をするように圧力をかけるための手段として行なったんだろうけど、こういうやり方はフェアじゃないし、おかしいとしか言いようがないよ。

――そのうえでダナ・ホワイトは「ダン・ヘンダーソンは彼の要求額ほどの選手じゃない」と言っていますが、そういった発言についてどう思いますか？

ダン　彼の立場だとそう言うしかないんだろう。それにもうファンはダナのキャラクターを知っているから、驚くことでもないんじゃないか？

――いつものことだ、と（笑）。

ダン　いまの俺の課題は、いかに試合で価値を証明し、ストライクフォースの成長に貢献できるか、だね。

――今回のストライクフォースの契約金額は、PRIDE時代も含めて過去最高ですか？

ダン　ああ、過去最高額での契約となった。その金額に見合うパフォーマンスを約束するよ（笑）。

――スコット・コーカーCEOは、あなたにどんなことを期待していると言っていましたか？

ダン　過去に俺自身がやってきたようなエキサイティングなファイト、またノックアウトで決着をつけることだよ。これは俺自身がファンのためにも常に心がけていることだけどね。

――PRIDEでのヴァンダレイ・シウバ戦や、『UFC100』でのマイケル・ビスピンとの試合のような、見事なKOシーンですね。

ダン　ストライクフォースでも、毎試合そういう試合ができるように祈っているよ。

――UFCからストライクフォースに移籍することは、ご家族はどう思っていますか？

ダン　もちろん、みんな喜んでくれたよ。事実、妻はUFCの対応に関して満足していない面もあったようなんだ。交渉中も契約のことに関して、詳しいことを話すことはなかったんだけど、まあ、自分が幸せで

ストライクフォースミドル級の選手層はUFCを上回っている

あれば家族も一緒だからね。

―将来、UFCに復帰することはありえませんか? ダナは「ダン・ヘンダーソンは向こうで引退を考えている」と言っていましたが。

ダン 将来のことはまったくわからないよ。MMAをスタートした頃は、こんなに長く現役が続くとも思っていなかったしね(笑)。いまがキャリアの中で一番充実しているし、当面はストライクフォースの試合に全力をつくすだけだね。

―あなたのストライクフォースデビュー戦は4月のCBSテレビマッチになりそうですか?

ダン そのとおり。4月のCBS大会でデビューする予定だよ。

―自分の試合がCBSで全米放映されることについてどう思いますか?

ダン エキサイティングだね。現在、CBSは全米第1位のネットワークを持っているんだ。そのCBSで自分の試合が全米に放映されるんだから、とても光栄なことだよ。

―対戦相手はジェイク・シールズの名前が挙がっていますが?

ダン 対戦相手は現在調整中で、クリスマス休暇が終わってからじゃないと決まらないだろうけど、ジェイク・シールズは自分の階級(ミドル級)でチャンピオンだからね。俺自身闘いたい相手だし、そうなる可能性は高いと思う。

―ジェイクをどう評価していますか?

ダン 非常にタフで危険なファイターだ。素晴らしいグラップラーでグッドレスラーでもある。俺との試合はグッドマッチアップになると思うよ。

―"危険"というのは、具体的にはどんな部分ですか?

ダン グラウンド・コントロールが素晴らしく、チョークや極めの強さを持っていることだね。

―ジェイクと闘うなら、どういった闘い方をしますか?

ダン みんなわかっているとおり、スタンドでパンチを主体とした自分のスタイルで闘うつもりだよ。ただ、レスリングとパンチはジェイクが嫌がるくらい、いつもより多くなるかもしれない。できるだけジェイクの得意なグラウンドに持ち込まれないように、テイクダウンディフェンスをしっかり行なわないといけない。とにかく危険なファイターなので充分に注意を払わないとね。

SHOWTIMEのインタビューを受けるダンヘンと、元WWEスーパースターであるボビー・ラシュリー。この二人のストライクフォース参戦は、米国MMA界でもビッグニュースなのだ。

―あなたがストライクフォースに対して、ジェイク・シールズ、ゲガール・ムサシ、エメリヤーエンコ・ヒョードルとの3連戦を希望しているというのは本当ですか?

ダン いや、そんなこと話したこともないよ(苦笑)。ファンやプロモーターからしたら実現したいカードかもしれないけど、とても実現するとは思えないね。とにかく、どの階級でもタイトルを獲ったら少なくとも一度は防衛したいので、いまはそこまで考えていない。将来的にはヘビー級最強の男であるヒョードルとも対戦してみたいけど、それまでにやらなくてはいけないことが山ほどあるからね。

―ライトヘビー級王者ゲガール・ムサシの実力については、どう思いますか?

ダン 彼はレナート・ババルやソクジュといったトップファイターをKOしている。とくにソクジュは自分のトレーニングパートナーでもあるからね、そのソクジュを倒しているんだから、実力は証明済みじゃないか?

―ジェイク・シールズやムサシは、UFCのミドル級、ライトヘビー級のトップファイターたちと遜色ない実力を持っていると思いますか?

ダン それは間違いない事実だね。とくにストライクフォースの185ポンド(ミドル級)は選手層が厚く、UFCを上回っていると思う。

―確かに、ジェーク・シールズ、ホナウド・ジャカレイ、メイヘム・ミラー、ロビー・ローラー、メルヴィン・マヌーフ、そしてあなたがいるわけですからね。

ダン 素晴らしいマッチアップがファンに提供できるし、ここでチャンピオンになれば、あらためて自分の力を証明できるだろう。

―ストライクフォースでのあなたの目標は?

ダン 試合に負けない。エキサイティングな試合をすること。ファンを魅了すること。これはプロのファイターとして、自分に課している使命でもある。

―ストライクフォースと契約したことで、日本のリング復帰の可能性は?

ダン もちろんその可能性はあるし、俺自身、日本のファンの前で試合がしたいけど、4月のストライクフォースデビュー以降、スケジュールが許せばぜひ実現させたいと思っている。もしかしたら、タイミング的には2010年の年末とかになるかもしれないね。まあ、1年後のことを話してもしょうがないかもしれないけど(笑)。

―日本を主戦場としている選手で闘いたい相手はいますか?

ダン いま日本のミドル級で誰がトップなのかちょっとわからないんだ。

―まあ、ほとんどのトップ選手がストライクフォースと契約してしまったという事実もあるんですが(笑)。DREAMと『戦極』が協力体制となったことで、三崎和雄選手がいます。三崎選手はストライクフォースとも契約を残しているので、あなたと対戦する可能性もあるんじゃないですか?

ダン ミサキがストライクフォースと契約しているとは知らなかったよ。彼との二度目の試合は、自分のキャリアの中で最低のパフォーマンスで、ファイトできなかった。ファンとプロモーターが望むなら、ミサキとの決着戦もあるかもしれないね。

―では、それらも含めて期待しております。

ダン ありがとう。とにかく、いまの自分のパッションは、MMAがスポーツとして確立した地位を築くために成長させることなんだ。そのためにもストライクフォースでベストをつくすよ!

【09年12月18日/米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

元WWEスーパースターがストライクフォースと契約!!
“第2のブロック・レスナー”現わる！

BOBBY LASHLEY

ボビー・ラシュリー

「ヒョードルを倒して世界最強になるために ストライクフォースを選んだ」

いまやMMA界最大の大物となったブロック・レスナーに続き、元WWEスーパースターがMMA転向!
かつてWWE US王座、ECW世界王座も奪取し、『レッスルマニア23』ではビンスと大富豪ドナルド・トランプの代理戦争にも出場した大物ボビー・ラシュリーがストライクフォースと正式契約!
2010年1月30日にデビューすることが決定した。
WWE入りする前はレスナー同様、レスリングで輝かしい成績を残しているラシュリー。
はたしてレスナーばりの活躍を見せることはできるか？

聞き手／堀江ガンツ、Matthew Rock　撮影／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

――ストライクフォースと正式契約を結んだいまの気持ちは？

ラシュリー　とてもうれしいね。今年の6月にMMAの試合をしてから（ボブ・サップにTKO勝ち）、チャンスをうかがっていたところだったんだ。その間、ストライクフォースが目覚ましい成長を遂げ、その団体からオファーが来たから契約に至ったんだよ。

――ストライクフォースと契約しようと思った一番の理由は？

ラシュリー　“世界最強のファイター”はストライクフォースと契約しているだろう？　俺は自分がMMAでもベストであることを証明したいんだよ。そのためにも、ベストであるヒョードルと対戦する機会がほしかったんだ。

――ヒョードルと闘うためにストライクフォースと契約したわけですか。

ラシュリー　いますぐとは言わないけど、近い将来、ぜひ闘いたいね。

――契約を結ぶまでの経緯を教えてください。

ラシュリー　まずはMMAに本格参戦するための準備として、約2カ月前、地元デンバーにジムを作ることから始めたんだ。その頃、スコット・コーカーと出会ったんだよ。

――ほかの団体とはコンタクトしてないんですか？

ラシュリー　ああ。話したのはミスター・コーカーだけさ。そして、さっきも言ったように、ヒョードルへの興味から、話はトントン拍子で進んだんだよ。

――これからはプロレス活動をやめて、MMAに専念していく予定ですか？

ラシュリー　いや、今後ともプロレスリングは続けていくつもりさ。TNA（米国第2のプロレス団体）ともそういう話をしているしね。ただ、いまはストライクフォースのデビュー戦が1月30日のフロリダ大会に決まったので、そこにしかフォーカスしていないんだ。

――レスラー仲間は、あなたの今回の契約についてなんと言っていますか？

ラシュリー　プロレスラーはみんなMMAの大ファンなんだよ。最初は「我々はボビーを失なってしまうのか？」って言ってたけど、チャンスがあればプロレスも両立できることになって、ストライクフォースとの契約が発表されたあとは、仲間たちから「グッドラック！　成功を祈ってるぜ。何かサポートできることがあったら言ってくれ」って電話をもらったんだ。うれしかったね。みんな俺のMMAを楽しみにしてくれてるんだ。

――そもそもMMAを始めようと思ったのはなぜですか？

ラシュリー　俺はもともと大学まで18年間レスリングをやってきた。そしてナショナルチャンピオンを3回獲り、世界選手権でシルバーメダルも獲得して、その後はWWEに参戦してたんだけど、常にMMAは興味を持って観ていたし、チャンスがあれば自分でもやりたいと思ってたんだ。実際、大学でレスリングを終えたあと、一時期AKAでトレーニングしていたこともあるしね。

BOBBY LASHLEY■1976年7月16日、米国カンザス州出身。ミズーリ・ヴァレー大学でレスリング選手として活躍し、アメリカ陸軍を経て05年にWWEでデビュー。ECW世界王座を奪うなどトップレスラーとなる。WWE離脱後、08年12月にMMAデビュー。現在まで4戦全勝の戦績を挙げている。191cm、120kg。

――では、ＭＭＡファイターとしても成功する自信はありますか？

ラシュリー　もちろんさ！　偉大なファイターになれると信じているよ。

――ブロック・レスナーのことは意識しますか？

ラシュリー　彼は同じバックグラウンドを持つファイターだからね、もちろん意識するよ。彼はタフなファイターで、ＭＭＡでも世界チャンピオンになった。その言動が影響してか、いろいろと言われることが多いけど、みんなファイターとして尊敬すべきだと思う。彼が他団体で最強を証明したように、自分もストライクフォースのヘビー級チャンピオンとなり、それを証明したいのさ。

――将来的にレスナーと対戦したいですか？

ラシュリー　ブロックにかぎらず、最強を証明するためには誰にでもチャレンジするよ。

――あなたやレスナー以外にも、ＭＭＡで通用するプロレスラーはいますか？

ラシュリー　カート・アングルがもう少し若かったら、ＭＭＡでも大成功していただろうね。彼はいまだに会うと「ＭＭＡに参戦したい」とか言ってるけど、映画にも出たり自分のビジネスに忙しくてその時間がないんだろうな。あとはシェルトン・ベンジャミン（ＷＷＥ／ＥＣＷで活躍中）。彼は間違いなくＭＭＡとプロレスリングをクロスオーバーできるスーパーアスリートだよ。

――あなた自身は、将来的にＷＷＥに戻りたい気持ちはありませんか？

ラシュリー　いま現在はとくに考えてないよ。とにかくストライクフォースで成功し、ＴＮＴでプロレスリングも並行できたら、と考えているんだ。

――いまＭＭＡのトレーニングは誰とやっていますか？

ラシュリー　アメリカン・トップチームのチームメイトだね。とくにビッグフット（アントニオ・シウバ）はスタンドアップに優れてるんで、よく練習しているよ。あと、日本人のイシイ（石井慧）がＡＴＴに来たとき、彼とも一緒に練習したよ。

――ああ、そうだったんですか。ＡＴＴに入ることになったきっかけは？

ラシュリー　ＡＴＴのオーナーであるダン・ランバーとは、もともと知り合いだったんだ。それで実際にジムの練習を見せてもらって気に入ったんだよ。地元デンバーではいい練習パートナーがいないから、まずＡＴＴに入り、そのあとデンバーにジムを開いて、フロリダとデンバーを行き来しながら練習するようになったんだ。

――ではＭＭＡでの目標を教えてください。

ラシュリー　まずは1月30日のストライクフォースデビュー戦を勝利で飾り、最終的にはエメリヤーエンコ・ヒョードルを破って自分が最強であることを証明したいね。

――では、1月30日のデビュー戦に期待してます！

【09年12月19日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

ラシュリーがストライクフォースと契約したことは、すでにプレスリリースで知らされていたが、スコット・コーカーCEOは12月19日のビッグマッチ会場であらためて発表。期待の高さがうかがえる。

ブロック・レスナーのことはもちろん意識する

ストライクフォースの“レジェンド”が
桜庭戦実現の可能性と
米国MMA界の今後を語る

FRANK SHAMROCK

フランク・シャムロック

「PPVは古いビジネスモデル。UFCは3年後にストライクフォースに抜かれるよ」

2006年に行なわれたストライクフォースの旗揚げ戦でメインイベントを務めるなど、同団体の黎明期を支えてきたフランク・シャムロック。
2009年に急激にブレイクしたストライクフォース、そして今後のMMA界はどうなっていくのか、“レジェンド”の言葉に耳を傾けてみたい。

聞き手&撮影／堀江ガンツ、Matthew Rock　試合写真／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

FRANK SHAMROCK■1972年12月8日、米国カリフォルニア州出身。94年パンクラスでデビュー。97年にUFCミドル級王座を奪取。99年にティト・オーティズを破ったのを最後にUFCを離脱。近年はストライクフォースを中心に活躍し、07年にはミドル級王座も奪取している。178cm、84cm。

——今日はストライクフォースの〝レジェンド〟であるあなたに、この団体とあなた自身の今後について聞かせてください。

フランク　OK！　いまボクは、ファイターよりコメンテーターの仕事のほうが多いくらいだからね（笑）。

——この団体の顔であり、スポークスマンですか。

フランク　やっぱりこのスポーツを長くやってきてるし、ストライクフォースのMMA興行にも立ち上げから関わっているからね。

——そのストライクフォースがCBSで放映され始めたことについてどう思いますか？

フランク　ファンタスティックなことだよ！　CBSというブランドでMMAを一つのスポーツとして全米に放映していくんだからね。

——CBS放映がスタートしたおかげで、またあなたの引退も遠くなりましたか？（笑）。

フランク　ハハハハハ！　確かにこれで引退ができなくなってしまったよ。ビッグマネーのチャンスが生まれたわけだからね（笑）。でも、もともとボクは45歳まで続けるつもりだったんだ。いま37歳だから、あと7～8年は現役でいる予定だよ。そのためにも欠かさず練習はしてるし、食べるものにも気をつけてるんだ。

——今回のCBS放映スタートによって、ストライクフォースがUFCを超える可能性は大きくなってきたと思いますか？

フランク　時間がかかるだろうけどその可能性はあるだろうね。UFCはいまのズッファから数えても10年も前にスタートしていて、グローバルなブランディングができてるけど、ストライクフォースは今年になってやっとローカルブランドからSHOWTIMEとCBSとの提携でナショナルブランドに成長してきたばかりだ。ただ、UFCはPPVがベースになってる古いスタイルだけど、ストライクフォースはフリーのテレビ放映ということが一番の違いだよ。

——PPVはもはや古いスタイルですか？

フランク　ああ。今後、MMAというスポーツをさらに成長させていくには、もっと一般層を取り込む必要があるし、そう考えるとPPVというビジネス構造は限界にくると思うね。

——では、どのくらいの期間でUFCを超えていくと思いますか？

フランク　やっぱり2～3年はかかるんじゃないかな。SHOWTIMEとCBSとの提携で本格的に動き始めたのは今年からだから、あと2年ぐらいで浸透してUFCを凌駕していくんじゃないかと思うよ。

——一方、ストライクフォースと日本のイベントであるDREAMの提携についてどう思いますか？

フランク　とてもいいことだし重要なことだよね。とくにいまの日本は格闘技の市場が低迷気味だから、今度はアメリカが助けてあげる番なんだ。以前アメリカ市場が低迷していたとき、日本のMMA界は凄い勢いで成長しただろ？　ファンのため、またファイターたちをサポートしてあげるためにも協力し合い、格闘技界全体を成長させることは重要なことだからね。

UFCはファイターを金を稼ぎだす"マシーン"としか思ってないんだ

——そのDREAMに闘いたいファイターはいますか?

フランク そうだな~。まだ生まれていないんじゃないかな?(笑)。

——"偉大なる"フランク・シャムロックに見合う相手はまだいませんか?(笑)。

フランク いやいや、ここ5年間でもたくさん素晴らしいファイターが育ってきただろ? だから、これからももっと素晴らしい選手が生まれてくるんじゃないかと思うんだ。それにボクは歳を取ってきたことを自覚しなくちゃいけないから、いままでみたいに「俺が一番強いファイターだ」って言えなくなってきてるからね。だからこそ、これからは自分にとって意味のある対戦相手との試合をしたいと思ってるんだ。

——意味がある対戦相手というと、桜庭和志選手との"待たせすぎた"対戦も来年こそは実現しそうですか?(笑)。

フランク もちろんサクラバ戦はぜひ実現させたいね。これはファンにとってだけでなく、自分の中でもドリームマッチなんだよ。いままでも言い続けてきたけど、過去の対戦相手はすべてボクと違うスタイルのファイターばかりなんだ。でも、サクラバとボクは同じ"UWFスタイル"だし、先生も同じルーツだからね。ボクの先生であるケン・シャムロック、フナキはUWFのマスターだし、サクラバもUWFのマスターたちから技術を学んだMMAファイターだからね。

——同じスタイルでいうと、田村潔司選手との決着戦についてはどう考えていますか?

フランク タムラもまったく同じ流派を源流に持つ者同士だよね。彼とは過去に対戦してドローだったたから、チャンスがあればぜひ決着戦を闘いたいよ。今回、彼の弟子(中村大介)がストライクフォースに来てるんだから、タムラとボクがここで闘う可能性だってあるはずさ。

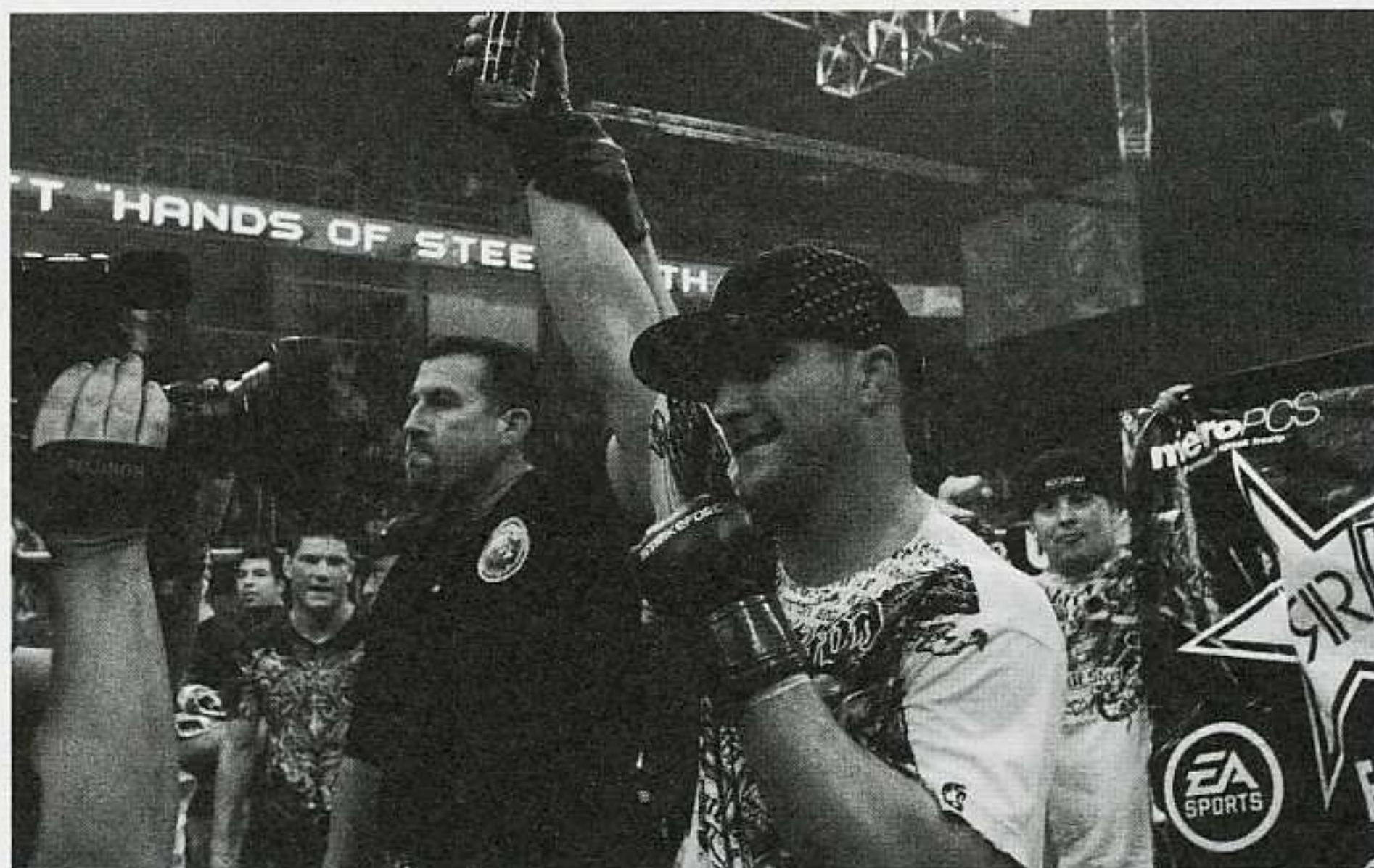
——あと、菊田早苗選手も以前からあなたとの対戦を希望しています。

フランク キクタ……? 誰だい、それは?

——あ、ご存知ないですか(笑)。2001年のADCC王者で、元パンクラス王者なんですけど……。

フランク ボクがパンクラスにいたのは、もう10年以上前だからね。ちょっと、なんとも言えないな(苦笑)。

——失礼しました(笑)。では、あなたと兄ケン・シャムロックとのスーパーファイトは消滅したんでしょうか?

フランク 消滅なんてとんでもないよ! 実現するようにフィンガークロスして祈ってるところさ。過去2~3年間、実現させるために動いていたんだけど、ケンのほうのタイミングが合わなくて流れてしまっていたんだ。まだ興味を持ってくれてる人たちがいるので、ぜひ実現できればと思ってるよ。

"映画スター"カン・リーとの再戦を望んでいたフランクだが、カン・リーが敗れたため、次戦は勝ったスコット・スミスになる可能性が大。今後はタイトル戦線には絡まなくとも、ライト層の興味も引けるビッグファイトを続けていく予定だ。

——あなたのかつてのライバル、ティト・オーティズのUFC復帰についてはどう思いますか?

フランク ティトはダナと口論を繰り広げていたけど、最初からUFCを離れることはないと思っていたよ。あれはティトが自分の価値を認めさせるためと、ファンを楽しませるための演技だったんだ。ティトにとってUFCは成功を収めた唯一の場所だし、絶対に居心地がいいはずだからね。本当にUFCが嫌いなヤツはボクみたいに復帰しないもんだよ(笑)。

——では、あなたがUFCに復帰しない最大の理由はなんなんでしょう?

フランク UFCのビジネスモデルは"コーポレート"的でなもので、あの企業の連中の利益を主体としている、その体質がボクには合わないんだ。MMAビジネスはエンターテインメントでありアートであるべきだろう? アートである以上、"企業"が求めてる完璧なものは実現できないんだよ。UFCはファイターをお金を稼ぎだす"マシーン"だと思っているから、なんでも「これをしろ!」って要求するけど、ストライクフォースはファイターも同じ"カンパニー"の一員として「こうしたい」ということを話し合う場を持てるんだ。もちろん最終的にはどちらも利益をあげなくてはいけないんだけど、一番重要なのはファイターに活躍の場を充分に与えることじゃないかい?

——UFCはファイターを"マシーン"としか見ていない、と。

フランク そのとおり。たとえばUFCはトップレベルの"マシーン"と契約することに必死になっているけど、2連敗したらポイ捨てさ。でも、ストライクフォースは将来可能性のあるファイターにはトレーニング環境を与えてチャンスを作ってあげてるんだよ。そういう団体だからこそ、ボクも力になろうと思うんだ。

——では今後、まだストライクフォースのミドル級王座を狙い続けますか? それともスーパーファイトが中心になりますか?

フランク 正直、自分がトップレベルで通用するのか疑問があるんだ。あのマット・リンドランドがホナウド・ジャカレイに完敗を喫する姿を観ただろう? すでにレベルは上がっているんだよ。一時、ボクもMMAのトップに君臨したことがあるけど、もう歳を取ってしまったしね(笑)。いまでも限界までトレーニングは続けてるけど、残念ながらもう25歳の身体ではないんだよ。そういう意味でも、自分自身にも意味のあるスーパーファイトをできるだけ長く闘いたいと思っている。

——なるほど。では、次の試合はいつ頃でしょう?

フランク 来年の3月の第1週末、もちろんストライクフォースでね。相手は今夜の勝者(カン・リーに勝利したスコット・スミス)ということも含め話をしているところなんだ。

——あなたが残りの現役生活で、ぜひ闘いたいと思ってる選手を3人挙げるとしたら誰ですか?

フランク サクラバ、カン・リー、あとはケン・シャムロックだね。

——では、最後に日本のファンへメッセージをお願いします!

フランク 自分のキャリアは日本で築かれたものだからね、日本は第二の故郷として非常に感慨深いんだ。格闘技という技術も、考え方もすべて教わったところだからね。夢の一つは、その日本に戻りまたみんなの前で昔のようなエキサイティングな試合をすることなんだ。ぜひ、実現するように応援してくれ!

【09年12月19日/米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

2009年最も急激に成長したMMA団体
その激動の1年を振り返る

SCOTT COKER

スコット・コーカー

ストライクフォースCEO

「ヒョードル、ジーナ、CBS、EAスポーツ 8ヵ月間ですべてが手に入ったんだ」

エリートXCの一部買収に始まり、エメリヤーエンコ・ヒョードルの獲得、米4大ネットワークCBSでの放映スタートなど、急激な成長を遂げた2009年のストライクフォース。そんな激動の1年をスコット・コーカーCEOに振り返ってもらいつつ、2010年のさらなる展望をうかがってみた。今後もストライクフォースがMMA界の台風の目となるのは間違いない!

聞き手&撮影／堀江ガンツ、Matthew Rock　試合写真／Esthe Lin（STRIKEFORCE）

——まず、飛躍の年となった2009年のストライクフォースを振り返っていかがですか?

コーカー　ホントに2009年は飛躍の年だったね。大きなターニングポイントになったのは、やっぱり2月にエリートXCの資産の一部を買い取ったことで、トップファイターと契約ができたことだよ。それと同時にSHOWTIMEで放映されるようになり、さらにそれがCBSとの契約にまで至ったんだからね。

——全米でストライクフォースの試合が放送されるというのは、アメリカMMA界にとっても大きな意味がありますよね。

コーカー　もちろん。4月からSHOWTIMEで放映されるようになって、8月にはジーナ・カラーノvsクリス・サイボーグという女子ファイターのタイトルマッチがメインのビッグイベントが行なわれた。その後、世界最強のヒョードルと契約して、さらにゲームメーカーのEAスポーツとも契約ができてコンテンツ部門の強化も進んでいったからね。これらは本当に大きな出来事だったよ。とにかくこの1年間、というより8ヵ月間は目覚ましい勢いでストライクフォースが成長したし、本当に楽しい時間だったね。

——ヒョードルに続いて、大物ダン・ヘンダーソンを獲得できたことも大きいですね。

コーカー　もちろん。ダンはMMA界のジョン・ウェインだからね。レスリングがバックグランドなのに、あれだけなんでもできてエキサイティングな試合をするファイターなんてほかにいないよ。だから、ヒョードルがフリーエージェントだってわかったときと同じように、MMA界のスーパースターであるダンと契約できる可能性があるってわかったとき、「これはチャンスだ!」と思ったんだ。とにかくストライクフォースを信じてくれてるパートナーのシリコンバレー・スポーツ・エンターテインメントのサポートには非常に感謝してるんだ。

——ということは、ダンにはやはりUFC以上の条件を提示したわけですか?

コーカー　UFCがどんな契約を提示したのかわからないからなんとも言えないな。ただし、ダン自身の肖像権の使用やスポンサーシップなどに関して、我々は自由に活動できるようにしたことが大きかったのかもしれないね。たとえばダン自身が自分の肖像権によりEAスポーツとの契約やそのほかのビジネスに参入することが可能なんだよ。

——UFCのようにすべて独占というわけではない、と。

コーカー　もちろんUFCのモデルが悪いと言ってるんじゃないよ。ストライクフォースとビジネスモデルが違うということで、それを判断するのはファイターたちだからね。ただダンの場合、私は最初UFCとの交渉を有利に進めるために使われているんじゃないかと思っていたけど、それが契約する1週間前にダンは「ストライクフォースで試合をすることにしたからよろしく」って言ってきたんだ。書面になった契

みんなCBSのネットワークで放映されることを夢見てるんだ

約内容を確認せずにだよ！

──さすがダンですねえ。

コーカー　ダンにかぎらずファイターがストライクフォースで試合をしたいってコミットしてくれたのであれば、契約が締結できるようにプロモーターとしてできるかぎりのことはしてあげているんだ。

──では、ダンにはどんなことを期待したいですか？

コーカー　ビッグファイト！『UFC100』でのマイケル・ビスピン戦のKOシーンも覚えているかい？　日本のファンだと『PRIDE・33』でのヴァンダレイ・シウバ戦のKOシーンを思い出すだろうね。だから、とにかくヴァンダレイ戦やビスピン戦で見せてくれたエキサイティングな試合を期待してるよ。もちろんCBSで放映されるので高視聴率になることもね。

──そこも重要なわけですね。

コーカー　ダンとクイントン・“ランペイジ”・ジャクソンとの試合がスパイクTVで放映されたとき、当時のスパイクTV歴代1位の視聴率を記録したらしいんだよ。だから、ぜひ新しいファン層を獲得してCBSでも記録を作ってほしいね。

──そのダンやメルヴィン・マヌーフ、ロビー・ローラー、KJヌーンらが次々と契約したのは、やはりCBSとの契約が効いていたと思いますか？

コーカー　ストライクフォースはどんな団体かって説明するのに「CBSと提携している」というのは最初にマネージャーやエージェントにコンタクトするときに“ドア・オープナー”として非常に大きな武器になったのは事実だね。ついでに言うとボビー・ラシュリー、ハーシェル・ウォーカーといったWWEやNFLのスーパースターとも契約できているんだ。

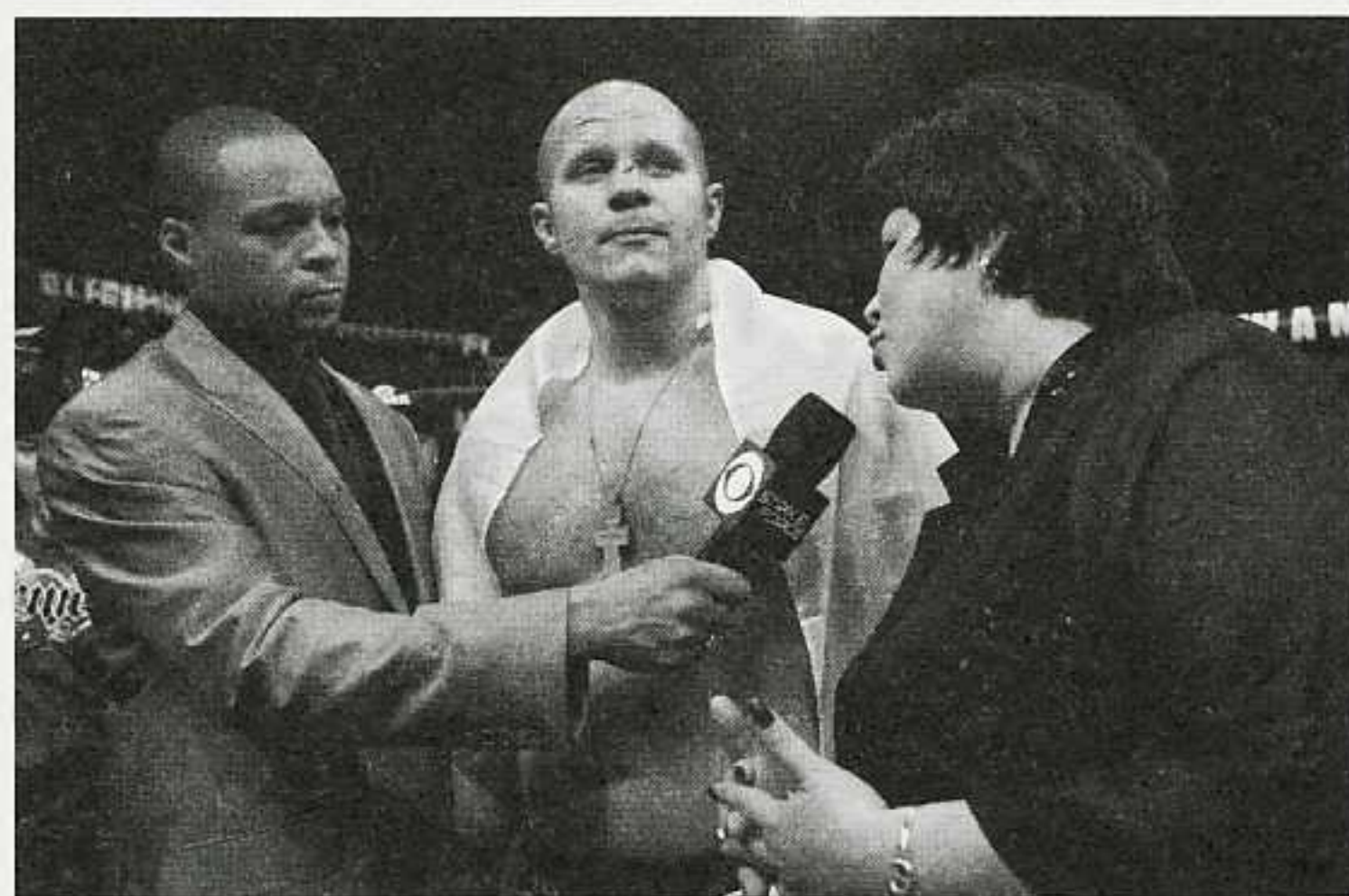
──ボビー・ラシュリーと契約を結んだのは、どういった理由からですか？

コーカー　それはラシュリーがスーパースターだからだよ。それに、ラシュリーはWWEと契約する前にAKAでMMAの練習をしていたんだ。当時彼が練習してるのを見に行ったんだけど、その頃からファイターとしての素質は凄かったし、スターに要求される会話のうまさも抜群だからね。その後、WWEから離れてMMAを始めたときから、いつかは契約したいと思って目をつけていたんだ。

──“第二のブロック・レスナー”というわけですね？

コーカー　第二のレスナーというより、間違いなくストライクフォースのスーパースターになってくれるよ。もしレスナーの契約が問題なければボビー・ラシュリーvsブロック・レスナーを実現させたいしね。

──それはまた凄いプランですねえ。

コーカー　だろ？　だから実際にCBSの看板は凄く重要だよ。ファイターたちはCBSのネットワークで放映されることを夢見ているから。ただ、2010年にCBSで放映されるのは現在のところ3大会だから、先日のヒョードル戦や4月に予定されているダンのデビュー戦のようなビッグファイトに限られてしまうんだ。それでもSHOWTIMEでの放映があるからみんな理解してくれてるんだよ。

“世界最強”ヒョードルに続き、ダンヘン、KJヌーン(写真左)ら大物を次々と獲得していった09年のストライクフォース。マリウス・ザロムスキー、メルヴィン・マヌーフとも契約しており、この流れは2010年も止まりそうにない。

──ちなみに、ヒョードルvsロジャースが行なわれた11月9日の視聴率はCBSからどんな評価をもらいましたか？

コーカー　凄くいい評価だったね。CBSのエグゼクティブ・バイスプレジデントのケリーにも大満足してもらえたんだ。だって、先日のシカゴ大会は550万人のファンがヒョードルのKOシーンを観たんだからね。以前ヒョードルが参戦したアフリクションの大会で放映されたPPVの契約数は12万5000人だから、すべての家庭が観たとしても40倍もの違いがあるんだよ。

──40倍ですか。

コーカー　CBSがストライクフォースを信じてくれて全米規模でMMAを一つのスポーツとしてマーケティングキャンペーンを行なってくれたのも影響してると思うし、それによって広告のスポットもすべて売り切れてたんだよね。

──しかし、ストライクフォースがこんなに急激に成長しすぎて、逆に不安になりませんか？

コーカー　非常にいい質問だね。でも、ヒョードルやダンというスーパースターも含めて選手が充実してきたから、いい大会にするという面ではまったく心配はしてないよ。

──では、ストライクフォースがさらに成長をとげるための来年の課題はなんでしょう？

コーカー　いままでどおりレベルの高いショーを管理して運営していくことだろうね。今年は年間12試合、来年は20～25試合程度全米規模で行なわれるから、会場、航空券、宿泊先の手配はもちろん、各州のアスレチック・コミッショナーとの打ち合わせやドラッグテストなど、早急に現場のスタッフを揃えることが一番の課題だね。それによって2010年はファンが喜んでくれるレベルの高い試合を常に見せて、MMAファンをどんどん増やしたいと思ってるよ。

──そういう意味でも気になるのがヒョードルの次戦ですが、いつ誰と闘うことになりそうですか？

コーカー　おそらく4月の大会。相手はCBSシカゴ大会でアントニオ・シウバから勝利を収めたファブリシオ・ヴェウドゥムになると思う。ヒョードルと対戦したブレットはシウバと対戦するというのはどうかと思ってるよ。

──たとえば、そのあとヒョードルvsアリスターが実現したら、それはストライクフォース世界ヘビー級タイトルマッチとなりますか？

コーカー　アリスターはストライクフォース世界ヘビー級のタイトルホルダーなので間違いなくタイトルマッチとなるだろうね。時期的には来年中盤から後半にかけて、どんなに遅くとも2010年中には実現させる予定だよ。

──ただ、気になるのはヒョードル

五味とはマネージャーも交えて すでに契約の話はしているんだ

の拳のケガなんですが、ホントに4月は間に合いそうですか？

コーカー ああ。そろそろ手術した拳のピンを抜くんで、4月の大会には充分に間に合うって確認できているよ。

——それは安心しました。ところで、ストライクフォースとDREAMの対抗戦がウワサされていますが、日本とアメリカのどちらで開催したいと思ってますか？

コーカー 場所にはこだわらないけど、大事なのは実現させることだよ。いちファンとして絶対に観たい対抗戦だからね！

——そのDREAMですが青木真也のストライクフォース参戦が期待されてますよね。

コーカー ああ。その件は『Dynamite!!』以後じゃないと具体的な話はできないんだけど、ぜひともストライクフォースのライト級王者ギルバート・メレンデスと対戦させたいんだ。

——ということは、いきなり青木vsメレンデスが実現する可能性もある、と？

コーカー もちろんそういう提案をしているよ。ギルバート本人もアオキとの対戦を望んでるからね。

——ライト級日本人ファイターとしては、もう一人の大物、五味隆典選手と契約する可能性は？

コーカー 興味のあるファイターだし、先月ゴミがAKAに練習に来た際に彼のマネージャーを含めその話はしているんだ。

——すでに契約の話をスタートしていますか！ 契約締結は障害なく進みそうですか？

コーカー 障害とは言えないけど、彼はすでに修斗やPRIDEを含めて40戦近く試合をこなしているベテランだから、あと何試合エキサイティングでハードな試合にチャレンジできるハートが残っているかが重要だよね。たとえばダンはゴミより年上だけど、MMAの戦歴は30戦で、ちょっとゴミよりも少ないという事実もあるんだよ。フランク・シャムロックも、ダンより若いのにより多くの試合をこなしてきてるからね。

——要するに、経験豊富であるがゆえの悩みというか。

コーカー でも、ゴミおよびマネージャーが思っている価値とストライクフォース側でのそれが一致すればぜひとも契約したいと思ってるよ。それに「障害は？」と聞かれたら複数の団体からもオファーが来てるようだから、その交渉次第ということになるだろうね。ゴミがPRIDEでファンを魅了したときの気持ちを取り戻してストライクフォースに参戦してくれたら万々歳だよ。また、彼の試合がCBSの電波に乗れば、一夜にして全米のスーパースターになることも不可能じゃないからね。

——それは大きなポイントになりそうですね。ちなみにDREAMと『戦極』が協力体制となったことについてはどう思いますか？

コーカー 非常に興味深いことだよね。これまで競合していた団体がどう協力していくのか見守りたいと思ってるんだ。ファン目線でいうと、『Dynamite!!』のDREAM vs戦極というマッチアップは最高のものになるのは間違いないだろうしね。

——このDREAMと『戦極』の合体で、ストライクフォースと日本MMA界の関係は変わってきますか？

コーカー K-1との付き合いが長いから、DREAMの母体となっているFEGも含めてストライクフォースは非常にタイトな協力関係にあると思ってるよ。だからその関係はそう簡単に崩れることはないし、『戦極』との合体がどんなふうに行なわれるのかによるだろうね。

SCOTT COKER

——わかりました。では最後に、コーカーさんが考える09年のMVPを教えていただけますか？

コーカー OK！ 私の2009年ルーキー・オブ・ザ・イヤー＆MVPは、文句ナシにゲガール・ムサシだね。

——ほう、ヒョードルではなくムサシですか。

コーカー ヒョードルがロジャースに勝つというのはみんなが予想できたことだけど、アメリカで無名のムサシがババルを秒殺KOしたのは衝撃的なデビューだったよ。それから、女子の2009ベストマッチを挙げるとするなら、これも文句ナシにジーナ・カラーノvsサイボーグだ。サイボーグは女子ファイターの中ではMVP級の活躍だったしね。

——男子のベストバウトはどうですか？

コーカー それは間違いなくギルバート・メレンデスvsジョシュ・トムソンだよ。凄まじい試合で、いまも興奮が冷めないくらいだ。あと、ベストノックアウト賞は、ヒョードルがロジャースをKOしたのも素晴らしかったけど、ブレット・ロジャースだね。アンドレイ・アルロフスキーをKOするなんて誰も予想できなかっただろ？

——たくさんいい試合がありましたね（笑）。

コーカー それからベストサブミッション賞はジェイク・シールズだろうしね。階級をウェルター級に上げて闘ったロビー・ローラー戦でのサブミッションは素晴らしかったよ。ついでに言うと、キング・モーにはファースト・ラウンド・ドラフト・ピック賞（野球やフットボールのドラフトで一巡目に指名されること）をあげたいよね。もう09年のストライクフォースは、表彰したいファイターたちばかりだよ（笑）。

——では、2010年もいい試合がたくさん生まれるように期待しています！

【09年12月9日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

2009 STRIKEFORCE AWARD

MVP

GEGARD MOUSASI

ベストバウト（男子）

12.19 HP PAVILION

MELENDEZ vs THOMSON

ベストバウト（女子）

8.15 HP PAVILION

GINA vs CYBORG

ブチ抜き
16ページ
総力特集!

エッチな目で見てるだけじゃない!?
闘う乙女をマジメに熱血応援宣言!

女子格大好き超愛してる!!

ヴァルキリープロデューサーに密着!
茂木康子

おっとり姫のお悩み相談室
杉山しずか

あの手ブラの撮影秘話を直撃!
長野美香

「女子格はエッチな目で見てもいいのか?」
こんな不毛このうえないテーマでお届けしている本誌の女子格企画。
いえいえ、われわれはそんなスケベ心だけじゃなく、本気でリングに恋する乙女を応援してるんです!
それでは女子格特集、よっしゃいくぞ〜!!(豊田真奈美調)。

長野美香

ジュエルス
「ROUGH STONE GP 2009」
54kg級優勝

"美人すぎる格闘家"に
クマクマンボが
必要以上に急接近!?

熊久保　いやぁ、長野さん！　その節はお世話になりまして（※クマクマンボが編集長を務める格闘技ウェブサイト「GBR」で「長野美香セクシーショットデジタル写真集」を公開）。
長野　ウフフ。いえいえ、こちらこそありがとうございました！
熊久保　また、あの手ブラが素晴らしいアクセス数を記録したんですよ（笑）。
長野　あ、そうなんですか？　それはうれしいです（ニッコリ）。でも、そもそもあの企画ってなんで私だったんですか？
熊久保　あれはですねぇ、まず時期的に夏だったんで、女子格ファイターの水着企画をやろうというのがスタートだったんですよ。で、佐伯（繁ジュエルススーパーバイザー）さんに相談したところ、「それなら長野しかいない！」ってことになりまして。
長野　あぁ、確かに選手の中には水着とか嫌がる人もいるかもしれないですね。
熊久保　で、もともと佐伯さんはカメラマンだったから、佐伯さんに撮ってもらったらおもしろいんじゃないか、と。要は佐伯さんならギリギリまでいけそうだってことなんですけど（笑）。
長野　ウフフフ。
熊久保　でも、あのときはこっちも水着撮影だけで終わりかなって思ってたんですよ。そしたら佐伯さんが「よし、みんなスタジオから出てってくれ！」って言い出したから、「これから何が起きるんだ？」ってビックリしたんですけど、本人的にはどうでした？
長野　いや、私も何が始まるんだろうって（笑）。全然何も聞いてなかったですし。でも、ふつうの撮影なら出ていく必要な

プロとして写真集もCDデビューもなんでもチャレンジしたいです！

ここ最近の本誌の女子格企画で、たびたびそのセクシーショットがアイコン的に誌面を飾ってきた長野美香。そしてついに今回は待望のご本人さん登場！もちろんインタビューするのは長野の手ブラ写真の仕掛人、「GBR」編集長のクマクマンボ！"美しすぎる格闘家"の魅力を三度の飯よりアイドル好きなクマクマンボはどう引き出すか？

聞き手／熊久保英幸（GBR）　構成／鈴木佑　撮影／金山フヒト　写真協力／ジュエルス

いじゃないですか？　だから「あ、きわどいのを撮るのかな？」とは一瞬思いましたね。
熊久保　そこから先は密室の出来事だったわけですけど、いったいあの中ではどんな交渉が!?（身を乗り出して）。
長野　アハハハ！　えっと、最初は上の水着を脱いで、胸元にタオルを巻いた姿で撮ってもらったんですね。で、最後に佐伯さんが「じゃあ、手ブラいってみようか！」みたいな感じになって。
熊久保　ホッホ～！　それを言われたときに抵抗感はなかった？
長野　まぁ、佐伯さんは格闘技イベントの代表ですし、そういう意味ではちょっと安心感はありましたけど。
熊久保　じゃあ、すんなりOKと？
長野　というか、OKせざるをえないっていうか（笑）。
熊久保　ち、ちなみに、あの手ブラの下はどうなってたんですか!?（鼻息荒く）
長野　あ～、あの下は絆創膏を貼ってました（笑）。
熊久保　ハッハ～、絆創膏！　いや、もうあのときは撮影後に写真をチェックしたら、完全にこっちの期待を上回っていたんで「お～、スゲぇ！」って思いましたよ（笑）。
長野　ウフフフ！
熊久保　もう、あれをサイトに公開してからは大変な反響で、取材に行く先々で「手ブラ見たよ！」って言われましたからね。『フライデー』さんにも写真を見せたら「ぜひ掲載したい」ということになって。
長野　そんなに反響があったなら、こっちも脱いだ甲斐がありましたね（笑）。
熊久保　あのときの撮影ではメイド姿のコスプレにも挑戦してもらったんですが、もともと長野さんはコスプレ好きだったとか？
長野　そうですね、いろんな衣装を着るのが大好きで。
熊久保　ほ～、どんなコスプレが好きなんですか？
長野　アニメやゲームのキャラだったり、あとは婦人警官とかちょっとエロいOLの格好とか（笑）。
熊久保　エ、エロいOL！（大声で）。それは見たい、じゃなかった、そもそもコスプレにハマったきっかけというと？
長野　う～ん、なんなんでしょうね？　たぶん20歳すぎてからだと思うんですけど、気づいたら好きになってて。
熊久保　ちょっと小耳に挟んだんですけど、なんでも前にメイドカフェで働いてたこともあったとか？
長野　はい、秋葉原で働いてました。
熊久保　じゃあ、「お帰りなさい、ご主人様」とか言って？
長野　そうですね（笑）。
熊久保　ちなみにメイドカフェってどんなことをするんですか？
長野　私がバイトしてたところは「お客さんと対決」とかありましたね。
熊久保　お客さんと対決？
長野　はい。ミックスジュースを作るゲームがあって、その中身が天国メニューと地獄メニューに分かれてるんですね。で、お客さんとジャンケンして買ったほうが中身を選べて、最後にそのミックスジュースをお客さんに飲んでもらうんですけど、飲みきれなかったらこっちがビンタするっていう（笑）。
熊久保　それ、M男にはたまらないです

ね～（うれしそうに）。しかもそのアルバイトをしてた時期に、いまをときめくAKB48からスカウトされたって聞いたんですが？

長野　そうなんですよ。たまたまAKBのスタッフの人に声をかけられて。でも、そのときは「もう22歳だし遅いかな」って思って断っちゃったんですけど。

熊久保　うわ～、もったいない！

長野　当時は上京して間もなかったので、東京に行ったらだまされるっていうか、いい話には全部裏があるんじゃないかっていうのがちょっとあって（苦笑）。

熊久保　でも、そこで加入してたらまた違った人生を歩んでたかもしれないですよね。どうですか、いまのAKBの人気を見て？

長野　いやぁ、もう「入ればよかった～！」って（笑）。

熊久保　ハッハッハ！　そもそも長野さんは芸能的な仕事をしたくて東京に出てきたんですよね？

長野　そうですね。AKBの話があった頃はモデル事務所に所属してたんですけど。

熊久保　ということは、自分の容姿に相当自信があるってことですよねぇ？（イラらしく）。

長野　いえいえ、そういうわけじゃないんですけど（苦笑）。一度そういう世界も経験したいなって。あの、もともと松嶋菜々子さんみたいな女優になりたかったんですよね。

熊久保　でも、上京する前は名門・中京女子大学でレスリングをやってたわけじゃないですか？　アマレスから女優ってのもまた凄い振り幅ですけど（笑）。

長野　確かに（笑）。

熊久保　そもそもなんでレスリングは辞めたんですか？

長野　う～ん、目標がなくなったっていうのが大きいですね。レスリングは小学4年生から始めて、高校くらいまではオリンピックに憧れたりもしたんですよ。でも、日本は一回級に一人しか出場できないし、同じ階級の1年先輩に吉田（沙保里）先輩がいたこともありましたし。まぁ、自分の中でやれるだけのことはやったかなって。

熊久保　で、そこからから思い立って芸能人を目指した、と？

長野　そうですね。大学を3年で中退して東京に出てきて。それからは生活が一気に変わりましたね。

熊久保　ちなみに芸能関係ではどんな仕事を？

前にAKB48にスカウトされたことがあったんですけど、断っちゃって……

長野　東北地方限定のCMに出たり、雑誌やフリーペーパーのモデルをやったりですね。あとはイベントコンパニオンとか。

熊久保　長野さんは歌手には興味はなかったの？

長野　あ～、歌はあまり上手なほうじゃないので（苦笑）。

熊久保　かわいらしい声してますけどね～。あ、たしか浜崎あゆみが大好きなんですよね？

長野　はい！　自分の入場曲（「BLUE BIRD」）も浜崎あゆみなんで、よくカラオケで歌ったりするんですけど……。

熊久保　あ～おいそ～らを～♪（いきなりスケベボイスで口ずさむ）。

長野　あ、よくご存知ですね！（笑）。

熊久保　ていうか、あの曲自体を長野さんの入場で覚えました（笑）。ちなみに浜崎あゆみのどんなところに惹かれるんですか？

長野　やっぱりまずかわいいのと、曲もノリがいいところが好きですね。

熊久保　あのね、浜崎あゆみも最初はアイドルとして水着になったりドラマにちょい役で出たり、なんだかんだと下積みがあって、そのあとに一念発起してアメリカへ渡ったんですよね。で、ボイストレーニングを積んで本格的な歌手に転向して成功を収めた、と。ズバリ長野さん、その浜崎あゆみの姿に自分を重ね合わせたんじゃないですか⁉

長野　え？　い、いや、あの……。

熊久保　（無視して）一度はレスリングをあきらめて芸能方面に行ったけど、「やっぱり私は強くなるんだ！」という想いを胸に総合の世界に入った、そうでしょう⁉

長野　アハハハ！　いえ、そんなことはないです（笑）。

熊久保　あれ？　僕の妄想でしたか（笑）。

長野　総合はモデルの仕事をしてたときに、たまたま情報誌のレポーター役で体験して、そこから虜になった感じですね。でも、確かに浜崎あゆみに当てはまる部分はあるかも（笑）。

長野はジュエルス旗揚げ戦（08年11月16日）であの藤井恵を差し置いてメインに抜擢。石岡沙織と次期エース候補対決に臨んだ（石岡の判定勝ち）。ちなみに長野の総合デビュー戦の相手はフジメグが務めており、周囲の長野に対する期待の高さを伺わせる

長野は09年8月23日にアイスリボン後楽園ホール大会で、風香&志田光とタッグを結成してプロレスデビュー。10月には風香とシングルマッチで対戦（結果はドロー）。「私、風香さんが大好きなんですよ。年下なのに凄いしっかりしているので尊敬してます」（長野）。

長野美香

熊久保　ほら！（笑）。なんでも、長野さんは総合と芸能活動は並行して続けていきたいということですが、佐伯さんいわく、けっこういい話が来てるみたいじゃないですか？

長野　うれしいですね！　写真集やCDもできれば出したいですし、取材とかメディアにもどんどん取り上げてほしいですね。

熊久保　手ブラもそうですけど、長野さんってチャレンジ精神が旺盛ですよね。

長野　はい、なんでもチャレンジしたいですね。まぁ、手ブラは卒業でいいですけど（笑）。

何かが覚醒したかのように、ちょっと引き気味の長野にお構いなしで延々とアイドル論をまくし立てるクマクマンボ。どうしても「（アイドル時代の暴露話をする）浅香唯には裏切られたが、南野陽子に救われた」という想いを誰かに届けたかったようだ。

熊久保　チャレンジ精神はいいです！　尾崎豊も「トライ！　トライ！」と言っていました。僕はね、前からジュエルスはCDを出すべきだと思ってるんですよ。4人ぐらいでユニットを組んで。それで毎回リングで歌って踊って、帰りにファンにCDを買ってもらう、と。どうですか？

長野　あ、いいと思います。私、歌は自信ないですけど、4人で歌えばごまかせますよね（苦笑）。

熊久保　そうそう、SMAPとかみんなごまかしてますから。あ、SMAPで思い出した！　長野さんは木村拓哉が好きだっていう、聞き捨てならないことを耳にしたんですが⁉

長野　あ、はい、大好きです（照）。

熊久保　あぁ～（落胆）。ひょっとしてイケメン好き？

長野　ウフフ。キムタクはドラマの『あすなろ白書』のポスターを見てから大好きなんですよ。たしか小学3年生くらいのときで。

熊久保　小学3年⁉　そりゃ、俺も年を取るわけだな～（シミジミと）。あ、長野さん。あのね、じつは僕もアイドルが大好きなんですよ（ニヤリ）。

長野　あ、そうなんですか？　え、誰が好きなんですか？

熊久保　それ、聞いちゃいます？　長いですよ、話し始めると！　まず、そもそもの入り口は河合奈保子なんですけどね。

長野　カ、カワイナオコ？

熊久保　僕が中一のときに松田聖子、河合奈保子、三原じゅん子の三羽ガラスがデビューしたんですよ。そして80年代のアイドルブームに一気に火をつけて……（以下、アイドルについて延々と語るが大幅に省略）。

長野　は、はぁ（汗）。

熊久保　だから、長野さんもこれからアイドル的人気を目指すんだったら、まずアイドルとしての心掛けを身につけることが重要なんです！

長野　心掛け、ですか？

熊久保　そう。あのね、僕は南野陽子が大好きだったんですよ。あ、ちなみに南野陽子と生年月日と血液型が一緒なんですけどね。

長野　それは運命的ですね（苦笑）。

熊久保　そう、運命なんです！（キッパリ）。で、南野陽子がテレビで島田紳助に「アイドル時代に『キスもしたことない』とか言ってたけど、ほんとは彼氏とバンバンやってたんだろ？」みたいなことを聞かれたわけですよ。そうしたら南野陽子は「いえ、絶対してません」って幻想を守ったんです！　さらに凄いのが「いまもしてません」って言ったんですよぉ！（声を裏返らせながら）。

長野　いまも（笑）。

熊久保　凄いでしょ？　そのときに僕は「この人はアイドルのプロだ！」って感動したわけですよ～（シミジミと）。

長野　そ、そうですか……。

熊久保　だから、これからは長野さんも「初キスはいつなの？」って聞かれたら「いえ、したことありません」と。それでいきましょう！

長野　ハ、ハハハ……（ただただ苦笑）。

熊久保　でね、水着の撮影とかをお願いされても、「恥ずかしい」って。

長野　あの、私、手ブラとかしちゃってるんですけどね（苦笑）。

熊久保　（無視して）とにかく清純派で売り出したほうがいいです、絶対に！　ファンとイベントなんかで交流するときがあるでしょ？　アイドルにはファン心理として清純でいてほしいもんなんですよ。

長野　うーん……はい、わかりました（笑）。

熊久保　というかですね、長野さんはそろそろファンクラブを作ったほうがいい。

長野　ファンクラブ、ですか？

熊久保　僕は前から言ってるんだけど、女子格の選手は一人いちファンクラブを持つべきなんです。そういうファンを対象に交流会みたいなイベントをやって、チケットを買ってもらう、と。女子格をいま以上に盛り上げるためには、そういう地道な活動をしないといけないんです！

長野　あ～、確かにそうですね。頑張ります！

熊久保　せっかく熱心なファンがいるんだから。あのね、普段の長野さんはこんな華奢に見えるのに、リングに上がったら強いわけですよ。そのギャップがファンにしてみると魅力なんだと思うな。

長野　ウフフ。じゃあ、これからはギャップ狙いでいきます（笑）。

熊久保　しかし、今年はホントに活躍しましたね～。4試合連続で腕ひしぎ十字固めで一本勝ちを収めて。いったいどうしちゃったんですか？

長野　う～ん、ちょっと大人になったんですかね（笑）。

熊久保　またそういう意味深なことを言って（笑）。でも長野さんのブログを見ると、けっこう気持ちのアップダウンがあるみたいですけど？

長野　あ～、私、けっこうガラスのハート

なんですよ（苦笑）。感情の起伏に波があって、メンタル面が弱いっていうか。たとえば試合で勝てなかったり、練習がうまくいかないときは気分が落ちたりして。

熊久保　そういうときはどうするんですか？

長野　もう誰とも連絡取りたくないから携帯をどこかに「ポイ！」って（苦笑）。

熊久保　人に相談しないんですか？　内に抱え込むタイプ？

長野　あぁ、あんまり相談はしないかもしれないですね。

熊久保　そういうときはどうやってストレス解消するんですか？

長野　……お酒飲んで寝ます（笑）。

熊久保　あ、なんかけっこう酒飲みって噂も聞いてますよ！

長野　まぁ、人には迷惑はかけない程度に（笑）。

熊久保　一人でオシャレなバーとかで？

長野　いやいや、もう家とかで日本酒片手に（笑）。

熊久保　日本酒ですか！　女の子らしい甘いカクテルとかよりは、そういうほうが好き？

長野　そうですね、クッと空ける感じで（笑）。あとは焼酎とか。

熊久保　でも、酒飲みなのに大の甘党らしいじゃないですか？

長野　そうなんです、甘いものに目がないんですよね～。

熊久保　いまお気に入りのスイーツは？

長野　なんでも食べるんですけど、最近は和菓子よりケーキとか洋菓子が好きですね。

熊久保　あのね、僕もマドレーヌには目がないんですよ（ニヤリ）。

長野　へ～、女の子みたいですね（笑）。

熊久保　小学生で初めてマドレーヌを食べたときに、「もう俺は一生マドレーヌを食って生きていくんだ！」って思ったくらいでね。あと、最近はタイ焼きが大好きで……（以下、スイーツについて延々と語るが大幅に省略）。

長野　なんか甘いものの話なんて、ガールズトークみたい（笑）。

熊久保　僕、42歳のオッサンなんですけどね～、ウッヒャッヒャッ！　……あれ、なんでスイーツの話になってるんだ？

長野　お酒も飲むけど甘いものも好きっていう話です（笑）。

熊久保　あぁ、そうでした（笑）。え～と、あ、そうだ、長野さんは総合と並行してプロレスもやってるじゃないですか？　そのきっかけは？

長野　リバーサルの方に声を掛けてもらったんです。それまでは全然プロレスのことは知らなかったんですけど、最初からやらないんじゃなくて一回はやってみようと思って。アイスリボンのさくらえみさんが私のプロレスの師匠なんですけど。

熊久保　学んだことの中で何が印象深いですか？

長野　プロレスラーはしゃべるのも仕事ってことですね。私、さくらさんから禁止用語を言い渡されたんですよ。

熊久保　なんですか、禁止用語って？

長野　私のクセで「えっと」とか「あの～」って言っちゃうんですけど、それはだらしないってことで。でも、そのお陰でおしゃべりも前よりちょっとはマシになったと思いますね。前は質問されても全然違うことしゃべってたりしてたんで（笑）。

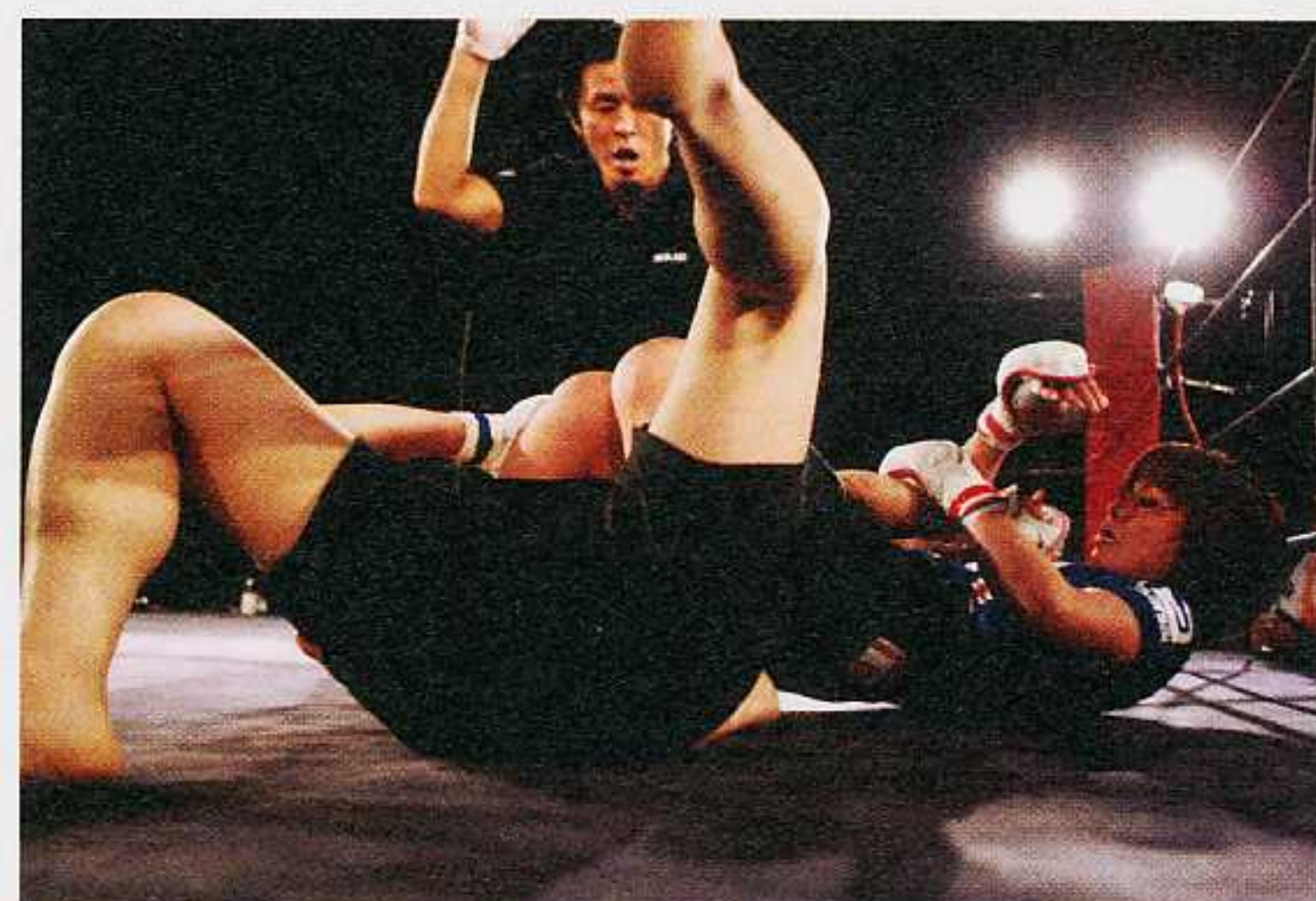
熊久保　そういえば昔、佐伯さんが「長野は人の話をまったく聞いてない」って言ってましたよ（笑）。

長野　聞いてますよー！　何考えてるかわからないとはよく言われますけど（笑）。

熊久保　アッハッハ！　これから格闘技とプロレスは両立していきたいんですか？

長野　正直、プロレスのほうはちょっと迷ってますね。やっぱりいまは総合に集中したほうがいいのかなって。

熊久保　そこまで長野さんを夢中にさせる総合の魅力ってなんですかね？

自分の好きなパーツですか？　お尻がいいって人からほめられたりしますね

12.11 ジュエルスで長野は鹿児島陽子を腕ひしぎで下し、見事に「ROUGH STONE GP 2009」54kg 級で優勝！今年は4戦して4試合とも一本勝利。来年は階級を落として石岡沙織へのリベンジを狙うか？

09年に輝いたのは誰だ？ジュエルス大賞発表！

★最優秀選手　石岡沙織
★年間最高試合　藤井恵 vs 石岡沙織（7月14日／新木場1stリング）
★敢闘賞　杉山しずか
★技能賞　長野美香
★殊勲賞　小寺麻美／アレクサンドラ・サンチェス
★新人賞　朱里
★特別賞　レーナ
★功労賞　藪下めぐみ／藤井恵

昨年12月20日に行なわれた授賞式では、6戦を闘い唯一のジュエルス皆勤となった杉山に敢闘賞、4試合連続一本勝ちの長野が技能賞、「ROUGH STONE GP」で優勝した小寺とドイツから参戦してきたサンチェスに殊勲賞が贈られた。

新人賞には12月に初参戦したばかりながら好勝負を行なったKGあらため朱里が受賞。そしてスマックガール時代から女子格闘技を牽引してきた藪下と藤井恵には功労賞が贈られた。

その藤井に敗れたものの、年間最高試合と最優秀選手を受賞して〝09年ジュエルスの顔〟となった石岡は、「藤井さん!!　まだ引退しないでください!!　来年こそは……」と10年の再戦を迫ると、藤井も笑顔で「売られたケンカは買います」と快諾。最後は受賞者全員で記念撮影に収まった。

最優秀選手賞を受賞した石岡は「来年もこの賞を取ります!!」と宣言。来年には後楽園ホールへの進出も決まっているジュエルス。この快進撃はまだまだ止まらない!

長野美香

長野　女性の競技人口がまだまだ少ないので、普通に生活してても総合をやってるってことだけで、いろんな人に興味を持ってもらえるんですよね。あとはリング上でスポットライトを浴びるのもいいなって思いますし。

熊久保　でも、入場のときの長野さんって思い詰めた表情というか、かなり神妙な面持ちですよね？　入場曲はアップテンポなのに（笑）。

長野　あぁ、よく言われます。ほかの選手はみんな凄くいい表情してるのに、私は緊張からなのか、挙動不審みたいな感じで（笑）。

熊久保　挙動不審（笑）。

長野　挙動不審とかコソ泥とか言われるんですよ～（苦笑）。自分としては一応堂々としてるつもりなんですけどね。

熊久保　試合に勝つときは、やっぱりKOよりサブミッションで極めたい？

長野　そうですね。腕十字にこだわりがあるっていうか、腕十字しか合わないっていうか（笑）。なんですかね、他の技もできないことはないんですけど、なんかしっくりこなかったりして。

熊久保　理想としては藤井惠さんみたいにパッと極めたい感じですか？

長野　藤井さん、カッコいいですよね～（シミジミと）。藤井さんは〝秒殺女王〟って言われてるじゃないですか？　だから私は目標として〝一本女王〟になりたいなって。

熊久保　おぉ、いいじゃないですか～。あとね、長野さんが自分の性格で好きなところと嫌いなところを聞きたいんですよ。

長野　う～ん、嫌いなところはマイナス思考な部分がちょっと。それとワガママってよく言われますね。自分ではあまりそうは思ってないんですけど。まぁ、頑固は頑固です（笑）。好きなところはチャレンジ精神旺盛なところと、あとはなんだろ……。

熊久保　僕みたいなオッサンの話をちゃんと聞いてくれるところ？（笑）。

長野　アハハハ！　じゃあ、それで（笑）。

熊久保　ちなみにちなみに、自分のパーツで好きな部分は⁉（スケベボイスで）

長野　え～と……あ、私、お尻がいいって人からほめられたりしますよ。

熊久保　お、お尻ですか⁉

長野　あ、熊久保さんって杉山さんのお尻がいいって言ったんですよね？（笑）。

熊久保　ちがっ！　そんな、人をお尻評論家みたいに（笑）。いや、それにはちゃんとした理由があるの。

長野　へ～、どんな理由ですか？

熊久保　べつにお尻そのものが好きなわけじゃなくて、要するにお尻から太ももあたりの下半身がしっかりしてる選手は強い、強くなれるっていうことなんですよ、うん！（自分に言い聞かせるように）。

長野　ホントですか～？（笑）。でも、私も足が太いんですけど、ムッチリしてると確かに腕十字なんかでも、吸盤みたいに引っついて抜けづらいんじゃないかなとは思いますね。

熊久保　ムッチリですか！　いいですね～、ウッヒョッヒョッ！

長野　……（冷たい視線）。

熊久保　……ゴホ、ゴホン（わざとらしく咳き込む）。え～、長野さんが総合をやっていて一番うれしかったことは？

長野　やっぱりいろんなところに行かせてもらえるのと、あとはやりたいと思うこと、生きがいが見つけられたってことですかね。最近だと「ROUGH STONE GP」に優勝したことが一番うれしかったです！

熊久保　優勝賞金の使い道は考えてます？

長野　そうですね、自分へのご褒美に何か……。

熊久保　日本酒でしょ？（笑）。

長野　アハハハ！　私、いま「黒龍」っていう日本酒が気になってるんですよ。だからそれをご褒美にしたいと思います（笑）。

熊久保　通ですね～。そのへんも容姿とギャップがあっていいですね。

長野　はい、ギャップは大きく（笑）。

熊久保　そうそう、このあいだ石岡さんと杉山さんを取材したときに、ジュエルスのコンセプトであるビジュアル路線について話を聞いたら、「それは全部長野さんにお任せします」って言ってたんですよ。

長野　え～（笑）。石岡さんも杉山さんもかわいいじゃないですか？

熊久保　でも、あの二人はあんまり試合以外の写真集やCDデビューとかには興味がないみたいで。逆に長野さんはなんでも背負うぐらいの気持ちがあるわけですよね？

長野　もう怖いものなしなんで（笑）。というか、必死なんで怖がってるヒマもないですし。あの、そういう路線についてけっこう周りであーだこーだ言う人もいるかもしれないですけど、私はべつにいいと思うんですよ。やっぱりプロとしては注目を集めないといけないっていうか。

熊久保　そのとおり！　プロは見られてナンボですからね。そのためにもまずはファンクラブですね。長野さんがそういう方面の活動を広げていけば、他の選手も「私も私も！」ってなるかもしれないでしょ。女の嫉妬は恐いですから（笑）。

長野　アハハハ！　もう、とにかくやれることはなんでもやりたいですね。

熊久保　そのうち日本酒のCMもくるかもしれませんよ（笑）。

長野　はい、日本酒のCMを目標に頑張ります！（笑）。

［09年12月21日／都内・総合格闘技ジム「CORE」にて収録］

ながの・みか■1983年12月29日、岐阜県出身。中京女子大学時代はレスリングで全国大会4位の成績を残す。07年12月にスマックガールで藤井恵を相手に総合デビュー。現在はジュエルスを主戦場に活躍。S-KEEP所属。161cm、53kg。ブログアドレス→http://mikarin7716.blog62.fc2.com/

しぃやんにおまかせ!

ジュエルスのおっとり姫がおっとり刀で解決?

杉山しずかのお悩み相談室❤

本誌No.142でそのおっとりしたナイスなキャラが好評だった杉山しずか。このジュエルスの人気ファイターが、マット界の迷える小羊たちのためにお悩み相談室を開設! さらには特別ゲストも登場、とにもかくにも摩訶不思議な"しぃやんワールド"を堪能してくださ～い!

聞き手&撮影　鈴木佑　試合写真　丸山剛史

——杉山さん、本誌No・142で石岡沙織さんと登場してもらったときに、自分で自分のことを「困ってる人に優しい」って言ってましたよね?

杉山　……私、そんなこと言ってましたっけ?

——エェ～? ほかにも「私は『ここぞ!』というときに活躍する」って自信満々に言ってたじゃないですか!

杉山　あ～、なんか言ってましたね～。アハハハ!

——……で、今回はそんな杉山さんにお悩み相談室の先生になってもらって、マット界で困ってる人たちにアドバイスを送ってもらおうという企画なんですよ。

杉山　なるほど～、はいはい。まぁ、こんな私でよければなんなりと! ウフフフ。

——だ、大丈夫かなぁ(汗)。では杉山先生、さっそくなんですがこんな方からお悩み相談が届いてます!

東京都・熊久保英幸さん・42歳・格闘WEBマガジン「GBR」編集長

僕は42歳にもなってアイドル好きがやめられません。会社のパソコンのデスクトップには榮倉奈々の壁紙、携帯の待ち受け画像は北乃きいにして毎日眺めています。先日のK—1に行ったときも、AKB48をナマで観るためにわざわざアリーナ席まで降りていって、最前列に行こうと思ったら係員に制止されました。ブログにもアイドルのことばかり書いていたら、菊野克紀選手やサムライTVのディレクターから「キモい」と言われてしまう始末です。どうすればアイドルから卒業できるでしょうか?

——前回、先生にインタビューをしたスケベボイスでおなじみの熊久保さんからのお悩みですね。のっけからどうかと思う

内容ですが（笑）。

杉山 ふんふん、アイドル好き……。

——どうですか、42歳でアイドル好きというのは？

杉山 え、42歳なんですか？ もっとお若く見えますよねぇ。

——あら、気を使っていただいて。

杉山 いやいや、ホント。見た目は40くらいですかねぇ。

——あら、あんまり変わらない（笑）。

杉山 というかですね、この方、そもそも卒業したいと思ってるんですかね？

——核心を突きますね～。本音は卒業したくないけど、周りに気持ち悪がられるかもってことかもしれませんね。

杉山 ……これ、ホントに答えちゃっていいんですか？

——どうぞ先生、お願いします！

杉山 じゃあ、バッサリと！ これ、卒業するのは無理ですね（キッパリ）。

——無理！（笑）。

杉山 それに周りに流されて卒業する必要もないと思います。というか、卒業はあきらめてそういう仕事に就けばいいんですよ。アイドルのライターとか。

——格闘技マスコミの大御所にアイドル方面に転職しろ、と（笑）。

杉山 だって、「キモい」って言われたくないわけですよねぇ？ じゃあソッチに振りきっちゃえば、そう言われることもなくなるじゃないですか。

——確かにそうかもしれないですけど……。ちなみに先生の好きなアイドルは？

杉山 小・中学生の頃はSMAPでしたね。中居正広のちょっとかわいい系なところがツボで。

——先生は先日『SMAP×SMAP』に出演されたんですよね。生の中居正広はどうでしたか？

杉山 凄いステキでしたよ～（ウットリ）。肌がキレイで、お金かけてるなぁって。

——お金かけてる（笑）。杉山先生もイベントに出演したり一般誌に出たり、いわばアイドル的な活動もしてるわけですが、ジュエルスの広告塔として頑張らなきゃという自覚は？

杉山 あ、それはとくにないです（アッサリ）。

——エェ～？

杉山 でも、やっぱりそういう活動を「ヤだ！」とか言ってられないなっていうのはありますからねぇ。

——そういうイベントに来るファンと、この相談者は似てたりしませんか？

杉山 あ～（笑）。年季があるぶん、こちらの方のほうがちょっとだけ威厳を感じますけど。

——とりあえず相談の回答としては「アイドルを卒業する必要はない」と？

なんとも表情豊かに、そして発想豊かに常人では想像だにしないような名（迷？）回答を連発する杉山先生。はたして天然なのか、それとも緻密な計算をしているのか？ つかみどころがないにもほどがありすぎ！

え？ ジュエルスの広告塔としての自覚？ あ、それはとくにないです（アッサリ）

杉山 というか無理なんで！ もちろん、趣味があることはステキだとは思いますよ。でもまぁ、卒業はあきらめてくださいって感じです、はい。

——いきなり悩みに対するアドバイスというよりも、容赦なく斬り捨てたという気がしないでもないですが……。まぁ気を取り直して、続いては先生と同じ禅道会のお仲間から寄せられた相談です。

杉山 え、誰誰？

東京都・石岡沙織さん・22歳・格闘家
私は神経質で几帳面な性格なのですが、S先輩が時間にルーズで困っています。週に一度の合同練習のときはもちろん、取材やイベントのときも必ず遅刻してきます。やはり格闘技や武道をやっているとはいえ、一社会人として、時間を守れないのはどうかと思います。どうにかこの先輩を時間が守れるようにしたいのですが、どうすればよいでしょうか？

——おそらくこのS先輩というのは杉山先生のことで……。

杉山 （さえぎるように）これはもうあれですよね、石岡は破門ですねぇ。

——破門（笑）。

杉山 というか、これは無理ですね！

——また無理ですか！ ちなみに先生は今日の取材も遅刻されましたけど？

杉山 ……。

——都合が悪いと無言（笑）。そんなに石岡さんは几帳面なんですか？

杉山 まぁ、自分で言ってるだけですからねぇ（冷たく）。でも、着替えのときに服をきちんとたたむところなんかを見ると、そうなのかもしれないですね。

——なるほど。

杉山 確かに私は石岡にルーズだって注意された記憶はありますよ。ただ、何を注意されたかは覚えてないですけど。

——それ、全然受け止めてないってことですよね。

杉山 ウフフ。あ、ちょっと几帳面につながる話かもしれないですけど、石岡って面倒見がいいんですよ。

——よく姉御肌って聞きますね。

杉山 だから甘えというか、このS先輩も「石岡なら許してくれるかな」みたいな気持ちがあるんじゃないですかね？ だからしょうがないんですよぉ！

——しかし、このS先輩はなんで遅刻しちゃうんですかね？

杉山 う～ん、私の予想ですけど、たぶん計算ができないんです。起きてから家を出るまでとか、何時に着けばいいとか。想像の中の自分に期待しすぎて……。

——「想像の中の自分に期待」って（笑）。

杉山 でも、遅刻と反対に早く着きすぎることもあるんですよ。

——え、どういうことですか？

杉山 やっぱり計算ができなくて、気づいたら1時間前に着いちゃうとか。

——……たぶん、先生は一般の人と体内時計が違うのかもしれないですね。

杉山 「どうにかこの先輩を時間が守れるようにしたい」かぁ～。うん、無理ですね！（キッパリ）。

——残念ですが石岡さん、あきらめてください！（笑）。あ、続いてもまた杉山先生にゆかりのある方からの悩みです。

東京都・佐伯繁さん・40歳・DEEP代表
忙しすぎていっぱいいっぱいなもんで、医者からはストップがかかってるのに、ストレスでドーナツとかカフェオレとか焼肉とか牛丼とかハンバーガーとかに走ってしまうんだけども、俺はどうすりゃいいの？

ぶっちゃけた話？

杉山　わぁ、これこそ無理ですねぇ！

——もはや「無理」が決めゼリフになってきましたね……。

杉山　だって無理ですよ、佐伯さんは再起不能です！

——佐伯さんは再起不能！（笑）。そうは言っても、前に先生はプロフィールで好きなタイプの欄に「ビッグ・シゲ（佐伯繁）」って書いてましたよね？

杉山　あ〜。あのときは佐伯さんのことを知らなくて、スタッフの人に「そう書いとけ」って言われたからなんですけどね。

——あ、そんな理由（笑）。

杉山　あ、でもどっちかって言ったら好きな部類ですよ、大きいし。

——横に大きい感じでもOK？

杉山　…………はい。

——いま、だいぶ間がありましたよ？

杉山　（無視して）佐伯さん、仕事が忙しいのはわかりますけど、運動したほうがいいですよ。だから、メガトンGPに出場すればいいんです！

——メガトンGP！　そりゃ出場資格は充分でしょうけど。

杉山　だって周りに格闘技やる環境があるんですから。で、仕事は誰かに引き継いでもらって……青木（真也）さんとか。

——なんで選手なんですか（笑）。

杉山　でも、ストレスが溜まると食に走っちゃうのはわかりますね。私もそうですから。

——ちなみに先生の好きな食べ物は？

杉山　甘いものですね、ドーナツとか。最近ハマってるのはチップチョップ（注／チョコレート菓子）で、練習で1ラウンド終わるごとに食べて栄養補給するわけです。

——え、練習中に食べるんですか？　……それ、気持ち悪くなりません？

杉山　ぜ〜んぜん（ケロリ）。あと、佐伯さんは自己管理ができないのであれば、結婚すればいいんですよ！

——奥さんに管理してもらう、と。

杉山　はい。それかメガトンGP！

——結婚かメガトンGP、この回答が佐伯さんの参考になるといいんですけど……。さて、お次は『kamipro』編集部の阿修羅チョロという人からの悩みです。

杉山　は〜い！

見てみぃ！ この大臀部から大腿部、そしてふくらはぎの充実ぶり！ さすがクマクマンボが「杉山しずかのお尻はいい！」と、いろんな意味で断言するだけのことはあるのだ。

東京都・阿修羅チョロさん・37歳・『kamipro』編集部

37歳にしてもうすぐ入れ歯というぐらい歯はボロボロ、そして髪も薄くなり、借金もかなりあるという三重苦に悩まされています。当然のように彼女もいないので、この際、おもいきって日本を脱出してみようと思っているのですが、海外生活も長いという杉山先生にオススメのスポットを教えていただきたいです。僕は東西南北どこへ向かうべきですか？

私の悩みは時間が守れないことですねぇ……自衛隊にでも入ろうかな？

——ちなみに先生は帰国子女なんですよね？

杉山　はい、親の仕事の都合で5歳までアメリカに住んでました。あとはイタリアとか台湾とかにも行ったことがありますね。でも、日本が一番いいですけどねぇ。

——でも、この相談者は三重苦を理由に国外逃亡したいという（笑）。

杉山　東西南北かぁ……あ、だったら自衛隊に入ればいいんですよ！

——ダハハ！　派遣されろ、と（笑）。

杉山　自衛隊はいろんな国に行けるし、けっこう給料もいいらしいんですよ。知り合いに自衛隊員がいるんですけど、普通に運動できない人とかも入ってくるらしいし。

——あ、そうなんですか？

杉山　そしてキツくてすぐ辞めていくらしいですけどね、ウフフフ。

——悪い笑顔だな〜。

杉山　とにかく自衛隊に入ってお金をもらって借金を返す、と。で、きっと厳しい規則ですから歯もちゃんと磨かないといけないし、そうすれば髪も生えてくるから。

——なんで生えてくるんですか！

杉山　アハハハ！　ほかにも悩み相談は来てるんですか？

——先生、じつはボクも相談に乗ってほしいんですよ……。

杉山　はいはい、なんでもどうぞぉ！

東京都・鈴木佑さん・30歳・『kamipro』編集部

最近、いろいろな選手や関係者から昨今の『ハッスル』の状況を受けてか、「『kamipro』は大丈夫なの？」と聞かれます。もし万が一のことがあった場合にどうすればいいのか、そんなことを考えるとたまに眠れなくなる夜も……。こういう落ち込んだときには、どうリフレッシュするのがいいでしょうか？

——ということでして。

杉山　あれ、まだ『ハッスル』ってなくなってはないんですか？

——大会中止や選手や関係者の離脱が続いてますけど、一応は存続してますね。

杉山　そっかぁ、世の中不況ですよねぇ〜（シミジミと）。

——先生が不況を感じるときというと？

杉山　そうですねぇ……、『ハッスル』がなくなるとき？（笑）。

——なるほど（笑）。先生はプロレスを観たことは？

杉山　『ハッスル』は地上波で観たことありますよ。あと、いま興味があるのはDDTなんです。

——ほ〜、それはなんでまた？

杉山　私が通ってた大学の教授の息子さんが中澤マイケルという人なんですよ。

——あ〜、DDT所属の変態キャラの？

杉山　それでネットで動画を観て、ファンになってしまったというわけです。

——杉山しずかが中澤マイケルの肛門爆破に興味を持ったわけですか（笑）。ちなみに先生自身は落ち込みやすいほうですか？

杉山　基本的にそんなに気持ちのアップダウンっていうのはないですね。

——おっとりしてますもんね〜。

杉山　いやいや、昔は人並みに怒ったり泣いたりとかあったんですよ。でも、ある時期を境に何も感じないようにして。そしたら緊張とかもしなくなったんですけど。

——平常心というか？

杉山　というよりも、「どうでもいいや」的な（笑）。

——そ、そうですか……。そんな杉山先生自身はいま悩みとかあるんですか？

杉山　う〜ん、時間が守れないことですかねぇ。

——あ、一応自覚はある、と。

杉山　でも、改善方法がわからないんですよぉ。私が自衛隊に入ったほうがいいですかね？

——ダハハ！　規則正しい生活を送るために（笑）。

杉山　あぁ、思い出した！（大声で）。

——ど、どうしたんですか、急に？

杉山　さっきの石岡さんが、私のTシャツを借りパクしてるんですよ！　それが今年一番の悩みですね。絶対しらばっくれてる、あとで電話で言ってやろ……。

——人に文句を言う前に借りたTシャツを返せ、と。

杉山　そういうことです。でも、電話で抗議すれば私の悩みも解決ですね！　あ〜、よかった。お腹空いた〜。

——あの、先生、ボクの悩みは解決してないんですけど……？

杉山　あ、忘れてました（笑）。だからあれですよ、『kamipro』がどうとか言われても強気になって、「そんな言うんなら『kamipro』に出してやんないぞ！」って言い返せばいいんですよ。

——エェ〜？　そんなことはとても言えません（笑）。

杉山　たとえば青木さんに言われたら、「そんなん言うんなら跳び関かけるぞ！」って。アハハハ！

——……先生、疲れたのか飽きたのか、まじめに答える気ないですよね？

杉山　いえいえ。まぁ逆ギレも解決の一つということですよ、はい。

ジュエルス広報　あ、すいません。杉山さんに相談に乗ってもらいたいっていう人がいるんですけど。

長野美香　あの、私も悩みがあって……。

——お〜、ここで飛び入り参加の相談者、同じジュエルスで活躍する長野美香選手です！

杉山　あ、ホント？　相談してして！

眠くなってきたのか、目をトロンとさせながら長野の相談に耳を傾ける杉山先生。……てか、まじめに聞いてんのか？（笑）。こんな感じでいいアジ全開の"しぃやんワールド"を体感したい人は、ジュエルスHPでイベント情報をチェック！

杉山しずかのお悩み相談室♥

東京都・長野美香さん・25歳・格闘家

毎年正月は実家に帰るんですが、こたつに入って一日食べてばかりなので太っちゃうんです。今年こそはそうならないようにしたいんですけど、どうすればいいですか？

——これは女の子らしい質問ですね。

杉山　そうだよね、正月はそうなるよね〜。

長野　一回太ると戻すのが大変で。

杉山　あ、でも私、戻すの得意！　だから、長野さんも正月は太っちゃっていいことにして、それから私が戻す手伝いをすればいいんじゃないですかね？

長野　は、はぁ。どうやって戻すんですか？

杉山　食べないとか、運動するとか、あとは……階級上げるとか（笑）。

長野　えぇ!?（戸惑いの表情で）。私、いま54キロ級で試合してて、逆に来年は52キロ級に落とそうと思ってるのに（笑）。

——先生、それは全然解決になってないです（笑）。

杉山　う〜ん、長野さんは何が好きなの？　実家で何食べて太るんですか？

長野　おせち、おもち、あと普通にお菓子とか食べて、こたつにずっと入りっぱで。

杉山　そっか〜……、あ、わかった！　長野さんを実家に帰さない！（キッパリ）。

——ダハハ！　先生、それも解決になってないです！

杉山　じゃあじゃあ、わかった！「長野美香とすごすカウントダウン」みたいなイベントをやればいいんですよ。

——年越しイベントですか（笑）。長野さん本人の意向は？

長野　私、実家に帰りたいです（笑）。

杉山　アハハハ！　そうだよね〜。いや、長野さんは大丈夫ですよ、痩せてるから！

長野　で、でも、もう体重が、階級が……（あせりながら）。

杉山　あのね、私、一週間で9キロ落としたことがあるの。だから減量方法を教えてあげることにして、とりあえずここは太ってもいいってことにしませんか？

長野　う〜ん……、やっぱり食べないようにして減らすしかないのかな（ボソっと）。

——食べずに減量もつらいですよね。

杉山　じゃあ、1ラウンドに一枚だけチップチョップを食べていいことにすればいいんですよ！

——ダハハ！

長野　え、え？（キョトンとした表情で）。

杉山　大丈夫！　アレ、一箱全部食べたって300キロカロリーくらいだから！

——ちなみに長野さんは練習中に何か食べたりします？

長野　え？　普通食べない（笑）。

杉山　アハハハ！　けっこういいと思うんだけどな〜。これ、解決になってないですか？

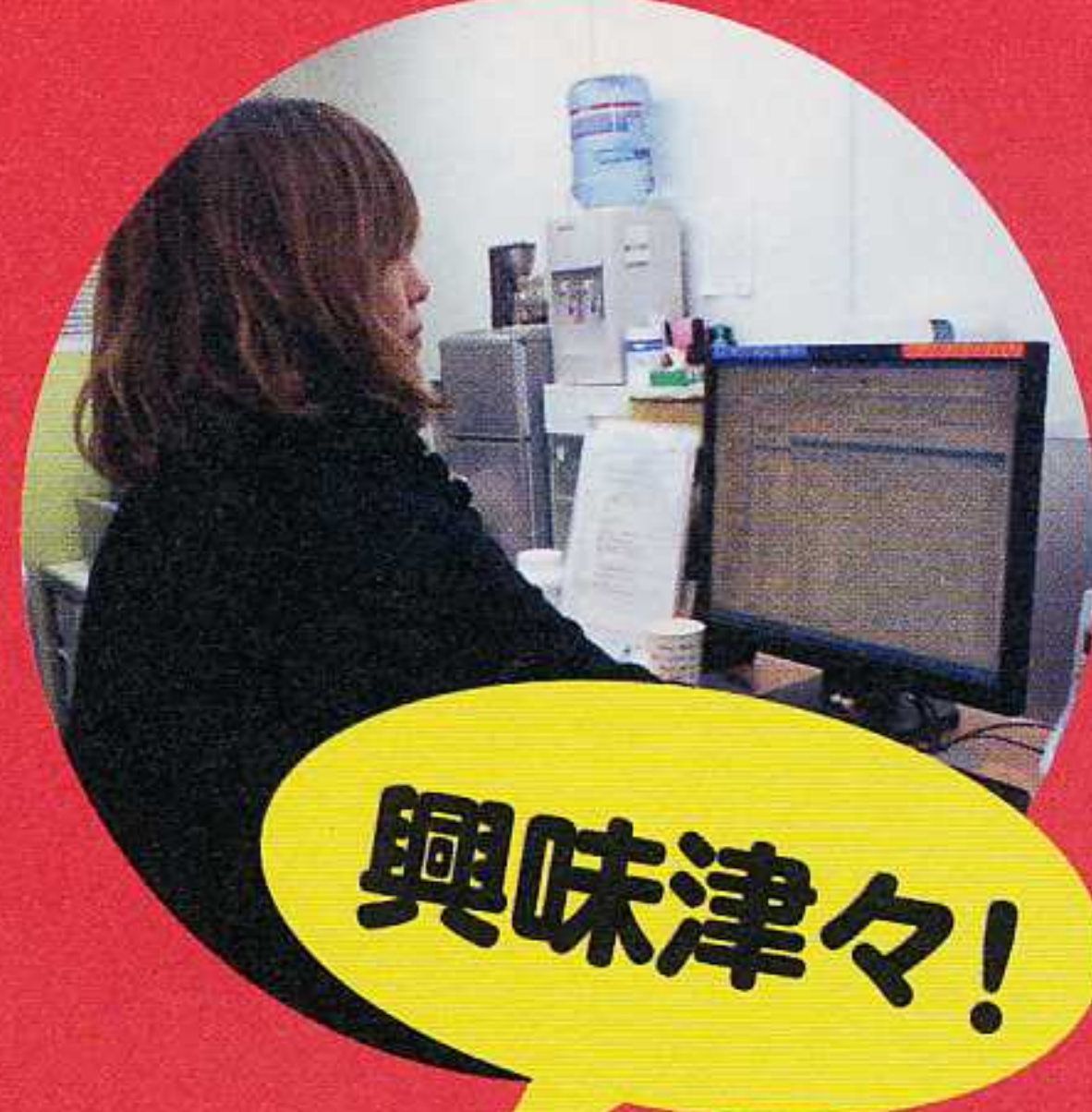
——どうですか、長野さん？

長野　え？　あ、じゃあ、それやってみます、チップチョップ（笑）。

杉山　よし、一件落着！（ガッツポーズ）。

——もう、何がよしなんだか……。

【09年12月19日／都内・某所にて収録】

すぎやま・しずか■1987年2月11日、米国ニューヨーク出身。小中高とバレーボールに打ち込む。その後、禅道会で空手を習得し、08年11月のジュエルス旗揚げでのHARUMI戦でプロデビュー。その後、現在までジュエルスには皆勤。空手道禅道会横浜支部所属。165センチ、58キロ。ブログアドレス→http://www.kakutoh.com/pc/blog/sugiyamashizuka/

興味津々!

女子格闘家の日常に密着

ヴァルキリープロデューサー

茂木康子の場合

16ページに渡る女子格特集の最後を飾るのは、皆さんも興味津々なはずの女子格闘家の日常に密着!
まだまだプロ興行が行なわれてからの歴史は浅い女子格闘技の世界ですが、
はたして女子格ファイターはどんな日々をすごしているのでしょうか?
今回は金網総合イベント・ヴァルキリープロデューサーの茂木康子さんに密着ドキュン!

密着取材/阿修羅チョロ

唐突にスタートした女子格闘家の日常に密着コーナー。記念すべき第一回目のゲストはヴァルキリープロデューサーにして、総合格闘技や柔術でも活躍する茂木康子さんの登場だ。パチパチパチ。

女子格界では知らない人はいないぐらいのビッグネームの茂木さんだが、まずはどんな人なのかを簡単に説明しよう。

女子格ファイターの中には生年月日非公表の人も多いのだが、ある意味、男よりも男らしい茂木さんはウェブサイト等で生年月日は公表済み。それによると1969年1月27日、東京都練馬区出身ということで、もうすぐ41歳。う〜ん、全然そうは見えないぞ。いや、これホント！

格闘技との関わりは、98年から始めたというブラジリアン柔術というから、すでに10年以上のキャリアを誇る柔術家だ。国内の主要大会での優勝経験も多数で、ムンジアルやパンアメリカンといった柔術の世界大会にも出場している、まさに女子柔術界のパイオニア的存在。

05年からはMMAにも進出し、プロデビュー戦ではグラビアアイドルの深谷愛と対戦し、見事一本勝ちを収めている。

その後も柔術やMMAで試合を重ね、08年の9月には、女子格闘技界でのキャリアや実績、人脈などを評価され、同年11月に旗揚げされた女子金網MMAイベント・ヴァルキリーのプロデューサーに就任（ヴァルキリーの2010年の大会情報は左の興行日程をチェック！）。

今年10月24日のヴァルキリー・ディファ有明大会では、女子格のトップファイターとしてジュエルスなどでも活躍する禅道会の瀧本美咲相手にプロデューサー自ら金網に出陣。練習相手でもある瀧本相手に激しい打ち合いを見せるも、最終3Rにパンチの連打を受け壮絶なTKO負けを喫したのも記憶に新しいところ。

ヴァルキリープロデューサー、女子格闘家、さらには会社員としての顔も持つ茂木さんは、いったいどんな日常を送っているのでしょうか？

次のページから、暮れも押し迫った12月某日の茂木さんを丸一日ほぼ完全密着！ いろんな意味で凄かった茂木さんの一日を大公開！ それではどうぞ!!

茂木さんがプロデューサーを務めるヴァルキリーの2010年興行日程！

VALKYRIE 04

東京・ディファ有明
2010年2月11日（木・祝）
開場12:30 開始13:00

チケット料金
SRS ¥10,000、RS ¥7,000、S ¥5,000、A ¥3,500 ※当日券は¥500増し。

VALKYRIE 05
東京・ディファ有明
2010年4月11日（日）

VALKYRIE 06
東京・ディファ有明
2010年6月19日（土）

VALKYRIE 07
東京・ディファ有明
2010年9月26日（日）

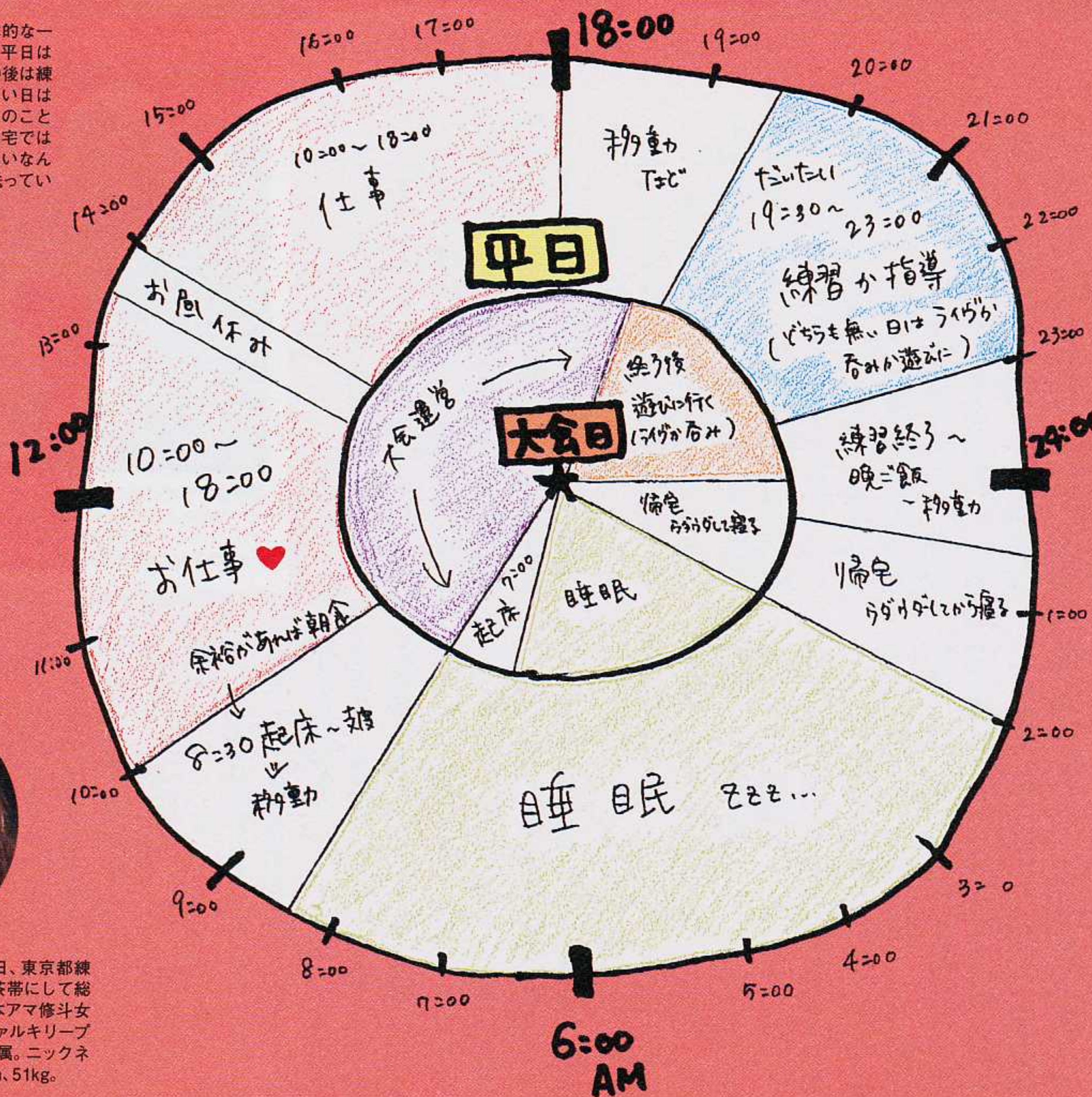
VALKYRIE 08
東京・ディファ有明
2010年11月28日（日）

お問い合わせ
GCMコミュニケーション TEL.03-3556-6201
ヴァルキリーオフィシャルサイト
http://valkyrie.livedoor.biz/
茂木康子ヴァルキリーブログ
http://www.kakutoh.com/pc/blog/mogiyasuko/

茂木康子のある一日

こちらの表が茂木さんの基本的な一日のタイムスケジュールだ。平日は10時から18時まで働き、その後は練習もしくは指導、どちらもない日はライブか飲みか遊びに行くとのことで、一人暮らしをしている自宅では「ウダウダしてから寝る」ぐらいなんだとか。超行動派な毎日を送っているパワフルウーマンなのだ。

平日
10:00〜18:00 仕事
移動など
だいたい 19:30〜23:00 練習か指導（どちらも無い日はライブか呑みか遊びに）
練習終了〜晩ご飯〜移動
帰宅 ウダウダしてから寝る
睡眠 zzz…
8:30 起床〜支度 移動
余裕があれば朝食
10:00〜18:00 お仕事♥
お昼休み

大会日
大会運営
終了後 遊びに行く（ライブか呑み）
帰宅 ウダウダして寝る
睡眠
7:00 起床

もぎ・やすこ■1969年1月27日、東京都練馬区出身。ブラジリアン柔術茶帯にして総合格闘家としても活躍。全日本アマ修斗女子フライ級06〜08年優勝。ヴァルキリープロデューサー。ストライプル所属。ニックネームはMOGYUPPLE。166cm、51kg。

茂木康子
朝の顔

❶こちらが都内某所にある茂木さんの職場風景です。ひょっとして仕事中と見せかけてツイッターでつぶやき中!? ❷都内で開催された全日本ブラジリアン柔術オープントーナメントでは受付等で大会をサポートしていた茂木さん。隣はIF-PROJECT代表"ハマジーニョ"こと浜島邦明氏。❸ロック&柔術&お酒好きで知られる茂木さんですが、かつてはアンディ・フグのファンとしてアンディの母国スイスで開催されたK-1大会を観戦したこともあるんだとか。そんな茂木さんのプロデューサー業から意外なプライベートまで丸わかり!『kamipro.com』内にて好評配信中、"カリスマ司会者"原タコヤキ君の『mimipro』バックナンバーを各自調査! あなたの知らない茂木さんの素顔が明らかに!? ちなみにタコヤキ君と茂木さんはツイッター仲間だそうです。❹ご存知GCMコミュニケーション久保社長と長尾メモ8氏。この二人と茂木プロデューサーの3人がヴァルキリー首脳陣。今後のヴァルキリーの動向にも注目よ!

茂木さんのこの日の朝食はコチラ!

朝食はとらずに会社に行くことが多いという茂木さん。この日は時間に余裕があったとのことで近所のフレッシュネスバーガーでブレックファスト。それ以外では近所のコーヒーショップでトースト&コーヒーか、サンドイッチを購入し、会社で食べることが多いんだとか。

早速、紹介する茂木さんの日常。まずは「朝の顔」から紹介しましょう。

基本的に朝は8時半には起床するという茂木さん。月曜日から金曜日までは都内の某会社にて事務(notジム)関係の仕事をしており、出社時間は午前10時で、だいたい18時までの8時間勤務とのこと。

茂木さんにかぎらず、一日のスタートとして非常に大事だと言われるのが朝食。格闘家なら、なおさら重要なポイントかと思われますが、はたして茂木さんの朝食とは?

「基本的に朝は食べないことが多いですね。食べるにしても、近所のコーヒーショップやコンビニとかで済ませることがほとんどなんで、朝から料理とかはしないですね。いや、いまは朝というか昼も夜も、家ではほとんど料理はしないです(笑)。でも、作れないわけじゃなくて、時間がなくて作らないだけですから(笑)。家には寝るだけに帰るような感じなんで」

そ、そうですか。まあ、本人がそう言うならそういうことにしておきましょう。

いまの職場には約2年ほど前から勤務しているという茂木さん。詳しい職種は明かしてもらえませんでしたが、格闘技に理解のある会社とのことで、試合前などは勤務時間等も、かなり融通が利くそうです。女子にかぎらず、大会前には練習に集中したい格闘家にとっては、これは重要なポイントと言えるでしょう。

取材した日には茂木さんとも縁の深い柔術の大会(全日本ブラジリアン柔術オープントーナメント)が行なわれ、茂木さんは大会スタッフとして会場に直行。受付を中心に会場を右へ左へ忙しそうに駆け回っていたのが印象的。もっとも、この日は受付業務だけでしたが、自らも試合に出場する際には、試合が終わると即座に柔術家から受付嬢へと早変わりし、大会のお手伝いをすることもあるんだとか。

プロデューサーを務めるヴァルキリーの次回大会は2月ということもあり、まだ本格的なプロデューサー業務は始まっていないとのことでしたが、これが大会間近になると、マッチメイクを中心に、出場選手のインタビューおよび撮影、さらにはそのインタビュー原稿をまとめて、ヴァルキリーのパンフレットだったりブログにアップするといった作業までも一人でこなしたりもするという茂木さん。本人がメインに出場したヴァルキリーの10月のディファ有明大会では対戦相手であり練習仲間でもある瀧本美咲に自らインタビュー取材をし、試合へ向けての意気込みなどを聞いたりするという、ある種、谷川さんや佐伯さんも顔負けのプロデューサーぶりを発揮したりもしている。よっ、敏腕プロデューサー!

というわけで、なんだかんだと朝から大忙しの茂木さんです!

茂木康子

昼の顔

女子格闘家の日常に密着

❶この日のDEEP女子練の出席メンバーは左から杉内由紀、北村ヒロコ、茂木さん、石岡沙織といったプロ選手4名に混じって、北村さんの娘さんも参加。❷10月のヴァルキリーで対戦した瀧本美咲とはこの女子練で一緒に練習している茂木さん。残念ながら、この日は瀧本は欠席。❸スパーリング中心のこの練習会。茂木さんも試合では当たる機会のないジュエルスのトップファイター石岡相手にグラウンドの攻防を繰り広げるなど、充実した練習ができていたかに見えたが、練習終わりでハプニング発生。なんと、茂木さんは軽いぎっくり腰になってしまったのだ。しかし、すかさず石岡&杉内がマッサージを施し、茂木さんも一安心。ナイス連携！❹❺こちらはデラヒーバジャパンでの茂木先生の指導風景&記念撮影。茂木先生の指導を受けたい人は西台に全員集合!

茂木さんのこの日の昼食はコチラ!

この日の昼食は池袋西口の『たんたん麺 日本橋 やまべえ』。化学調味料を使わない、身体に優しいたんたん麺がお気に入りの茂木さんは週に1～2回は通ってるんだとか（メニューはたんたん麺のみ）。ほかの日は職場近くのパスタ屋か定食屋で済ませることが多いとのこと。

続いて紹介するのは茂木さんの日常、「昼の顔」。それではいってみよう！

取材日の12月某日の水曜日の14時半、茂木さんの姿を都内DEEPジムで発見。そうです、毎週水曜日はDEEPジムにて女子格闘家の練習会（※通称DEEP女子練）が行なわれている日なのです。「朝の顔」編でもお伝えしたとおり、茂木さんは平日は会社員として働いているのですが、勤務時間中にスタートする、この女子練には会社をさぼって……ではなく、ちゃんと許可をもらって参加しているそうです。女子格闘家に理解のある会社ですね。よっ、○○○！（会社名は教えてもらえませんでしたが……）。

このDEEP女子練には茂木さんがプロデューサーを務めるヴァルキリーとはライバル関係にあるジュエルスで活躍する石岡沙織や杉山しずかといった選手たちも参加。団体の枠を越え「強くなりたい」という意識を持った女子ファイターが合同で練習を行なっているのです。

現在は育児のため格闘家としては一時休業中のしなしさとこがリーダー格というDEEP女子練ですが、ここ最近はキャリアも豊富な茂木さんや石岡選手がムードメーカーとなってスパーリング中心の練習を約2時間近く行なっていました。練習が終われば、それまでの真剣な表情とはうって変わってのガールズトークが延々と繰り広げられ、いい歳こいた僕としては非常に居場所に困りました、はい。

女子格闘家としての茂木さんの練習は、このDEEP女子練のほかには自身の所属するストライプルや指導も行なっているデラヒーバジャパンを中心に週に4～6日で、試合が近づけば、それ以外にもキックボクシングのジムに行ったりと当然ペースもアップ。現在は試合の予定も決まっていないため、本人的には「もしかして、過去最高の体重かも」と笑っていた茂木さん。悪気はなく「試合のときはいつもどれぐらい減量するんですか?」と聞いてみたところ「だいたい1ヵ月かけて落とすんですけど、何キロから落とすかは言えないです」と乙女チックな返答が。失礼しました！

そんな茂木さんが柔術の指導を行なっているのが都内・西台にあるデラヒーバジャパンです（別名・ファイティングアーツ高島平）。取材に訪れたのは「昼」ではなく、「夜」だったのですが、茂木先生の指導のもと、たくさんの柔術家たちが楽しげに柔術を学んでいました。まさに柔術で充実！（ストライプルイズム）。

こちらの道場で毎週火曜日の夜に指導を行なっているので、柔術家・茂木先生のテクニックを学びたいという人は各自調査のうえ、ジムを訪ねてみてください。

というわけで、昼もアグレッシブかつキュートな茂木さんでありました！

茂木康子 **夜**の顔

女子格闘家の日常に密着

❶❷❸は茂木さんがハッスルしていたOAUのライブでの記念撮影。ちなみにOAUはBRAHMANのメンバーにバイオリン&ボーカル、パーカッションを加えたアコースティックバンド。それでは茂木さん、メンバー紹介をお願いします。「左からカクエイさん、コーキさん、私のうしろがマーティン(私の隣はメンバーではありません)、その隣がトシロウさん、マコトさん、一番右がロンジさんです」。❹はストライブルの総合チームでの忘年会。茂木さんから左回りでプロボクサーのよねピ、会計士のあっくん、最高のミット持ちめぢから、パンクラシストのピロセ、元パンクラシストのいわちゃき。❺は「木曜會」というサークルでBRAHMANの事務所で一緒に練習している仲間たちとの忘年会。左からOAUマネージャーのワカくん、BRAHMANマネージャーのカマチくん、デザイン全般担当の宇治くん。

茂木さんのこの日の夕食はコチラ!

この日の夕食……というより忘年会のつまみの中から茂木さんの大好物というレバ刺しを紹介。練習or指導がない日の夜は飲みに行くかライブに行くことがほとんどだという茂木さん。レバ刺し好きな茂木さんは愉快な仲間たちとホルモン焼き屋に行くことが多いんだとか。

最後に紹介するのは茂木さんの「夜の顔」。ハッキリ言って夜の茂木さんはかなり壊れていたというか、ブッ飛んでいたのですが、気にせずゴー!

今回、茂木さんの「夜の顔」を取材させてもらうにあたり本人から指定されたのが都内・西新宿にあるライブハウス。取材日の12月某日には、このライブハウスで茂木さんの友人でもあるメジャーなロックバンド・BRAHMANのメンバーの別名バンドOAUによるアコースティックライブが行なわれており、ライブハウスに潜入すると超満員の観客の中に超ハイテンションな茂木さんの姿を発見!

さすがにライブ中にコンタクトをとることはできなかったのですが、ライブ終了後に話を聞こうとすると、見事なまでの泥酔状態。

一緒にいた友人に話を聞くと、この日はフリードリンクだったらしく開演前からビールを飲み始め、ノリノリで踊りながら終了まで約5杯のビールを飲み干したという茂木さん。フラフラになりながらも、友人のバックに回るとすかさずチョークスリーパーを極めるあたりはさすが格闘家といった感じでしたが、その後は「私のこと嫌いにならないでー」とシャウトしていた茂木さん。友人によると「こんなに酔っぱらったところを見たのは初めて」と驚いていたので、いつもこんな感じではないのでしょう、きっと。

それでもライブ終了後は茂木さんパワーでBRAHMANのメンバーと仲良く記念撮影。ほかにもcocobatや浅井健一などのライブにも頻繁に行っているというロック好きな茂木さん。

この日のように泥酔することはめったにないと力説する茂木さんですが、「ビール、焼酎、梅酒とか大好き。好きなつまみはレバ刺し!」と言うように夜は毎日のように飲み歩き、家では寝るだけという生活パターンのようです(さすがに試合前は1ヵ月前から禁酒するらしいです)。

現在は独身の茂木さんですが、「毎日が楽しいので、いまは結婚願望はないです」とのこと。よく働き、よく練習し、よく酒も飲む。そんじょそこらの男性なら太刀打ちできないこのパワフルさ。いろんな意味で茂木さんは〝最強〟でした!

朝・昼・夜と3部構成でお届けした女子格闘家・茂木さんの華麗なる(?)日常はいかがでしたでしょうか?

よく練習し、試合で暴れて、その後は酒を飲んでいい女を抱くといった、昭和のプロレスラーのような豪快なイメージを感じさせてくれた茂木さん。

練習仲間や周囲の人たちに慕われる理由がその日常から垣間見えたのではないかと思います。

次回、密着取材してほしい格闘家がいましたら『kamipro』までリクエストお待ちしてま〜す。密着させてよ!

ランディはサスケだけじゃない!?

〝昭和プロレス〟を知る男たちのコク深レスラー人生2連発!

プロレスで生きる

映画『レスラー』のランディのように、プロレスでしか生きられない男はサスケだけではない。〝昭和プロレス〟を通過し、平成のプロレス界で、いまなお闘い続けるプロレスラー、ターザン後藤とリッキー・フジ。二人のコク深いレスラー人生をたっぷりとお届けします!

〝鬼神〟ターザン後藤

〝セクシーストーム〟リッキー・フジ

デビュー30周年の
“鬼神”の世直しプロレス人生
最後のテーマは、な、なんと！

FMW再旗揚げとニューハーフプロレス

ターザン後藤

デビュー30周年を前に09年12月24日、FMW再旗揚げ興行を開催したターザン後藤。
長らく犬猿の仲と思われていた大仁田厚とタッグを結成し、再びFMWを始動させた真意から、
後藤が深く関わるニューハーフプロレスのことまで、たっぷりと話を聞かせてもらいました。

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／平工幸雄

自分がやらなきゃいけないことの一つは大仁田厚の死に水を取ること

――今回、レスラー生活30周年を迎え、FMWを再旗揚げした後藤さんの波瀾万丈のプロレス人生を振り返ってもらえればと思っております。

後藤 よろしくお願いします。

――まずは、FMW再旗揚げということで、犬猿の仲と思われてきた大仁田さんと再び一緒にやろうと決断した理由はなんだったのかを教えていただければ、と。

後藤 やっぱり、俺も30周年を迎えたからには、何かケジメというか、何か区切りでやらなきゃいけないなと考えたんですよ。そういうことを考えるときに俺のクセみたいなのがあるんですよ。

――どういったクセなんでしょうか？

後藤 まず、夢の島公園か、世田谷の砧公園か、埼玉の水上公園。ここをぶらぶらするクセがあるんですよ（苦笑）。

――風変わりなクセですが（笑）、いずれも後藤さんにゆかりのある公園ですよね。

後藤 そうですね。世田谷の砧公園は全日本時代によく練習した場所で、水上公園はFMWでよく練習した場所。夢の島というのは大仁田厚と汐留で電流爆破をやるきっかけとなったノーピープルマッチの現場で。それで、たまたま夢の島を知り合いと歩いていて、「そろそろ帰ろうか」ってことでタクシーに乗ろうとしたら、何人かの集団がプロレスの話をしてたらしくて。自分はあんまり興味がなかったので聞いてなかったんですけど、知り合いが「今日、大仁田興行があるらしいですよ」って言ってきたんですよ。

――ひさびさに大仁田さんとリング上で顔を合わせた9月の新木場大会ですね。

後藤 そうです。タクシーに乗ってたんですけど「そう。じゃあ戻ろう」って言ってUターンして会場に向かったんです。

――行く予定ではなかったんですよね？

後藤 そうなんですよ。べつに会場に着いても控室に行くわけでもなく、そのままバックステージの陰に隠れて試合をずっと観てたんですよ。「なんで俺はここに来ちゃったんだろう？」って感じで観てたら、メインイベントで大仁田厚の試合が始まって、最後に例のパフォーマンスになったら、自然と足がつかつかとリングのほうに向かっていったんですよ。

――上がるつもりもなかったけど、自然とリングに吸い寄せられる感じで？

後藤 そうですね。そのときに目と目が会って自分でもどうしようかなと思って。ここで乱闘するべきか、握手をすべきか、と。そのときは自分たちよりも周りのレスラーが緊張してたんですよ（苦笑）。

――大仁田さんと後藤さんといえば、ファンレベルでもガチで仲が悪いという認識はありますし、まして同業者だったらよけいに緊張もするでしょうね（笑）。

後藤 自分は半分は暴れようかって気持ちもあったんですね。せっかく周りのレスラーも緊張してるんでシャツのボタンに手をかけて脱ぎだしたら、なんか知らないけど握手をしてしまったんですよ。

――暴れるつもりが、気がつけば握手をしていた、と。

後藤 ええ。それで帰りがけにわかったのが自分にはやらなきゃいけないことが3つあると思ったんです。一つがFMWの復活であり、大仁田厚とのタッグ復活。それで、二つめは大仁田厚が引退するときにちゃんと死に水を取ってやれなかったのが辞めたりカムバックしたりを繰り返している原因だと思ってるんですよ。

――確かに大仁田さんは何度も引退→復活を繰り返してますからね。

後藤 そうですよね。だから二つめは大仁田厚の死に水を取る闘い。3つめはまだ明かしてないんですけど、近いうちに発表しようと思ってまして。とにかく、この3つをやらなきゃいけないな、と。

――ブログとかでも書かれてますけど、後藤さんがコーチをされているニューハーフプロレスの確立というのはその中には入っていないんですか？

後藤 それは別ですね。まあでも、これまで男も女も教えたことはあったけど、ニューハーフは初めてでしたから、いろいろと勉強にはなりましたけどね（苦笑）。

――まあ、そうでしょうね（笑）。

後藤 男とも女とも身体の作り方も違うし、ニューハーフってある意味、男よりも女よりも精神的に凄いデリケートなんですよ（笑）。それを厳しく教えながら、いまもやってるんですけど、これもたまたまだったんですけど、FMW復活を考えたときに欠かせないと思ったんですね。

――それはどういった意味でですか？

後藤 何が飛び出すかわからないというFMWのコンセプトがありましたけど、その中でニューハーフプロレスというものは当時はなかったものですよね。

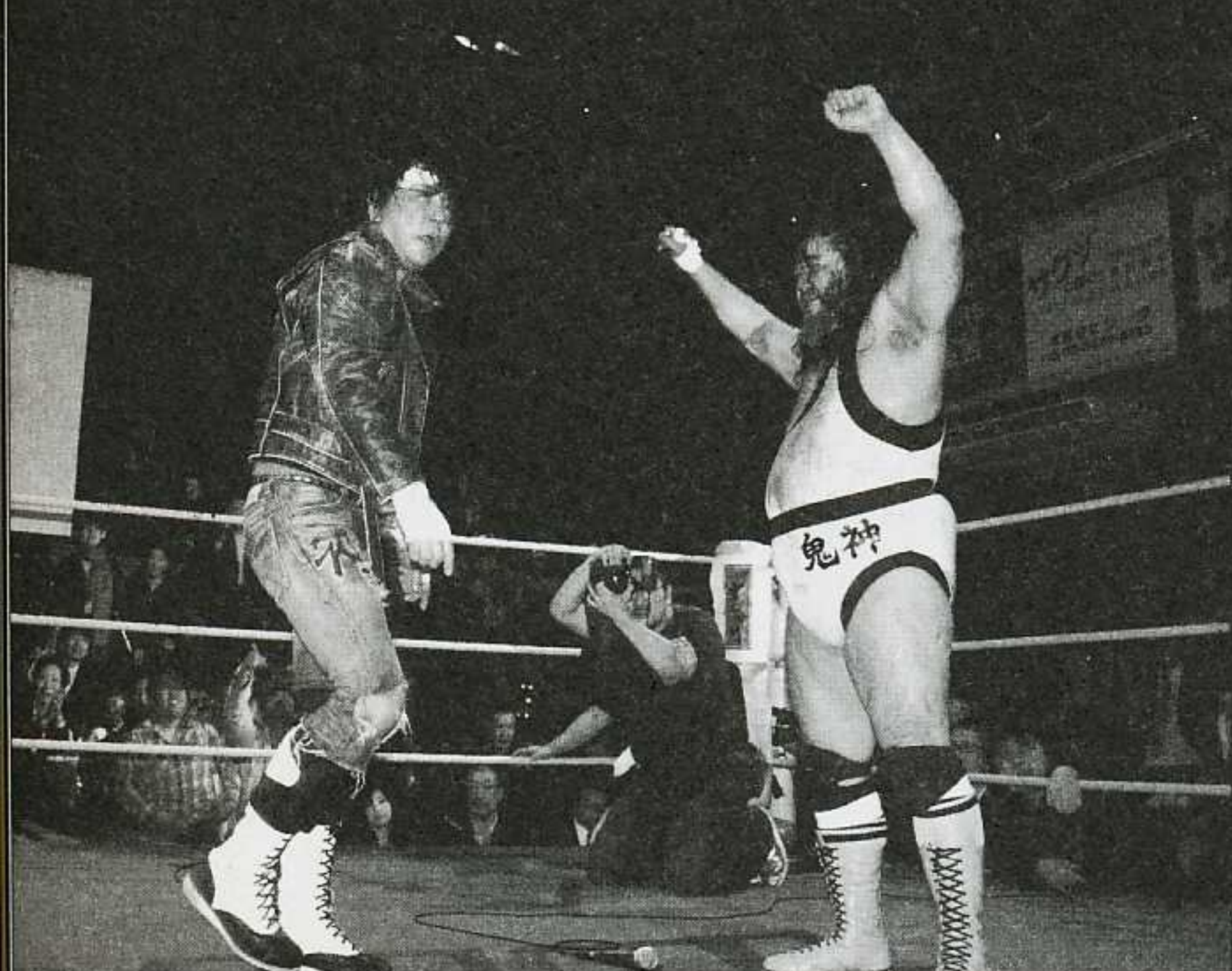
――初期FMWでも、さすがにニューハーフプロレスはありませんでしたね（笑）。

後藤 そういう意味でも、流れ的にもちょうどいいかな、と。それにニューハーフにプロレスを教えていて初期のFMWの頃と一緒だなとも思いましたし。それはどういうことかというと、彼女たちが……彼女たちって言っていいのかわかんないですけど（笑）、まるっきり素人みたいなのを集めて、みんな仕事しながら練習に通ってくるわけですよ。

――初期FMWも若手選手や練習生たちは働きながら練習をしてましたからね。

後藤 そうですね。その頃と一緒でニューハーフでも挫折するコが何人かいて。それで残ったのは二人だけで。

――今度の再旗揚げ興行では鮎川れいな選手とキャロット選手の一騎討ちが組まれてますよね。

後藤 まあ、言い出しっぺのれいなっていうのが自分が浅草でやってた店に来て、そこで話をして始まったものなんですよ。

クリスマスイブにFMW再旗揚げ興行を開催した後藤は大仁田と数年ぶりにタッグを結成。会場には多くの初期FMW信者が集結し、因縁のボーゴ＆レザーフェイス相手に血まみれの激闘を繰り広げる二人に熱い声援を送っていた。再始動したFMWの運命やいかに!?

――れいな選手は熱心なFMW信者だったみたいで、そのときが後藤さんと約10年ぶりの再会だったんですよね。

後藤 そうです。そのときに向こうは「マネージャーでもできたらな」って夢を持って来たみたいなんですけど、自分は「プロレスやらないか？」って言ってしまって（苦笑）。その場でニューハーフだけの団体を作ろうっていう話になって。

――また、急展開ですね（笑）。

後藤 自分が言い出しちゃった以上、責任もあるし、なんとか成功させなきゃいけないと思ってやってたんですけど、これもいま考えるとFMWを再旗揚げするまでの運命だったのかなって。

――でも、指導が厳しいことで知られる後藤さんがデビューにゴーサインを出したってことは、一定の基準はクリアしたってことなんですよね。

後藤 技術は全然ダメなんですけど受け身はしっかりと取れたんですよ。これはFMWも一緒でデビューして間もない選手は技術はゼロですけど、受け身だけはちゃんと取ってたんです。だからFMWでは大ケガした選手はあまりいないし、ニューハーフも女性ホルモンを打ってるんで男よりも身体は弱いですし、ヘタしたら女よりも弱いかもしれないですから。

――あ〜、なるほど。

後藤 だけど、いままで大ケガした選手はいないですし。そういう意味では受け身だけは男だろうと女だろうとニューハーフだろうとガッチリ教えてるんで。

――受け身を重視するというのは、やはり後藤さんが全日本出身という部分が大きいんですかね。

後藤 そうですね。プロレスは受け身だというのは自分が教わったことですから。受け身が取れれば技術は先輩たちから盗めばいいわけですから。自分も教えてると言ってもホントにプロレスの基本の技術ぐらいで。プロレスの基本の技術は盗めるものじゃないんで教えますけど、大技とかそういうのは盗むものですから。

――まだニューハーフプロレスは観たことがないんですが、スタイル的にはどういったプロレスをされてるんですか？

後藤 ニューハーフってこともあるし、今風の派手な技とかやるイメージがあるかもしれないですけど、どっちかといえば昭和のプロレスみたいなんですよ。

――ニューハーフプロレスは昭和プロレスでしたか！

後藤 やっぱり、自分が教えるとそうなっちゃうんでしょうね。さっきも言ったとおり大技は教えないんで、去年の旗揚げ戦のときも、技術はないんで基本技で試合をやるしかないんですよ。そこからあとは自分で盗んだ技ですよね。あとは、自分が教えたのは一つですよね。「おまえらが男のプロレスとも女のプロレスとも違うものを見せるとしたら何か？ それは両方のいい部分を出せる」と。

大仁田との電流爆破マッチでプロレス大賞ベストバウトを受賞したこともある後藤。しかし、95年5月の大仁田の引退試合前にFMWを離脱、それ以来、後藤と大仁田とは疎遠になっていた。

――なるほど！

後藤 女なんかヘタしたら男の喧嘩より凄いじゃないですか。キャットファイトなんかも、えげつなく引っかき合ったりしますけど、それに男の喧嘩の力強さ。その両方が出せるんじゃないかと。

――確かにそこはニューハーフの特権というか（笑）。

後藤 だから、昭和のプロレスの中に女のえげつなさや男の力強さが入ってる感じなんですよね。

――なんだか凄く観たくなりました（笑）。そんなニューハーフたちの師匠は後藤さんってことですけど、後藤さんのプロレスの師匠は誰になるんですか？

後藤 自分の師匠は百田光雄さんですね。

――あ、百田さんなんですか。

後藤 百田さんにはプロレスの基本から厳しさまで全部教わりましたから。自分、三沢（光晴）、川田（利明）なんかはみんなそうですね。途中から佐藤（昭雄）さんが来て巡業中に教わったりしましたけど、自分の基本を作ってもらったのは百田さんですね。自分たちの中では百田さんに勝つことが第一の壁でしたから。

――川田さんとかも何連敗もしてましたからね。全日本といえば受け身重視で、新日本はセメントの練習が多いというイメージがありますけど、後藤さんの若手時代はどんな感じだったんですか？

後藤 自分なんかが入ったときは、基礎体（力運動）なんかをやるにしても、器具なんかは一切使わせてもらえなかったんですよ。

――バーベルとかは使わずに？

後藤 そうですね。最初に基礎体をずっとやらされて、そのあとにいまでいうサブミッションとかシュートとかの練習をぶっ通しでやって。グラウンドで先輩にたらい回しにされてましたね。

――へぇ〜！

後藤 技術なんか教えてもらえないですよ。無理やり上に乗っかられて、腕や脚を極められたり、ラッパ吹かされたりして、自然と逃げ方を覚えるというか。

――そこは新日本と変わらないですね。

後藤 先輩にやられて身体で覚えるという感じで。それが終わって、一息つけるかなって思ったら、そっから当時の全日本プロレス流のスパーリングですよね。

――今度はどんなスパーリングですか？

後藤 いきなり先輩が入ってきて「いまからやれ」って言われてボコボコに殴られたり顔面蹴られたり、そういった喧嘩的なスパーリングで。当時は「やれ！」って言われても、新弟子だし、まだプロレス的な技術も教わってないんで「どうしたらいいんだろう？」って思いながら必死に食らいついていってましたね。

――それはちょっと意外ですね。受け身やロープワークとかプロレス的な練習のほうが多いのかと思っていました。

後藤 自分らのときはそういう感じでしたね。まあでも、そのグラウンドのスパーリングをやらされる前に受け身を嫌というほど取らされますけど。

――やっぱり、受け身は受け身で必要以上にやっていたわけですか。

後藤 そういう時代でしたよね。タック

ニューハーフプロレスのスタイルは昭和のプロレスみたいな感じです

ルとかそういうのではなく、いきなり殴られて蹴られて顔面を踏んづけるっていう。新弟子に対して「プロレスをナメるなよ」っていう厳しさを叩き込んでいたところもあったでしょうけど。

——後藤さんは大相撲からプロレスに転向されたわけですけど、「プロレスをナメるな」みたいなものは感じました？

後藤　いや、自分は相撲で実績もなかったですし、それ以上にプロレスラーは怪物だと思ってたんで。それに自分は大相撲に入ったのもプロレスラーになりたかったからなんですよ。

——あ、そうだったんですか。

後藤　当時、高校入るときに柔道で3ヵ所からスカウトが来たんですけど、無試験で入れるとなったら親は大喜びじゃないですか。それを蹴って「プロレスラーになる」って言ったら親が大反対して。それで悩んで東京に出ようと思って、地元の知り合いで九重部屋の人がいたんで、話をしてスカウトしてもらったんですよ。

——とりあえず、相撲部屋に入ったけども、ゆくゆくはプロレスラーになろうと思って東京に出てきたってことですか。

後藤　そんな感じでしたね。それで実際に九重部屋に入ってから『週刊ファイト』に全日本の新弟子募集って言う記事が載っていて、たまらず応募して、なんとか入れてもらったかたちで（苦笑）。

——あ、そういう経緯でしたか（笑）。

後藤　それに当時の全日本は新弟子がいなかったので、ほとんどテストらしいテストもしないで入れてもらったんですよ。

——とりあえず、人手が足りなかったから入れてもらえたと？（笑）。

後藤　雑用係がほしかっただけだと思いますね（苦笑）。とは言っても、応募したのはいいけども、すぐに返事が来たわけではなかったので、大工の見習いをしながらタイミングを待ってたんですよ。

——大相撲を辞めて、そのまま全日本入りしたわけではなかったんですね。

後藤　そうですね。しばらく働いてから入門させてもらったんですよ。

——それは知りませんでした。それから厳しい練習に耐え抜いて、デビュー後はプロレス大賞の新人賞も受賞して期待されて海外修行に出るわけですが、それっきり全日本には戻ることなく、ＦＭＷで帰国するかたちになりましたよね。

後藤　結果的にはそういう感じですね。

——海外では佐藤昭雄さんとのタッグでベルトを獲ったりと、かなり活躍もされていたみたいですけども。

後藤　そうですね。よく海外遠征に行った選手は「食えなかった」とか言いますけど、自分はお金とか食べ物を送ってくれとか言ったことは一回もなかったですから。そこは自慢ですよね。

——先輩の佐藤さんからは、アメリカのプロレス界で生き抜くコツとかアドバイスをもらったりしたんですか？

後藤　佐藤さんにはプロレスの理論というか、プロレスの仕事を教わりましたね。

——プロレスの仕事というと、食べていく術みたいなものですか？

後藤　いや、食べていくっていうよりも、プロなんだからお客を呼ぶような試合を作らなきゃいけないじゃないですか？

——とくにアメリカなんかでは客を呼べるレスラーはそれに応じてファイトマネーも変わってくるといいますからね。

後藤　そうなんですよ。ただ勝つだけだったらアマチュアでいいわけですし、お客を呼ぶような試合の作り方ですよね。たとえば、ヒールだったらどうやれば、より憎まれるかとか、私生活でも憎まれるぐらい徹底しなければダメだよなとか、そこまで考えてやってましたから。

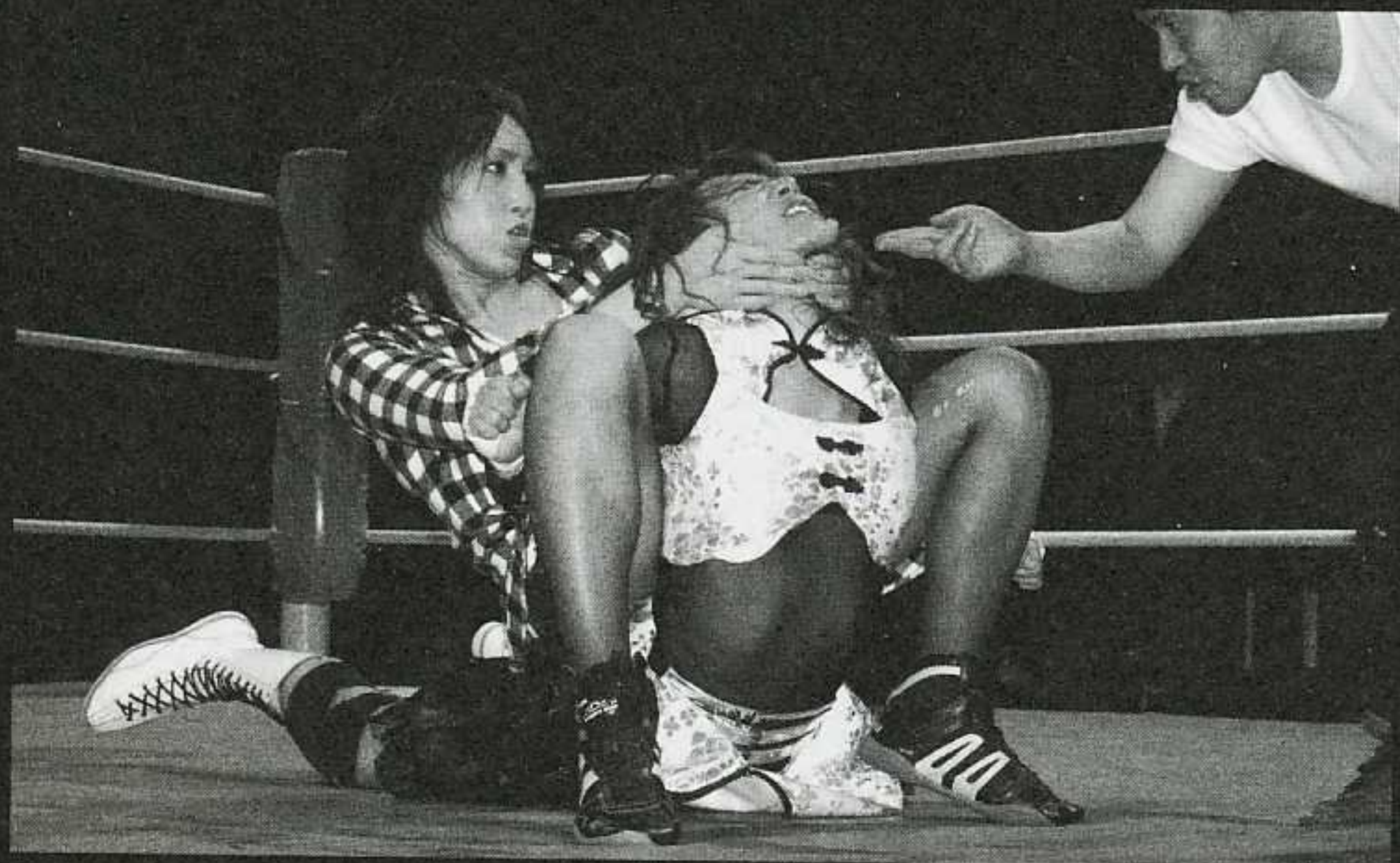
——プロ意識の部分を鍛えられたと。で、しばらく海外で活躍されたのち、後藤さんはプロレスは辞めて、結婚してレストランで働いているという報道も当時されてましたけど、それは事実なんですか。

後藤　それは違うんですよ。自分はその頃、向こうで彼女ができて、試合が終わったら遊んだりしてたことは実際にあったんですよ。そこから、へんな噂が立っちゃったみたいで。

——へんな噂といいますと？

後藤　「後藤は向こうで結婚して、日本に帰ってくるつもりはない」と。たしか、冬木（弘道）さんが自分がテネシーから違うテリトリーに行くっていう一日前に来て合流したんですけど、「おまえは日本に帰ってくるつもりはないんだって？」っていきなり言われたんですよ。

——そんなつもりはなかったと？

後藤　「そんなこと思ったことないよ」っ

FMW再旗揚げ戦で世界ニューハーフ選手権として行なわれた鮎川れいなvsキャロット戦。試合はキャロットのエグい投げや蹴りに耐え抜いたれいなが丸め込んで勝利。かつてFMW信者だったれいなはベルト奪取とFMWのリングに上がれたことに感激し号泣。二人の試合前にはニューハーフプロレス『ダイナマイトバンプ』の茜ちよみ代表が歌を披露。茜代表はかつて佐々木健介とのデュエットでCDを発売したこともある方です。

て言ったんですけど、当時の全日本は日本テレビから社長が来てる時代で当時の松根（光雄）社長が怒ってると聞いて。

――知らないところで社長を怒らせてしまった、と。

後藤 まあ、自分としては一生懸命こっちでやってればわかってもらえるだろうと思ってやってたんですよ。ただ、その頃ってちょうどプロレスの盛んなテリトリーが潰れだした時期だったんですよ。それで、しょうがなくヒロ・マツダさんに連絡したことがあって。マツダさんは新日本系なんですけど。

――そこは問題はなかったんですか？

後藤 馬場さんの弟子だとは言えなかったですけどね。当時は全日本と新日本の関係はよくなかったですから。そのときは「試合で使ってほしいんですけど」って連絡したら、「いまはアメリカのレスラーもいっぱい余ってるし、せっかく日本から来てもビザとかの問題もあるから、悪いこと言わないから日本に帰ったほうがいいよ」って言われて。自分は「わかりました」って言って切ったんですけど、それからは、しょうがなくジャパニーズレストランに皿洗いで入ったんですよ。

――プロレスだけでは食えなくなってしまったわけですね。

後藤 そうですね。そのときに日本人の知り合いが日本から『週プロ』を送ってもらっていて、それに馬場さんとターザン山本さんの対談が載ってたんですよ。

――もしかして、その対談で後藤さんの話題が出ていたとか？

後藤 そうなんです。山本さんが「そういえば、ターザン後藤はどうなったんですか？」って聞いたら、馬場さんは「アイツは女と結婚して、練習も試合もやってないよ」という記事を見たんですよ。

――『週プロ』を見て知りましたか（笑）。

後藤 それを見て自分は凄いガッカリしてですね、気落ちしたんですよ。その当時、主要のテリトリーは潰れても、いまの日本みたいにアメリカにたくさんインディーができて、自分は英語がわからないながらも交渉して月に一～二回は試合をしてたんですよ。

――決してプロレスを辞めたわけではなかったと？

後藤 そうです。インディーがいっぱいできて週二回ぐらい試合はしていて、練習も24時間できる場所があって、そこで練習するようにしてたし、なんとかプロレスラーとしてはやっていたんですよ。でも、その記事を見て気落ちして。

95年のIWA川崎大会ではUFCで活躍しながらNWA王者でもあったダン・スバーンに敗れている後藤。自らもUFC出陣をブチ上げるも結局は実現せず。オクタゴンで暴れる後藤の姿が観たかった。

――馬場さんもへんな噂を信じてしまっていたんですね。

後藤 そうですね。まあでも、自分も若かったですし、意地になっちゃって。それだったらアメリカで骨を埋めちゃおうと。その一方で、どっかで頑張ってれば認めてもらえる日が来るだろうと思って、こっちからは連絡しなかったんですよ。

――それからしばらくして、FMWで帰国することになるわけですが、大仁田さんからの誘いの電話をジャンボ鶴田さんからの電話だと間違えたんですよね？

後藤 そうですね。それだけ、全日本から声がかかるのを待ってたんでしょうね。自分は鶴田さんの付き人をやってたんで、思わず鶴田さんかと思ったら「バカ、俺だよ」って言われて、「あ、大仁田さんだ」ってすぐわかったんですけど、それでも何年かぶりだったんですよ。大仁田さんと言葉を交わしたのは。

――大仁田さんもしばらくプロレス界から離れてた時期ですからね。大仁田さんからの誘いの電話があったときは、しばらくは悩まれたと聞きましたが。

後藤 最初は「もうしばらく考えさせてくれ」って言ったんですよ。なぜかというと、当時の全日本の体質からいうと、よその団体に出たら、二度と全日本のリングには上がれないんですよ。

――そうですよね。

後藤 自分は馬場さんを師匠だと思ってたし、馬場さんの弟子だと思ってたんで、戻るんだったら何がなんでも全日本だと思ってたんで。でも、そのときに同時に考えたのが自分を必要とされてない団体より必要とされているほうに行ったほうがいいかな、と。決断してからは家も売っちゃったし、車も処分しましたから。

――アメリカで家を建てたんですか？

後藤 いや、買ったんですよ。それも処分して。ただ、大仁田さんが新団体を始めるといっても、当時は全日本と新日本の二大メジャー時代で、UWFも1年ちょっとで潰れたのに、絶対成功するとは思わないじゃないですか？

――当時の状況を考えたら、そう思っても不思議はないですよね。

後藤 引退した大仁田さんと海外で行方不明と思われてた俺がやっても、正直一回で終わりだろうなと思ってたんですよ。

――そう思いながらも、とりあえず戻ろうと決断したわけですね。

後藤 それでもいいやと思ったんですよ。必要とされたんだし、日本に帰ったら自分の両親にも子どもを見せることができるしと思って。そのかわり、日本には戻ったらもうアメリカには戻れないだろう、と。アメリカに家を残していたら、また戻ってくればいいって頭になっちゃうんで、そういう中途半端な気持ちが嫌だったんで家も売っちゃったんですよ。

――そういった覚悟を持って日本に戻ってきて、予想に反してというか、FMWは成功するわけですよね。

後藤 そうですね。ただ、成功したと言っても、いつコケてもおかしくない規模だったし、当時は全日本と新日本のあいだに入って、負けないようにするにはどうしたらいいか、そのためには誰か一人スターを作らなきゃダメだろうというのはいつも必死に考えていたんですよ。

――結果的には大仁田さんが"涙のカリスマ"として大ブレイクしたわけですけど、ナンバー2として、大仁田さんにジェラシーを感じたりというのも正直あったんじゃないですか？

後藤 いや、そういうのはなかったです

麻原彰晃キャラが嫌で退団した？ いや、そんな理由ではないですよ

よ。やっぱり、大仁田厚がスターだったからFMWはあそこまでいったと思うし。そのへんはアメリカでプロレスの仕事というものを佐藤さんに教わってるんで、自分の役目をわかってたんですよ。

――具体的にはどういう役目ですか？

後藤　それこそ、ファンに「大仁田厚にジェラシーを感じてるんじゃないか」とか「不満を持ってるんじゃないか」とか思わせることが自分の役目なんですよ。

――そう思われるように"仕事"をしていただけだと。

後藤　そうですね。あまり出すぎてもいけないし、大仁田厚よりも目立ってはいけないというのも、自分で自覚してやっていたと思いますよ。

――でも、やっぱりプロレスラーって「俺が俺が」っていう部分も必要でしょうし、仕事のつもりが本気でそういう感情を持ってもおかしくはないですよね？

後藤　いや、それはなかったです。引退試合の前にも、ここぞというところで大仁田厚と一騎討ちをしてきたわけじゃないですか？

――大事なビッグマッチは二人のシングルマッチがほとんどでしたからね。

後藤　そういう意味では、大仁田厚とやるにはほかのヤツは何がなんでも抑えなきゃいけない。それで大仁田厚がもっと輝くと思ってましたから。

――大仁田さんの引退後、ハヤブサさんのエース体制になるのが納得できずにFMWを辞めたのではという見方もありましたけども、それも間違ってますか？

後藤　それもおかしいですよね。知ってる人は知ってると思うんですけど、そういう気持ちはなかったですから。さっきも言いましたけど、FMWで突っ走ってきたけど、これはイケるって安心したことはないっていうのは常に思っていて、大仁田厚が引退したらどうするっていうことも当然考えていましたから。

――後藤さん的にはどうなるのがベストだと思っていたんですか？

後藤　その頃はバブルも弾けて客入りも悪くなってきた頃で、そうなったときに考えたのは、やっぱりハヤブサをスターにするしかない、と。それは自分も考えてたことなので。それでハヤブサをスターにするためには、相手側のヒールは俺がやらなきゃいけない。壁にならなければいけないとも思ってましたから。

01年には約16年ぶりに全日本に参戦し、翌年の馬場七回忌追善興行ではブッチャーと組んで人生＆本間組と対戦した後藤。「いまでも馬場さんと元子さんは恩人だと思っています」とのこと。

――大仁田さんの引退後はハヤブサをヒールとしてサポートしながら、盛り上げていくしかないと考えていたわけですか。

後藤　そうですね。

――理由はさらに別のところにあるってことなんでしょうけど、大仁田さんのFMWでの最初の引退試合の相手として決まっていた後藤さんは大会直前でミスター雁之助選手とフライングキッド市原選手と退団されて。その真相は「墓場まで持っていく」ってことなんですよね。

後藤　そうですね。

――一説には大仁田さんから麻原彰晃キャラでやってくれと言われて、さすがに嫌気がさしたという話も出てましたけど、そういう理由でもないですか？（笑）。

後藤　それは大仁田さんがなんかの取材のときに言ったみたいなんですよ（苦笑）。でも、そんなことは一度も言われたことないですよ。

――さすがにそういうリクエストはなかったですか？

後藤　当時、そんなことやったらFMWは大変なヒンシュクを買いましたよ。それに、いまの自分の団体とか見てもらえればわかると思うんですけど、自分はそういうのも嫌いじゃないんですよ。

――後藤さんといえば固いイメージがありますけども、自分の団体では麻原彰晃まではいかないまでも、かなり危ないキャラクターも出てますからね（笑）。

後藤　頭は固いんだけども、やるんだったら真面目に徹底してやりますよ（苦笑）。でも、当時のあの時代でそんなことはできるわけがないですし、そんなことしたらトップの大仁田さん自体もヒンシュクを買いますし、それはないですね。

――そ、そうでしたか。

後藤　まあ、自分が墓場まで持っていくって言っても、いろんなところでいろんな話が流されてますけど、それはそれでいいかなって。それは俺と大仁田さんの問題であって、どっちがいいとかどっちが悪いとか人に言って決めてもらうことでもないと思うんで。ただ、俺が思ったのはそのときのFMWは大仁田さんが引退して、俺も辞めて新生になった。これはよく歴史でも言うじゃないですか。

――といいますと？

後藤　自分の役割が終わるとその歴史から消えていく、と。坂本竜馬や西郷隆盛もそうじゃないですか。初期のFMWでの俺たちの役割はそこで終わったんです。

――とはいえ、今度そのFMWを再旗揚げされるわけですよね？

後藤　と思ったんですけど、まだ終わってなかったんですよ、じつは。

――それは自分の中で？

後藤　いや、自分の中ではなくて実際に終わってなかったんですよ。どういうことかというと、いままた初期の信者が自分の周りに集まってきて、今回の再旗揚げに関してFMW復活準備室っていうのを作ったんですけど、そこのスタッフは初期の信者がやってくれてるんですよ。

――へぇ～、そうなんですか。それこそニューハーフプロレスの鮎川れいなさんも初期の信者なんですよね。

後藤　そうですね。なんでこれだけ集まったかというと、信者にとってはまだF

ターザン後藤

MWは終わってないんですよ。なんで終わってないかというと、自分が大仁田厚の死に水を取っていないと。

――その場面を見ないことには信者にとってFMWは終わらないわけですね。

後藤　だから、もう一回旗揚げして大仁田厚の死に水を取るっていうのが今回の行動の一つなんですよ。

――FMWといえば、やはり亡くなった荒井（昌一）社長は外せないと思うんですけど、再旗揚げにあたって何か思うところはありますか？

後藤　これは自分の中では大きいですよ。まず旗揚げ戦が終わってから、荒井昌一の墓参りをして報告しようと思ってます。荒井昌一の両親が受け入れてくれるかどうかはわかんないですけど。

――後藤さんにとっても、FMWにとっても荒井社長の存在は大きかったと？

後藤　FMWが自分と大仁田さんから始まったとしたら、最後は荒井昌一ですよね。そこで、いったんFMWは終わりました。そこからまたあらためて大仁田さんと自分、あとは当時の信者たちと復活させるわけですから。だから亡くなったとはいえ、荒井昌一の墓には報告しようと思ってますし、いつかデカいところでやるときには荒井昌一の大きな写真を飾ってやりたいですね。

――再旗揚げ戦は新木場1stRINGですけど、FMWを名乗るなら最低でも後楽園クラスでやってもらわないとって思ってるファンも多いんじゃないですか。

後藤　そうでしょうね。そのときは新生も何も関係なく荒井昌一に関わってきたみんなを集めてやりたいと思ってます。

――あと、初期のFMWといえばレオン・スピンクスやグレゴリー・ベリチェフなど格闘家の参戦も多かったですけど、今回の再旗揚げ戦も高瀬大樹選手の出場が決まってますよね。

後藤　そうですね。そこも当時のFMWのように、何が飛び出すかわからないオモチャ箱で、なんでもありってことで。それを出していこう、と。

――95年頃には後藤さんはUFC参戦ブチ上げたこともありましたよね。いま振り返ると、あのときはどういう心境での行動だったんでしょうか？

後藤　やっぱり、プロレスラーが負けるのが我慢できなくて。プロレスラーは最強じゃないといけないという気持ちもありましたし。

――参戦をアピールしたものの、結果的には断られたかたちだったんですよね。

たーざん・ごとう■本名、ごとう・まさじ。1963年8月16日、静岡県出身。中学卒業後、九重部屋に入門するもプロレスへの夢が諦めきれず廃業し全日本に入門。81年2月の越中詩郎戦でデビュー。85年に海外遠征に行くも、そのまま現地に定着。その後、大仁田から声がかかりFMWの旗揚げに参加。離脱後はさまざまなインディー団体で活躍し、09年12月にFMWを再旗揚げ。178cm、150kg。

後藤　そうですね。一応、ビクター（・キニョネス）と一緒にUFCの事務所にも行きましたからね。そのときはビデオを持って行ったんですけど、ビデオを見た結果、断られたんですよね。

――たしか、デスマッチをやっている選手は危ないから、みたいな不思議な断られ方だったと記憶してるんですが、全日派だった僕なんかはかなり楽しみにしてたんですよ。当時、総合に出るのは新日系のレスラーがほとんどだったので。

後藤　こっちとしてはダメって言われたら、それ以上は何もできないですしね。

――ぶっちゃけ、自信はありました？

後藤　いや、自信も何もやっぱり出るからには負けられないし、当時のアルティメットっていったら喧嘩みたいだったじゃないですか？

――まだルールも整備されてませんでしたし、初期UFCはいろんな格闘技の喧嘩自慢が集まってる感じでしたからね。

後藤　総合格闘技っていうのは、俺は格闘技の一つだと思ってるんですよ。だから間合いとかもあるし、やっぱり慣れてないヤツは弱いですよ。ただ当時のアルティメットは喧嘩みたいだったんで出るんだったら喧嘩でいくしかない、と。それだったらプロレスラーは打たれ強さは一番だし、当然その気がなければ行かないですし、勝つ気満々でいたんですけどね。

――実現してほしかったなぁ。最初に言っていた3つあるうちの最後のテーマは近々発表するとのことですが、さすがにUFC参戦的なものではないですよね？

後藤　それはないですね（笑）。ただ、その3つのほかにもう一個あって、30周年大会は3回に分けてやろうと考えているんですけど、どれか一つに百田さんに上がってもらいたいと思ってるんですよ。

――百田さんはノアからは離れましたけど、まだ現役ですからね。具体的な話はされてるんですか？

後藤　まだ全然してないんですけど、自分は百田さんの厳しさを一番知ってますし、それをいまのレスラーにちょっとでも伝えてもらえればと思っていて。

――そうですか。ちなみに後藤さんは引退のことは考えたりします？

後藤　考えないですね。そんな計画的にはレスラーはできないと思いますね。計画する人がいても絶対その計画は守れないと思いますから。

――まあ、それこそ大仁田さんのような選手もいますからね（笑）。

後藤　ほかにも、引退しても戻ってくる人が多いってことはリングに上がったときのあの感触が忘れられないってことでしょうし。自分が引退するときは「もうこれ以上プロレスはやりたくない」と思ったときでしょうね。

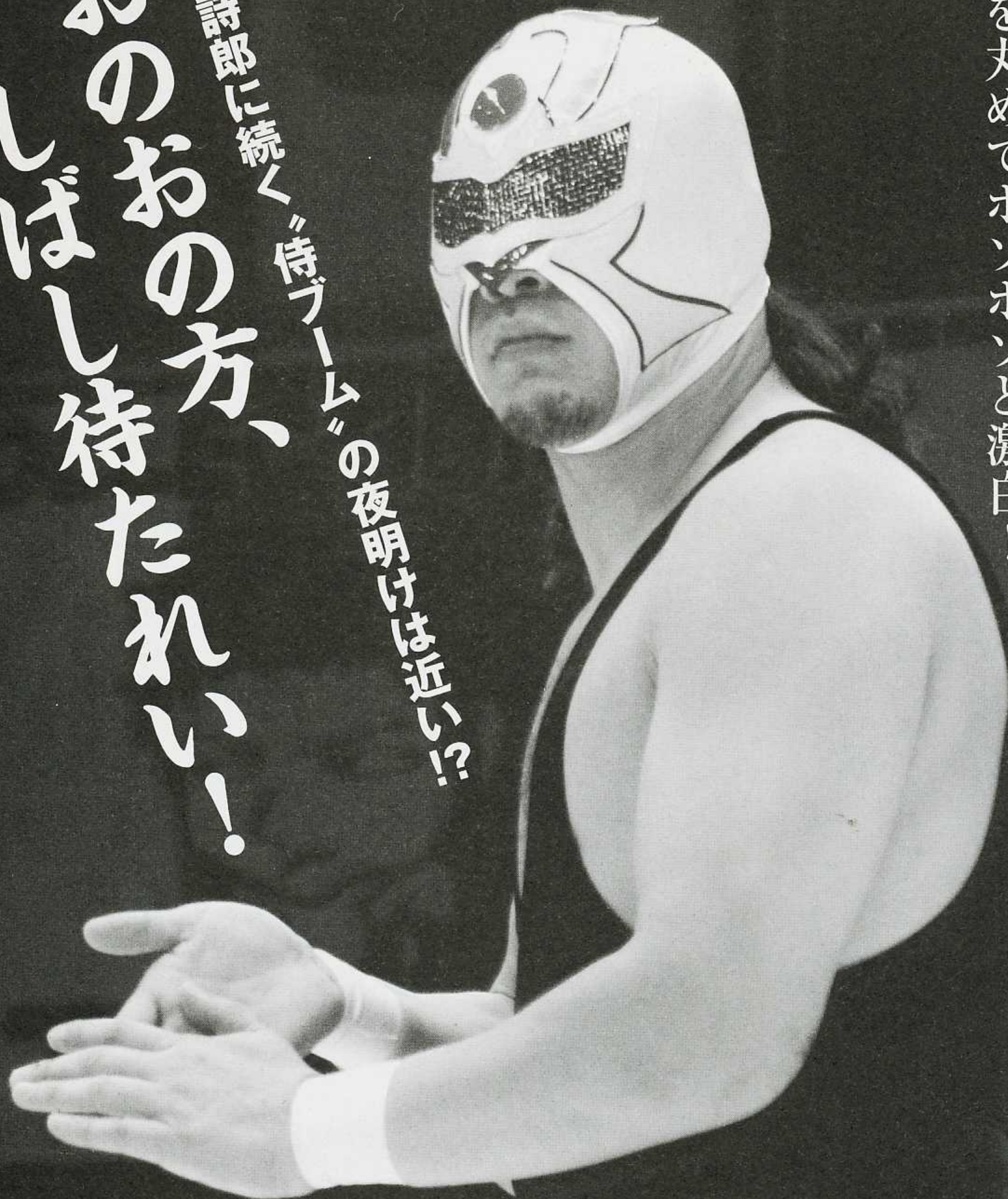
――では、波瀾万丈あった後藤さんのプロレス人生は、再旗揚げするFMWが最後のリングという感じなんですかね？

後藤　最後も何もFMWは絶対に成功させようと思ってるんで。再旗揚げするからには永遠に続けさせなきゃいけないとも思ってますから。

――大仁田さんじゃないですけど、「FMWは絶対に潰さん！」という感じで？

後藤　そんな感じですね（笑）。大仁田厚から、そのセリフをもう一回吐いてもらえるような興行にしたいですね。

――では、FMW再旗揚げと、あとはニューハーフプロレスの今後にも期待しております！

【09年12月22日／都内・浅草の某所にて収録】

新日本プロレスの新弟子から
カナダでプロレスデビュー
そしてインディーを渡り歩いた
転がり続ける人生を語る!

RICKY FUJI LIFE IS ROCK'N ROLL!!

リッキー・フジ

80年代黄金期の新日本プロレスの新弟子ながら、カナダの独立団体でプロレスデビュー。
その後は、FMWをはじめ20年にわたってインディー団体を渡り歩いてきたリッキー。
そんな転がり続けるレスラー人生を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ

映画『レスラー』の主人公ランディに似てるってよく言われるんですよ（笑）

—リッキーさんって、映画『レスラー』の主人公ランディ・ラムに似てるって言われませんか？

リッキー　じつは、よく言われるんですよ（笑）。金髪で髪が長くて。

—映画の中でランディが言う「80年代ロックが最高だ」っていうのもリッキーさんと同じだなって（笑）。

リッキー　BGMでガンズの曲が流れたりしてるんですよね。

—で、今日は日本版『レスラー』じゃないですけど、リッキーさんのプロレス人生をたっぷり語ってもらおうと思ってます。

リッキー　わかりました。実際、映画のランディに似てるっちゃ似てるんですよね。僕、もう44歳ですけど、まだまだイケる気がしますし。自分が輝けるのはリングの上だなって思いもありますから。自分が生きてる証じゃないですけどね。

—もともとレスラーになろうと思ったきっかけはなんだったんですか？

リッキー　やっぱり子どもの頃に観たアントニオ猪木ですよね。それでプロレスラーに憧れたんですけど、当時は僕の身長じゃまず無理だったんですよ。

—当時は身長180センチ以上が入門の条件でしたからね。

リッキー　だから「プロレスは自分がやるのは無理だ、観るもんなんだ」って思ってたんですけど、新日本プロレスを観に行ったとき、タイガーマスクが僕の近くまで来たら、身長がそんなに変わらないんですよ。それで「ひょっとしたら俺、プロレスラーになれるんじゃないか」って思って。そこから「プロレスラーになる」って決めて、学校から帰ったら毎日の日課としてヒンズースクワット1000回、腕立て伏せ500回を欠かさずにやるようになりましたね。

—昔のプロレスラー志願者の定番ですね（笑）。で、そのあと実際、新日本プロレスに入門されてるんですよね？

リッキー　はい。

—リッキーさんの身長でよく入門が許されましたね？

リッキー　最初はまったく相手にされなかったんですよ。高校在学中にも何度も履歴書送ってたんですけど、なしのつぶてで。でも、レスラーになるって決めてるんで、高校卒業後は新日本の道場がある世田谷区にアパートを借りて、仕事しながら当時、佐山（サトル）さんがやられていたタイガージムに通ってたんですよ。

—タイガージムに通いながら、レスラーを目指してたんですか。

リッキー　で、当時は近所だったんで、ちょくちょく道場の前までは行ってたんですよ。そしたら、ちょうど山本小鉄さんがいらして、一大決心で「プロレスラーになりたいんですけど、見てください」って直談判して。その場で、スクワットとか腕立てとかやらせてもらったんですよ。そしたら山本さんが「まだ身体ができてないから、家が近いなら通いで練習しに来い」って言ってくださって、それで道場に通うようになったんですよ。

—通いの練習生からスタートでしたか。

リッキー　それで仕事を終えてから毎日道場に通ってトレーニングして、そこで顔見知りにさせていただいたのが高田伸彦（当時）さん。

—あ、高田さんがまだいた時代ですか。

リッキー　UWFに移籍するちょっと前ですね。高田さんは夜も練習されてて、僕が「こういう事情で通いで練習させてもらってます」って挨拶したら、いろいろアドバイスしてくれたんですよ。「身体を大きくしたいなら、食わなきゃダメだ。飯のあとバナナ3本、6Pチーズ3つ、あと牛乳500ミリリットルにプロテインを入れて、それを食後のデザートとして食え」って言われて、それを続けてたら、1カ月で10キロ近く増えましたね。

上は映画『レスラー』のワンシーン、主人公ランディ・ラム（ミッキー・ローク）の試合シーン。そして下はリッキー。マネしたわけじゃないのに、ルックスの方向性がまったく一緒だ。

—若手レスラーに代々受け継がれていた方法なんでしょうね。

リッキー　そして正式に入門が許されたんですよ。時期的にもラッキーだったと思います。UWFができて人が抜けて、長州さんたちも抜ける直前でしたから。

—欠員が出たときだったんですね。

リッキー　で、僕は84年の8月に入門したんですけど、その年の3月に野上（彰＝AKIRA）さんと船木（誠勝）さんが入門されてて。4月が橋本さん、蝶野さん、武藤さん。だから闘魂三銃士と入門した年が一緒なんですよ（笑）。

—ほぼ同期なんですね。

リッキー　でも、4カ月入門が違うと、もう同期ではないですね。極端なことを言うと、1時間違うだけで先輩・後輩になっちゃいますから。

—ましてやライガーさん、橋本さんまで先輩っていうのは、大変だったんじゃないですか？

リッキー　まあ……もちろん（苦笑）。

—伝え聞くところでは、とんでもない先輩だという（笑）。

リッキー　ハハハハ！　でも、僕はそんなでもなかったです。それこそライガーさんにはよくしてもらってて。まあ、毎日リング上でも"かわいがって"もらっちゃって（笑）。僕の両耳が潰れてるのは、ライガーさんに潰されましたから。

—そういうかわいがられ方（笑）。

リッキー　いや、ありがたいことですよ。練習つけてくれたわけですから。

—当時はリッキーさんも当然、ストロングスタイル志向だったわけですよね？

84年夏、UWF、ジャパンプロレス勢が抜けたあとの有名な新日本プロレス箱根強化合宿。若き日の闘魂三銃士の姿が見えるが星野勘太郎の頭に隠れちょっとだけ顔が見えているのが、練習生時代のリッキーだ。

カール・ゴッチさんに弟子入りするため 写真1枚持ってフロリダまで行ったんです

リッキー　そうですね。「プロレスは最強の格闘技。キング・オブ・スポーツだ」って思ってましたから、この僕が（笑）。あと、当時始まったばかりの（第一次）UWFへの憧れもあったんですよ。

──リッキーさんがUWFに憧れてましたか！

リッキー　ええ。だから当時の自分からしたら、いまの僕のスタイル、この格好は、もう全否定の対象ですよね（笑）。

──アメリカン〝ジョー・プロレス〟許すまじ、みたいな（笑）。

リッキー　格闘技に対する憧れがありました。だから新日本プロレスには半年いたんですけど、そういう思いが強くなったのと、毎日の練習で肩と足首を痛めて動かなくなったことで、一回リセットしよう、辞めようって思って。夜逃げしましたね。

──でも、当時としたら「新日本プロレスを夜逃げ＝プロレスラーをあきらめる」って感じだったんじゃないですか？

リッキー　でも、自分の中では「プロレスは絶対に辞めない」っていう気持ちはあったんですよ。それで当時は格闘技に対する憧れがあったので「カール・ゴッチの弟子になろう」って決めたんですね。

──今度はゴッチさんの弟子ですか！　タイガージムから新日道場、そしてゴッチさんに弟子入りって、いまのリッキーさんからは考えられないですよ！（笑）。

リッキー　そうですよね（笑）。でも、当時はゴッチさんの弟子になれば、プロレスラーになれるだろうと思って。ゴッチさんの雑誌切り抜き写真を1枚持ってフロリダに行ったんですよ。

──写真1枚でフロリダまで行っちゃいましたか！

リッキー　日本でこれだけ有名だから、フロリダまで行けばみんな知ってるだろうと思って。住所も何も知らずにフロリダまで行っちゃいましたね（笑）。

──その何年もあとに、バトラーツの石川（雄規）さんが同じことやってますよね。

リッキー　彼はゴッチさんに会えたんですよね。でも、僕は会えなかったんですよ（苦笑）。フロリダに着いたはいいけど、英語が全然わからないんで、ホテルもロクに取れずにタクシー乗り場のベンチで寝てね。そしたら次の日の朝、タクシーの運転手に起こされて、「どこ行くんだ？」みたいなことを言われたと思うんですね。それでとりあえず、ポケットからゴッチさんの写真を出して「この写真のカール・ゴッチを知ってるか？」って聞いたんですけど「いや、知らない」って。

──まあ、知らないでしょうね（笑）。

リッキー　でも、一生懸命「プロレス、プロレス」っていうことを伝えて。そしたら「ちょっと待ってろ」って言われて、その運転手が親切な人で、空港でいろいろ聞いてくれたみたいなんですよね。そしたら、たまたま空港で働いてる人が、当時フロリダのプロモーターだったデューク・ケオムカさんを知ってて、デュークさんに電話してくれたらしいんですよ。で、ち

カナダでは「タイガーマスク」として マスクを被ってデビューしました（笑）

ょうど運よくデュークさんが迎えに来てくれて。それから1週間ぐらいデュークさんにお世話になったんです。

――へえ、それも凄い偶然というか。素晴らしい縁ですね。

リッキー それでデュークさんには「格闘技としてのプロレスで強くなりたくて、ゴッチさんの弟子になるためにフロリダまで来ました」って伝えたら、「わかりました」って家に無償で1週間泊めてくれたんです。ただ、デュークさんは何も言わなかったんですけど、当時プロモーターをやってたんで、毎日プロレス会場に連れていかれたんですよ。で、当時はフロリダマットが全盛だったみたいで、それこそリック・フレアー、ビリー・ジャック、ワフー・マクダニエルとか、錚々たる選手たちが来ていたんですよね。

――80年代の黄金期だったわけですね。

リッキー そして、毎回会場が熱狂してるわけですよ。それを観ていたら「プロレスは本来、こういう楽しいものなんじゃないか」って考えが変わって。1週間のフロリダ滞在中に、頭の中にあったカール・ゴッチも格闘技もどっかに吹っ飛んじゃったんですよね（笑）。本場のアメリカンプロレスを目の当たりにして「これこそがプロレスだ！」って、思ったんです。

――カルチャーショックというか、宗旨替えみたいなことが起こったわけですか。

リッキー それぐらいの衝撃はありましたね。で、デュークさんも自分の考えが変わったのがわかったんじゃないですかね。「あなた、もう日本に帰りなさい。新日本プロレスに戻りなさい。私が坂口（征二）さんに話しとくから」って言われて。僕も「わかりました、いろいろお世話になりました」と言って日本に戻ったんですね。でも、日本に戻ったら、なんというか、夜逃げしたところには帰りづらいというのがありますし（笑）。

――まあ、そうですよね（笑）。

リッキー どうしようかなって思ってるとき、新日本時代にお世話になった高野俊二（拳磁）さんに「もう一度プロレスをやりたいんです」ってお願いしたら、「わかった、俺に任せとけ」みたいな感じで言われて。そのあと俊二さんはアメリカ遠征に出ちゃうんですけど、しばらくしたら国際電話がかかってきて「いまから言う電話番号を控えとけ。カルガリーの安達さん（ミスター・ヒト）の番号だ。おまえのことは全部話してあるから行ってこい」って言われて。それでカルガリーに行くことになったんです。

虎模様の"田子作タイツ"に素足という、タイガーマスクと日系ヒールを合わせた絶妙なカナダ版タイガー。隣がリッキーの当時の盟友フレッドだ。

――そこからミスター・ヒトさんの自宅に居候して。

リッキー そうですね。当時は、安達さんの家に馳（浩）さんがいて、ライガーさんや橋本さんも来て。夜逃げしたあと、まさかカルガリーで会えるとは思わなかったです（笑）。

――それでカルガリーでデビューですか？

リッキー そうなんですけど、自分はデビュー前に生死をさまよったんですよ。

――どうしたんですか？

リッキー カルガリーに行ってから、身体をデカくするトレーニングをとにかくやって、100キロ近くにまでなったんですけど、そのあとデビュー前にリングで動いたら、それまでまったく有酸素運動的なものをやってなかったんで、身体に負担がかかって脳の血管が切れたんですよ。

――えぇーっ！

リッキー それで開頭手術をして、なんやかんやで1年ダメでした。

――そんなことがあったんですか……。

リッキー で、自分が倒れたのは、安達さん、馳さんと3人で練習してるときで、僕はリング上で突然意識を失なったらしいんですよ。で、安達さんは何が起こったかわからないから、「大丈夫か！ 大丈夫か！」ってえらい揺すってたみたいで（笑）。そしたら馳さんが「安達さん！ 揺すっちゃダメですよ！」って言って。あとから聞いたら馳さんが人工呼吸してくれたりとか、いろんな蘇生の手段をやってくれたようなんですね。で、命は助かったんですけど、馳さんがいなかったら、僕は安達さんに揺すり殺されてましたよ（笑）。

――ダハハハ！ 揺すってとどめを刺されてた（笑）。

リッキー ラッキーだったのは、運ばれたのが脳とかそういうものにかけて権威のある病院だったらしくて。本来、80パーセントぐらいの確率で後遺症が残るところを、まったく残らなかったんです。ただ、向こうの病院って、すぐに退院させるんですよ。そして自宅療養になるんですけど、病院を出たら気持ちがあせって、すぐまた練習を再開したんです。

――開頭手術やったばかりで練習しちゃダメですよ！

リッキー で、今度はライガーさんと安達さんと3人で練習してたんですけど、また同じように倒れちゃったんですよ。さすがに安達さんもそのときは「あ、前回と同じだ」ということで、揺すりはしなかったらしいんですけど（笑）。

――でも、二度も脳の血管が切れるって、ヤバいんじゃないですか？

リッキー だから医者には「3回目やったら確実に死ぬから、危険なスポーツはやめろ」って言われて。そのときは「俺はプロレスをやるためにカナダまで来たんだ！」って、医者に怒鳴った記憶がありますね。で、そのあとはじっくり時間をかけて静養して、ようやく1年後、88年の6月にデビューできることになったんです。

――その間、生活費とかどうしてたんですか？

リッキー 結局ずっと安達さんのところで無償でお世話になってたんですよ。で、デビューしたときに安達さんの奥さんに

RICKY FUJI LIFE IS ROCK'N ROLL!!

「これで森村さんからも家賃取れるわね」って言われたんですね。これは聞きようによっては嫌味に聞こえるかもしれませんけど、僕としては「ようやくプロレスラーとしてデビューできたね。おめでとう」って言葉だってわかったんで、もの凄くうれしかったですね。

——ちゃんとプロとして認められた、と。

リッキー　そしてデビューするときは、自分から当時ブッカーだったブルース・ハートに「もう頭は大丈夫だから、試合を組んでくれ」ってお願いして。そしたら、しばらくしてブルースに「タイガーマスクをやってくれ」って言われたんですよ（笑）。

——タイガーマスクに変身指令ですか！

リッキー　「いや、俺はあんなふうに飛べないよ」って言ったんですけど、「背格好が似てるから」って言われて。新人がブッカーに意見するわけにもいかず、日本の知り合いに連絡して「マスクを送ってください」ってお願いしたんですよ（笑）。

——でも、バレたら版権的にマズいですよね？

リッキー　だから黄金のマスクじゃなくて、僕はシルバーに黒のマスクを作ってもらって。でも、名前は「タイガーマスク」としてデビューしたんですよ（笑）。

——3代目タイガーマスクですか（笑）。

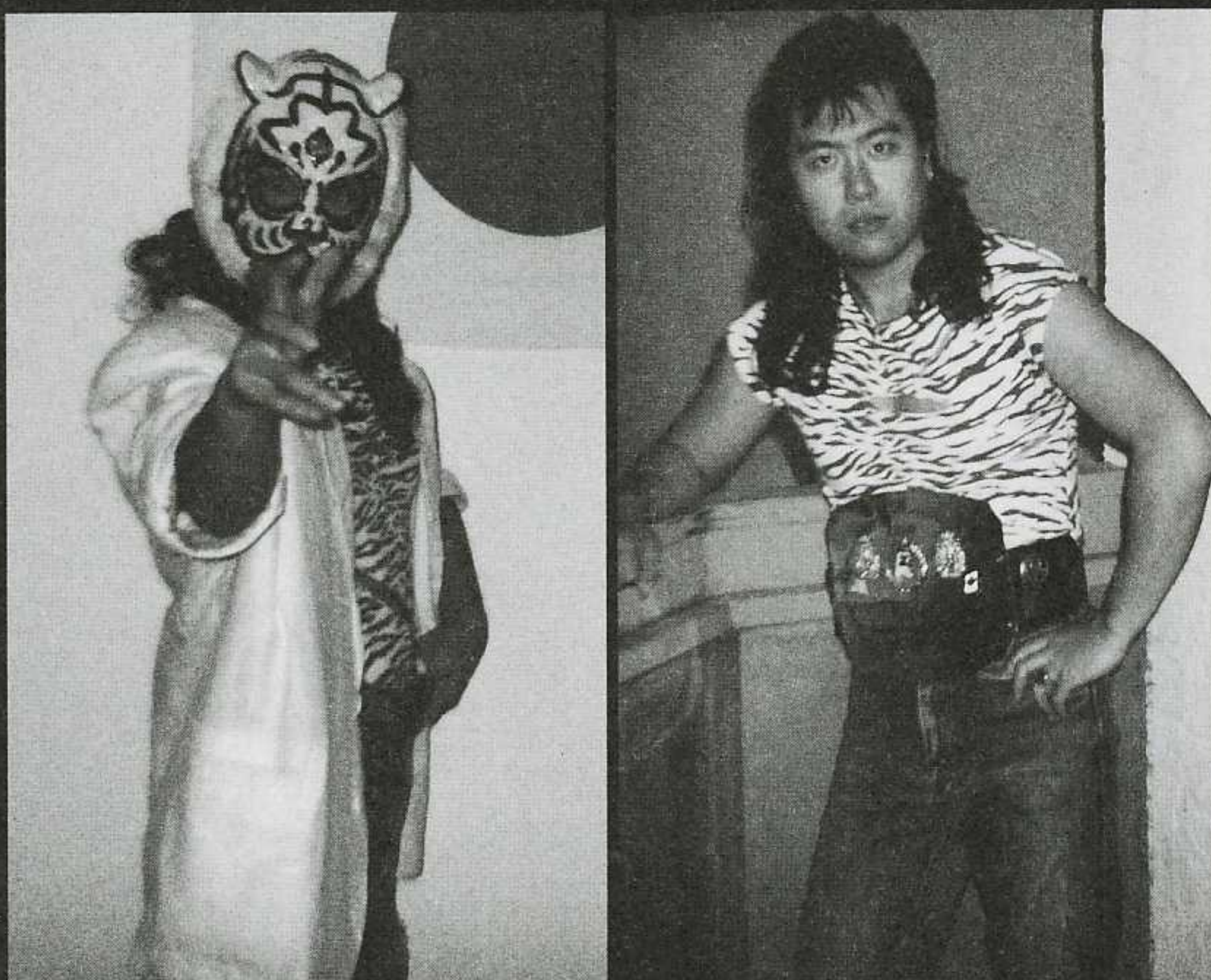
リッキー　金本（浩二）さんより早かったですから。非公式の〝裏〟3代目タイガー

でしたね（笑）。

——試合スタイルは、佐山さんみたいなスタイルだったんですか？

リッキー　いや、それはあえて意識しないようにして、安達さんに習ったレスリングでやってましたね。そしたらしばらくして、会場で子どものファンに「おまえ

は、あのダイナマイト・キッドと試合したタイガーマスクなのか？」って聞かれて。もう言葉に詰まっちゃって「いや、違うよ。俺はあのタイガーと同じ虎の穴から来た、別のタイガーマスクなんだよ」って話をして。

——さすがに「俺があのタイガーマスク

これが当時のリッキー・フジと、ルーザー・リーブ・タウン・デスマッチで敗れる前の「タイガーマスク」。微妙にインチキ感が漂うタイガーがじつにインディーらしい。

だ」とは言えなかった、と。

リッキー　そんなことがあったから、プロモーターに「マスク被るのはいいから、とりあえず名前だけでも変えてくれ」って言って。で、次の日の試合で、リングに上がったら「ブラック・トムキャット」に名前が変わってましたね（笑）。

——虎からネコになりましたか（笑）。

リッキー　そうなったら自分の中でふっ切れて、タイガーマスクとはまったく関係なく、竹刀で殴ったり、小ズルいことをしたりとか。タイガーマスクの呪縛から解き放たれて、初めて自分のスタイル的なものが作られましたね。

——そこからは、しばらくカナダで闘って。

リッキー　そうですね。ただ、当時僕はハート一家がやっているスタンピート・レスリングにいたんですけど、アメリカからいっぱいレスラーが入ってきて、仕事がなくなってきちゃったんです。ちょうどそのときにレス・ソントンという選手に「仕事がないなら、こっちでやらないか？」って別の団体に誘われたんですよ。で、軽い気持ちでレス・ソントンがいる団体に行ったんですけど、そこでも「タイガーマスクをやってくれ」って言われたんですよ。

——またタイガーに再変身ですか。

リッキー　レス・ソントンが「俺は日本でタイガーマスクと名勝負をした。それをカナダでも再現する」とか言ってて。僕は心の中で「あんた、タイガーマスクにさんざんやられただろ、名勝負とはほど遠い」とか思ってたんですけどね（笑）。

——蹴りで失神させられてましたよね。

リッキー　でも、食いつなぐために「わかったよ」って、しばらくタイガーマスクを

やってたんですけど、やっぱりレス・ソントンの団体も下火になってきて。そしたら当時僕のマネージャー役をやってたフレッドっていう人間がいるんですけど、そいつが「この団体はもうダメだから、俺たちで新団体旗揚げしないか？」って言ってきたんですよ。自分で団体を持つなんて考えてもいないことだったんで「よし、プロレスを続けられるならやってみよう」って、そいつと二人でCIWFっていう独立団体を旗揚げしたんです。

——へえ、リッキーさんが独立団体を旗揚げしていたとは知りませんでした。

リッキー　で、フレッドに「初めだけでもいいからタイガーマスクでやってくれ」って言われてね（笑）。

——また言われましたか（笑）。

リッキー　「新しい団体で客を呼ぶためにはタイガーマスクって名前が必要だから」って。「じゃあ初めだけだぞ！」みたいな感じでやってたんですよね。その団体はカルガリーから車で1時間ぐらいの田舎町に作ったんですけど、レスラーがいないから、その町の身体の大きな連中に僕が教えて、レスラーに仕立て上げて。なんとか旗揚げまで漕ぎ着けたんですけど、入場料がタダだったにもかかわらず、集まった客が17人だったんです（笑）。

——17人！

リッキー　だから2戦目の前は、僕は宣伝のために四六時中マスクを被って、町の商店にポスター貼りに行くときもマスクを被って「貼らせてください」ってお願いしたりね。

——みちのくプロレス旗揚げ当時のサスケさんみたいな感じですね。

リッキー　ホントそんな感じですよ。そしたら、町の人たちが「おまえがやられる

RICKY FUJI
LIFE IS
ROCK N ROLL!!

カナダで独立団体を旗揚げしたけど第1戦は観客がたったの17人でした

ところを観に行くよ」みたいな感じで言ってくれたりして（笑）。旗揚げ2戦目で300人ぐらい入りましたね。その町って1500人しかいないんで、300人は大成功なんですけど。

——それは大成功ですね。

リッキー　それからは月一回のペースで興行をやってきて。そうこうしているうちに、スタンピート・レスリングがクローズしちゃったんで、いろんな人間がウチに来るようになったんですよ。それこそクリス・ベノワとか、ジョニー・スミスとか、いろんな選手が出るようになって。

——旗揚げ戦が17人だった団体に、カルガリーのトップクラスが集まり始めましたか。

リッキー　で、その頃、僕が「リッキー・フジ」になるきっかけがあったんですよ。当初はまだマスクを被ってたんですけど、ある日、ルーザー・リーブ・タウン・デスマッチっていう試合形式をやることになったんですね。

——「負けた人間は、その町を去る」という試合ですね。

リッキー　で、僕は負けたんですけど、試合前からマスクの下にペイントをしてて、負けたあと「わかった。約束どおりタイガーマスクはこの町から去る」って言ってマスクを脱いで、「だけど俺の素顔はリッキー・フジだ。もうタイガーマスクじゃねえから、この町を去る必要はねえ！　この町に残ってやるぜ、ハハハハハ！」ってやったんですよ。

——そして観客から「ブーッ！」みたいな感じですか。

リッキー　そうそうそう（笑）。

——それがリッキー・フジ誕生の瞬間でしたか。そこから、すぐにFMWに呼ばれたんですか？

リッキー　いや、もうちょっとあとですね。でも、日本から定期的に雑誌を送ってもらってたんで、FMWという団体が旗揚げしたことは知ってたんですよ。その雑誌を見てたら「FMWで有刺鉄線デスマッチ開催」みたいな記事が載ってて、フレッドに「日本じゃこんなことやってるよ」みたいな感じで見せたら、ブレッドがまじまじとその雑誌を見て、「ウチでもこれをやろう！」って（笑）。

——ガハハハハ！「パクろう！」と。

リッキー　その次の土地がレスブリッジっていう、酪農の農家が多い町なんですよ。だから、町の人間は有刺鉄線の怖さがわかるってことで「ちょうどタイミング的にもピッタリだからやろう」って言われて。「じゃあいいよ。誰にやらせる？」って聞いたら「クリスとジョニーにやらせよう」と。

——クリス・ベノワvsジョニー・スミスの有刺鉄線デスマッチですか！　凄いカードですね。

リッキー　だからもう、僕がクリスとジョニーに頼み込みに行ったんですよ。そしたら、クリスもジョニーも快く承諾してくれて、お客さんも大盛り上がりで大成功でしたね。で、そのあとぐらいにFMWから誘いが来たんですよ。当時、FMWには栗栖正伸さんが上がっていて、僕がお世話になった人が栗栖さんと知り合いだった関係で「一度日本に帰ってこい。FMWって団体に出てみろ」って言われて、「わかりました」って感じだったんですけど。正直、あんまり気乗りはしてなかったんです。

——あ、そうなんですか。

リッキー　ちょうどFMWのオファーがあったときに、僕とダイナマイト・キッドがチェーンデスマッチをやる試合が内定してたんですよ。

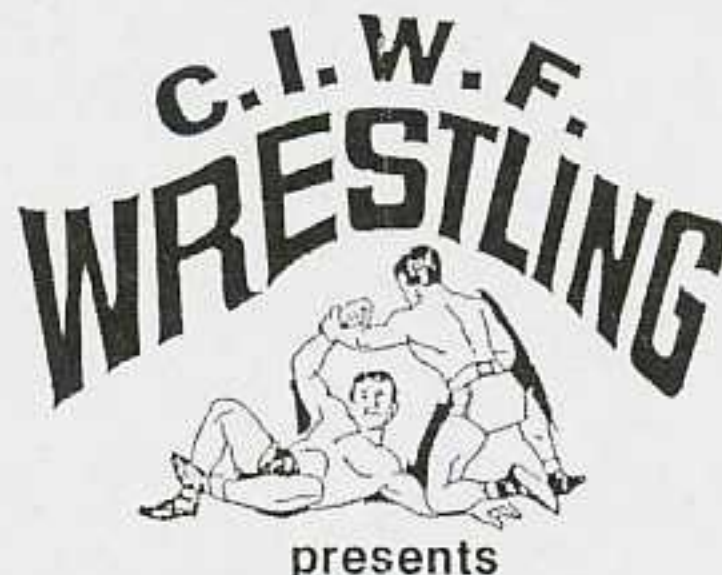
——へえ、それはビッグチャンスですね。

リッキー　でも、FMWに行くってことで、泣く泣くそれをキャンセルしたんです。で、一緒に団体をやってたフレッドには「こういうわけで日本に一旦帰るけど」って話したら「おまえにとってはチャンスだから、日本に行ってこい。こっちはなんとかなるから」みたいな感じで言ってもらって。当初はガイジンレスラーのように、1シリーズですぐにカナダに戻るつもりだったんですけど、結局、ずっとFMWに参戦することになっちゃったんですけどね。

——それは、やはりFMWが気に入ったわけですか？

リッキー　そうですね。それこそ初期のFMWって、自分たちで作り上げた独立団体CIWFにもの凄く似てたんですよ。

——なるほど（笑）。手作りな感じで。

リッキー　ホント、手作り感満載でしたよね。田舎に巡業回っても、お客さんは入ってなくて、ガラガラなところばかりでね。昔、大仁田さんがよく言ってましたけど、ストリートファイトマッチやったら、おばちゃんに「あんたらなんで服着て試合してんの？」みたいに言われたり、そんな世界でしたからね（笑）。まあ、そんな

C.I.W.F.
WRESTLING
presents
ROCKIN' & WRESTLING
"BIG BASH TOUR 1990"
MAIN EVENT
Death Match
with
DYNAMITE KID vs. BIFF WILLINGTON
SEMI WIND-UP
Texas Tornado Match
with
JOHNNY SMITH vs. SUMA HARA
☆ COMING SOON ☆
Junkyard Dog - The Killer Bees - Outlaw Ron Bass
Ken Patera - Big John Studd - Brady Boom
Plus Lethal Larry Cameron & The Angel of Death
FRIDAY, FEBRUARY 9th
at 8:00 p.m.
CARIBOO COLLEGE GYM
Admission: Adults - $10.75 Sen./Std. $8.75 Children under 6 free
TRANSPORTATION FOR WRESTLERS SUPPLIED BY TILDEN

リッキーの独立団体CIWFの貴重な当時のポスター。メインがダイナマイト・キッドvsビーフ・ウェリントン、セミはジョニー・スミスvsスモー・ハラ（北原光騎）と、意外と言っては失礼だが立派なラインナップ。クリス・ベノワの名前もある。

中で、みんなで力を合わせてやるのが楽しかったっていうのが、FMWに残った一番の要因ですね。

――リッキーさんの考えに合う団体が、たまたま日本にできていたわけですね。

リッキー　そうなんですよ。カナダでCIWFを経験して、帰ってきてみたら似たような団体が日本でも旗揚げされてて。僕が夜逃げした頃の日本は、ストロングスタイルだ、UWFだっていうのが全盛だったのに、「こんなに自由な団体があるんだ」って思いましたね。

――FMW的にもラッキーでしたよね。海外の独立団体を経験してきたリッキーさんや、ターザン後藤さんらが次々と集まって。

リッキー　そうなんですよね。いろんなタイミングが良かったんだと思います。なつかしいですよ。FMWは今年、旗揚げ20周年らしいんで、記念的なものをホントはやりたいんですけどね。

――FMWがなくなったあと、リッキーさんは飲食店で働きながらレスラーをやってたって聞きましたけど。

リッキー　そうですね、ライブハウスのカフェで仕事をしてた時代がありまして。

――あ、ピッタリですね（笑）。

リッキー　試合がないときはそこで仕事をしてって感じで。でも、そこで仕事してても、お客さんの中には何人か俺のこと知ってるわけですよ。「あれ、リッキー・フジさんですよね？　なんでここにいるんですか？」みたいな（笑）。

――それこそ映画『レスラー』ですよね。スーパーの惣菜売り場でランディ・ラムだってバレたりして（笑）。

リッキー　でも、ありがたいことに、チョコチョコ試合が入ってますからね。今月もけっこう忙しくて、12試合入ってるんですよ。で、来月ももう何試合か決まってますしね。

――日本全国、いろんな団体に出てるみたいですね。

リッキー　出てますね。北海道の北都プロレスにも定期的に出させてもらってますし。明後日は九州のFTOっていうローカルインディー団体に出場させてもらいます。

――まさに日本列島北から南まで出てるんですね。

リッキー　小さい団体でも、そこにリングがあると楽しいですからね。ホントに映画『レスラー』みたいな感じですよ。

――ロックミュージシャンなんかもそういう感じですよね。デカいアリーナでやる人もいれば、全国の小さなライブハウスで歌ってるベテランのミュージシャンもたくさんいるじゃないですか。

リッキー　自称ミュージシャンは、新宿界隈だけでごまんといるらしいですからね。レスラーどころじゃないですよ。僕も最近、チョコチョコ歌の仕事をしてたりするんですけど（笑）。

リッキーといえばロックンロール！ そのエアギターのテクには定評があり、『サマーソニック2006』のエアギター選手権に出場したこともあるほど。そのテクの片鱗は、現在も入場シーン等で見られる。

最後は「ロックンロール！」って叫んで死んでいきたいと思ってますね（笑）

――あ、ホントにロックンローラーとしての活躍もされてるんですか（笑）。

リッキー　ついこのあいだは、「プリズントーキョー」という東中野のライブハウスで、いま矢口壹琅さんのバンドと対バンというかたちで、一つのバンドとしてやらせてもらって。そのときに、5～6曲歌わせてもらいましたね。

――矢口さん、ギターテク凄いらしいですね。

リッキー　凄いですよ。だってあの人、バークレー音大出てますからね。

――リッキーさんは楽器は？

リッキー　僕はエアーです（笑）。

――ガハハハ！　なるほど。

リッキー　僕はエアギターで『サマーソニック』出てますからね。

――そんなレスラーもなかなかいないですよね（笑）。もちろん、これからもリング活動はずっと続けていくわけですか？

リッキー　はい、身体の続くかぎり。へんな話いま44歳ですけど、40すぎて自分の年齢がわからなくなりましたね。「あれ？　たしか今年44だよな？」みたいな感じで。

――まったく40すぎた気がしないというか、気分はずっとロックンローラーで。

リッキー　ホントそうですよ。『アンヴィル』っていう映画知ってます？　オヤジ連中がロックミュージシャン目指して、「俺たちは今年こそ売れるぞ！」みたいな映画なんですけど、僕もそんな感じでやってますよ（笑）。それこそ客が何十人であろうと、リングに上がりたいですね。プロレスはライブですから、そういったライブ活動をこれからも続けていきたいですね。

――レスラーもロッカーも生涯レスラーであり、生涯ロッカーなわけですね。

リッキー　そうだと思いますよ。だから引退はないです、僕には。

――ライク・ア・ローリングストーンで、生涯転がり続けていく、と。

リッキー　はい、転がり続けていきますよ。それこそ日本でもね、内田裕也しかり、矢沢永吉しかり、60歳超えた人たちが「ロックンロール！」って言ってるわけですから（笑）。それ考えると僕なんかホントまだまだこれからですよ。だから、これからもリングに上がり続けて、最後は僕も「ロックンロール！」って叫んで死んでいきますから（笑）。

【09年12月18日／横浜市「ライブハウス・スターシップ」にて収録】

RICKY FUJI LIFE IS ROCKN ROLL!!

りっきー・ふじ■1965年9月27日、千葉県出身。新日本プロレス練習生を経て、88年にカナダでデビュー。現地の独立団体転戦後、自らCIWFなる団体も旗揚げ。90年に帰国しFMWに参戦。FMW崩壊後は、日本全国のインディー団体に幅広く参戦中。173センチ、96キロ。

因果律？

魔裟斗、感動の引退試合に

な、なぜ高瀬フレーズ!?

とりあえず、お疲れさまでした!!

青木真也の悪魔劇場の話題が巷を席巻しているが、忘れちゃいけない『Dynamite!!』のメインは魔裟斗の引退試合だったんです。
悪魔王子が人間の毒をぶちまけた直後に見えた、魔裟斗の完璧なる引退試合――!!
垂れ幕の高瀬フレーズは気になるが、とにかく魔裟斗は最高だ!! 引退試合最高、人生超絶好調!

試合写真／乾晋也

魔裟斗のすべては テレビを通じて 万人に共有されていた

いったい、この完璧さはなんなんだろうと思った。

大晦日の『Dynamite!!』で行なわれた魔裟斗の引退試合である。すべての流れが完璧すぎた。

K-1MAXで優勝をはたし、翌年に引退発表。後継者候補であるHIROYAとエキシビションマッチを行ない、次は「周りが望む相手とやる」と川尻達也と対戦し、TKOで退ける。そして最後の試合は今年のMAXで優勝したジョルジオ・ペトロシアンに自ら対戦要求し、この一戦が相手のケガで不可能と決まると過去2戦して2敗のアンディ・サワーとの対戦に。そしてこの〝天敵〟に、最後の最後でリベンジをはたす。文句のつけようがないカッコよさだ。

サワーとの試合ぶりがまた素晴らしかった。引退を決めてから、この日に照準を合わせてきた魔裟斗のコンディションは最高だった。テンポよくパンチと蹴りを繰り出し、4ラウンドにはカウンターの右フックをヒットさせてダウンを奪う。その後の反撃にも耐え抜き、「足が動かなくなった」というほどパンチを食らいながら最終5ラウンドも前に出た。終盤はクリンチになる場面も多かったが、その泥臭い勝負へのこだわりも含めて、完璧な試合だったと言えるんじゃないだろうか。

そして試合後は、真っ先にタイ人トレーナーのヌアトラニーの手を挙げてたたえた魔裟斗。ヌアトラニーは、魔裟斗が全日本キックを離脱し、フリーとして明日の見えない活動を開始したときからの、苦楽をともにしてきた〝盟友〟である。この場面からも、魔裟斗の人間性が伝わってきた。最後は「来年もK-1は続きます。応援よろしくお願いします」と後進への配慮も忘れない。いやまったく、この完璧さはなんなんだろう……。

今回にかぎったことではなく、いつも魔裟斗の原稿を書くときは困るのである。通りいっぺんの〝魔裟斗賛歌〟ならいくらでも書けるのだが、自分なりの切り口を見つけて書こうと思うと、これがかなり難しい。格闘技界で最も書きにくい選手かもしれない。

もちろん、最初はそうじゃなかった。全日本キック時代や主戦場がK-1ワールドGP興行のワンマッチと『ウルフレボリューション』だった頃、それにMAXの前身である『K-1J・MAX』で闘う魔裟斗を書くことには苦労しなかった。〝こんなに凄い選手がいる〟〝コイツは絶対スターになる〟と、その魅力を伝えることに夢中

になれたのだ。

ただ、MAX世界トーナメントで優勝したあたりから、魔裟斗を書くことが難しくなってきた。なんて言えばいいのか、自分が見た魔裟斗と、ファンが見ている魔裟斗の姿にまったくズレがなくなってきたのだ。言い換えれば、魔裟斗は誤解されない選手、物議を醸さない選手になったということだ。ライターとしては、見方に誤解があったり、物議を醸したりする選手のほうが〝書きがい〟がある。

たとえば、こういうことだ。

魔裟斗のビッグマウスはあくまで本音であり、しかしそれを自分を追い込む材料にもしている。すなわちプロ中のプロ。言いたいことを言う一方で、誰よりも真剣にハードな練習に打ち込んでいる。倒す試合にこだわり、実際にKOを狙って常にアグレッシブな闘いを挑む。

そういう魔裟斗のパブリックイメージと僕の見方のあいだに、まったくズレがなかったのだ。だから原稿が書きにくいのである。

魔裟斗のすべては、テレビを通じて万人に共有されていた。その強さはもちろん喜びも苦しみも、すべてテレビや誌面で伝えられていた。そこに想像力を発揮して〝自分なりの切り口〟を見つけ出せるような隙間はなかったと言っていい。

『Dynamite!!』の煽り番組で、夫人である矢沢心がプレッシャーで眠れない夜をすごす魔裟斗の姿を振り返っていたが、それすら意外なものではなかった。単に「ああ、やっぱりそうだったんだな」と納得しただけである。

ただ、これは魔裟斗の個性が薄っぺらいとか、そういうことではない。魔裟斗は自分の考えていること、やろうとしていることすべてを自分で語り、あるいは試合で表現することができたということだ。

会見や公開練習、試合後のコメント、あるいはテレビで見ていても、魔裟斗が感情を隠そうとしたり、へんに取り繕おうとしている姿は見たことがなかった。本当なら隠しておきたいようなことでも、隠さない勇気があったということだろう。だからこそ、彼はK-1で70キロ級という新たなジャンルを開拓できたのだと思う。歪んだ功名心や妙なカッコのつけ方や、本音を隠して軋轢を避けることをしなかったから、魔裟斗はスターになれたのだ。

ファイターとして超一流の才能を持ち、超一流の努力をしてきた魔裟斗。だが、自分をさらけ出し、100パーセント表現しきるという点でも超一流だった。その生き方に、完璧で幸せな選手生活に、僕の文章でつけ足すべきことなど何一つない。

（橋本宗洋）

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○魔裟斗 vs アンディ・サワー×

（5R終了 判定3-0）

試合後、マイクを持った魔裟斗は「僕の人生はまだ50年あるんで、明日からまた新たな挑戦をしていこうと思います!」と今後も変わらず“挑戦”していくことを誓っていた。その後はリング上で引退セレモニーが行なわれ、最後には夫人でタレントの矢沢心さんから花束を受け取り、満面の笑みを浮かべながら、ボンバー森尾リングアナ（not高瀬大樹、黒田哲広）の「魔裟斗、最高〜ッ!」のコールとともに最後のリングをあとにした。

「マサトーーーッッッ！！」

2009年大晦日のさいたまスーパーアリーナは、確実に例年よりも「黄色い声」率が高かった。そして黄色い声の持ち主たちは、あきらかにいつもより着飾って、その多くは首に真っ赤なスポーツタオルをかけていた。

言うまでもなく、この日のアンディ・サワー戦で引退試合を行なう魔裟斗の応援のためである。「VIP席魔裟斗引退試合スペシャルシート」は10万円という高額、しかもK-1および魔裟斗ファンクラブ会員のみが対象にもかかわらずもの凄い勢いで売れまくり、当初予定の40席を急きょ100席に増設したものの即日完売！ この不況まっただ中の世で、である。また、1万5000円の「SS席魔裟斗応援シート」もヤフオクなどでプレミアがつくなど、近年まれに見るプラチナチケット状態。やはり、「たまアリ」のひさびさのスタジアムバージョンが超満員の観客で埋まったのは魔裟斗効果の影響が絶大だった。

そもそも魔裟斗といえば、そのルックスとK-1 MAX始動当初の「反逆のカリスマ」キャラで女性人気が爆発、いわゆる「イケメン格闘家」の元祖と言ってもいい存在だ。MAXの会場には、ウチワや横断幕などを振りながら絶叫する、ほかの格闘技会場ではまったく見られないような若いオネーチャンたちの集団……いわゆる「魔裟斗女」たちが集い、一種異様なムードを醸し出していた。

……と、書いてはみたものの、いわゆる「格闘セレブ」（すんげえ懐かしいな、この言葉も）揃いの本誌読者には、じつはピンとこないかもしれない。同じ時期、「本物の格闘技はこっちだぜ！」とばかりに、PRIDEの会場でヒョードルやミルコに野太い声援を送っていた連中には、「魔裟斗女」なんて南米のチュパカブラ並みに「噂は聞くけど見たことない」、UMA的な存在だろうからだ（というか、編集部的にそうらしい）。

では今回、DREAM vs『戦極』の対抗戦に石井慧のデビュー戦もあったりで総合ファンも多く集う中、噂の「魔裟斗女」の実態が見られるんじゃないか？ ということで、リング上の試合を尻目に応援シート付近に密着！ どの試合でどんな反応が起きているかを観察してみた。

午後3時のオープニング時には、すでにかなり埋まっていた魔裟斗シート一帯。さぞや女だらけの空間に……と思いきや、意外に男性の姿も見える。そして、男女を問わずその首にはやっぱり赤いタオルが。ヤザワファンか猪木信者かってぐらいのタオル率！ ちなみにこのタオル、てっきり応援シートの特典グッズなのかと思ったら売店で販売されていたグッズで、価格は2900円。開場から1時間あまりで完売したというからスゴイ！

その魔裟斗シートの観客たちの多くが動きだしたのは、第4試合終了後。次はK-1甲子園決勝というタイミングで、どうやらこの試合が「トイレ&食料調達タイム」に認定された模様……。この試合のあいだは、あの近辺も人はまばら。高校生たちに罪はないんだが、これも「魔裟斗二世」HIROYAくんが勝ち進んでいれば違ったかもしれない。

魔裟斗の試合時にはタオルをはじめ、ジャニヲタばりにお手製のウチワや横断幕を一心不乱に掲げる乙女の姿が。そして引退セレモニーでは「柔道最高!」、じゃなかった、「魔裟斗最高!」と書かれた巨大フラッグが出現!

魔裟斗以外なら所クンとKIDは観たい！ あとは観られれば……

このとき、通路にたたずんでいた「首にタオル」の女性を直撃！

「03年から魔裟斗さんのファンです。もう即行でチケット買ったんですけど、特典グッズはバッジだったんでちょっとガッカリ（苦笑）。ほかの試合ですか？ 所クンとKIDは観たい！ あとは……。（青木選手や川尻選手は？）うーん、観られれば観るかな……」

観られればって、会場にいるんだから観られるんですよ！ なるほど、やはり所英男、山本"KID"徳郁らは魔裟斗ファンにも認知度、人気ともに高いようだ。このへん、TBSの影響力の大きさが感じられる。

では応援シートの人たちは、DREAMと『戦極』の対抗戦にはどんな反応を示していたか？ 見ていると、男性ファンもそこそこいることもあってか、思ったよりはみんなリングに関心を寄せている。つーかまあ、決して安くない金額のチケットを買ってきているわけだし、そりゃイベント全体を楽しもうって人も多いわな。「魔裟斗の試合以外はロビーでダラダラ」的な感じは、そんなには受けなかった。

個々の選手への関心度が如実にわかるのが、入場時に掲げられるケータイ&デジカメの数。通路はけっこう遠いんだが、「知ってる選手は撮っときたい！」ってヤツだ。やっぱり所、KIDにはもの凄い数で、それ以外の選手たちはそれなり。このあたり

どこもかしこも魔裟斗がいっぱい！

スイーツ好きならマストバイのメモリアルチョコクッキー！ ポリポリ食べながらまーくんのスイートメモリーに浸ること請け合いの一品。すぎ去った優しさもいまは甘い記憶……。

引退記念品を手に入れようと、グッズ売り場にはアントンがこの時期行なう新宿中央公園の炊き出しばりに黒山の人だかりが！ やっぱり引退は商売になるというか、ムフフフ。

特別入場ゲートまで用意されていたVIP席。そして特典にはなんと魔裟斗の直筆サイン入りK-1 MAX専用公式グローブ！ これは将来的にプレミア化確実、いざ「なんでも鑑定団」!?

会場の入り口周辺には、ジャンルを越えて愛されたスター・魔裟斗の門出を祝うべく多数の花束が。ちなみにご友人である坂田亘さんのお名前は見あたりませんでした。

【“反逆のカリスマ”引退記念企画】

徹底検証!? 熱狂的ファン“魔裟斗女”は実在するのか？

「うわ〜ん！　うわ〜ん！　魔裟斗が引退しちゃったよ〜（号泣）」
どうやら巷にはこの大スターがリングを去ることで深い悲しみに暮れる、
「魔裟斗女」と呼ばれる熱狂的ファンが存在するとかしないとか。
そこで今回は会場で“魔裟斗女”の実態(?)を調査しちゃいましたよ！

文／高崎計三　構成／鈴木佑

はほかの客席も一緒だったかもしれないが、違ってたのは青木真也と川尻達也の人気度。青木のときと比べて、川尻のほうが「ケータイ支持率」は高かったのだ。

一瞬、「ナゼ？」と思ったが、答えは言うまでもない。会場にいた魔裟斗ファンの言葉を借りれば、川尻は「一度、魔裟斗くんと闘った選手だから」なのである。なーるほど。

それでもセミぐらいまでは、魔裟斗グッズ売り場、女子トイレにはやはり長蛇の列。男子トイレも時間によっては列ができていたものの、その混み具合には「メインに備えてるからね、アタシたち」的な空気が充満！

それがあからさまに見えたのが、メインの直前だ。時間が押してどうなることかと思われた大会進行も、セミまで3試合が怒濤の秒殺続きで一段落。メイン直前になってようやく、初の休憩がとられた。

といっても時間はたったの5分。これはどう行動するか迷うところだが、この時間は男子トイレのみが激混み！　対照的に、それまであれだけ列ができていた女子トイレはガラガラという、わかりやすすぎる状況だったのだ。

そしていよいよ迎えたメイン。入場ではもうみんな叫ぶやら写メるやらで大騒ぎ。試合中もウチワやらサイリュームやらを手に、ときには絶叫に近い声援を送り続けるファン御一同様。魔裟斗がダウンを奪った場面では声援のトーンも最高潮だった。判定勝ちを収め、引退セレモニーになっても叫びは止まらない。引退挨拶こそ魔裟斗のフランクさ爆発で涙全開とはならなかったが、閉会式を前に花道を逆行した魔裟斗の背中が消えるまで、誰一人席から動こうとはしなかった。

余韻に浸ってるところを悪いなーとは思いつつも、そんなファンの女性たちを捕まえてまた直撃。

「この日のために横断幕もウチワも自作してきました！　04年からファンで、もう今日は『おつかれさま』の一言です！　でも、ファンになってからはほかの格闘技も観るようになってたので、今日はほかの試合も楽しみましたよ。これからも格闘技観戦には来ます！」

もう一人の女性ファンは……。

「03年にファンになったんですけど、いまはブァカーオも好きだから、これからも観にくると思います」

確かに、いわゆる「魔裟斗女」は実在した。だが彼女たちは、魔裟斗を入り口にほかの選手や総合方面にも、確実に興味を広げていたのだ。「魔裟斗女」はこの大晦日を最後に、もう会場に足を運ばないのではないかという心配は無用だったようだ（ま、そういう人もけっこういるにはいるんだろうけど）。自分の力でファンを掘り起こし、そして格闘技のおもしろさを教えてくれた魔裟斗はやっぱり偉大だったってことか。じゃあやっぱり、あの巨大フラッグばりにこう叫ばずにはいられないじゃないか。

「魔裟斗最高！」

まーくん、あなたのまぶしい笑顔を忘れない……

“青い悪魔”の出現は
開会式の暗示だった!?

2010年日本マット界の行方も直撃!

7時間半興行

2009年Dynamite!!大総括インタビュー

DREAMイベントプロデューサー

笹原圭一

7時間半にもおよんだ長い長～い大晦日興行。
今回はDREAMと戦極の合体を含め、試合前からドタバタ劇が繰り広げられたが、
“青い悪魔”の件をはじめ、大会自体にもさまざまな事件が勃発。
笹原EPはいったいこの大晦日をどう見たのか!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

―長かったですね、昨日の『Dynamite!!』は。7時間半興行。
笹原　ホント長かったですよね。
―進行も凄かったですよね。17試合もあるのに一度も休憩がなかったですし、煽りVも飛ばされた試合があったりして。
笹原　青木選手とゲガール・ムサシの試合順も変わりましたし。あれは、魔裟斗選手の引退試合が最悪オンエアに間に合わないかもしれないから急きょ変更したんです。
―ということは、藤田和之vsアリスター・オーフレイム、ムサシvsゲーリー・グッドリッジの試合が長引くようだったら、先に魔裟斗の試合をやって、『やれんのか！』のときのように青木がメイン差し替えになった可能性もあった、と。
笹原　そうです。だから魔裟斗の感動のエンディングのあとに、青木真也劇場があったかもしれないということですよね……。
―史上最悪の年越し!!（笑）。しかし、なんでそんな事態になったんですか？　タイムスケジュールに何か計算違いがあったということですか？
笹原　計算違いは、思ったよりも花道が長かったんですよね。
―そ、そんなの計算しといてくださいよ！（笑）。
笹原　ホントにそのとおりなんですけど（笑）。それと、試合が判定続きだったということだったのかなあ。前半はほぼ判定だろうという予想でスケジュールは組んでたんですけど。まあ、そもそも試合数が多いってことが根本にありますから。で、石井慧vs吉田秀彦の試合をこの時間までにやらないといけないと決められていたのが20時ぐらいだったのかな。

DREAM軍が3連敗したときはリングサイドで観てられなくなった

―え～、吉田vs石井が行なわれたのは21時すぎ。完全にアウトですね（笑）。
笹原　ねぇ。1時間以上も押してたんですよ。だから、本来であれば、NHKの『紅白歌合戦』が中断されてニュースが流れる21時またぎのところに石井vs吉田をぶつける予定だったんですけど、間に合わなくてKIDvs金原（正徳）になって。
―まだ視聴率の結果は出てませんが、去年も一昨年も瞬間最高は21時またぎになってますよね。
笹原　瞬間最高はおそらく魔裟斗選手でしょうけど、『Dynamite!!』で一番ハッピーだったのは金原選手ですよ（笑）。所英男もそうですけど、ZSTの選手は大舞台で不思議な運を持ってますよね。
―今回って、K-1ファンとMMAファンの客層はばらけてたじゃないですか。しかもスタジアムバージョンで会場が大きいこともあって、会場が一体になる瞬間ってなかったですよね。
笹原　なかったですね。ビックリするぐらいなかったです。
―そう考えると、あの広い広い会場で毎回一体感を出していたPRIDEって凄かったんですね。
笹原　ボクもそう思いました。開会式にしても選手が客席とかいろんな場所からバラバラと出てきてたじゃないですか。ファンが「どこにいるの？」って選手を探しているうちに次の選手が出てきたりしたこともあって、ちょっと一気に盛り上がるような一体感が生まれなかったですよね。
―あのオープニングで『翼をください』の合唱がありましたけど、その選曲はどこからきてるんですか？

マヌーフの猛打をモロに食らってロープ際に倒れ込んだ三崎。レフェリーはこの時点で試合をストップさせたが、三崎が戦闘不能であると判断するにはあきらかに早かった!?

笹原　エヴァンゲリヲンですね。
―ああ、やっぱり。倒した使徒を食い散らかす青木真也というエヴァンゲリオンが誕生したけど、あの開会式が暗示してたのかなって。
笹原　なるほど。でも、あれこそ「最後のシ者」ならぬ「最後のシンヤ」ですよねぇ。
―"青い悪魔"の話題は長くなるのであとに回しますけど、笹原さんは『戦極』との対抗戦に負けたら切腹するとおっしゃってましたよね？
笹原　会見のカコミ取材のときにシャレで「負けたら切腹しますよ」とか言ってたら、ホントに活字になってるんでビックリしましたね（笑）。
―ネタだったんですか（笑）。でも、坊主になるというのは本気で言ってたんですよね？
笹原　まあ、そのくらいはおもしろいかなあと思って。でも、DREAM軍がいきなり3連敗したじゃないですか。最初はリングサイドで観てたんですけど、もう観てられなくなって！
―え～!?　坊主になることもおいしいと計算したうえでの発言じゃないんですか（笑）。
笹原　いや、もちろんそういう側面もあるんですけど、あるんですけど！　でもねぇ……。実際に試合を観てると対抗意識って芽生えてきますよ。負けてくれるなと思いますよ！　だから、そこは演じてるところと本当の気持ちが入り混じってきますよね。負けるとやっぱり「コノヤロウ!!」ってなりますよ。
―思わず中指を立てたくなりますか？
笹原　（猛然と）それは人間としてありえないですけどね！
―そうですか（笑）。
笹原　で、3連敗に腹が立って、観てられなくなって運営本部に戻ってたんですよね。それで桜庭（和志）さんと一緒にモニター観戦してたんですけど、そこからDREAMが勝ち始めたので、験を担いで運営本部で観てたんですけど。
―その対抗戦の中で、三崎和雄vsメルヴィン・マヌーフはあきらかにミスジャッジだと思うんですけど。
笹原　ストップが早かったということですか？
―そうですね。ソクジュvsミノワマンも早かったじゃないですか。今回は対抗戦もあったので、レフェリングやジャッジでへんな遺恨を残すのはよくないから、早めのストップ設定なのかなって。
笹原　それはないですけど、ボクは早いと思わなかったですけどねぇ。
―それはDREAM側の人間として意識はあるんじゃないですか？
笹原　いや、そういうことじゃなくて。まあ、三崎和雄というゾンビ系ファイターからすると「ここからが勝負だろう」という気持ちはあったと思うんですけど、あの展開はレフェリーが止めてもしょうがないと思いますよ。やっぱりレフェリーの中には、マヌーフvs桜庭の残像のほうが、三崎選手がゾンビのように復活してくるイメージより大きかったというのもあるでしょうし。
―でも、三崎選手が抗議する気持ちもわかるわけですよね？
笹原　いや、それはもちろんわかりますよ。だって三崎選手もそうです

けど、どの選手も「まだ闘える」って言いますもん。

——今回のムサシ戦のグッドリッジもアピールしてましたからね。どの口が言うかって感じですけど（笑）。裁定の結果次第では、再戦はDREAMで行なわれたりするんですか？

笹原　うーん、いいんじゃないですか、べつに。

——つ、冷たい（笑）。

笹原　それこそファンがもう一回観たいと思うかどうかですよ。

——でも、ミスジャッジだったら再戦は組まないといけないんじゃないですか？

笹原　もちろん。なので抗議文をもらって、たとえばそこで何か非を認めて再戦を行ないますということはあるかもしれないですけど。

——今回、三崎さんの試合ってマッチメイクが急だったじゃないですか。谷川さんはツイッターで、誰とは明言しませんでしたけど、選手がゴネてるみたいなことをつぶやいてて。かつて秋山成勲のケースは完全にゴネてたわけですけど、運営の都合でドタバタしているのに選手がゴネてるという雰囲気を出すというのは主催者としてどうなんですか？

笹原　いや、よくないと思いますよ。だからボクは谷川さんのツイッターを、パンの話以外は信じるなって言ってるんです！　読者の皆さん、谷川さんにダマされちゃダメですよ!!

——ダハハハ！　まあ、都合がいいことしかつぶやいてないですよね。

笹原　そもそも、「ゴネる」というと一方的に選手が自分の主張を押し通してるというふうに受け取られるんですけど、当然選手には試合への思いや都合があるわけじゃないですか。それをゴネるという言葉にしちゃうとちょっと乱暴かなという気がするんで「交渉している」というのが正しい表現だと思うんですけど。三崎選手にしても、あのタイミングでマヌーフ戦を受けるって、やっぱり相当覚悟がいったと思いますし。

——その中で川尻達也と青木真也が対抗戦の出場にゴネてるというふうに受け取られがちでしたけど。

笹原　あの二人は全然ゴネてないですよ。

——でも、『戦極』の横田（一則）選手から「相手がゴネて〜」という発言がありましたし。

笹原　横田選手にどんなふうに話が伝わったのかはわかりませんけど、二人はゴネてないですよ。こっちはもともと青木と川尻でライト級のタイトルマッチを組みましょうという話になってて、そうすると廣田選手と横田選手が対抗戦に出られないじゃないですか。

——あの二人を川尻達也と青木真也が迎え撃つのが理想的ですよね。

笹原　だから廣田選手と横田選手で『戦極』のタイトルマッチを『Dynamite!!』でやるという話もあったんです。ただ、『戦極』さんからすると、「廣田vs横田のカードは3月の『戦極』のメインカード。年末に組むなんてそんなもったいないことはできない」ってことなんですよ。

カード発表会見から横田に対して怒りを露わにしていた川尻。試合も横田に何もさせない冷酷な闘いを淡々と繰り広げたが、最後の最後で横田と握手を交わす場面はじつに川尻らしさが浮き出たシーンだった。それに対して……。

戦極とのパワーゲームの影響を受けてたのがたまたま青木と川尻

——『Dynamite!!』なんかにやらせてたまるか、と。

笹原　それはこっちの都合と『戦極』さんの都合があったわけじゃないですか。それ以外でもいろいろ交渉というか、パワーゲームがあるんで、その影響を受けてたのがたまたま青木と川尻だった、と。だから二人がゴネてたわけじゃないんですよ。

——あくまで主催者側の都合。

笹原　そうそう。だって青木、川尻って本人たちが望んでるかどうかわからないですけど、彼らは対抗戦の象徴じゃないですか、あきらかに。だから『戦極』からしたら青木選手や川尻選手がいない対抗戦ってどうなんだって話になるんですよね。

——青木vs川尻のタイトルマッチが内定して対抗戦に出ないとなった時点で、『戦極』サイドから強烈なクレームが入ったという話も聞きましたけど。それはたとえば二人を対抗戦に出さないんだったら、石井vs吉田は『Dynamite!!』でやらないぐらいの話もあったんですか？

笹原　そういうニュアンスに近い話も耳にしましたけど、それって普通の交渉だし、駆け引きですからね。べつになんとも思いませんけど。

——結局、そういう裏事情込みで対抗戦出場になったことに青木真也が怒っているというのは業界の中にいるとわかるんですけど、ファンにはわかるような、わからないような。

笹原　どうしてそこまで怒ってるんだってことですか？

——そうです。青木が事前の記者会見で怒ったことによって対抗戦がおもしろくはなったんですけど、「親のメンツ」を持ち出すのは理由としてわかりづらいなあって。

笹原　確かに「親のメンツ」って話になると、そもそもボクらと青木真也の関係の成り立ちを理解していないと、わからないでしょうね。

——青木真也は主催者の意向を汲みすぎてる感じはよくも悪くもするんですね。そこは青木真也が背負うことになんの問題もないんですけど、プロの表現としてファンには理解しづらいんじゃないかな、と。

笹原　どうなんだろうなあ。まあでも青木真也の本心の中にはやっぱり育ててもらったボクらに対する感謝というのがあった。その一方で怒りに火をつけるための動機づけという側面もあったのかもしれないです。

——ちなみに会見で青木さんは「笹原さんたちが刺しにいけと言うなら刺しにいきます」と言ってましたけど、本当に「刺しにいけ」って言ったんでしょうか？

笹原　これはべつに青木選手に対してだけでなく、対抗戦に出る選手には、こういう言い方で発破をかけてま

すからね。その意味で言えば、全員に言ってるってことなんでしょうけど。
――ボクが思うに、DREAM関係者が怒ってる、川尻達也も納得していない。そういう周囲を見ていたら、本人はポーズで怒ってるうちに本気になってしまったという。
笹原　そうそうそう（笑）。青木真也がいま本気で怒れるのは自分の仲間を傷つけられたときだと思うんですよ。それで自分の怒りにスイッチが入ったら暴走しちゃったという。まさしくエヴァンゲリヲン並みに。
――「こ、これが青木真也の本当の姿」という感じで。
笹原　川尻選手もあの試合を控室で観てたらしいですけど、セコンドの人たちと「試合後の挑発はヒドすぎる」って口をポカンと開けて観てたらしいですよ。みんなドン引きだったって。
――最低ですよね。でも鳥肌立っちゃうんですよ。なんなんすかね。
笹原　好き嫌いは分かれるんでしょうけど、格闘技の殺気や凄みはありましたよねぇ。
――笹原さんとしては、相手の腕を折ってしまったことにはどう思われるんですか？
笹原　真剣勝負である以上、そこは青木真也を責めることはできませんよね。レフェリーが止めるか、セコンドがタオルを投げるか、選手本人がタップするか。そこで青木選手が手を緩めたり、レフェリーにストップを催促する必要はまったくないです。もちろん、青木選手もパンチを食らって失神するまで殴られる可能性だってあるわけですから。

笹原圭一
2009年Dynamite!! 大総括インタビュー

「刺しにいけと言われたら刺します」という言葉どおりの精神（?）で廣田の腕を締め上げた青木。すでにこの行為だけで観る者を狂気の世界に誘った青木だが、そこからさらに凄いことになるとは……。とんだデビルマン！

――もし青木が催促してストップがかかったら、それはそれで大問題になったでしょうね。
笹原　でも、試合後の挑発に関しては許されることではありません。どんなに挑発し合っても試合後はノーサイドで終わらないといけませんよね。そこは反論の余地はないです。
――『戦極』側の反応はどうだったんですか？
笹原　直接聞いてないんでわからないですけど、やっぱり中指の件は怒ってるんじゃないですか？　普通に。それに向こうのチャンピオンが出てきて、ほぼ攻防ゼロで完封された。川尻選手の試合にしても、彼は8割ぐらいがスタンドでの攻防になると予想してんですけど「思ってたより押さえ込めました」って言ってたんですよ。「それって考えてみると、JZカルバンとか、エディ・アルバレスとやってきた経験値があったからこそ」と言ってましたよ。「JZとかアルバレスってやっぱり強いんだな」って。
――川尻選手ってシャオリンやブスカペという難敵も完封してるわけですからね。
笹原　そういう経験値があるから、今回はモチベーションを作りづらい中で、しっかりと勝つことができる。あらためて川尻達也は相当強いんだなって感心しました。
――今回の川尻選手はつまらない試合とか言われがちですけど、ボクはメチャクチャおもしろかったんですよね。あんな“冷たい試合”はMMAで観たことない。相手の光を消しまくる、ただ無情に。
笹原　確かに冷たい試合でしたけど、あの冷たさはムチャクチャ色気があったと思いますよ。
――でも、試合が終わったあとは健闘をたたえ合ったじゃないですか。「そこも冷たく突き放せば完璧なのに」と思ったんですけど、その数時間後にやっぱり川尻達也が正しいと思い直す最悪の事件が起きました（笑）。
笹原　ハハハ。でも、試合後のあの二人の態度が性格を物語ってると思いますよ。だって、それこそ大会が始まる前は川尻達也のほうが怒ってたわけじゃないですか。それがねぇ、実際やってみたら川尻選手は「ありがとう」ってたたえ合ってね。
――スポーツマンシップですね。青木選手には何かペナルティはあるんですか？
笹原　厳重注意を与えます。重大なマナー違反ということで。
――人間的に大人になってほしいというのは？
笹原　それはもちろんそうですけど。
――考えたんですけど、格闘技における対抗戦って初めてじゃないですか。で、4勝4敗で大将戦で決着というその極限状態。
笹原　凄いプレッシャーあったと思いますよ。そして試合前にあんだけ噛みついてますし。だからこそ試合であいうふうに爆発したんだと思うんですけど。
――でも、その爆発の仕方が地上波向きかといえば……。
笹原　だから青木真也は地上波の子じゃないですよ（苦笑）。
――でも、FEGやDREAMがやってることって世間に投げる側面もあるじゃないですか。で、昨日の前半は凄くつまらなかったですけど、K-1甲子園にしても、結果的に流れませんでしたけど西島洋介の試合にしても、あれはあれで世間向きのソフトということですよね、ホントに世間に届いてるかどうかはともかく。で、DREAMにもそういった側面が求められる中で、青木真也という存在をどう考えてるんですか？

3月のDREAMで 階級を超えた夢のカード実現!!

1月1日に行なわれた『Dynamite!!』一夜明け会見の場で笹原EPは、今年一発目のDREAMを3月に行なうと発表。さらにウェルター級、フェザー級において、いままで階級の違いで実現しなかった超ド級のカードが実現するということだ。まだ具体的な名前は挙げられないとのことだが、勝手に推測すると、ミドル級、ライト級あたりのビッグネームが階級を落として参戦するということか!?　とにかく目玉カードに期待しましょ〜。

あの凄みや緊張感を出せるのは青木真也の個性でしょうけど……

笹原　やっぱり格闘技には、光と影がなくちゃだめですよね。格闘技の凄みとか怖さとかは絶対に必要だと思いますから。だから青木真也は影担当ということなんじゃないですかね。あの凄みや緊張感を出せるのは青木真也の個性でしょうけど、今回の試合で地上波向きじゃないというのをさらに決定づけたという。

――でも、結果的にようやく世間が青木を認知した感じはありますけどね。凄くよくない届き方かもしれないですけど（笑）。

笹原　あ〜、あまりにショッキングすぎて？

――ええ。だって放送されたのは、1年間で一番テレビを観る人間が多い大晦日ですよ？　青木真也はもはや「狂気の腕折り魔」として認知されてますよ。

笹原　狂気も突き抜ければ芸になるんであれば、プロのあり方としては全然OKでしょう。

――でも、いまの時代ってすぐバッシングされるから、そこは気にしないんですか？

笹原　そこは気にしないです。だから試合後の挑発行為自体はもちろん厳重注意ですけど、それ以外のところで言いますと、べつにこうしろとかああしろとか全然ないですよ。

――この件はまだ尾を引くと思いますし、語るとキリがないので次の話題に。石井vs吉田はいかがでした？

笹原　逆にどうでした？

――吉田秀彦の老獪さ、負けられない必死さはおもしろかったですよね。でも、試合は普通につまらなかったと思う人は多いでしょうね。

笹原　まあでも、やっぱり予想どおりというか、ああいう試合になるよねって、運営本部で話してました。石井選手だけの話でいうと、昨日の試合で経験が足りないというのはわかったわけじゃないですか。だからもっと経験を積ませるべきだと思いますけどね。それこそ小見川選手とかも最初は勝てなかったんですよ。経験を積んで何試合かするとコロッと変わるじゃないですか。もともとの身体能力があるんで、ハマると圧倒的に強くなる可能性があると思うんですけど。

――石井選手がDREAMに上がる可能性はあるんですか？

笹原　というか、こっちは全然関知できないところなんで、『戦極』なのか石井選手のマネージメントなのかわからないですけど。

――『戦極』との交流というのは続くんでしょうか？

笹原　いまのところ具体的なプランはないです。

――吉田道場さんとの関係は？

笹原　いや、べつに大丈夫じゃないですか？

――じゃあ、吉田選手がDREAMに上がるというのもありえる話ではある、と。

笹原　全然問題ないと思いますね。

笹原圭一
2009年Dynamite!! 大総括インタビュー

べつになんのしがらみもないと思いますよ。吉田道場は『戦極』に上がる可能性もあるでしょうし。だから現時点では何も決まってないですね。大晦日終わっていろいろ清算事があるんで、この先のことがどうなっていくのかわからないですけど、もしまた対抗戦をやるんだったらもっとちゃんとテーマを決めてやらないとダメですよね。ベルトを懸けるとか、もっと絞り込んだテーマの中でやらないと。でも、対抗戦にならない理由は、『戦極』の選手に〝『戦極』ラブ〟がないんですもん。

――試合としてはおもしろいけど、対抗戦としてはどうなんだろう？　という試合はありましたね。

笹原　そう。だからあの対抗戦が吉田道場vsDREAMだったらまだ燃えたと思いますよ。いや、ホントに対抗戦は疲れました、舞台裏の交渉を含めて。いつもの大晦日より疲れました。大人の争いの中にいたので、K−1甲子園の清々しさに心が洗われたなって。

――それにK−1甲子園の選手は中指を立てませんしね（笑）。

笹原　やっぱりね、スポーツマンシップに則るというのは大事なことですよ（笑）。

――青木真也はこれからはK−1甲子園の試合開始のように「主審に礼！」「お互いに礼！」して闘ってもらいたいですね（笑）。

笹原　そうです！　ストライクフォースとか言ってる場合じゃないですよ。青木真也はK−1甲子園から出直しさせましょう!!

――んあ〜！　谷川校長はそんな問題児の転校は絶対に許さないでしょうけど……。

【10年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

平均視聴率は民放1位の16.7パーセント 瞬間最高視聴率は吉田vs石井に!

民放1位奪取達成……か!?

12.31『Dynamite!!』視聴率の結果は上の見出しのとおり。もっと細かく言うと1部は11.8パーセント、2部は16.7パーセント、そして3部は10.6パーセントという結果となり、昨年敗戦を喫した『ダウンタウンのガキの使いやあらへんで!!　絶対に笑ってはいけないホテルマン24時!』(日本テレビ系)の1部15.4パーセント、2部16.4パーセントを、2部のみわずかながら上回るかたちとなった。ついでに言うと、『紅白歌合戦』(NHK)は1部37.1パーセント、2部40.8パーセントと圧勝!　凄すぎる。

この結果を受けて"格闘技界の視聴率王"サダハルンバは、民放1位を奪ったといえども満足してない様子。「結果的に『紅白』と日テレの『ガキつか』をあまり崩せなかったのは、残念でなりません。数字的には、非常に悔しいです」とコメントしている。吉田vs石井、そして魔裟斗引退試合という武器をもってしても"世間"の壁は厚かった……!?

そして気になる瞬間最高視聴率だが、なんと吉田vs石井の24.3パーセントが最高に。笹原EPの本インタビューでは、NHKがニュースに入るいわゆる"21時またぎ"のときには吉田vs石井が間に合わず、KIDvs金原が放送されていたという話だが、それでも最も数字を獲ったのは吉田vs石井という結果に。

サダハルンバのツイッターによると吉田vs石井と魔裟斗の試合で30パーセント超えを狙っていたようだが、もし吉田vs石井を21時またぎに放送していれば……ということが非常に悔やまれる。

そのあたり、新年一発目の『kamipro』No.143でサダハルンバに詳しくお話をうかがう予定なので、ぜひそっちも注目せよ!

『kamipro』だけが熱視線!?
2010年はこの男に大注目!!

文／阿修羅チョロ　撮影／乾晋也

ニーハオ、ジャパン！

戦極のスーパーハルクがどさくさにまぎれて『Dynamite!!』にも登場!!

ニーハオ！　オレの名前はリュウ・トクリ。まずは簡単に自己紹介をしよう。出身は中国、身長208センチ、体重125キロ、鍛え上げた肉体が自慢の29歳。残念ながらメダルは獲れなかったが、レスリングの北京オリンピック代表で、ここ最近はMMAデビュー戦に向け猛練習中なんだ。『Dynamite!!』ではスーパーハルクの決勝で闘ったミノワマンとソクジュに花束を渡したんだけど、視聴率もよかったと聞くし、二人より背も高くマッチョなオレはかなりインパクトを残したんじゃないか。えっ、地上波でオレの姿は映ってなかったの？（しょんぼり）。

まあでも、11月の『戦極』でオレが参戦表明したのは知ってるだろ？　あのパフォーマンスは自分でも満足してる。ただ残念なことに出る気満々だった大晦日の大会は中止になってしまった。そこで目をつけたのが『Dynamite!!』さ。

オレにピッタリなスーパーハルクもあるし、DREAMとの対抗戦も始まるって聞いて〝戦極のスーパーハルク〟としてはいてもたってもいられなくなってね。ミノワマンとの超ハルク対決や石井慧との北京五輪対決とか夢が膨らむぜ！

……その可能性は低いって？　じゃあ、どうなるんだよ、オレのデビューは！（シャツを破り捨てマッスルポーズ）。

なに、FEGの谷川代表がツイッターでオレのことをつぶやいてる？　なんて言ってんだ、なう。「（質問）あの中国人は来年DREAMに出るの？　SRCでも使いづらそう」「（谷川）安田会長次第」。

そういうことか。オレはいつでもいけるように出撃準備を整えておくんで、ボスからの連絡を待ってるぜ！　ツァイツエン!!（※中国語で、また逢う日まで）。

※『Dynamite!!』のバックステージでたまたま遭遇し、トイレの天井に頭をぶつけて痛がっていた表情があまりにもインパクトがありすぎて、ボクの初夢にまで登場したトクリさん。この原稿はその際の会話をもとに書かれた妄想です。あしからず。

【ゆでたまご先生認定】

超人強度40万パワー

ミノワマン

ソクジュを倒し スーパーハルクトーナメントを制覇した“超人”が語る

夢と健康と結婚

超人を追求し、無差別級での闘いをライフワークとしてきたミノワマンのための企画ともいえる「スーパーハルクトーナメント〜世界超人選手権〜」。この大会でサップ、ホンマン、そして『Dynamite!!』で行なわれた決勝戦ではソクジュを左フックでKOし、見事、初代王者に輝いたミノワマン。また一歩“超人”に近づいたミノワマンを『Dynamite!!』の一夜明け会見で直撃!

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

ミノワマン　皆さん、今日はお酒とか飲まれてたんですかね？

―ミノワさんは会見にちょっと遅刻したので間に合いませんでしたけど、新年一発目の会見ということで今日はシャンパンで乾杯したんですよ。

ミノワマン　あ、そうでしたか。なんかみんな飲んでるような気がしたので。

―遅刻の理由はなんだったんですか？

ミノワマン　ちょっと服を何にするか迷いすぎて遅れました。申し訳ありません。

―いえいえ。その結果、選んだのがいま着ているナイキのウェアですか？

ミノワマン　さんざん迷ったあげく、昨日と一緒です（微笑）。

―あ、そうでしたか（笑）。そのウェアは、かなりお気に入りなんですか。

ミノワマン　これが好きなんですよ。今年の冬の自分のベストファッションなんで。一番着やすいというか。

―非常に似合ってると思います。ソクジュとの激闘から一夜明けたわけですが、先ほどの会見では、「ベルトがほしい」と笹原（圭一）EPに盛んにアピールされていましたね。

ミノワマン　やっぱりベルトがあったほうがお客さんにもわかりやすいと思いますし、自分にとってもわかりやすいと思いますので、お願いしてみました。

―わかりやすいと思います（笑）。ミノワさんってベルトは巻いたことがあるんでしたっけ？

ミノワマン　ブラジルでブラジルスーパーファイトミドル級チャンピオンになって、そのときに一応ベルトはもらいました。いまは実家にあるんですけど。

―ベルト願望って大きいんですか？

ミノワマン　それはタイミングだと思うんですけど、やっぱりほしいですね。ここ最近、キン肉マンと闘ったり、超人を追求していくうえでスーパーハルクトーナメントっていうかたちになって、なんとか優勝できたので。その証しとしてベルトがいただければな、と。もしかしたら、少年たちが無差別級っていうスーパーハルクのベルトを見て、未来の目標になったりしたらいいなって思いまして。

―今回のトーナメントは準決勝のホンマン戦も昨日のソクジュ戦も、ぶっちゃけ、「勝つのは難しいんじゃないか」って声もあったと思うんですけど、そういうのは感じたりしてました？

ミノワマン　はい。最後もたまたま放ったパンチで勝つことができたので。正直、運もよかったかなとは思っています。

―まあ、運も実力のうちだって言いますしね。実際、優勝して「超人に近づいたな」という実感というか、自信のようなものは出てきました？

ミノワマン　まだまだ超人という領域までは達してないですね。ただ、これからも超人を追求していかなきゃいけないなっていう気持ちは凄く強くなりました。

―でも、超人界の入り口ぐらいには到達できたんじゃないですか？

ミノワマン　そうですかね？　超人という基準は人によっていろんなイメージがあると思うんで。それが……、え〜〜〜〜〜〜、すいません。

―ど、どうされました？

ミノワマン　またしても、さっきの現象が（苦笑）。

―先ほどの会見でも、試合のダメージもあって、脳の伝達が遅くなっているとおっしゃっていましたが（笑）。

ミノワマン　はい。脳神経の伝達がちょ

[09.12.31 Dynamite!!]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
◯ミノワマン vs ソクジュ×
(3R 3分29秒 KO)
得意の足関節を何度か仕掛けたミノワマンだったがフィニッシュまでには至らず迎えた3R。ゴング後から互いに見合ってしまいイエローカードが2枚出されるも、その直後に突進したミノワマンは右ストレートからの左フックでソクジュをKO、初代ハルク王者に輝いた。

っと遅れてますね。

――これまでの闘いの歴史でダメージの蓄積もあるでしょうし。

ミノワマン　あるでしょうね。これまで13年間やってきて、いろいろケガとかもありましたし。そういうのもあって去年のテーマは「健康第一」っていうのを目指してやってきて、今年もやっぱり、一番大事なのは「健康第一」だなって思っています。

――間違ってはいないと思います(笑)。

ミノワマン　強くなるには「健康第一」というのが一番の基本だと自分の中で気づきましたので。今年も最大のテーマは「去年よりももっと健康第一」です。

――そ、そうですか(笑)。何か具体的な健康法とかあります?

ミノワマン　そうですね。いろいろとあるんですけど、基本は食事だったり、早く寝ることですね。

――何時ぐらいに寝てるんですか?

ミノワマン　去年ぐらいから、基本的には12時にはふとんの中に入るようにしてます。以前はひどいときは4時とか5時に寝てたので。

――完璧な夜型だったんですね?

ミノワマン　夜型のときもありましたし、朝型のときもありましたし、夜中の12時ぐらいにウェートとかトレーニングをしたりして興奮して眠れなくなったり。一日の生活リズムがバラバラだったので。

――ご自身のブログでも報告されてましたけども、昨年、結婚されたことも大きかったりするんですかね?

ミノワマン　あ~~~、結婚してから変わったというのはあると思います。健康面だったり食事面だったり、そういったところも気づかされたというか。結婚というのは自分の中でも大きなことでしたね。

2009年のミノワマン テーマは健康第一!?

[09.10.6 DREAM.11]
神奈川・横浜アリーナ
◯ vs チェ・ホンマン×
(2R 1分27秒 ヒールホールド)
スーパーハルク準決勝では身長で約45cm、体重は約80kg差のホンマンと対戦したミノワマン。序盤からホンマンの打撃に苦しめられたミノワマンだったが、2Rに執念のテイクダウンに成功。最後は必殺のヒールホールドを極めるとホンマンはタップ、決勝進出を決めた。

[09.5.29 キン肉マニア2009]
東京・JCBホール
× vs キン肉マン◯
(タイム非公表 キン肉バスター)
サップ戦から3日後、本名の美濃輪育久として憧れのキン肉マンと対戦したミノワマン。"ベルリンの赤い雨"や掟破りのキン肉バスターを繰り出し健闘するも、最後は本家キン肉バスターでフォール負け。敗れた美濃輪だったが、試合後は満足げな表情を浮かべた。

[09.5.26 DREAM.9]
神奈川・横浜アリーナ
◯ vs ボブ・サップ×
(1R 1分15秒 アキレス腱固め)
念願の無差別級トーナメント、1回戦は約55キロの体重差のサップと対戦したミノワマン。開始早々、サップが巨体で押し潰しグラウンドに持ち込むも、体勢を入れ替えたミノワマンは得意の足関節を仕掛け、最後は本人いわく「フロント逆エビ固め」で秒殺勝利!

[09.4.5 DREAM.8]
愛知・日本ガイシホール
× vs 柴田勝頼◯
(2R終了 判定0-3)
ミノワマンの09年一発目のMMA戦は柴田勝頼とのプロレスラー対決。1Rに得意の足関節で勝利寸前まで持ち込んだミノワマンだったが、2Rに柴田のジャーマンを食らったのも影響し、無念の判定負け。柴田はこの試合がMMAデビュー戦以来、約2年ぶりの勝利となった。

自分にとっては対抗戦というより世界の超人たちと闘っていきたい

――ミノワさんってプライベートについてはミステリアスな部分が多いんですが、どんな方と結婚されたのかなっていうのは非常に興味があるんですけど（笑）。

ミノワマン　まあ、そこはミステリアスな感じでお願いします（微笑）。

――わかりました（笑）。で、スーパーハルク優勝ということで、大好きな『キン肉マン』にたとえると、超人強度的には何万パワーぐらいになったと思います？

ミノワマン　あ〜〜〜、え〜〜〜、う〜〜ん、……どうなんですかねぇ。

――また脳神経の伝達に問題でも？（笑）。

ミノワマン　それもあるんですけど、非常に難しい質問ですね。経験値って部分では上がったんじゃないかなって思うんですけど、超人強度……。ちょっと考えさせてもらってもいいですか？

ソクジュとのスーパハルク決勝戦の前に花束贈呈を行なったのが"戦極のスーパーハルク"ことリュウ・トクリ。五輪レスラーにして208cm、125kgの巨体を誇る中国の大巨人にはミノワマンも興味津々。対戦はあるのか？

――はい。ゆっくり考えてください。

ミノワマン　ウォーズマンが100万パワーで、キン肉マンが95万パワーなので。……自分は40万パワーとかですかね？

――たしかミートくんが50万パワーなので、それよりも下になりますけど。

ミノワマン　いや、それぐらいじゃないですかね。でも、それって、ゆでたまご先生が評価されることだと思うので、確認を取らないとまずいんじゃないですか。

――では、ゆでたまご先生にも確認を取っておきます。

ミノワマン　お願いします（※後日、ゆでたまご先生から40万パワーということで正式に認定される）。

――でも、去年を振り返ってみると5月のキン肉マン戦っていうのは、かなり大きかったんじゃないですか。

ミノワマン　大きかったですねぇ……（しみじみと）。キン肉マン戦もそうですし、2009年はプロレスもやりましたし、いろいろと新しいことに挑戦した年でしたね。あとは、やっぱり「健康第一」です。

――基本は健康第一、と（笑）。キン肉マンとは、また闘ってみたいですか？

ミノワマン　チャンスがあればゼヒ闘いたいです。29日の金曜日が「キン肉マンの日」ってことなんですけど、今年は2回来ますからね。

――すでにチェック済みなんですね（笑）。

ミノワマン　はい。1月と10月、2回あるので。何か動きがあるんじゃないかなとは思ってますけど。

MINOWAMAN

みのわまん■本名・美濃輪育久。1976年1月12日、岐阜県出身。少年時代からプロレスラーに憧れ、97年にパンクラスでデビュー。その後PRIDEを経て現在はDREAMを中心に活躍。『Dynamite!!』一夜明け会見では笹原EPにスーパーハルクのベルト新設を執拗にアピールし、根負け（?）した笹原EPは「一応、検討します」と語っていたが、はたしてどうなるんでしょうか!?　175cm、85kg。

――「健康第一」以外に、2010年の目標は何かありますか？

ミノワマン　やっぱり、超人的な試合をしたいですね。超人を追求していくうえで、超人的なファイトで、超人的なファイターと闘っていきたいですね。

――試合が終わったばかりですけど、誰か闘ってみたい超人はいます？

ミノワマン　何人かは頭の中にあるんですけど、それは昔から思っていることで。いまはまだ具体的に名前は出せないですね。タイミングもありますし。

――昨日の『Dynamite!!』ではDREAMと『戦極』の対抗戦も始まったわけですが、対抗戦というのはどう思われます？　パンクラス時代にはグラバカとの対抗戦で大活躍されてましたけど。

ミノワマン　対抗戦って意味では、やっぱりDREAMの選手を応援してましたけど、自分にとっては対抗戦というより、世界の超人と闘いたいと思っています。

――世界の超人といえば、ソクジュ戦の試合前に"中国の大巨人"から花束を受け取っていましたよね。

ミノワマン　はい。凄いデカい選手でしたよね。彼はなんの選手なんですか？

――中国のレスリングのオリンピック選手ですね。11月の『戦極』の両国大会で参戦表明をしたんですが、まだMMAデビューはしていないです。

ミノワマン　もしかして自分が対抗戦をやるんだったら彼だったんですかね？

――可能性は高かったでしょうね（笑）。

ミノワマン　そういった世界の超人には興味がありますね。それに中国にはラーメンマンやモンゴルマンもいますし。

――リュウ・トクリ選手はラーメンマンと同じく2メートル8センチあるみたいですから（笑）。

ミノワマン　へぇ〜。中国といえば、最近、蛇拳や酔拳の動きもトレーニングに取り入れているので、自分の中でちょっと引っかかるモノがありますね。

――まあでも、リュウ・トクリ選手にかぎらず、スーパーハルク優勝ということで、世界からいろんな超人が対戦の名乗りを挙げてくるんじゃないですか。

ミノワマン　まあ、そのためにもゼヒ、ベルトを作っていただければと思います。

――やはり、ベルトは重要だと（笑）。

ミノワマン　はい（微笑）。あとはやっぱり「健康第一」で、「昨年より一つ強く」という目標を持って、これまで以上に超人を追求していきたいと思ってます。

――では、2010年も期待してます！

【10年1月1日／都内・某ホテルにて収録】

なぜ青木真也は完勝し 石井慧は完敗したのか？

8時間テレビ解説席に座っていた男が
バックステージの地べたに座って解説!

髙阪 剛

全18試合、8時間にもおよんだ大晦日の『Dynamite!!』。
そのほとんどの試合で、テレビ解説を行なったTKに
大会直後、さらにインタビューまでお願いしてしまった。
なぜ石井慧は吉田に勝てなかったのか、なぜ青木は
あれだけ簡単に廣田をテイクダウンしたのか。
プロフェッショナル解説者が解き明かします。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

青木のテイクダウンは、どちらかというと金網のテクニックなんです

—髙阪さん、長時間のテレビ解説が終わった直後で恐縮ですが、場所がないようなのでバックステージの通路で、地べたに座りながらインタビューお願いします（笑）。

髙阪 ちょっと、この扱いってどういうこと？（笑）。まあ、いいや、やりましょう。何からしゃべりますかね？

—とにかく試合数が多かったんで、まずは髙阪さんが一番印象に残った試合から語ってもらいたいんですけど。

髙阪 一番印象に残ったのは……俺は郷野だな。

—ほう、郷野選手ですか。

髙阪 郷野はホントに試合がうまくなったなっていうのを感じましたね。最後、マッハが引き込んだところを中腰の体勢からワンツー入れてすぐにパスしましたよね。あれは最初からパスをする流れでパウンドを打ってるんで、もう総合の試合のやり方っていうのを熟知してる人間にしかできない動きなんですよ。

—そしてサイドポジションというか、いわゆる〝マット・ヒューズポジション〟に入りましたよね。

髙阪 そう。脚で左腕を殺して、パウンドを入れて。あの体勢だと、マッハは脚で挟まれた左腕を抜くために、どうしても身体を左に返すので、右手が留守になっちゃうんですよ。その留守になった右腕を郷野は十字で極めたんだけど、それもマッハがどう動くか予測済みの動きだったんで。これもまたMMAでの試合のやり方を熟知してないとできない。パスしてから、あそこまでがワンセットなんですよね。

—パス→マット・ヒューズポジション→パウンド→腕十字の流れで一つの技というか。

髙阪 そう。こういったワンセットのピースを、展開の中でいくつもつなぎ合わせて試合を作っていく。それが現代のMMAなんですよ。郷野の動きは〝総合格闘技の試合を観た〟って気にさせてもらいましたね。

—では郷野選手はUFCで戦績こそふるわなかったものの、着実に力をつけて帰ってきたわけですね。

髙阪 今夜の試合の作り方が、いまの郷野本来の姿なんでしょう。

修斗の〝同期生〟であり自分のはるか先を走っていたマッハを、自分のスタイルで破った郷野。今年のウェルター級はこの男を中心に回っていくのか。

—では、続いてDREAM vs SRC対抗戦ですけど、大将戦である青木vs廣田からいきましょうか。

髙阪 あの試合は、最初のタックルで決まりましたね。

—あのテイクダウンディフェンスに優れた廣田選手が、あっさりと倒されちゃいましたよね。

髙阪 あれはね、両足タックルなんだけど、コーナーポストに押し込んで、片方の手で相手の足首をつかんで引き倒すからテイクダウンができる。どっちかっていうと、金網でのテクニックなんですよ。

—リングではなく、ケージで有効な技ですか？

髙阪 そう。廣田はタックルを見切るのがうまいんで、普通はなかなか倒せないんだけど、青木はコーナーに追い込んでいきましたよね？ タックルを切るには、廣田が足をうしろに下げなきゃいけないんだけど、コーナーを背にすると足を下げられないんですよ。要は金網と同じ状態にさせられた。それで青木に足首を取られてしまった。

タックルで片足を抱えた青木は、そのまま廣田を押し込んでコーナーへ。これによって廣田が足を引けない状況を作り、テイクダウンに成功したのだ。

—あ～、なるほど。

髙阪 だから、廣田のディフェンスに対する青木の攻撃の仕方っていうか。そのへんが凄くうまかったですね。

—そして倒してからは独壇場でしたね。

髙阪 そうですね。青木は倒してすぐに廣田の腕をうしろに抱えましたけど、あれは腕が長い青木だからああいうことができる。しかも、青木はグリップも凄く強いんで、外れないんですよ。あれだけグリップが外れないっていうことも、廣田は予測できなかったんじゃないかな。

—そして、片腕をうしろに固定したままマウントパンチを落として、最後はその腕をねじ切るように極めてしまいましたね。

髙阪 あれは厳しかったですね。完全に脱臼したと思いますよ（試合後、上腕骨骨折が判明）。あの相手の動きを制圧するやり方は、いわゆる逮捕術に近いですよね。ここにきて警視庁での経験が活きたのかわからないですけど。

—ヴォルク・ハンの技みたいでしたよね。

髙阪 もうコマンドサンボチックな、戦場で相手を仕留めるような。

—禁じ手にしなきゃいけないんじゃないかって思うくらいの。

髙阪 寝技のスパーリングをしてると、たまにああいうかたちになったりはするんですけど、試合であれが技として完全に極まるのを見たのは生まれて初めてですね。ビックリしました。

—しかも、あの体勢から腕十字みたいなかたちで、もう一回ひねりましたからね。

髙阪 ちょっとありえないですね。いま頃、アメリカのMMAマニアたちのあいだで「ニッポンの神秘だ」みたいに騒がれてると思いますよ。もう〝アオキ・アームバー〟とか〝アオキ・トルネード〟とか、そんな名前がつけられてるんとちゃうかな。ただ、とにかく廣田の具合が心配ですね。

—靭帯とかいってたら相当ヤバいですよね。

髙阪 でも、脱臼していたら、少なからず靭帯いっちゃうんで、心配ですね。廣田もどうしてもタップはしたくなかったんだろうし、気持ちはわかるんですけどね……。

—それだけお互い負けられない試合だったんでしょうね。川尻vs横田戦でも、あれだけ勝ちにこだわる川尻選手の姿からそれが感じられましたけど。

髙阪 そうですね。

—廣田選手同様、横田選手もテイクダウンディフェンスに優れた選手なのに、あれだけ倒されるのは初めて見ました。

髙阪 あれもね、ポイントは序盤にあったんですよ。川尻が組んできたところを、横田が外掛けで倒そうとしたじゃないですか。あれは横田の得意のパターンなんですけど、川尻はそれを身体のバネとパワーでねじ伏せてポジションを取ったんです。

—上のポジションを取りましたよね。

高阪　あれでたぶん横田のほうは、組み合ったときの試合のやり方っていうのを変えざるをえなくなったんじゃないですかね。ほとんど倒れるってとこまで横田は取りかけてたんで。でもそれが倒せず逆に上になられた。川尻にとっては、あれが先手となりましたね。

――そこからは、終始川尻ペースでしたよね。

高阪　ただ、横田の攻め込ませないうまさも見えましたけどね。ポジションを取られるけど、最悪の状況にはならないという。

――一本取られそうな気はしませんでしたもんね。川尻選手について言えば、横田選手のスタンドでのトリッキーで速い動きに対応できていたのが大きかったと思うんですが。

高阪　あれは対応したというより、気にしなかったのがよかったんですよ。横田の動きに惑わされてしまうと術中にハマッちゃうんだけど、川尻は横田がどんな動きをしようとも気にしないで、とにかくタックルで倒してポジションを取るっていうやり方を徹底するために、間を与えなかった。

――ヒット&アウェーを全然嫌がらなかったですもんね。

高阪　うん。だから、川尻は自分の試合をやりきった感じですよね。横田相手にそれができるのが、川尻の強さだと思いました。

――あと前半で目立ったのは、高谷vs小見川戦での小見川選手の覚醒ぶりなんですけど。

高阪　小見川は強くなりましたね。

――まさか高谷選手相手にパンチで

これが川尻vs横田戦のポイントとなった序盤の攻防。柔道出身の横田が、外掛けからテイクダウンを狙ったが、川尻が抜群のバランスとパワーで逆にポジションを奪ったのだ。

石井は総合でパンチを当てることの難しさを痛感したと思います

完勝するとは思いませんでした。

高阪　たぶんテイクダウンに対する圧倒的な自信があったからこそ、前に出続けることができたというか。小見川ってどっちかっていうとジャブで距離をとるというより、中に飛び込んでいく、いわゆるインファイトを好むタイプでしょ？

――そうですね。逆にインファイトでいきたいのがバレバレだったため、これまでは足を使われたり、カウンターを入れられたりしてましたよね。

高阪　うん、そうですね。

――でも、今回の高谷戦は、普通の打撃の距離で堂々と打ち合ってました。

高阪　だから高谷のほうは小見川の距離よりもちょっと長い距離でKOを狙ってたんですよ。ところが、小見川が躊躇なく踏み込んでいくから、その距離にさせてもらえなかったってことですよね。お互いの距離の設定が違うからこそ、自分の距離がとれた小見川が勝ったんだと思います。

――でも、小見川選手がストライカーである高谷選手相手に、自分の距離をとれるようになったっていうのは、凄いことですよね？

高阪　ようやく自分と相手との距離感がわかるようになったんでしょう。小見川はテイクダウンという武器があって、しかもそれはタックルではなく、パンチも出せる距離からの外掛けであったり、腰投げ系の技。だからあの距離は、小見川にとっていろんな攻撃が出せる、やりやすい距離なんですよ。

――自分の柔道技が活かせる、打撃の距離をつかんだ、と。

高阪　もうね、試合ってそこをつかむかどうかなんですよ。小見川はそれができるようになったんで、あとは、それとはまったく違った距離の設定をもう一つできるようになれば、かなりいいとこまでいくと思いますね。

――で、次はいよいよ大注目だった吉田秀彦vs石井慧戦ですけど、この試合もまさに高阪さんがいま言われたスタンドの距離が勝敗を分けたと思いますが。

高阪　そうですね。だから石井自身、この試合で総合格闘技で闘うっていうことの入り口だけは見えたんじゃないかと思いますね。試合で人と殴り合うとどうなるかっていうのは、実際やらなきゃわかんないし。パンチって思った以上に当たらないもんなんですよ。けっこう腕を伸ばしてストレートを打ってるつもりなのに、相手の10センチ以上手前で拳が止まってたりね。そういうもんなんですよ。

――そしてパンチが思うように当たらないと、焦るし疲れるし。

高阪　だから顔面にパンチをねじ込むっていうことが、凄く大変なんだっていうことを今日の試合で痛感したと思います。

――石井選手もこの1年、パンチの練習は相当してきたと思うんですけど、やはり試合はまったく別なんですか？

高阪　別ですね。たとえばボクシングだったら、他人に習うかたちっていうのは、あくまでもベーシックな状態なんですね。パンチの打ち方にしても、「身体はここまで回転させる」とか、石井もそこはしっかりできてましたけど、実際リング上でお互いが動いてる状態で相手の顔面にパンチを当てるっていうのは、まず不格好でもいいから当てるってことを最初に考えないとダメなんですよ。

――基礎を崩してでも、対応しなき

じつに老獪な闘いぶりで、17歳年下の石井に完勝した吉田秀彦。ただ、デビュー戦を引き受けたことからもわかるとおり、石井の成長をうながすかのような闘いでもあった。

なぜ青木真也は完勝し石井慧は完敗したのか?

石井は今日の試合を自問自答して早く〝総合格闘家〟になってほしい

やいけない、と。

高阪　2ラウンドの中盤以降の石井からはそれが見えだしてたんですよ。大振りでもかまわないから、とにかく顔面に一発当ててやるっていうのが。そこがヒントだと思う。

――吉田選手は逆に、石井選手のそういう心境が手に取るようにわかったのか、老獪でしたよね。1ラウンド後半なんか「このラウンドはまだ石井のパンチは当たらないから、ちょっと流そうか」くらいに見えたんですけど。

高阪　あれができるのは、試合と練習で積み重ねてきたものと、秀彦の強さなんですよ。秀彦は決して天才肌ではないんですけど、見たものとか習ったことを、自分なりに消化して身につけることに関しては、ずば抜けた才能を持ってるんです。だから、石井と闘いながら、ちょっとずつ自分なりにアジャストしていくみたいな。そういう闘い方ができたんでしょうね。

――石井選手も2ラウンドの最後には、グラウンドで上になって、すぐさまパスガードして。ああいった動きからは、本来持った実力の片鱗が見えた気がするんですが。

高阪　そうですね。だからこそ、2ラウンドがもうちょっと時間があれば、その先を見たかったですよね。言ってしまえば、あそこまでは練習どおりの動きができると思うんですよ。でもそこから極める、パウンドでKOするとなると、話が変わってくるんで。だから、試合で相手を倒すというのはどういうことなのかっていうことを考えさせられる試合だったんじゃないかな。

――なるほど。石井選手にとっては課題というか、成長するための材料が山ほどあった試合だった、と。

高阪　でも、それは秀彦が相手だったからこそ、見えたんだと思いますからね。もし相手が最初からアリスター・オーフレイムとかだったら、えらいことになりますよ!

――何がなんだかわからないうちに終わってしまった可能性が高いですよね。

高阪　もう「ホワーイ?」でしょ。だから秀彦が身をもって何かを伝えてるような、自分にはそういうふう見えたんですよね。「向かってこい!」っていうような姿勢で。秀彦のほうから打ちにいってても、もちろん倒しにいってるんですけど、でも「返してこい!」っていうようなね、そういうふうに自分は見えたんですよね。それを石井が感じることができたかどうかっていうことですよ。現時点では、その真意が何かはわからなくても、この先この試合が石井にとっての教科書になるでしょうね。あのときこうすればよかったとか、なんで俺はあのときこういう打ち方をしなかったんだとか、自問自答したり、悔しがったりしたらいいと思います。強くなるためにはそれが大事なんですから。

――でも、石井選手は相当悔しいでしょうね。

高阪　悔しいはずですよ。だからそういうのも含めて勉強ですよね。期待を込めて言うならば、これは今後の石井のための相当いい材料を持った試合だったんで。でも、石井はまだ総合格闘家にはなりきれてないんで、早く本当の総合格闘家になってほしいなと思いますね。

――わかりました。それにしても、吉田選手にしても、石井選手にしても、そして青木選手や小見川選手にしても、なんか柔道のトップクラス出身の格闘家って、どこかほかの選手とはひと味違う狂気性というか、〝鬼〟の部分を内包している気がするんですけど、これはなぜなんでしょうね?

高阪　そう感じますか?　柔道出身の自分からすると、いたって普通の人たちですけどね。あのクラスまでいってる柔道家って、そんな人たちばっかりだから(笑)。

――ああいう人たちがゴロゴロいる世界(笑)。

高阪　ただ、やっぱり総合格闘技っていうのは、選手の人間力がモロに出るんだなって今回つくづく思いましたね。たとえば秀彦は、柔道だけの姿だったら、「技が切れて強い選手」だけのイメージで終わってたかもしれない。でも、ああやって、歯を食いしばって、ボロボロになりながらも向かっていく姿を見せるわけじゃないですか。そういう人間臭さを人に伝えられるのが総合格闘技なんでしょうね。リング上では、いろんな意味で選手を裸にしてしまうんだと思います。

――だからこそ、プロフェッショナルな総合格闘技のテレビ解説者がときたま技術解説を放棄してしまうことがある、と(笑)。

高阪　ホントに今回も秀彦と石井の試合は、途中から半ば解説放棄でしたからね、申し訳ないけど。インカム投げ捨てようかと思ったから(笑)。

――では、今年もそれぐらい熱くなる試合と、熱のある解説を期待しております!

【10年12月31日/埼玉・さいたまスーパーアリーナのバックステージで地べたに座りながら収録】

判定が告げられたあと、右手で顔を覆った石井慧。総合格闘技の難しさを知った石井は、この悔しさをバネに、どう成長するか。敗れたからこそ、今後に注目したい。

『kamipro』読者、『kamipro Move』ユーザーが選ぶ

kamipro AWARD 2009

どこかと違って某脚本家の意向は一切絡まない、ファンが選んだ「kamipro大賞」を発表！　2009年もいろんなことがあったが、終わってみれば、青木真也がベストもワーストも独占！　年末から年始にかけてのアンケートなので、大晦日に票が集中しがちではあるが、これはある意味、快挙だろう。

構成／堀江ガンツ

MVP

ベストとワーストを同時制覇！

“悪魔王子”青木真也

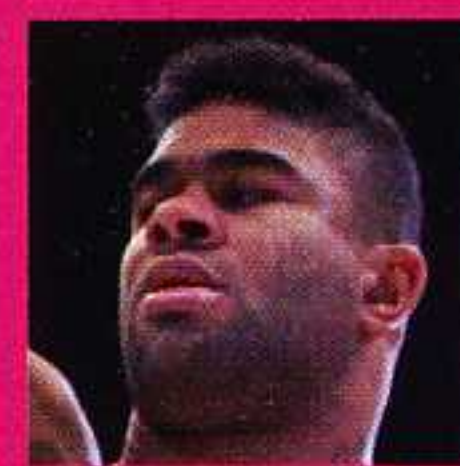
3冠王達成!!

青木真也　874P

MVPは賛否両論男、青木真也！　2009年は「ハロー・ジャパン！」に始まり、マッハ戦では秒殺失神負け。さらに「ムエタイっておもしろいでしょ〜」発言、そして最後は腕折&中指と年間を通して物議を醸しまくったが、DREAMライト級のベルトを腰に巻き、対抗戦の大将戦を圧勝で制したその実力は、やはり頭一つ抜け出している。2010年は川尻との頂上対決、さらにはアメリカ進出も噂され、世界規模で物議を醸していくに違いない。2位は皇帝ヒョードル。アルロフスキー、ロジャースという難敵を右ストレート一撃で返り討ちにする実力は、すでに神がかっている。全米放映デビューでますます、その存在が巨大化した1年だった。3位は川尻達也。JZカルバンを下し、魔裟斗と殴り合いを演じ、横田一則に完勝した2009年は評価とともに知名度も上げた。4位は戦極フェザー級GPで覚醒した小見川。以降は怪物的強さを見せたアリスター、最強で引退した魔裟斗、K-1の主役バダ、リングに命を捧げた三沢さん、弁慶に一本勝ちのサク、“ハルク”を制したミノワマンと続いた。

2 エメリヤーエンコ・ヒョードル　285P

3 川尻達也　280P

4 小見川道大　191P

5 アリスター・オーフレイム　119P

6 魔裟斗　85P

7 バダ・ハリ　56P

8 三沢光晴　40P

9 桜庭和志　31P

10 ミノワマン　28P

BEST BOUT

青木真也vs廣田瑞人

342P

(12.31 Dynamite!! さいたまスーパーアリーナ)

DREAMvsSRC対抗戦の大将戦であり、腕折り&挑発行為で物議を醸した青木vs廣田が1位。これを「ベスト」といっていいのか、またまた物議を醸しそうだが、2009年を代表する衝撃的な一戦であったこと、また青木真也の恐ろしいまでの強さが見えた一戦であることは間違いない。2位はなんとストライクフォースのヒョードルvsロジャース。海外で行なわれた試合ながら、CBS全米放映とともに日本でも無料ネット生中継が行なわれたことで、多くのファンを興奮させた。3位は“悪魔王子”青木が先輩に“シメられた”マッハ戦。青木はDREAMライト級王座を奪取したハンセン戦も4位に入り、やはりよくも悪くも2009年の顔だったことがわかる。魔裟斗vs川尻、バダvsアリスターというK-1ルールでの他流試合もランクインした。

2 エメリヤーエンコ・ヒョードルvsブレット・ロジャース
(11.7 STRIKEFORCE/米国イリノイ州シカゴ郊外 シアーズセンター)
265P

3 桜井“マッハ”速人vs青木真也
(4.5 DREAM.8/日本ガイシホール)
247P

4 青木真也vsヨアキム・ハンセン
(10.6 DREAM.11/横浜アリーナ)
189P

5 桜庭和志vsゼルグ“弁慶”ガレシック
(10.25 DREAM.12/大阪城ホール)
185P

6 五味隆典vs中蔵隆志……152P
(5.10 修斗伝承FINAL/JCBホール)

7 川尻達也vs魔裟斗……133P
(7.13 K-1 WORLD MAX/日本武道館)

8 バダ・ハリvsアリスター・オーフレイム…115P
(12.5 K-1 WORLD GP2009/横浜アリーナ)

9 高谷裕之vs所英男……102P
(10.6 DREAM.11/横浜アリーナ)

10 所英男vsエイブル・カラム…88P
(5.26 DREAM.9/横浜アリーナ)

WORST MVP

青木真也

342P

2 山本“KID”徳郁 323P

3 石井慧……266P

4 五味隆典……252P

5 角田信朗……95P

次点 山口日昇……60P

大晦日のお茶の間に向けてとんでもないことをしでかした青木真也の票が元日以降に急激に集中し、ワースト1位。KID、石井、五味はもちろん期待の大きさの裏返しだろう。5位と次点にはもう期待するまい、という票か。

BEST EVENT

12.31 Dynamite!! ～勇気のチカラ2009～

(横浜アリーナ)

475P

これまで「kamipro大賞」では、毎年のように「ワースト興行」に選ばれてきた『Dynamite!!』とK-1 WGPが驚きのツートップを獲得！　それ以上の驚きは、海外で開催されたストライクフォースが4位に入ったことか。プロレスでは『キン肉マニア』とDDTがラインクイン。

2 12.5 K-1 WORLD GP 2009 FINAL……305P
(横浜アリーナ)

3 10.25 DREAM.12……209P
(大阪城ホール)

4 11.7 STRIKEFORCE Fedor vs Rogers……192P
(米国イリノイ州シカゴ郊外 シアーズセンター)

5 8.2 戦極～第九陣～……152P
(さいたまスーパーアリーナ)

6 7.11 UFC100……111P
(米国ネバダ州ラスベガス マンダレイベイ・イベントセンター)

7 10.6 DREAM.11……107P
(横浜アリーナ)

8 5.26 キン肉マニア2009……57P
(JCBホール)

9 7.20 DREAM.10……51P
(さいたまスーパーアリーナ)

10 8.23 DDT「両国ピーターパン」……40P
(両国国技館)

マット界よ、企め、企め！
企みを感じさせてくれ!!

橋本宗洋初の単行本 発売3ヵ月経過記念

「PRIDEはもう忘れろ!」とは何か？

「PRIDEはもう忘れろ!」とは何か?

——橋本さん、『PRIDEはもう忘れろ!　新時代格闘技のミカタ』（小社刊）の販促インタビュー原稿を載せるのをすっかり忘れてましたよ!

橋本　売る気あるのかよ!（怒）。

——インタビューを収録したのは10月の中旬なんですよね。で、収録翌日に自分が緊急入院で一週間絶対安静になっちゃって『DREAM・12』の速報号の締め切りには間に合わず……。

橋本　じゃあ11月号に載せればいいじゃん。最悪12月号に載せろよ。

——（田村潔司戦を熱望する菊田早苗を無視するように）というわけで、さっそく読んでいただきましょう。すっかり熟成したワインのごときインタビューを。

橋本　あ、ホントに忘れてやがったな!!（怒）。

★

——初の単行本『PRIDEはもう忘れろ!　新時代格闘技のミカタ』の出版、おめでとうございます!

橋本　ありがとうございます。いやあ、いまどき暴露本以外で格闘技の単行本を出してくれる出版社なんてなかなかないよ。ありがたい話ですよ、ホントに。

——この本は『kamipro』の携帯サイト『kamipro Move』の連載コラムの中から厳選したものをまとめたものですけど、これって2006年5月から開始してるんですね。もっと以前からやってるような印象がありましたけど。

橋本　オレ、この前に別の携帯サイトでも連載コラムをやってたんだけど、それはメール1本で連載が切られたんだよね（笑）。

——フジテレビのPRIDE打ち切りよりヒドイ（笑）。

橋本　それで『kamipro』でなんかやらしてもらえない?」っていうことで始まったんだけど。

松林　ハッシーの前に『kamipro Move』で格闘技コラムは何かあったの?

橋本　どうなんだろ?　あった?

——I編集長（井上義啓）のコラムも格闘技中心だったけど……。

松林　でも、あれは「I編集長」という一つのジャンルだからね（笑）。

——で、2006年5月ってさっきも話に出たフジテレビショック直前の時期なんですけど。このコラムって、当初はメジャー団体のネタをあんまり取り上げてなかったですよね。

橋本　うん。当初はどういうコンセプトだったかっていうと、『kamipro』本誌が取り上げてないものや、一般的な格闘技ファンにはあんまり知られてないけど、「じつはこれおもしろいよ」とか「うまいよ」っていう路地裏グルメ的な選手や大会を紹介していたんだよね。

——当時はメジャー団体が凄く元気で、ほかのメディアも「PRIDEか、K−1か」みたいな報道の仕方でしたね。

橋本　そうそう。K−1、PRIDE、『HERO'S』に関しては、放っといてもみんな知ってる、と。そういう時代だったから「もうちょっと雑多なものを紹介していきましょう」的なノリはあったよね。

松林　細かく言うと、その時期って、『PRIDE武士道』がいよいよ地上波のゴールデンタイムでスタートすると言われてときでしょ。

橋本　そうですね。『武士道』ウェルター級GP1回戦が6月にあって、その翌日にフジテレビが契約解除。もっと言えば、5月には桜庭和志の『HERO'S』電撃移籍

PRIDEがなくなったからって格闘技がつまらないわけじゃない

座談会出席者

橋本宗洋
『PRIDEはもう忘れろ!』を書いた人。フリーライター。ブログ→http://d.hatena.ne.jp/N-Hashimoto/

松林貴
『PRIDEはもう忘れろ!』の出版元の人。元・ちっちゃい頃の『紙のプロレス』編集者。

ジャン斉藤【司会】
『PRIDEはもう忘れろ!』を編んだ人。『kamipro』編集長。

があった。

——たった3年前のことでしかないですね。時間の経つのが早い早い（笑）。

橋本　激動だよ〜。まさか絶頂期を迎えていたPRIDEがああなるとは思いもしなかったんだから。

——PRIDEの凋落によってライター活動に何か支障はありました?

橋本　率直に言って、単発のムック仕事はずいぶんと減ったよね（苦笑）。だから「これからどうなんの?」って思いながらも、とりあえず目の前の試合は楽しみだったけどさ。だってなんだかんだPRIDEは続いていたからね。まず大会があるっていうことで「こうなったらフジテレビを後悔させてやろうじゃないか」っていうことを言い出す選手もいたし。ちなみにフジショック以降のPPVのレポーターをやってたのがアッキーナ（南明奈）なんだよね。

——そういえば、もの凄く興味なさそうにレポートをやってた。

橋本　あのPRIDE暗黒時代から生まれた星が、青木真也とアッキーナですよ（笑）。

——PRIDE暗黒時代……。イヤな噂がたくさん流れてましたね。

橋本　イヤだったのは、そうやって試合以外のことをしゃべる人がいっぱいいたってことだね。「試合はおもしろいんだけどなあ。なんでそんな裏事情ばっかりみんな好きなんだろう」っていう思いは凄くあった。

——たしか「ロレンゾ・フェティータがPRIDEを買うかもしれない」って話が出たのは、じつはその年の10月頃だったんですよね。

松林　PRIDEのラスベガス大会が10月。開催前にそういう話が出てたね。

——なんかあの頃『kamipro』が「PRIDEは潰れない」みたいに煽っていたっていう人がいるけど、こっちもそういう情報は入手してたから「凄く危険だから、いまのうちに準備しとこうぜ!」って感じの報道だったんですけどね。これはこれで誤解されそうな言い方だけど（笑）。

橋本　あと「UFCが凄いことになってるぜ!」っていう打ち出しであったり、「PRIDEの見方はそれだけじゃないよ」っていう部分だったり。もちろん「もうPRIDEはダメっすから」とは書けないからさ（笑）、そのなかでおもしろそうなところをピックアップしていったり、「PRIDEの現状を最大限ポジティブに解釈するとこうなります」っていう提示の仕方だったりもするけどね。で、今回の単行本はこういうタイトルだけど、「PRIDEがなく

原稿が書きやすい選手って要は「考えがいのある選手」になる

なったからって、格闘技界がもうダメだってわけじゃない」ってことを伝えようってつもりで書いてきたんだよね。

——そういうことを経て、B級グルメだったコラムの性質がどんどん変わっていった、と。

橋本　うん。もともとは安定した格闘技の状況のなかで、B級グルメ的に紹介していくっていう路線もやりつつ、メインストリームのことを噛み砕いていったけど、途中から変わっていったよね。それは、担当がジャン斉藤に変わったって理由も大きいと思うんだけど。

——そうか、途中から自分が担当になったんだ。

松林　前の担当って誰だったの？

橋本　ささきぃです。彼女もキックボクシングとか観てるから、細かいテーマ設定でもよかったんだけど。さいちんの場合はねぇ……。

——なんすか。

橋本　まずね、コラムを書くにあたって、「キックボクシングを知らないジャン斉藤」というハードルを越えなければならない。ジャン斉藤にどうプレゼンするとキックの記事を載せられるかみたいな勝負になってきて。「試合がメチャクチャおもしろかったんだよ！」って話だけでは絶対ダメでしょう、この男は。だいたいキックにまるで興味ないんだから。

——佐々木さんと比べたらそりゃあハードルは高いのかもしれないけどさ。でも、90年代後半の佐久間晋哉がチャンピオンの頃かな、まめに後楽園ホールに通ってましたよ！

松林　まあ、ささきぃの場合はハードルが低いということじゃなくて、「キックが好きな私が好き」であって、すべて「○○が好きな私が好き」というのが根幹だからね。

橋本　破壊王が亡くなったときには、スポニチの丸井（乙生）さんと隣り合わせのページで追悼コラムを書いてて、丸井さんは「私が見た橋本真也」を書いてるんですけど、ささきぃは「橋本真也を見る私」を書いてるんですよ。常に自分主体っていうのが、まあ個性で。熱くなればなるほど、そうなりますよね。で、ささきぃはキックも好きだから、彼女がOKならキックのネタでも障害なく書けたっていう。ところがこの男は断固として書かせてくれないからね！

——ちゃんとした編集者じゃないすか（笑）。まあ、キックがうんぬんというより、PRIDEを含めたMMAの今後を書いたほうがニーズはあると思ったんですよ。じつはあのとき携帯サイトでPRIDEをあんまり扱ってなかったですし。

橋本　それはあるね。もの凄く雑多なものの一つぐらいの勢い。

——ほかのサイトもあまり取り扱ってなかったんですよ。PRIDEを含むMMAの今後のことは。だったら、橋本さんに毎週のように書いてもらうのが一番いいと思った。

橋本　よくよく考えると、それなりの分量とペースを伴なったかたちで、署名の「書き原稿」を連続して書いてる格闘技ライター自体が減っているんじゃない？　いまの格闘技メディアって、なんでも選手に語らせて済ませちゃうところがあるっていうか。『kamipro』も選手のインタビュー中心で、もちろんそこにはニーズがあるんだけど、連続した書き原稿自体が珍しくなってきたんだよね。皆無ではないけどさ。

伝説の六本木会見——。PRIDE FOREVERの文字がじつに悲しい。PRIDE消滅によって運命を狂わされた選手、関係者は数えきれない。

——それをこなしているのは、いまやオレしかいない、と。

橋本　……バカにしてんの？（笑）。

——いやいやいや。でも、大局観を持って書けるライターはあんまりいないでしょ。

橋本　いいんだよ、無理矢理フォローしなくてもさ。まあ「特定の団体、選手に肩入れしてナンボ」みたいな雰囲気はライター業界全体にあるからね。そのほうが食っていきやすいってところすらある。オレはできるだけ、そうじゃないスタンスでやってきたつもりなんだけど。それが「大局観」ってことになってるんなら嬉しいね。

——ただねえ、近藤有己をテーマにしたときの原稿のバランスは非常に悪いと思ってます（笑）。

橋本　失礼しました！　やっぱそうかなあ？（笑）。

——いやあ、グラングラン揺れてますよ（笑）。これは批判じゃないですけどね、やっぱり〝番記者〟って性質上、どうしてもバランスを崩しますよね。

橋本　オレは〝番記者〟って感じでもないんだけどね。とはいえ、近藤や特定のキックボクサーについて書いたときはバランスを崩してる可能性はおおいにあるよね。思い入れみたいなのは、できるだけ読者にウルサくならないように書いてるつもりではあるんだけどねぇ……。

——あとコラムのテーマに不向きな選手っているわけじゃないですか。

橋本　まあ、向いてる選手、向いてない選手はいるだろうね。書きやすいか、書きにくいか……っていったら選手に失礼だけどさ。まあオレが好きっていうか、書きがいのある選手って、要は「考えがいのある選手」ってことだよね。

——正直、『戦極』に出てくる選手や舞台って考えづらくないですか？　北岡悟は凄く考えがいがあるんですけども。

橋本　『戦極』は取り扱いが難しいんだよねぇ。やってる試合のレベルとかおもし

ろさでいったらなんの文句もないんだけど、語りやすいか、語りにくいかでいったら非常に語りにくい。なんでだろうなあ? 試合は凄くおもしろいんだよ。

——もしかして〝謎かけ〟がないってことなのかな。

松林 要するに、そこに〝企み〟を感じさせるかどうかってことね。それは『武士道』にも感じなかったなあ。

——だから、前に松林さんが「DEEPとほかの中小規模興行の違いは、佐伯（繁）さんがいるか、いないか」だって言ったことがあるじゃないですか。

松林 まあ、厳密にはいろいろと違うんだろうけどさ（笑）。佐伯さんがいるだけで何か企みは感じるよね。実際にあるかどうかは別として。

——その「実際にあるかどうかは」は重要ですよね。凄く簡単に言ってしまうと、そこには何かしらのムードがあるってことでしょう。

松林 誤解がないように言っておくけど、俺としてはさ、『戦極』は〝点〟の完成度としては楽しいんだよ。

橋本 観たらおもしろいですよね。でも「次はどうなるんだろう?」もしくは大会前に「どうなるんだろう?」っていう感じはあまりしない。確かにムードの問題ではあるよね。

——もしかしたらそういう選手や興行を料理していくのが「PRIDEはもう忘れろ!」っていう時代なのかもしれない。

橋本 難しい時代だね（笑）。それともう一つ。このタイトルには「PRIDEはなくても考えがいのあるヤツらは出てきてるよ」っていう意味もある。PRIDEの洗礼を受けてなくても、おもしろい選手ってけっこう出てきてるんだよね。それはここ数年の一番の特徴じゃないかな。たとえば青木だったり北岡だったりね。青木は厳密にはPRIDEの黄金期は触ってないわけだし。

松林 俺の個人的な感想としては、しごくあたりまえなんだけど、この本を読んでいくと、PRIDEがなくなってからのUFCの盛り上がりが非常によくわかるんだよね。ダナ・ホワイトはきっと「昔からUFCはおもしろかったんだ。クオリティは変わってない」って否定するだろうけど（笑）。

橋本 なるほど。もの凄くネガティブに言うと、衰退していく日本格闘技界がわか

PRIDEの消滅とともに格闘技界から姿を消した榊原信行氏。00年代で一番〝企み〟を感じさせた人である。もしPRIDEが存続していたらツイッターをやっていたんだろうか? それはぜひ読みたかった!

「PRIDEはもう忘れろ!」とは何か?

PRIDEの洗礼を受けてなくてもおもしろい選手は出てきている

る本ですか（笑）。

——凄く嫌な本に聞こえますよ（笑）。

松林 凄く大雑把な話になるけど、あの当時といまは何が違うんだろうね。まあ、まったく違うことはわかるんだけど。

——よく「大衆性のなさ」が指摘されますけど、どうなんですかね。あれだけテレビスターを抱えた『HERO'S』が潤っていたのかっていう話だし、「大衆」とか「世間」という言葉を使った格闘技論も最近は安易なものが多い気がしますけど。

橋本 まあ、そもそもいまの時代は何かっていったら「大衆」が成立しない時代なわけでしょ。

——分衆の時代。

橋本 みんな細分化しちゃって。それは良い面と悪い面と両方あるんだけど。「国民みんなが知ってる、口ずさめるヒット曲がない」みたいなこともあったりするけど、逆に音楽の嗜好に多様性がある、みたいな。日本ってボサノバのCDの売り上げ枚数がブラジルに次いで世界2位だって聞いたことがあるし（笑）。

松林 小野リサとかが貢献してるのか?（笑）。

橋本 あとフラダンスを習ってる人数がハワイに次いで2位とか（笑）。お金を出して習ってる人でいったら世界1位かもしれない。だから、細かいことにハマッている人がいろんなところにいっぱいいる。そういう時代なわけだから、「いま大衆って成り立つの?」っていう意味でDREAMに対して「スーパーハルクトーナメントとかやってる場合なの?」っていうことになってくるわけでしょ。べつにやってもいいけど、少なくともボブ・サップの繰り上がり出場はない。やっぱりあれはゲガール（・ムサシ）が優勝しなきゃいけなかった企画だよなぁ。

松林 まあ、一つだけハッキリしてるのは、ハルクに企みはないよな。あるんだろうけれど、見るからに浅い。だから俺はあれを観ながら「これは笹原さんがやりたいことじゃないんだろうな」ってつぶやいたんだよね。

——企画自体は悪くないんですけどね。ボクはね、カンセコには企みは感じるんですよね。カンセコを使う主催者には感じないけど、カンセコ個人には（笑）。

橋本 「おまえは何を考えてるんだ?」って感じ?（笑）。

——得体の知れない何かを感じる（笑）。繰り返しますけど、ハルクをやったことは間違いではないですけど、その企みの浅さにはファンも、それこそ一般層もハッキリと気づいてますよ。思わずチャンネルは合わせたかもしれないけど、絶対にイベントの評価は落としてる。

橋本 間違いなく誤解されるでしょ。「あぁ、格闘技ってこういうもんなんだ」って。

松林 俺が凄く気になってるのは、谷川さんや笹原EPの世代って、いわゆる「八百長だろ?」という世間の目と闘ってきた世代でしょ。そういう世間の人の目に対して凄く敏感なはずなのに、どうして安易にハルクみたいなものをやったりするんだ

ろうなって。

ろうなって。

――う〜ん、ハルク的なバトルにロマンを持っていた世代でもありますよね。いま21世紀ですけど（笑）。

松林　どこかのお堅いメディアみたいに「競技性を追求するべき」みたいなことは言わないけれど、もっとやりようはあると思うんだよなあ。

――実際に八百長かどうかはともかくとして、八百長に見えたらおしまいだっていう話ですよね。企んでるかどうかは別にして、企んでるように見せるのと同じ話で。きっと、じつは企んでるように見える人って、ホントは何も考えてなかったりするんだろうね。

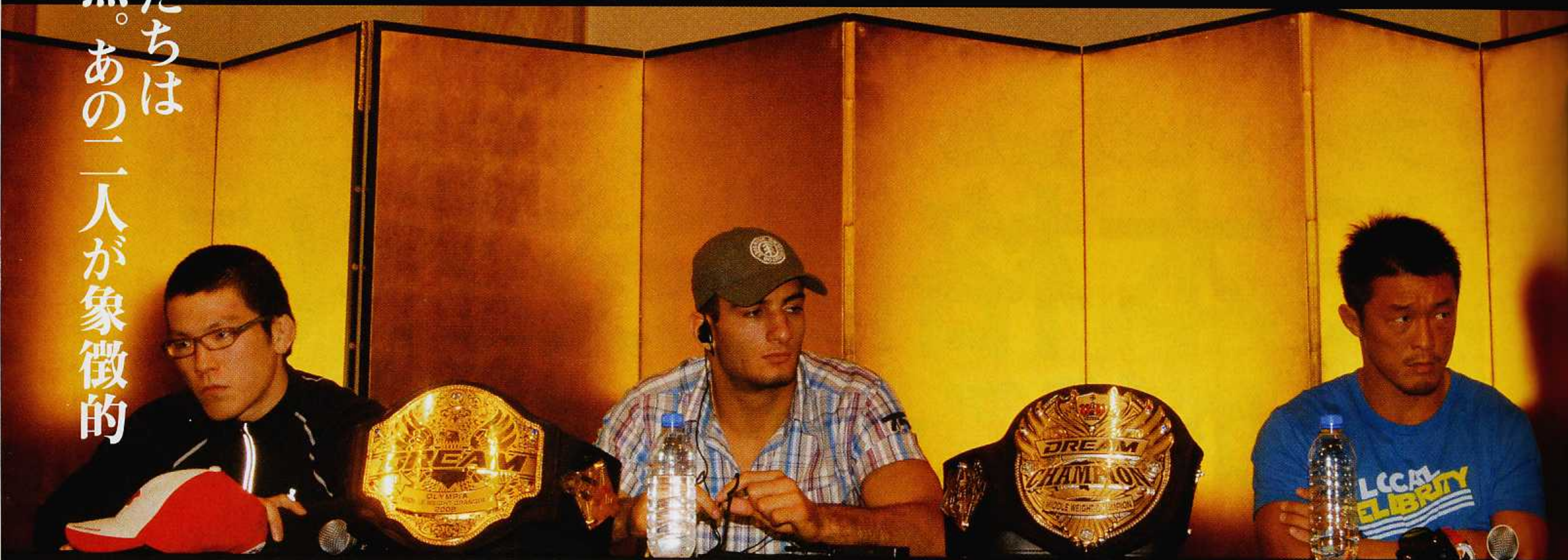
橋本　絶好調のときは、こっちが勝手に企んでいるように見てしまうっていうね。

――PRIDEの企みっぷりも凄かったじゃないですか。たとえば正直、桜庭和志vs田村潔司は03年当時、そこまでニーズがあったとは思えないけど、PRIDEがそこまでこだわるならって感じで幻想は膨れあがっていったし。

橋本　バラさん（榊原信行DSE代表）は企んでる人だよなあ。企みがあると感じさせる人間だったよね。「なんかやるんじゃねえか」っていう。

――橋本さんの嫌いな表現で言うと、「プロレスラー」ですよね。

橋本　そうだねぇ。ドラマチックな試合を観ると格闘技の試合でも「あれはいいプロレスだった」とか、選手のほめ方として「あいつはプロレスラーだ」っていうのって、オレ昔っから嫌いなんだよ。格闘技だって野球だって麻雀だって、なんだってドラマチックなものはあるわけでしょ。それをプロレスっていう言葉ですべて表現されちゃうと、「プロレスってそんなに万能かよ」、「そんなにプロレスが偉いのかよ」って思っちゃうんだよね。

PRIDE後の主役たちは青木真也と秋山成勲。あの二人が象徴的

PRIDE後の格闘技界において、さまざまな波紋を広げていた二人。秋山成勲の場合、海の向こうのUFCに移ってからは、その企みが薄くなってしまった感のあるが、いまでも企みの地肩はズバ抜けている。

――我々が使ってる「プロレス」って言葉の意味合いって、いまのプロレスではとても似合わないものになっちゃってるから、何かしらに託したいところはありますけどね。

橋本　なるほどね。あと個人的には、その言葉を使うのは便利すぎるから、ライターとして自分のためにもよくないって思うんだよね。アタマ使わなくなっちゃいそうでさ。だから、そう思ってきた身からすると青木や北岡みたいな選手、つまりプロレスのバックボーンを感じさせないけどクセがあっておもしろい選手が出てきたっていうのはおもしろい時代だなあと思うね。

――まあ、いまの時代性において、クセのある人間を許容できるかできないかっていう問題はありますけど。

橋本　ああ、そっか。青木をいまだに許容してない人もかなり多いもんねぇ。でもさ、そういう選手を読み解いていくのがおもしろいんだよね、本当は。「こいつは何を考えてんのかわかんないから考えてみよう」と。「こいつ、何を考えてるかわかんないから嫌い」じゃなくてね。秋山成勲もそうだと思うんだけどなあ。

松林　秋山の場合は「怖い」っていうのが入るけどね。単に「嫌い」というよりも、「何を考えてるかわかんないから怖い」っていう。

橋本　青木と秋山は凄くおもしろいですよ。考えがいのある二人。今回の単行本の作業をしてて思ったんだけど、「PRIDE後の主役たちは青木と秋山かな」って。あの二人が象徴的なんじゃない？

――この数年間、この二人がいなかったらずいぶん静かだったでしょうね。そうそう、企みでいうとボクは五味隆典には良くも悪くも感じましたけど。

橋本　ああ、実際に企んでるかどうかは別として。

――結果的に出し惜しみしてるという感じもするけど（笑）。

橋本　でも、こうやって見ると、個人に企みはあるけど、舞台に企みが見えづらい時代なのかもね。全体を通して読むとそんな感じがする。

松林　いま、現在進行形の日本格闘技界で企んでいるように見えるのはDEEPだけっていうのは問題だよな（笑）。

【09年10月17日／『kamipro』編集部にて収録】

★

――どうですか、橋本さん。3ヵ月経って読むインタビューの感想は。

橋本　コラムを連載してきた時代を振り返ったインタビューを、さらにいま振り返ってどうするっていう話だねぇ（笑）。でも、どんな時代でも〝企み〟と〝考えがい〟がポイントなんだなってのはあらためてよくわかったよ。〝企み〟を持った〝考えがい〟のある選手やプロモーターがいるかぎり、格闘技はおもしろいんだよね。それと付け加えたいのは、ぜひこの本を読んでいただきたいなってことと、今後も連載コラムをよろしくお願いします、と。……あ、あともう一つ。いま、この記事まで掲載が見送られるんじゃないかと不安でいっぱいだってことだね！（笑）。

――そこに企みはありません。

横田のマイク並みに戦慄が走るプレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2010年2月10日(水)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦2010年にあなたが観たい試合は?⑧「kamipro」で取材してほしい選手は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「もういいよ、黙れ」係まで

※応募締切は2010年1月25日(月)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

FRONT / BACK

佐藤大輔TEE

[リバーサル/¥5,040(税込)]

"煽りVTRアーティスト"としてPRIDE、そしてDREAMと活躍する佐藤大輔氏が生み出した珠玉のキャッチフレーズをリバーサルがTシャツに!! 300枚限定発売のサイズはL。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*02

1名様

CD-ROM『アキラ前田のクラッカー』

[闘道館]

前田日明がさまざまなゲームなどで活躍する95年発行のCD-ROM。このようなお宝グッズも闘道館には揃ってます!! まずはウェブサイトをチェック!!

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*03

1名様

サイン入り

ジョルジオ・ペトロシアンサイン入り K-1 WORLD MAX FINALパンフレット

[K-1]

大晦日前のタイミングにと思っていたら、結局魔裟斗の最後の相手にはならなかったペトロシアン。K-1 MAX優勝の翌日に書いた貴重なサインです!!

K-1■http://www.k-1.co.jp/

PRESENT*04

1名様

ニューハーフレスラー・鮎川れいなサイン色紙

[非売品]

12.24新木場1stリングで開催されたターザン後藤主催のFMW再旗揚げ戦に出場したニューハーフレスラー・鮎川れいなからサイン色紙をゲット!!

鮎川れいなofficial blog■http://blog.livedoor.jp/dynamitevamp/

PRESENT*05

1名様

BULL TERRIER/SerieM ラッシュガード

[ブルテリア/¥5,000(税込)]

白と黒のコントラストがやたらかっこいいブルテリアのセカンドブランドSerieMの長袖のラッシュガードをプレゼント!! 柔術着なども充実してます。

PRESENT*06

1名様

FRONT / BACK

BULL TERRIER GI コンバットショーツ

[ブルテリア/¥6,500(税込)]

白い部分に柔術衣を使用したコンバットショーツで、ウエスト部分はマジックテープと内紐で調節が可能。グラップリングやMMAのトレーニングに最適です!!

ブルテリア■http://www.b-j-j.com/

PRESENT*07

2名様

単行本『復刻 幻の藤原ノート』――「ゴッチ教室」の神髄 藤原喜明

[講談社/¥1,365(税込)]

関節技の真髄を知れ!! 名人級の描き下ろしイラストによって、伝説のゴッチ道場の秘伝を完全公開。日本格闘技界発展の礎がここにある!!

講談社■http://www.kodansha.co.jp/

PRESENT*08

2名様

単行本『プロレスで生きる。』武藤敬司

[エンターブレイン/¥1,680(税込)]

「プロレスについて語れるレスラーってもはや俺しかいないと思うんだ。たとえ身体が動かなくなったとしても死ぬまでプロレスをやっていたい」武藤敬司がデビュー25周年を迎え、あらためてプロレスを語った!!

エンターブレイン■http://www.enterbrain.co.jp/

PRESENT*09

1名様

DVD『FMW伝説』ノーロープ有刺鉄線電流爆破デスマッチ

[クエスト/2枚組/¥10,500(税込)]

初期FMWの名勝負を多数集めた総集編。"涙のカリスマ"大仁田厚の盟友でありライバルでもあったターザン後藤とのノーロープ有刺鉄線電流爆破デスマッチは、まさに時代を変えた一戦だ!!

PRESENT*10

1名様

DVD 小室宏二『柔道固技上達法』中巻

[クエスト/¥5,880(税込)]

柔道界を代表する寝技の使い手であり、ブラジリアン柔術黒帯の小室5段が寝技をレクチャー!! 関節を極めるポイント、寝技が上達するための練習方法や豊富な実戦例も収録。

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro SP 応募券 俺のほうが善戦できた

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

特集テーマは……

『俺たちのゴールデンプロレス』

やれんのか!? やりますよ!

『Dynamite!!』をはじめ年末年始のビッグイベントを大放出!

kamipro No.143は1月23日(土)発売予定!

※地域によっては多少遅れるぞ、ダーッ!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2010 FEBRUARY
2010年1月23日 発行

寅年に謎のタイガーも登場!?

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎(スープ仕込みのため非番)

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長(10年の目標は複勝王)
松林 貴

■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部
☎03-3265-7166

デザインGM
出田さん(TwoThree)

デザイニングマネージャー
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐺田やっちゃん (以上、TwoThree)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
金山フヒト

お勘定
工藤ちゃん

守護神
入江毘沙門天(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本"単価交渉中"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
白倉"クララ"明子

腕折りマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート] ☎0570-060-555(受付時間/土日祝祭日を除く 12:00～17:00) メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて

本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

kamipro Special 2010 FEBRUARY

誰か青木真也を止めてくれ! 狂気の大晦日!

2010年1月23日
発行人 浜村弘一 編集人 斉藤慎一、青柳昌行
発行所 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元 株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

enterbrain

9784047262546

1929476008381

定価: 本体838円 +税

雑誌61971-36 Ⓗ2011.02

Printed in Japan 大日本印刷株式会社

ISBN978-4-04-726254-6
C9476 ¥838E